人権に関する市民意識調査

《結果報告書》

令和６年３月

十日町市 市民福祉部 市民生活課

＜　目　次　＞

頁

Ⅰ　調 査 概 要 …… 1

１．調査目的 …… 1
２．調査地域 …… 1
３．調査対象者 …… 1
４．標本数 …… 1
５．抽出方法 …… 1
６．調査方法 …… 1
７．調査時期 …… 1
８．有効回収数・有効回収率 …… 1
９．回答者の特性 …… 2

Ⅱ　調 査 結 果 …… 7

１．人権全般について …… 7
（１）関心のある人権 …… 7
（２）基本的人権の順守について …… 12
２．差別を解消するための法律について …… 15
（１）障害者差別解消法の認知 …… 15
（２）ヘイトスピーチ解消法の認知 …… 18
（３）部落差別解消推進法の認知 …… 20
３．自身の経験と対応について …… 22
（１）人権侵害を感じた経験の有無 …… 22
（２）人権侵害の場面 …… 24
（３）人権侵害を受けた際の対応法 …… 28
４．女性の人権について …… 31
（１）女性の人権に関する問題点 …… 31
（２）女性の人権を守るために必要なこと …… 34
５．子どもの人権について …… 38
（１）子どもの人権が守られていないと感じる場面 …… 38
（２）いじめに関する当事者間への是非 …… 42
（３）「ネットいじめ」の認知 …… 45
（４）子どもの人権を守るために必要なこと …… 47
６．高齢者の人権について …… 51
（１）高齢者の人権に対する問題点 …… 51

（２）高齢者の人権を守るために必要なこと ･････････････････････････････ 55
７．障がいのある人の人権について ･････････････････････････････････････ 59
（１）障がいのある人の人権に対する問題点 ･････････････････････････････ 59
（２）障害のある人の人権を守るために必要なこと ･････････････････････ 63
８．同和問題について ･･･ 67
（１）同和問題や同和地区を知った時期 ･････････････････････････････････ 67
（２）同和問題や同和地区のことを知った契機 ･････････････････････････ 70
（３）差別や人権侵害の有無について ･････････････････････････････････ 73
（４）同和地区出身者との付き合い方について ･････････････････････････ 76
（５）同和地区出身者との子どもの結婚について ･････････････････････ 78
（６）同和地区出身者との自身の結婚について ･････････････････････････ 81
（７）同和問題を解消する意見への是非 ･････････････････････････････････ 84
（８）人権上の特段の同和問題 ･･･ 87
（９）同和問題を解決するために必要なこと ･････････････････････････････ 90
９．外国から来た人の人権について ･････････････････････････････････････ 94
（１）外国から来た人の人権に対する問題点 ･････････････････････････････ 94
（２）外国から来た人の人権を守るために必要なこと ･････････････････････ 97
１０．感染症患者等の人権について ･････････････････････････････････････ 101
（１）感染症患者等の人権に対する問題点 ･････････････････････････････ 101
（２）感染症患者等への対応について ･････････････････････････････････ 105
（３）感染症患者等の人権を守るために必要なこと ･････････････････････ 108
１１．犯罪被害者やその家族の人権について ･････････････････････････････ 111
（１）犯罪被害者やその家族の人権に対する問題点 ･････････････････････ 111
（２）犯罪被害者やその家族の人権を守るために必要なこと･････････････ 114
１２．インターネット上での人権侵害について ･････････････････････････ 117
（１）インターネット上の人権に対する問題点 ･････････････････････････ 117
（２）インターネット上の人権侵害無くすために必要なこと･････････････ 120
１３．性的少数者の人権侵害について ･････････････････････････････････ 123
（１）性的少数者の人権に対する問題点 ･････････････････････････････ 123
（２）性的少数者の人権侵害無くすために必要なこと ･････････････････ 127
１４．パートナーシップ宣誓制度について ･････････････････････････････ 130
（１）パートナーシップ宣誓制度の認知 ･････････････････････････････ 130
（２）パートナーシップ宣誓制度の必要性 ･････････････････････････････ 133
（３）公的サービスの利用について ･････････････････････････････････ 136
（４）ファミリーシップ制度の必要の有無 ･････････････････････････････ 138
１５．人権を守るための活動について ･････････････････････････････････ 140
１６．人権教育・啓発推進等への意見・要望・提案について ･････････････ 144

（付）調査白票

Ⅰ　調 査 概 要

１．調査目的

「人権教育・啓発基本計画」策定の基礎資料することを目的に実施した。

２．調査地域

十日町市全域。

３．調査対象者

令和5年11月末現在の住民基本台帳に登録されている18歳以上の市民。

４．標本数

2,000人。

５．抽出方法

電子計算機マスターファイルからの無作為抽出。

６．調査方法

郵送による調査票の配布・郵送又はwebによる回収。

７．調査時期

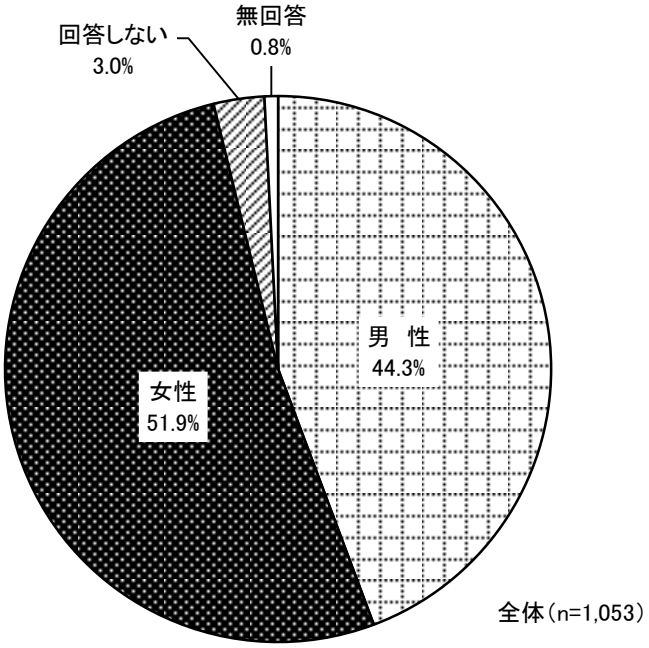
令和6年1月期。

８．有効回収数・有効回収率

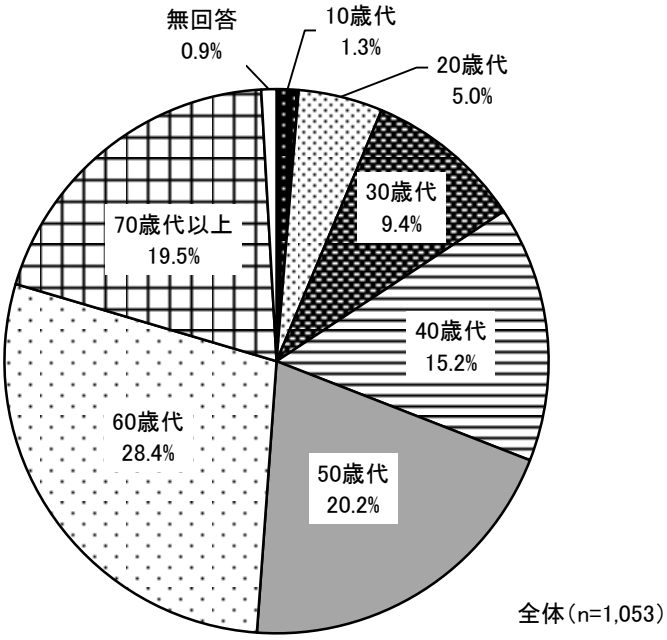
有効回収数＝1,053件、有効回収率＝52.7%。

９．回答者の特性

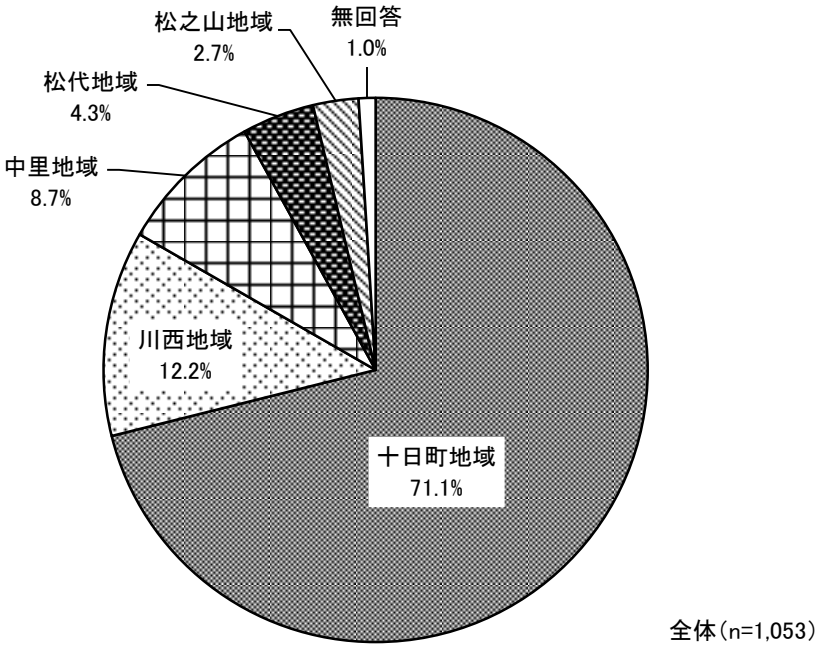
◆性別



◆年齢別



◆地域別



＜本報告書を読むにあたっての注意点＞

（１）結果は百分率（%）で表示し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。
また、複数回答（２つ以上の回答）では、合計が100%を超える場合がある。

（２）図表中の「ｎ（number of casesの略）」は、質問に対する回答者の総数（該当者質問では該当者数）を示し、回答者の比率（%）を算出するための基数である。

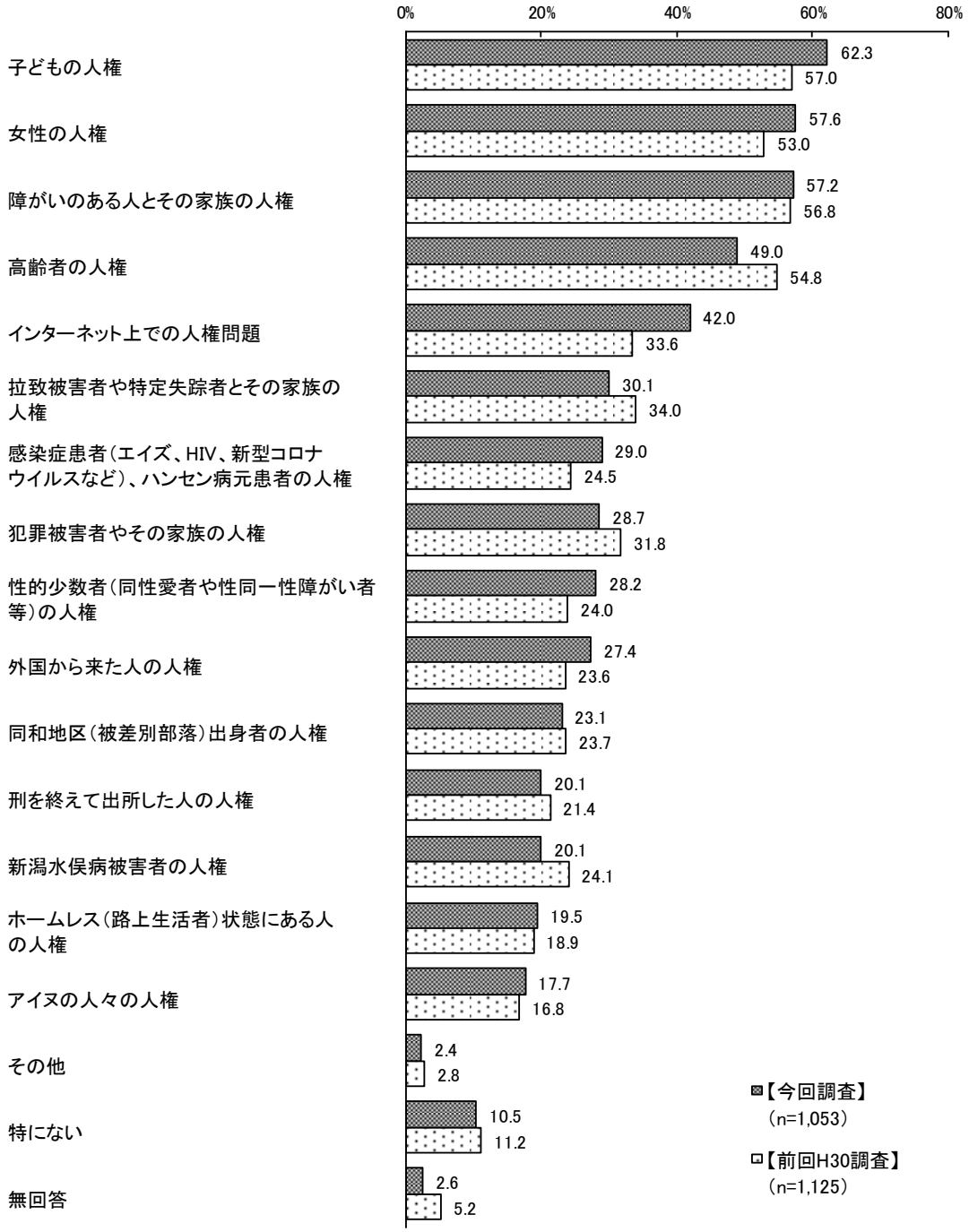
（３）本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

Ⅱ　調 査 結 果

１．人権全般について

（１）関心のある人権

問１　あなたは人権について関心がありますか。それはどのようなことですか。
あてはまる番号にすべてに〇をつけてください。



――― 「子どもの人権」への関心が最も高い ―――

【全体結果】

「子どもの人権」（62.3%）の割合が６割強で最も高く、「女性の人権」（57.6%）や「障がいのある人とその家族の人権」（57.2%）への関心も５割台ある。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

前回調査と比較して、「インターネット上での人権問題」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 1-1 参照）

①性別

女性では、「女性の人権」（64.2%）の割合が高く、男性よりも１割以上高くなっている。

②年齢別

「高齢者の人権」の割合は、年代が上がるほど高い傾向で、70 歳代以上（66.8%）では７割弱となっている。

図１－１　関心のある人権（性別／年代別／地区別）　1/3

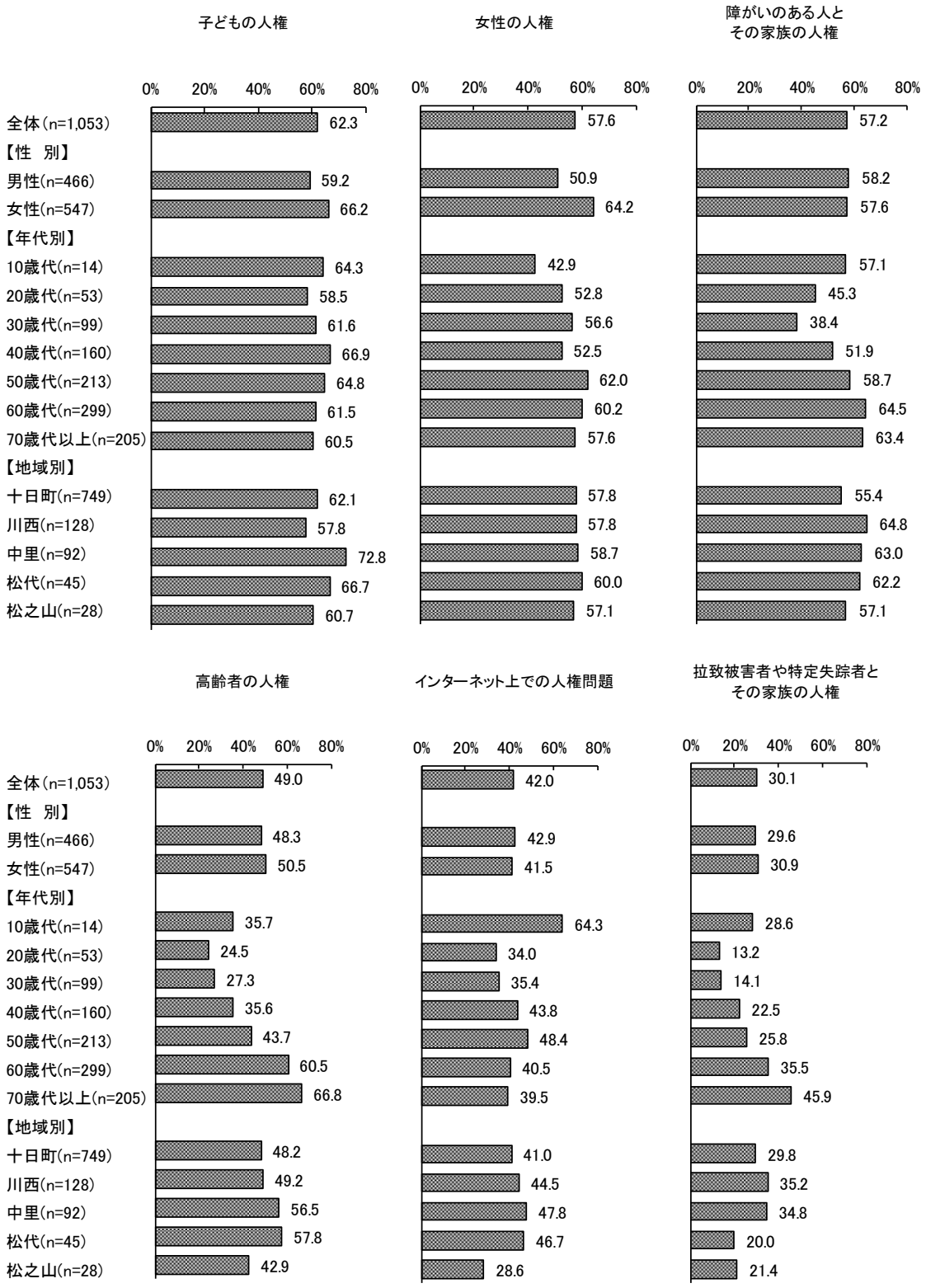


図１－１　関心のある人権（性別／年代別／地区別）　2/3

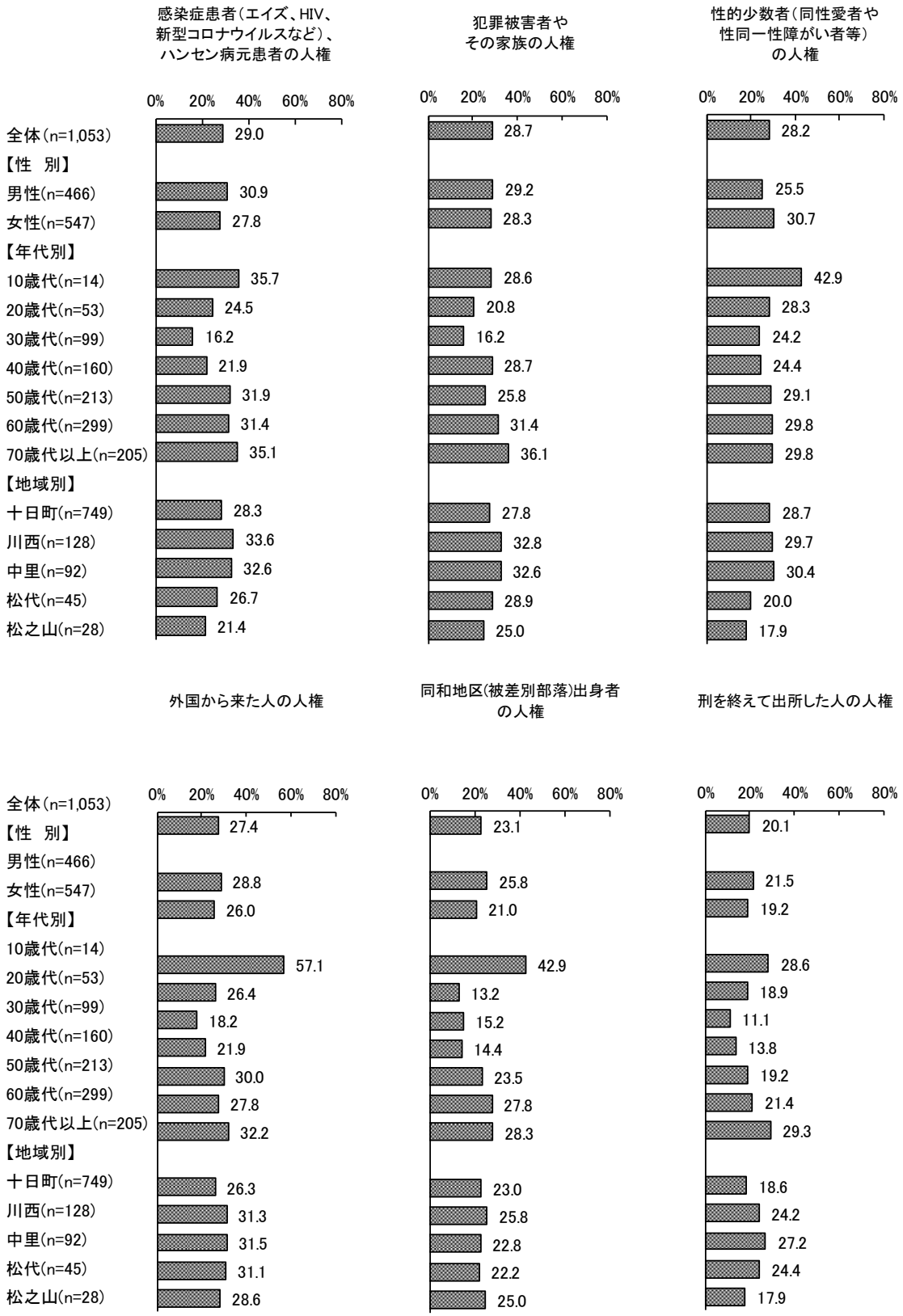
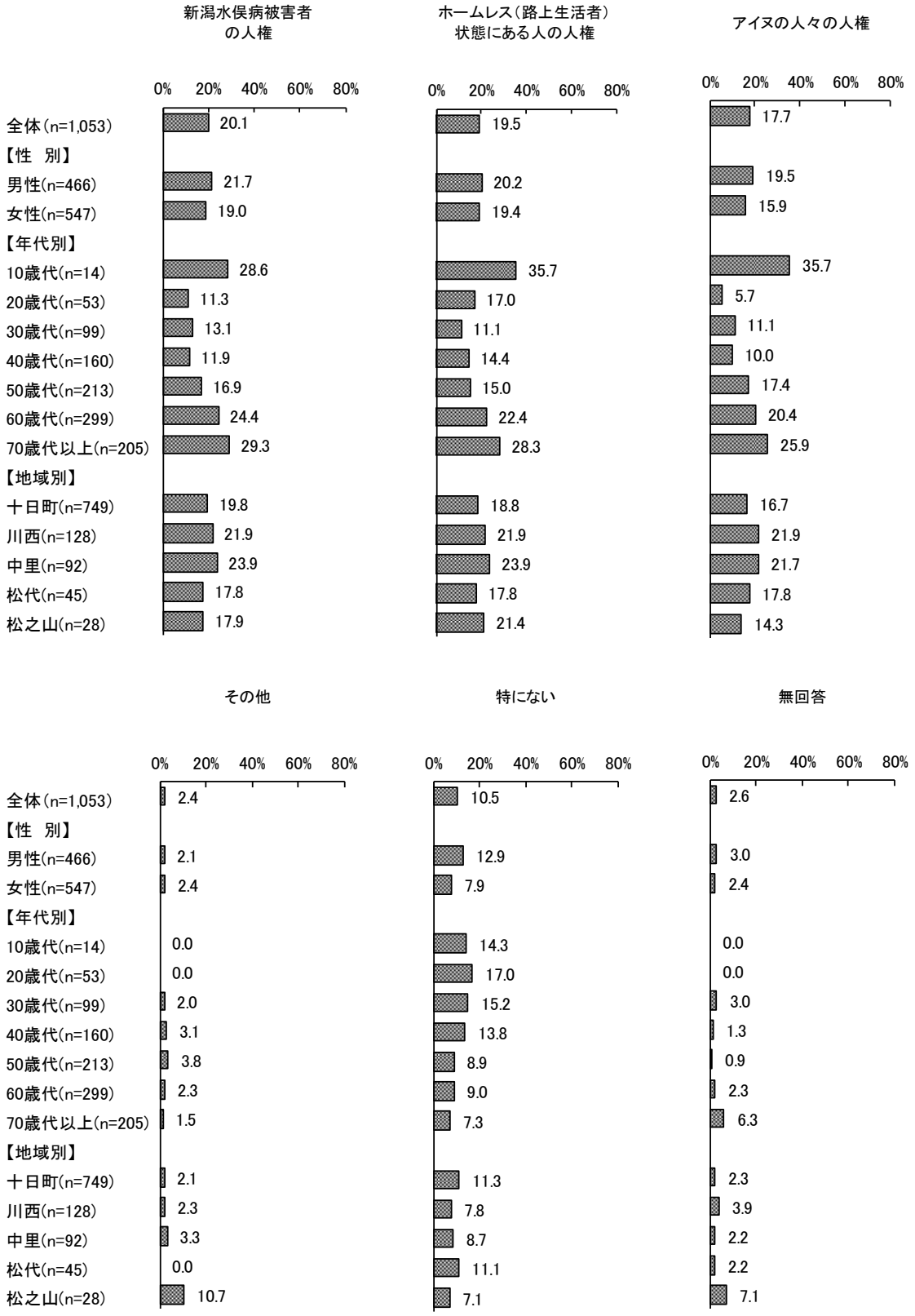
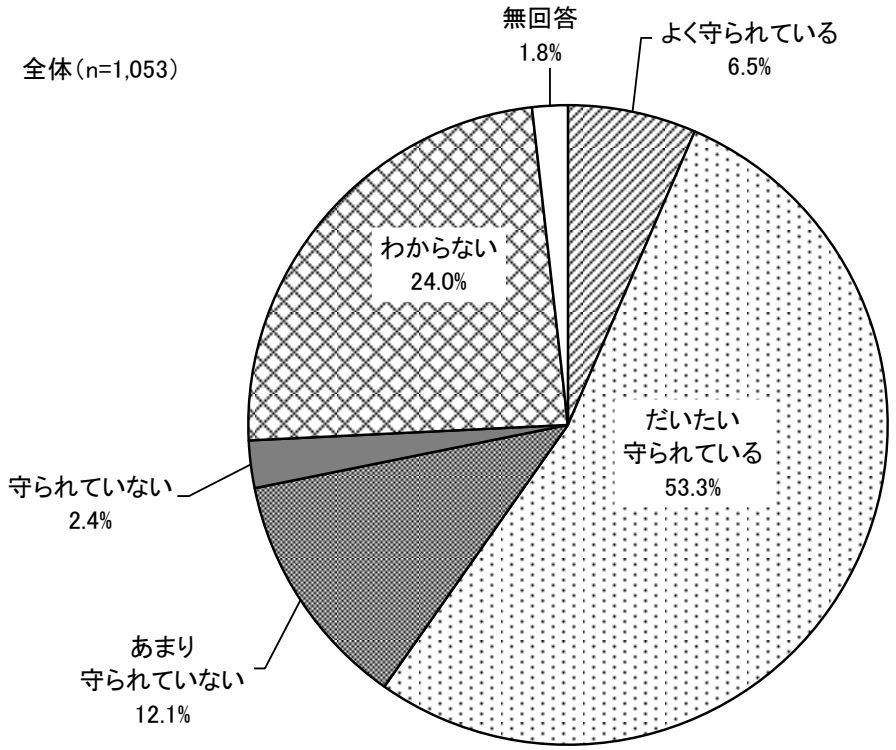


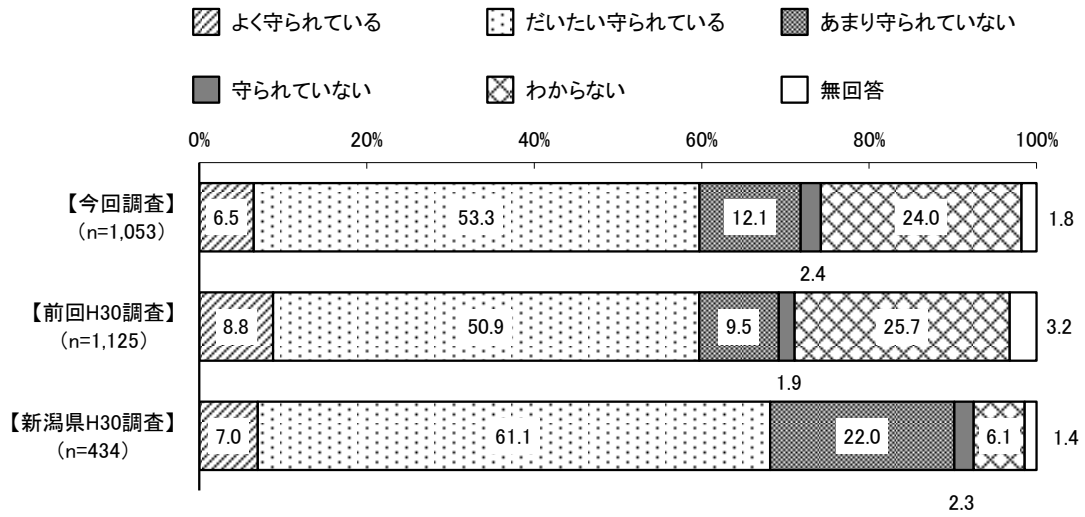
図１－１　関心のある人権（性別／年代別／地区別）　3/3



（２）基本的人権の順守について

問２　日本国憲法では、個人の尊重や幸福の追求など基本的人権（人が生まれながらにして持っている権利）が保障されています。
あなたは、今の十日町市で基本的人権が守られていると思いますか。
あてはまる番号に一つ〇をつけてください。





過半数は基本的人権が守られていると思っている

【全体結果】

「よく守られている」（6.5%）と「だいたい守られている」（53.3%）を合わせた約６割は基本的人権が『守られている』としている。

一方で、「守られていない」（2.4%）と「あまり守られていない」（12.1%）を合わせた『守られていない』とする人も１割程度いることに留意したい。

【前回調査・県の調査比較】

前回調査と比較して、大きな変化はみられない。

平成 30 年度「第８回県民アンケート調査（人権に関する意識について）」と比較して、『守られている』の割合がやや低くなっている。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

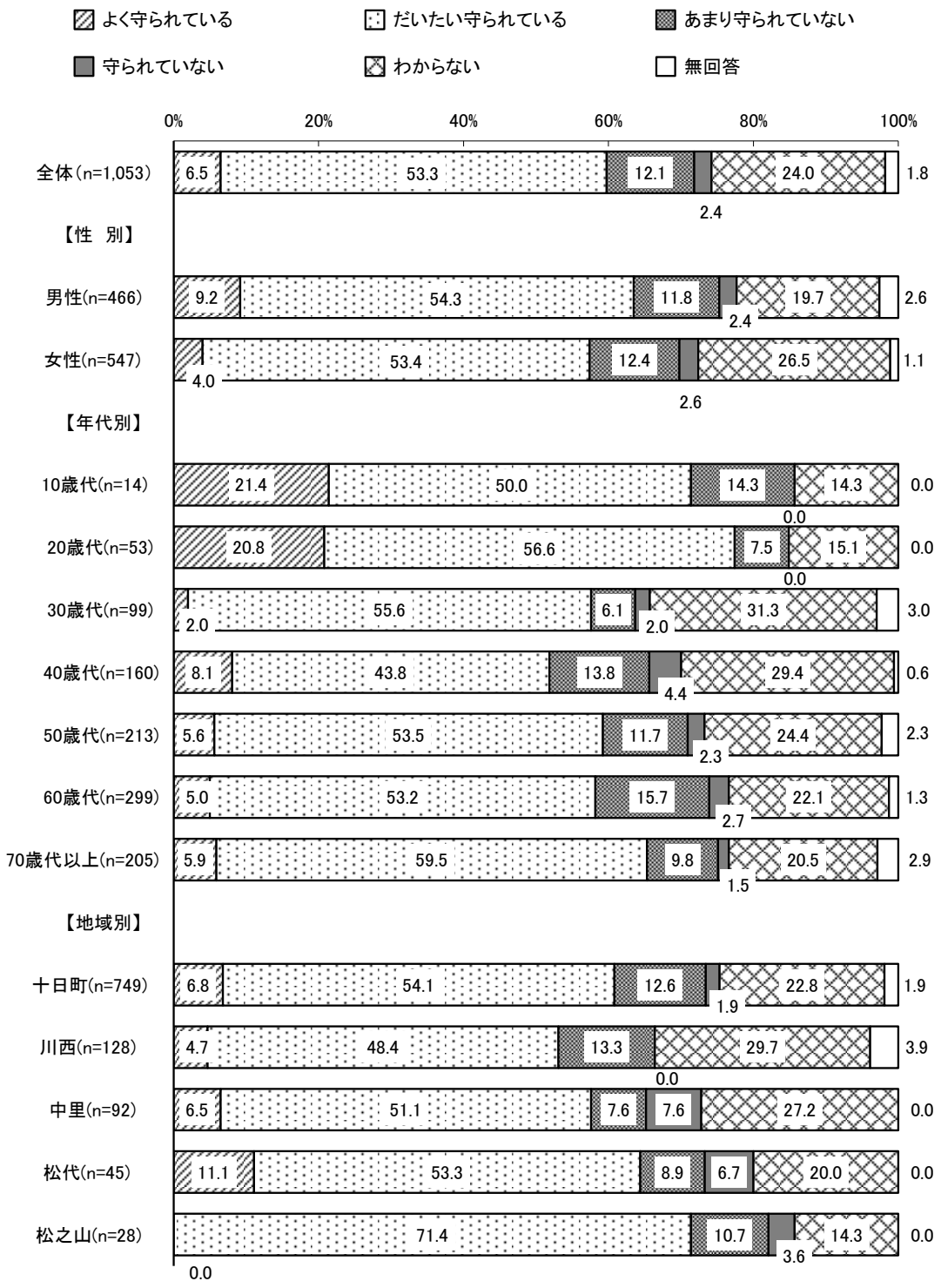
①性別

男性で『守られている』の割合が６割を超え、女性よりも高くなっている。

②年齢別

20 歳代（77.4%）で『守られている』の割合が最も高く、８割弱となっている。

図１－２　基本的人権の順守について（性別／年代別／地区別）



２．差別を解消するための法律について

（１）障害者差別解消法の認知

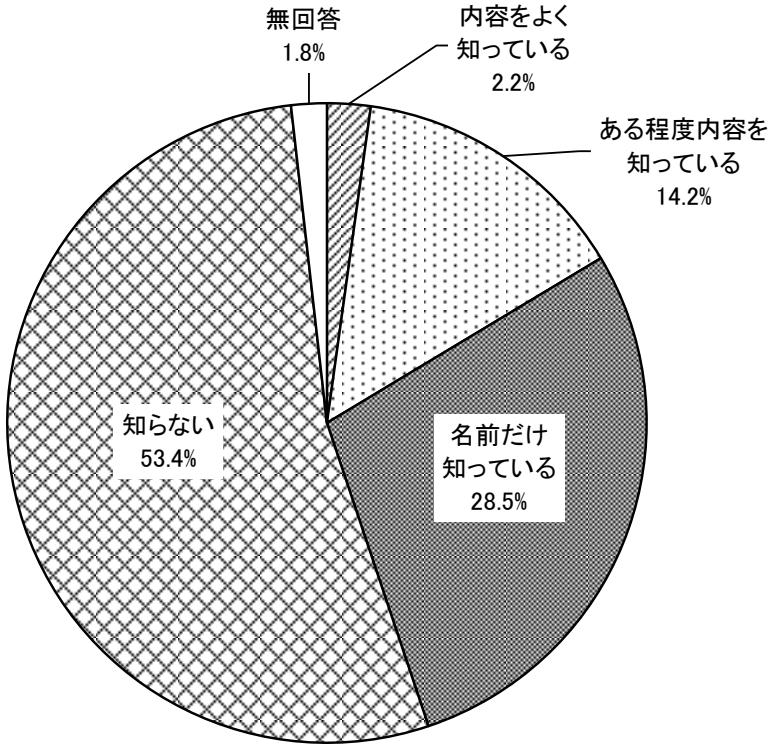
問３　平成 28 年度に人権に関する３つの法律が施行されました。あなたは、これらの法律についてどのくらいご存知ですか。

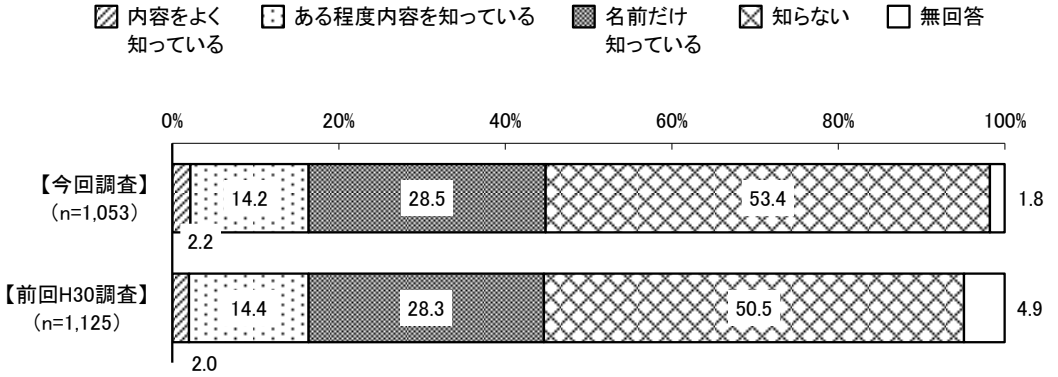
①　～　③の各項目のうち、あてはまる番号に１つずつ○をつけてください。

①障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）

平成 28 年 4 月 1 日施行

全体（n=1,053）





―――――　約半数が障害者差別解消法を認知していない　―――――

【全体結果】

「知らない」（53.4%）が約半数を占めている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、大きな変化はみられない。

【属性別結果】（図 2-1 参照）

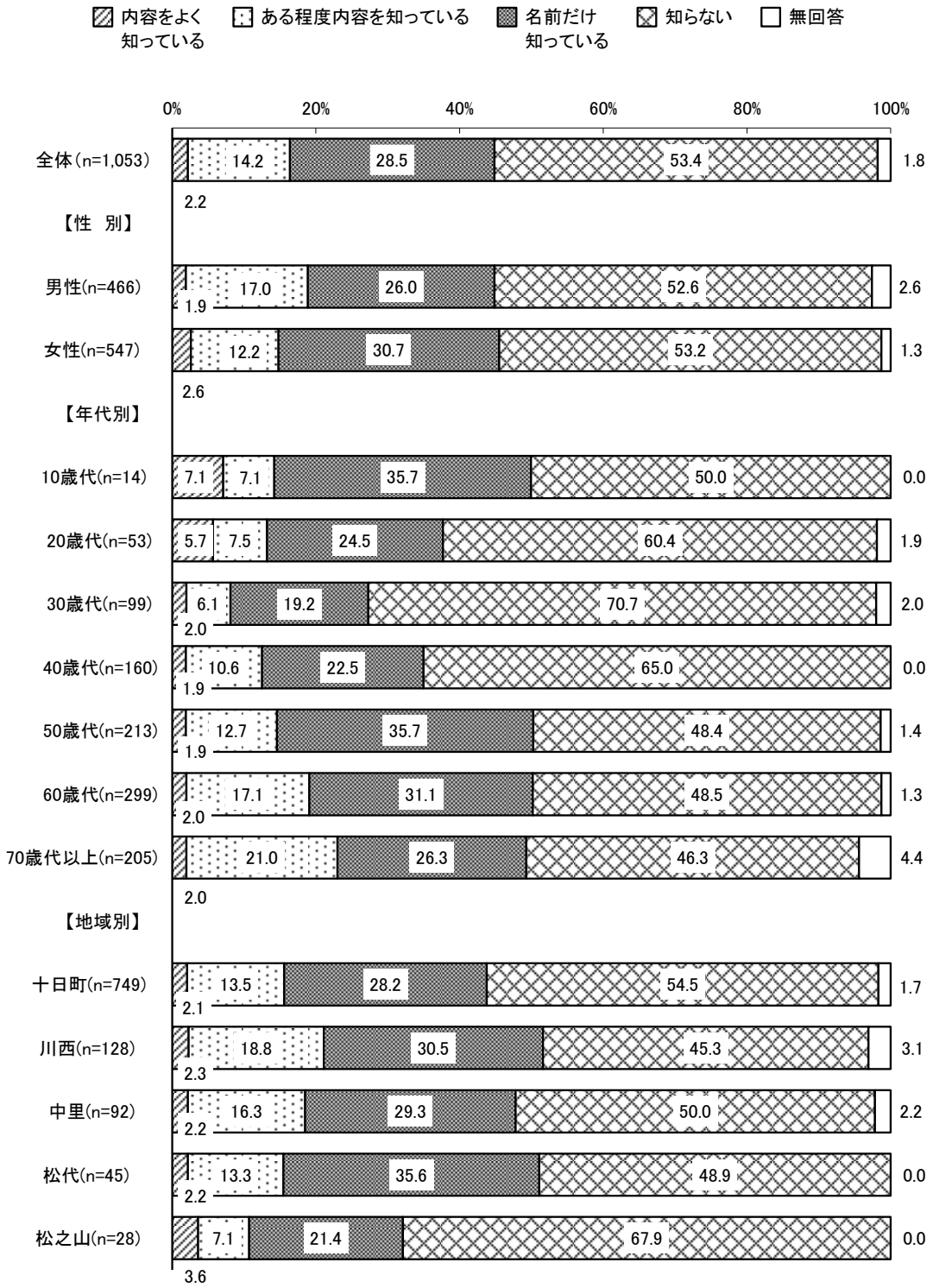
①性別

目立った男女差はみられない。

②年齢別

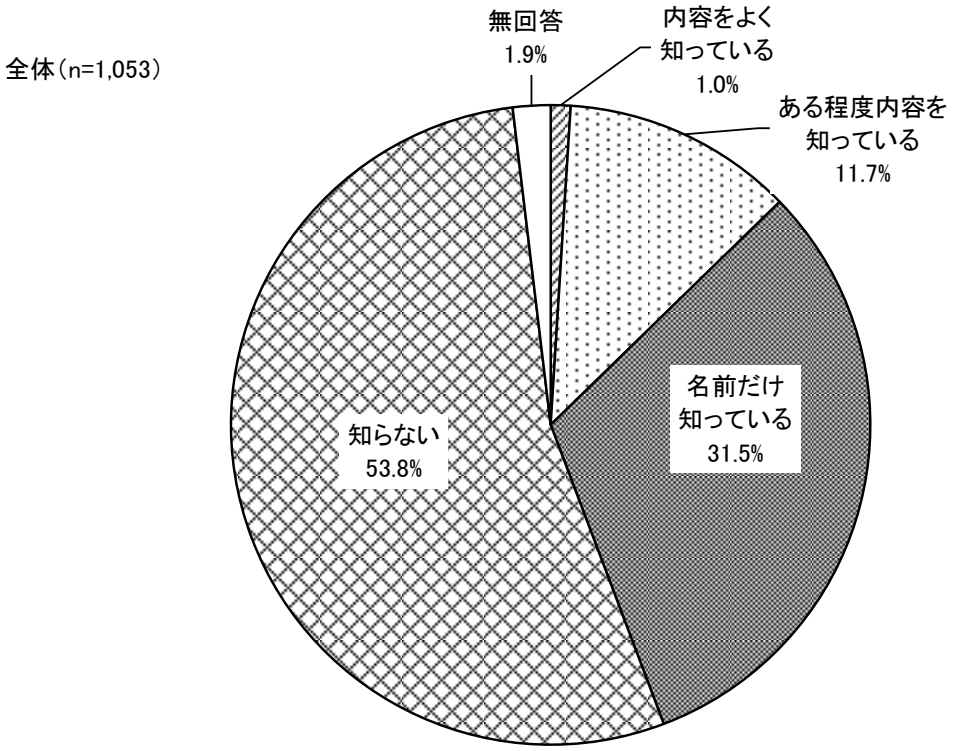
30 歳代（70.7%）で「知らない」の割合が約 7 割で最も高くなっている。

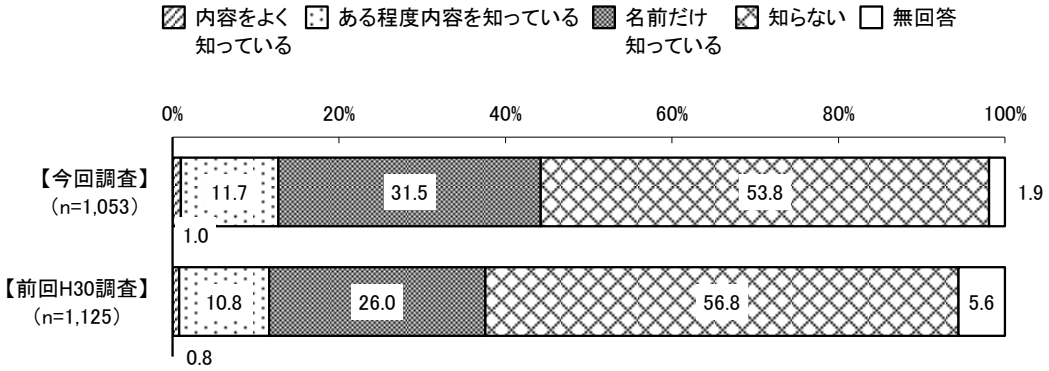
図２－１　障害者差別解消法の認知（性別／年代別／地区別）



（２）ヘイトスピーチ解消法の認知

問３　②本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律
（ヘイトスピーチ解消法）平成 28 年 6 月 3 日施行





多数がヘイトスピーチ解消法を認知していない

【全体結果】

「知らない」（53.8%）が約半数を占めている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「内容をよく知っている」、「ある程度内容を知っている」、「名前だけ知っている」と合わせた『知っている』の割合が増加している。

【属性別結果】（図 2-2 参照）

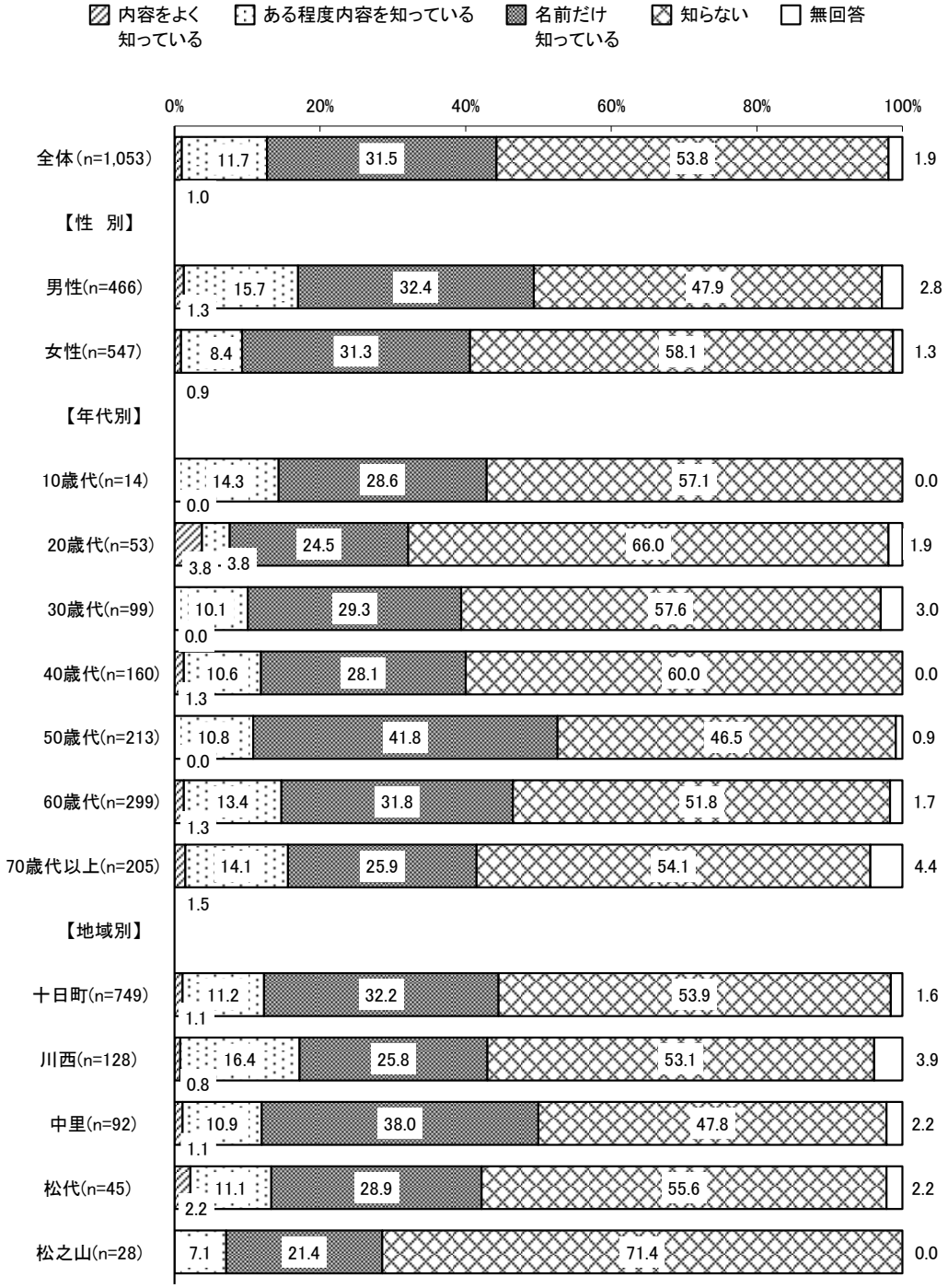
①性別

女性で「知らない」（58.1%）の割合が６割弱を占め、男性よりも高くなっている。

②年齢別

20 歳代（66.0%）で「知らない」の割合が７割弱で最も高くなっている。

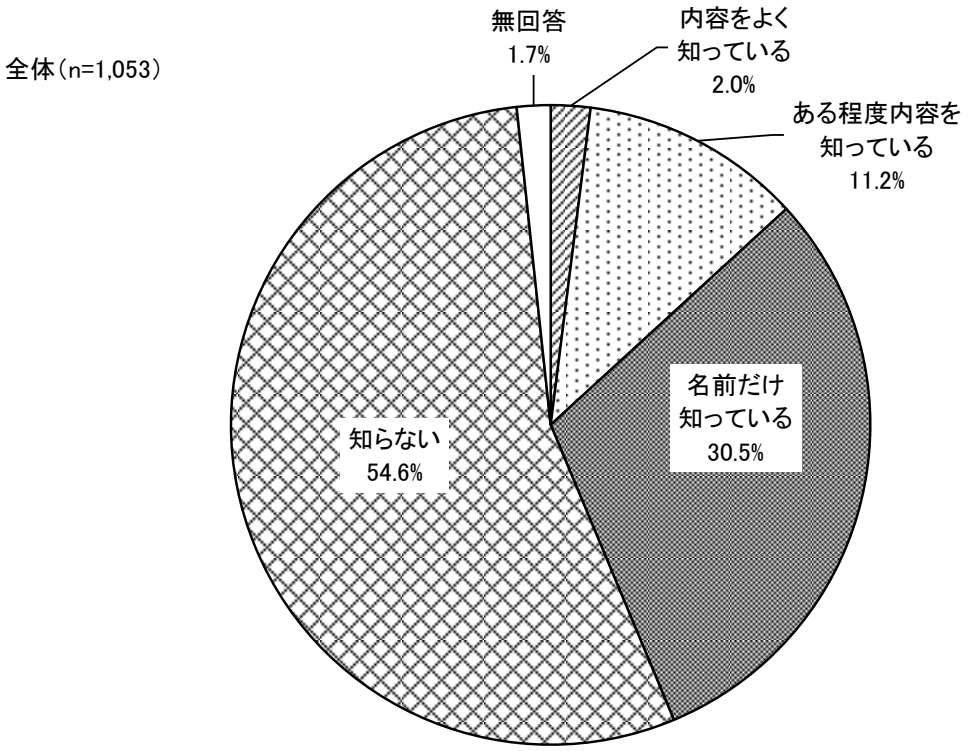
図２－２　ヘイトスピーチ解消法の認知（性別／年代別／地区別）

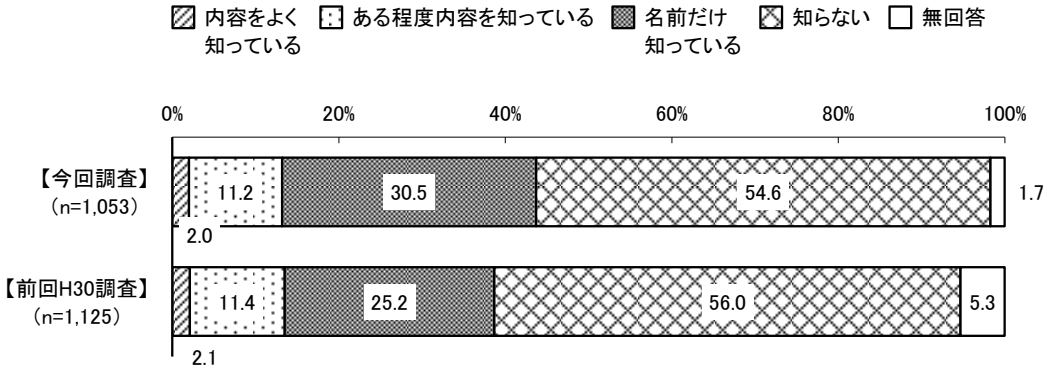


（３）部落差別解消推進法の認知

問３　③部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）

平成 28 年 12 月 16 日施行





多数が部落差別解消推進法を認知していない

【全体結果】

「知らない」（54.6%）が半数強を占めている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「内容をよく知っている」、「ある程度内容を知っている」、「名前だけ知っている」と合わせた『知っている』の割合が増加している。

【属性別結果】（図 2-3 参照）

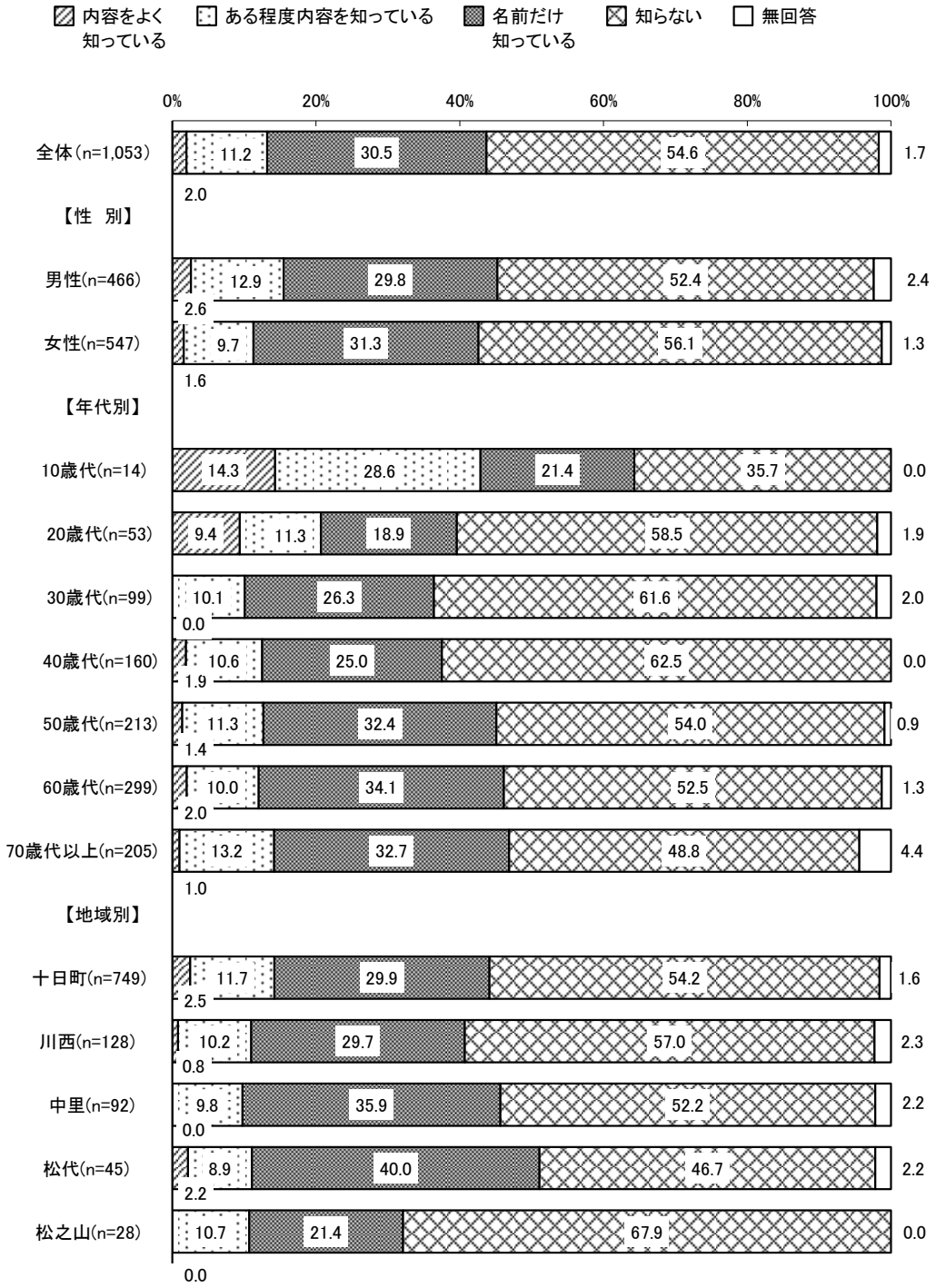
①性別

女性で「知らない」（56.1%）の割合が６割弱を占め、男性よりもやや高くなっている。

②年齢別

30 歳代（61.6%）と 40 歳代（62.5%）で「知らない」の割合が高く、６割を超えている。

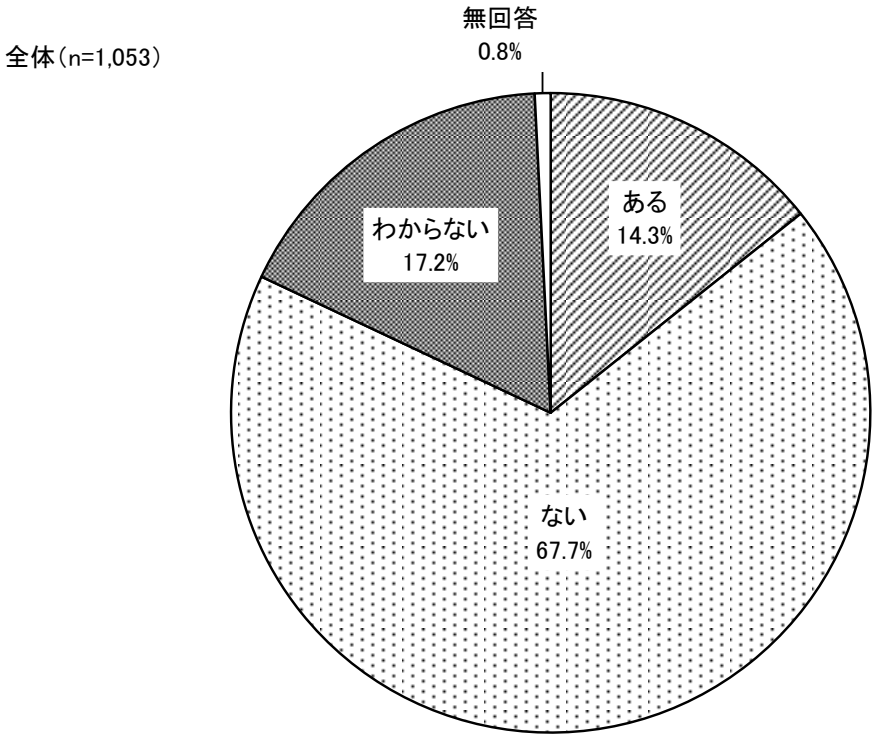
図２－３　部落差別解消推進法の認知（性別／年代別／地区別）

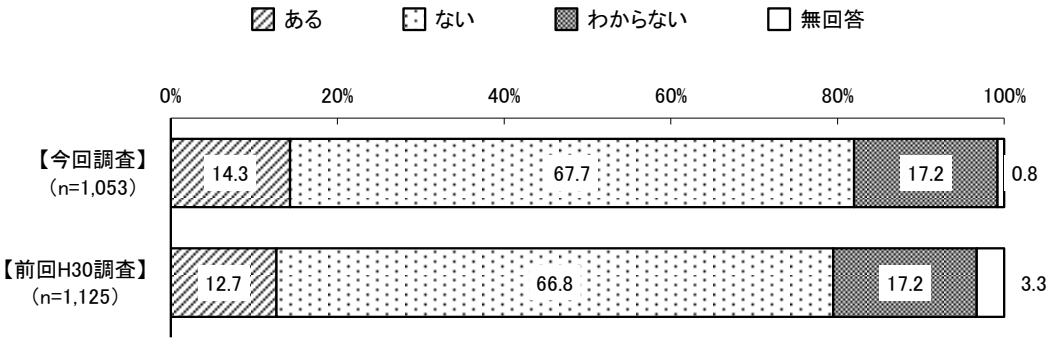


３．自身の経験と対応について

（１）人権侵害を感じた経験の有無

問４　あなたは、ここ５年間に人権を侵害されたと感じたことがありますか。
あてはまる番号に一つ〇をつけてください。





最近５年間に人権侵害を受けたと感じた人は１割強

【全体結果】

「ある」（14.3%）は１割台、「ない」（67.7%）が約３分の２を占めている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、大きな変化はみられない。

【属性別結果】（図 3-1 参照）

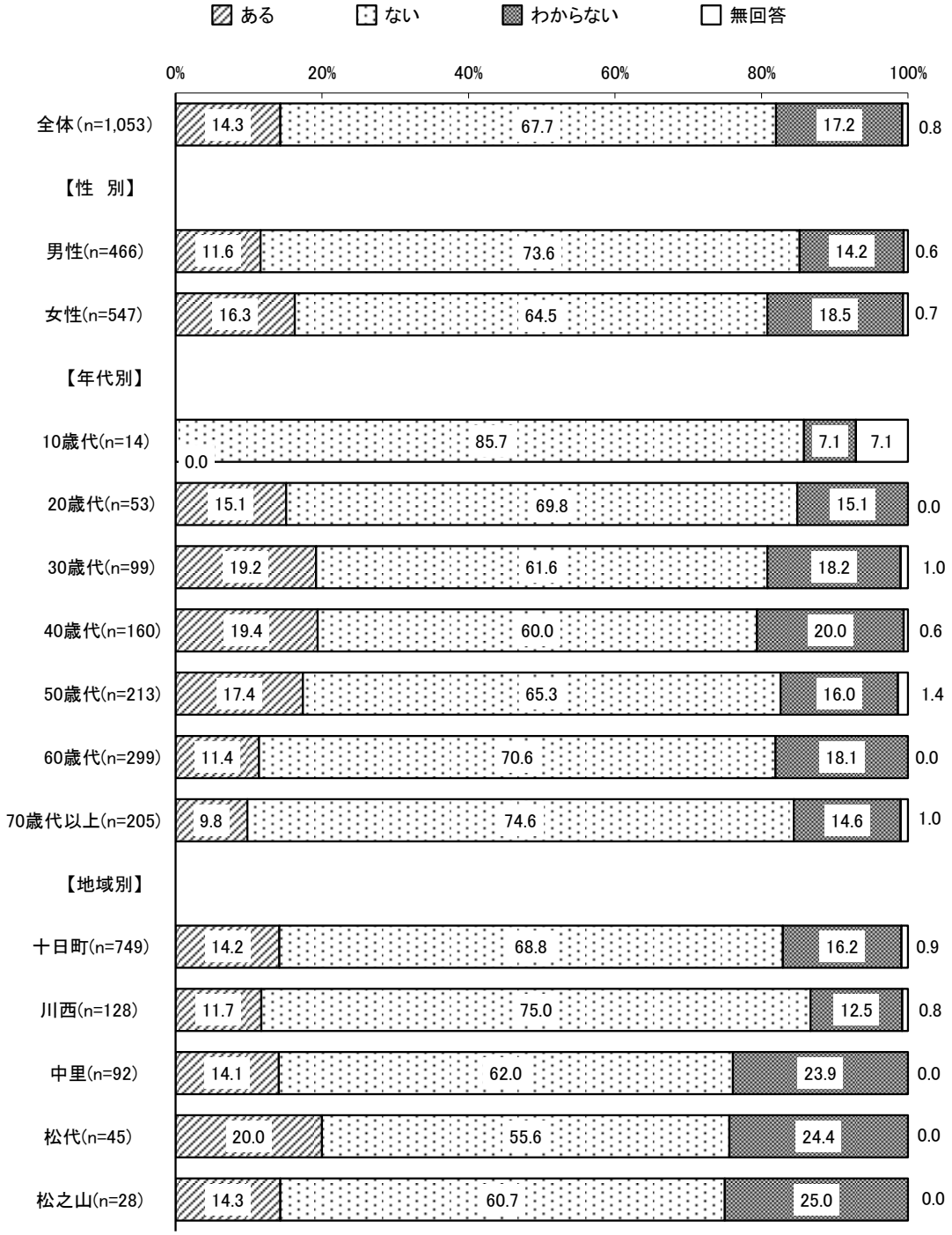
①性別

男性で「ない」（73.6%）の割合が７割を超え、女性よりも高くなっている。

②年齢別

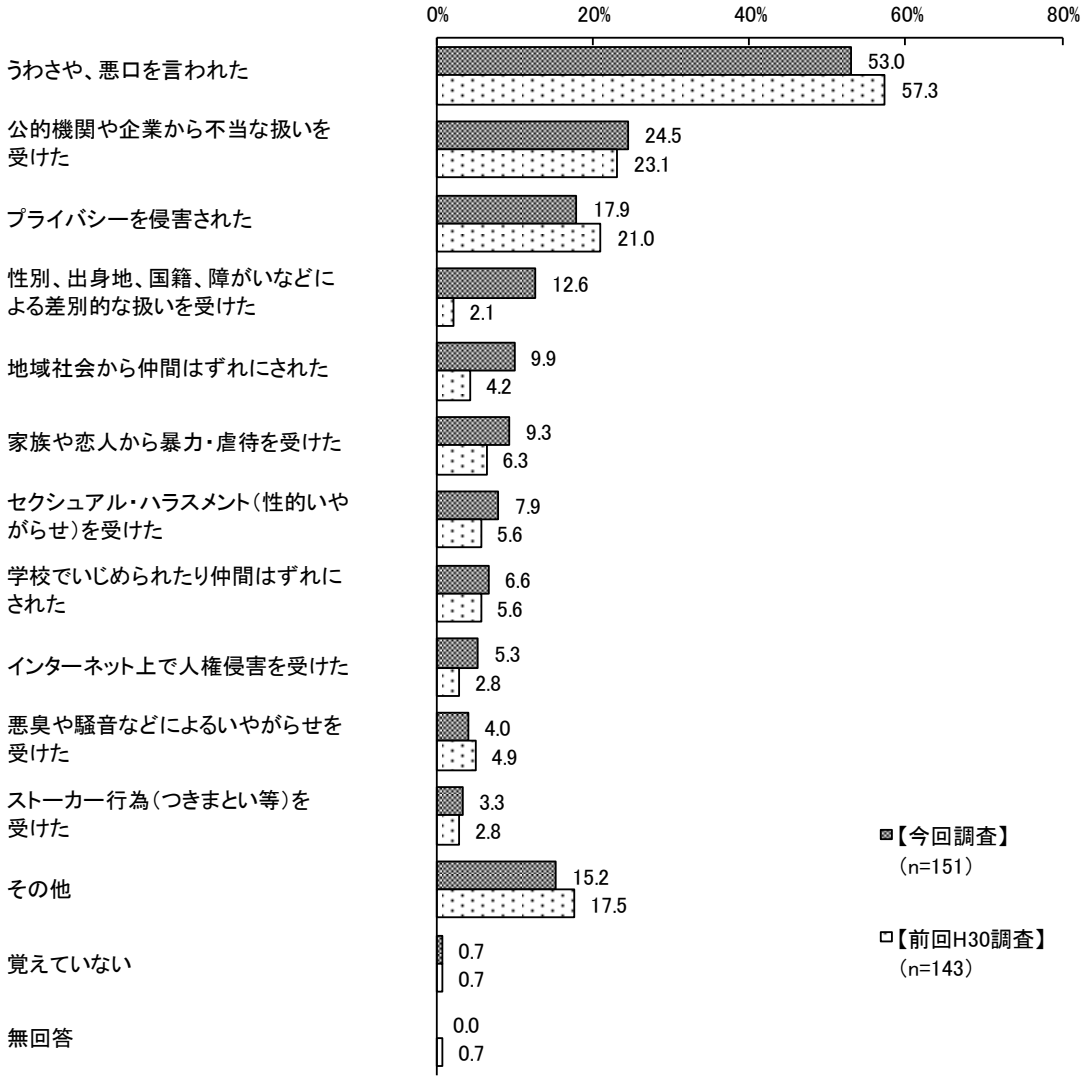
30 歳代（19.2%）と 40 歳代（19.4%）で「ある」の割合が高く、約２割を占めている。

図３－１　人権侵害を感じた経験の有無（性別／年代別／地区別）



（２）人権侵害の場面

問５　問４で「１　ある」と回答した方におたずねします。
それはどのようなことでそう思いましたか。
あてはまる番号にすべてに〇をつけてください。



――　「うわさや、悪口を言われた」で侵害されたと感じた人が５割強　――

【全体結果】

前問で人権侵害を感じたことが「ある」と回答した方にその場面を聞いた。

「うわさや、悪口を言われた」（53.0％）が最も高く、「公的機関や企業から不当な扱いを受けた」（24.5％）が２割台、「プライバシーを侵害された」（17.9％）、「性別、出身地、国籍、障がいなどによる差別的な扱いを受けた」（12.6％）が１割台で続く。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

前回調査と比較して、「性別、出身地、国籍、障がいなどによる差別的な扱いを受けた」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 3-2 参照）

①性別

「うわさや、悪口を言われた」の割合は男性よりも女性の方が、「公的機関や企業から不当な扱いを受けた」の割合は女性よりも男性の方が１割以上高くなっている。

②年齢別

20 歳代以下は該当者が 10 名未満のため分析から除外する。

全体結果で最も高かった「うわさや、悪口を言われた」の割合は 70 歳代で約３人に２人以上が回答した。

図３－２　人権侵害の場面（性別／年代別／地区別）　1/3

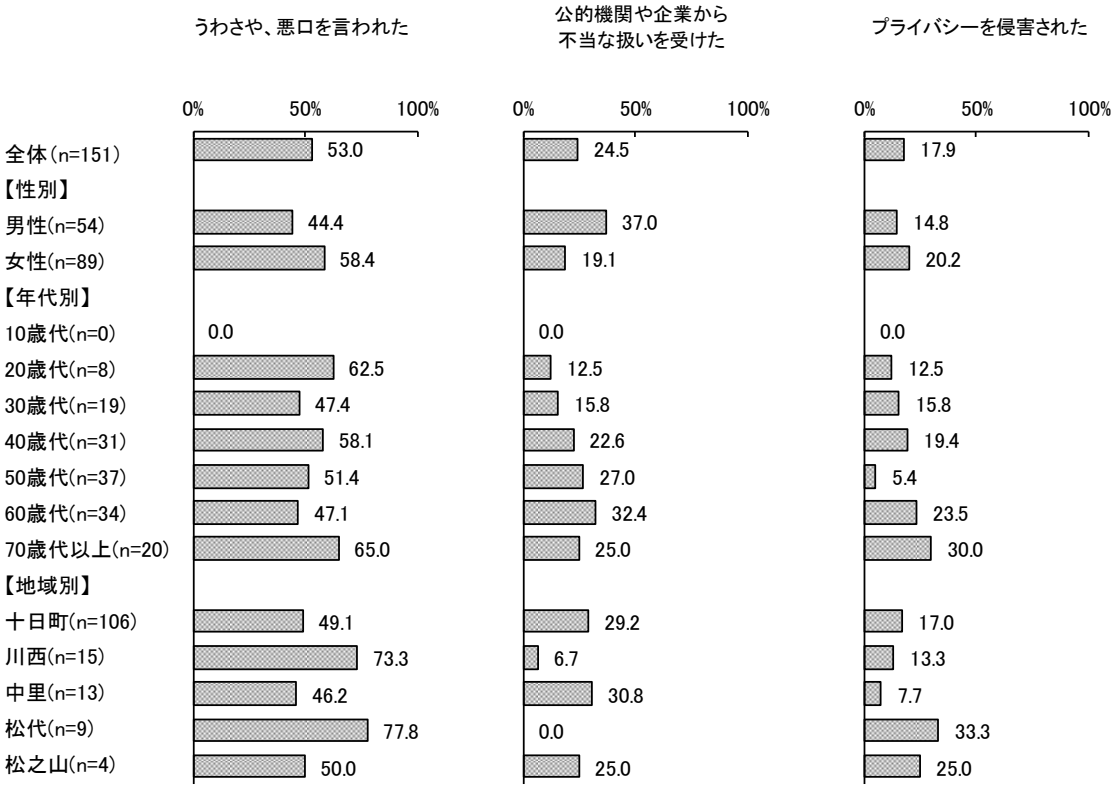
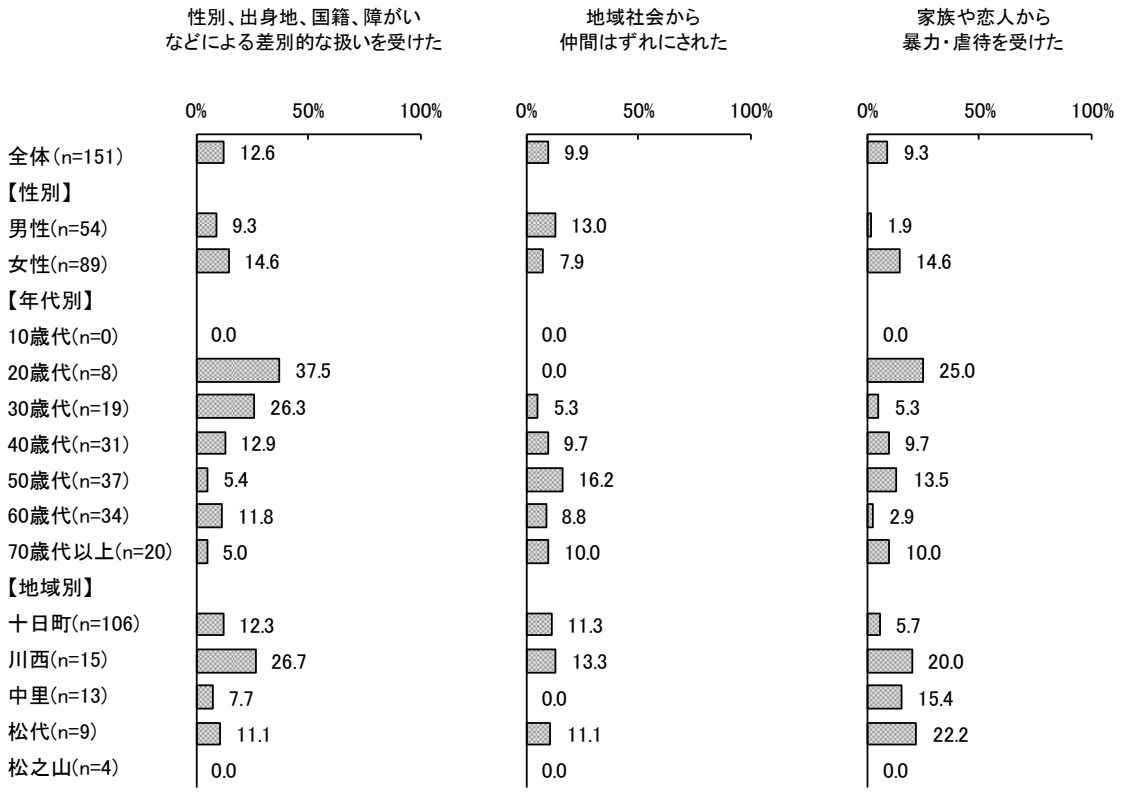


図３－２　人権侵害の場面　（性別／年代別／地区別）　2/3



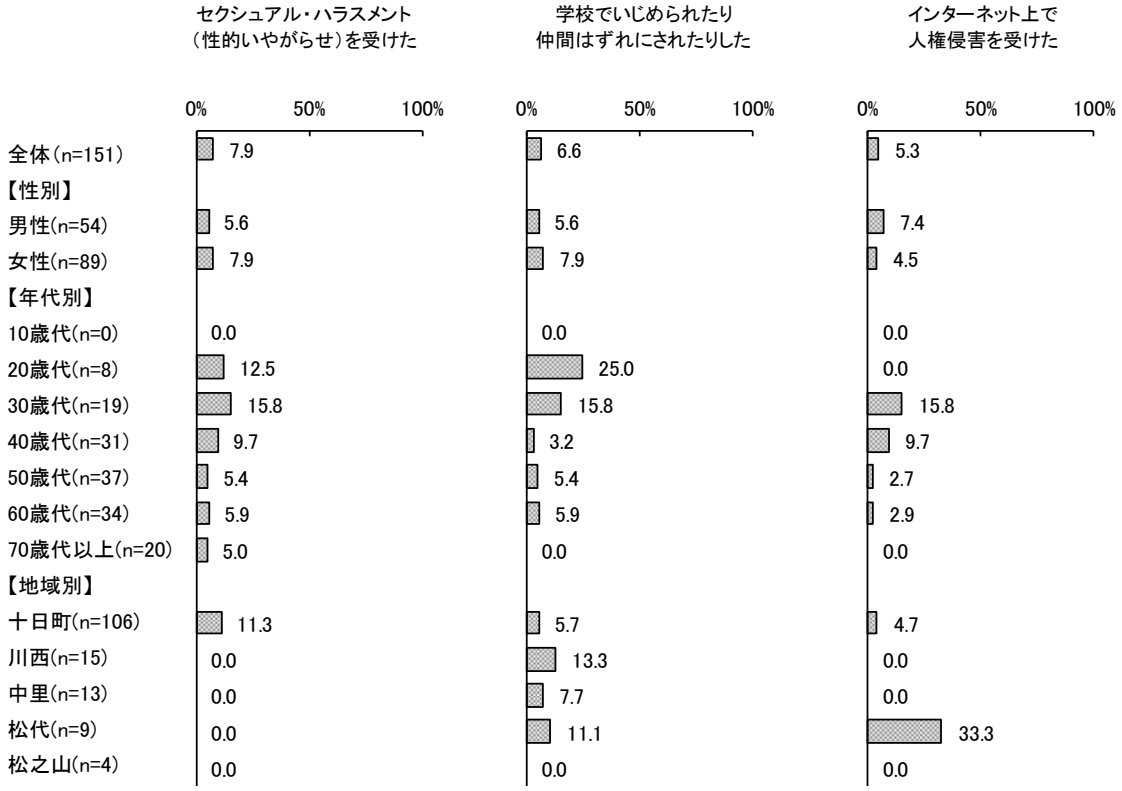
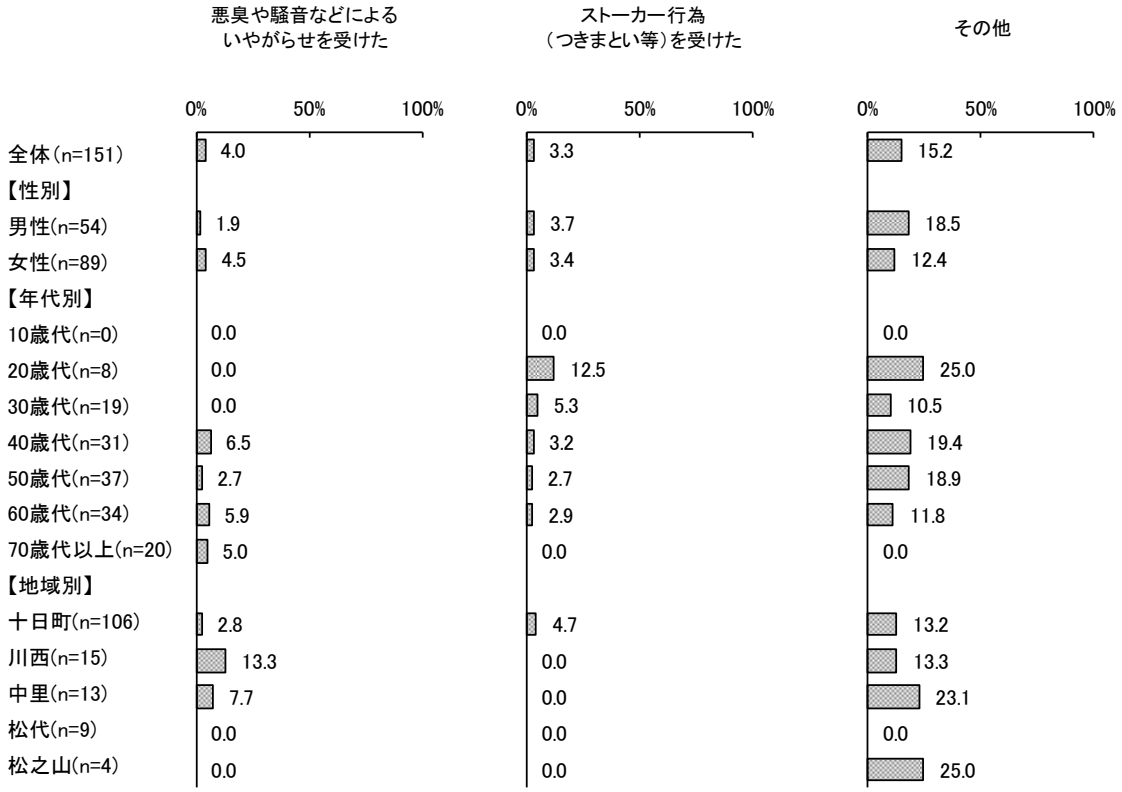
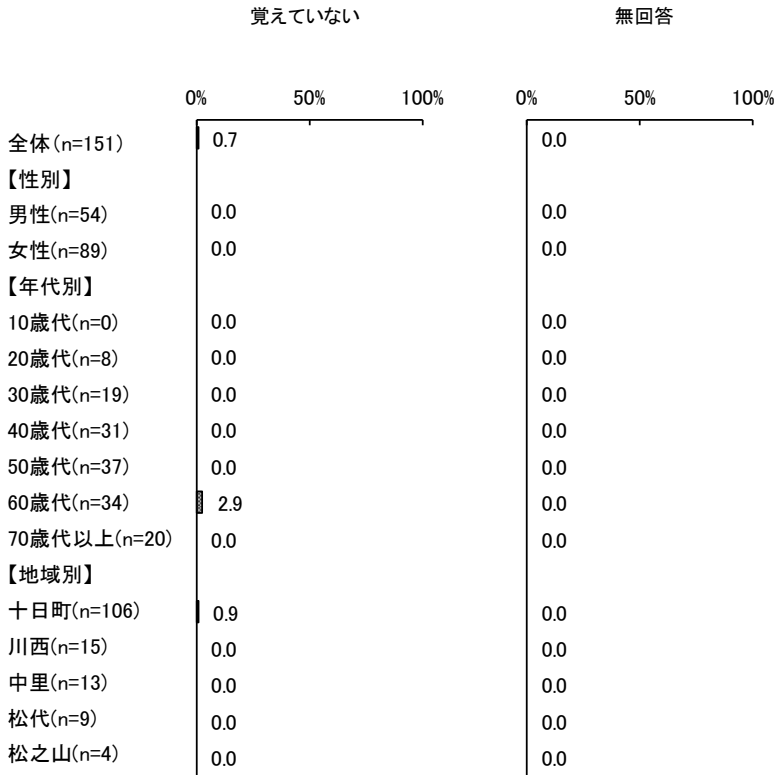


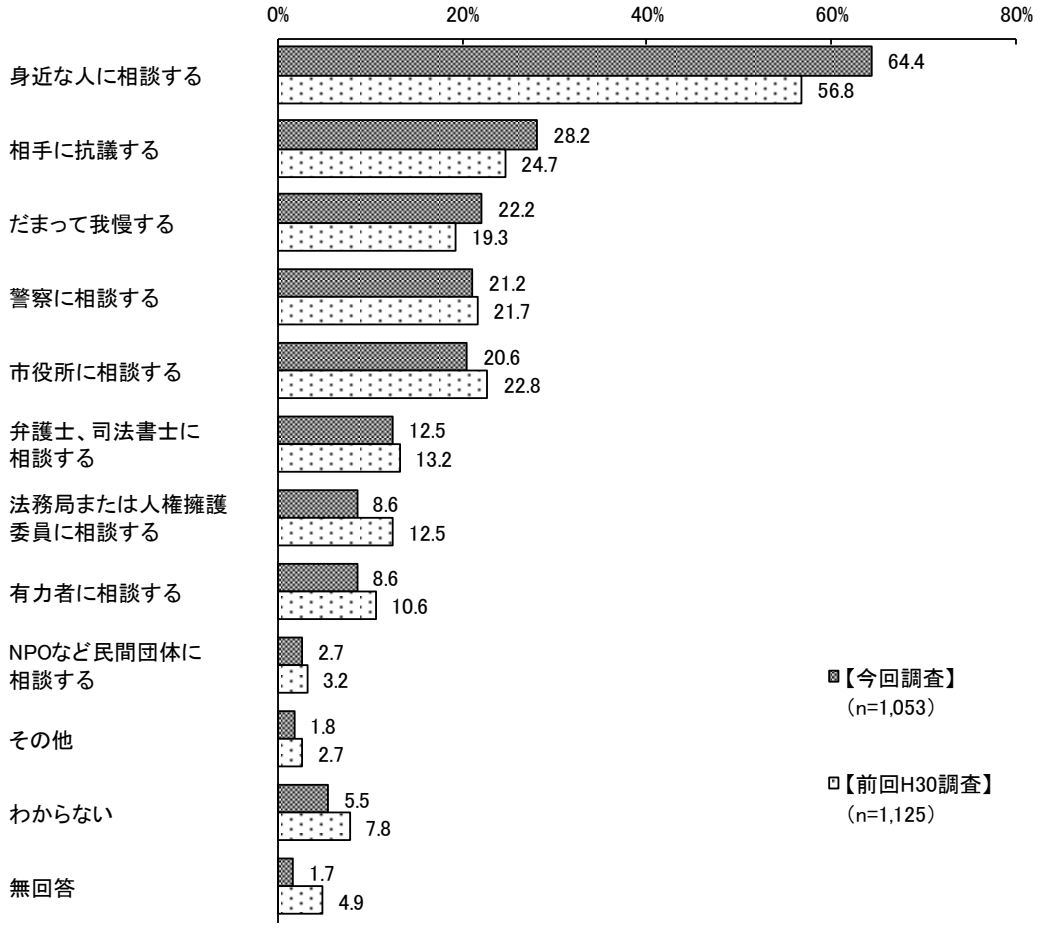
図２－２　人権侵害の場面　（性別／年代別／地区別）　3/3





（３）人権侵害を受けた際の対応法

問６　あなたが、もし自分の人権を侵害されたら場合、まずどのような対応をしますか。
あてはまる番号にすべてに○をつけてください。



まずは「身近な人に相談する」という人が多数

【全体結果】

「身近な人に相談する」（64.4%）が最も高く、「相手に抗議する」（28.2%）、「だまって我慢する」（22.2%）、「警察に相談する」（21.2%）、「市役所に相談する」（20.6%）が２割台で続く。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 3-3 参照）

①性別

「身近な人に相談する」の割合は男性（52.8%）よりも女性（73.7%）の方が、「相手に抗議する」の割合は男性（41.0%）の方が女性（17.2%）よりも２割以上高くなっている。

②年齢別

全ての年代で「身近な人に相談する」の割合が最も高くなっている。

図３－３　人権侵害を受けた際の対応法（性別／年代別／地区別）　1/2

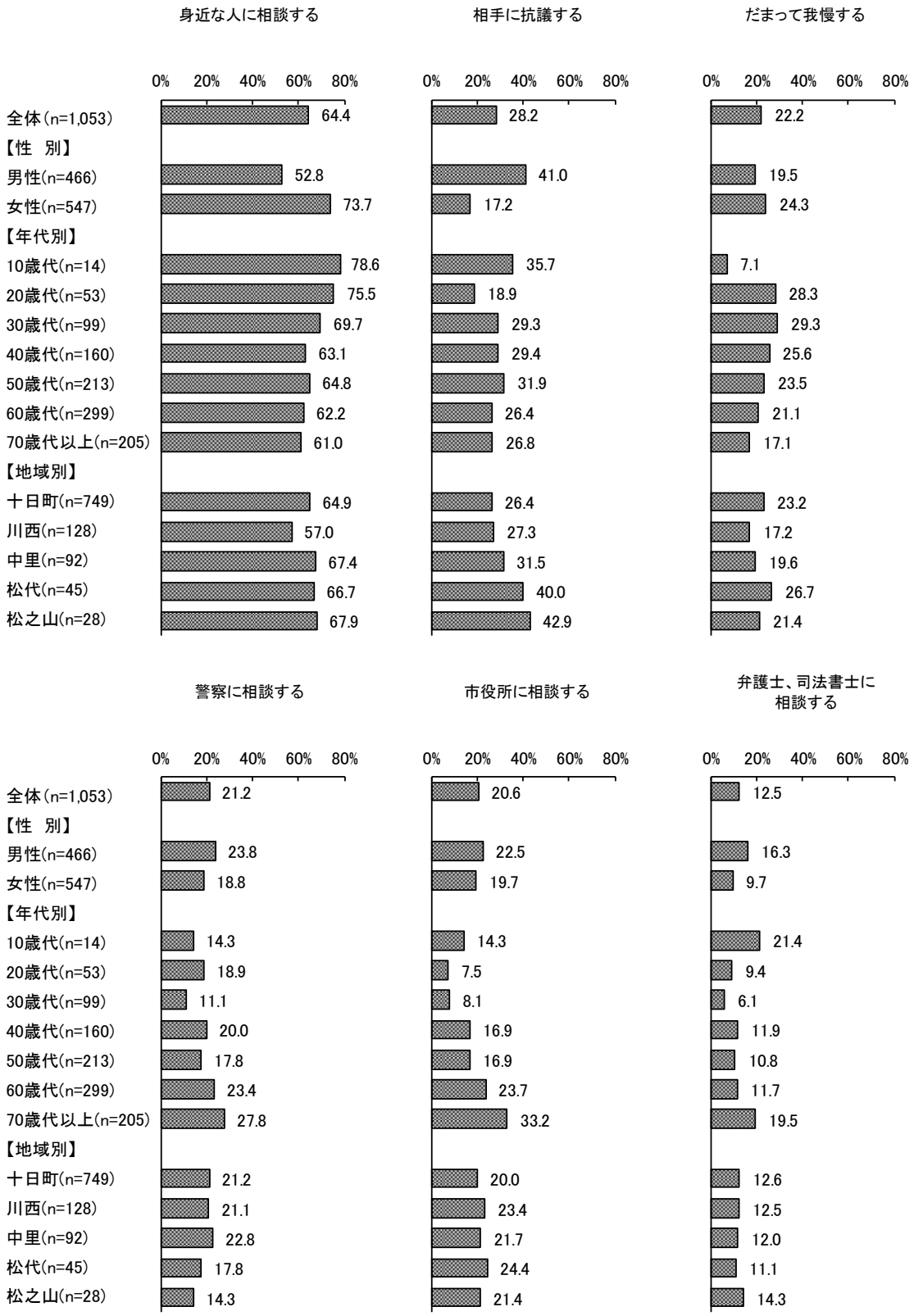
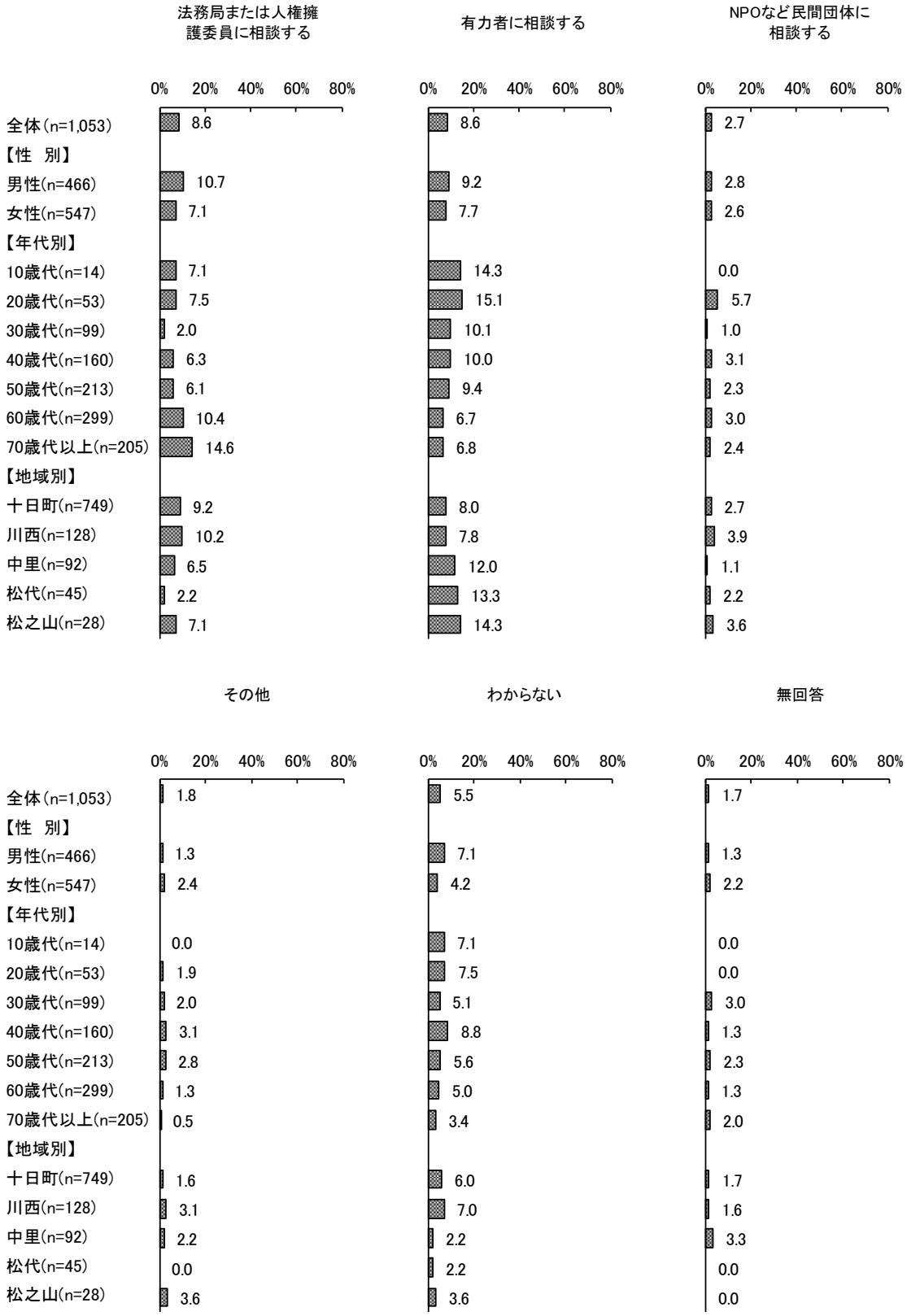


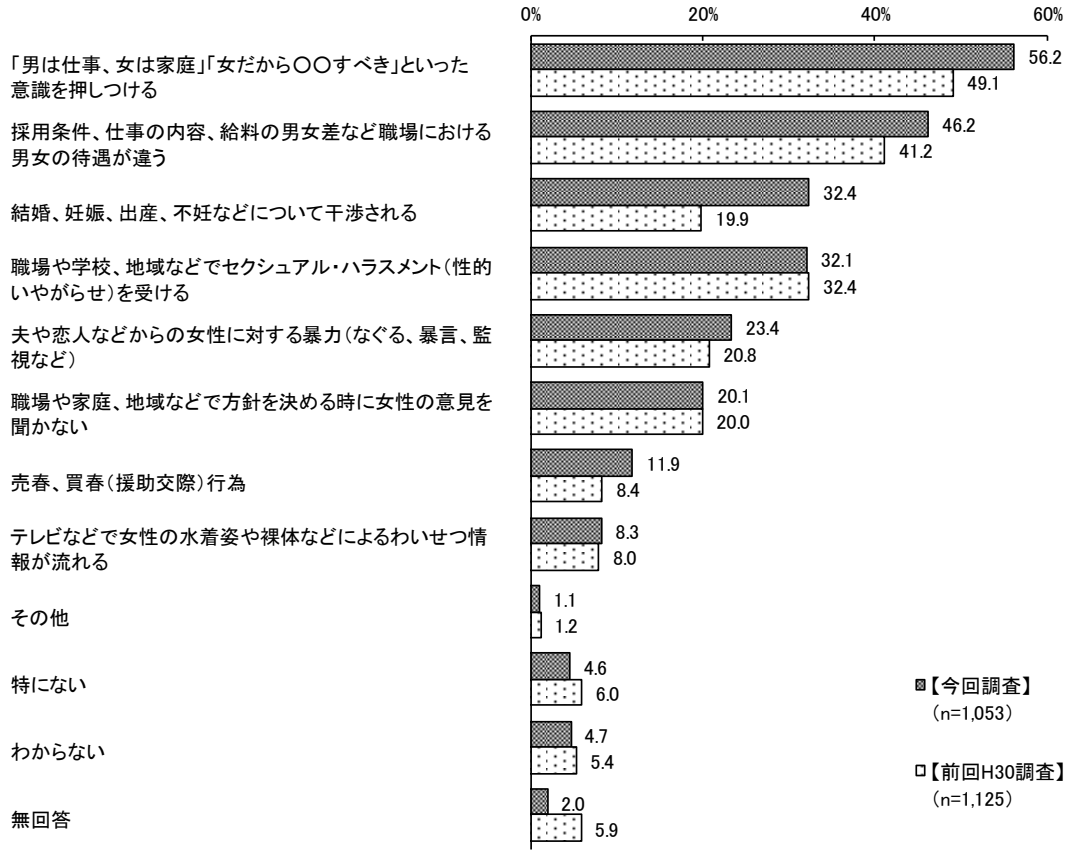
図３－３　人権侵害を受けた際の対応法　（性別／年代別／地区別）　2/2



４．女性の人権について

（１）女性の人権に関する問題点

問７　女性の人権について、問題があるとあなたが思うことはどのようなことですか。
あてはまる番号に３つ以内で○をつけてください。



―　「男は仕事、女は家庭」等といった固定観念面の問題が多く指摘された　―

【全体結果】

「『男は仕事、女は家庭』『女だから○○すべき』といった男女の固定的な意識を押しつける」（56.2%）が最も高く、「採用条件、仕事の内容、給料の男女差など職場における男女の待遇が違う」（46.2%）が続く。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

前回調査と比較して、「結婚、妊娠、出産、不妊などについて干渉される」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 4-1 参照）

①性別

「採用条件、仕事の内容、給料の男女差など職場における男女の待遇が違う」の割合は男性（51.9%）の方が女性（41.7%）よりも１割以上高くなっている。

②年齢別

「『男は仕事、女は家庭』『女だから○○すべき』といった男女の固定的な意識を押しつける」の割合は、年齢が上がるほど割合が低下する傾向がみられる。

図４－１　女性の人権に関する問題点（性別／年代別／地区別）　1/2

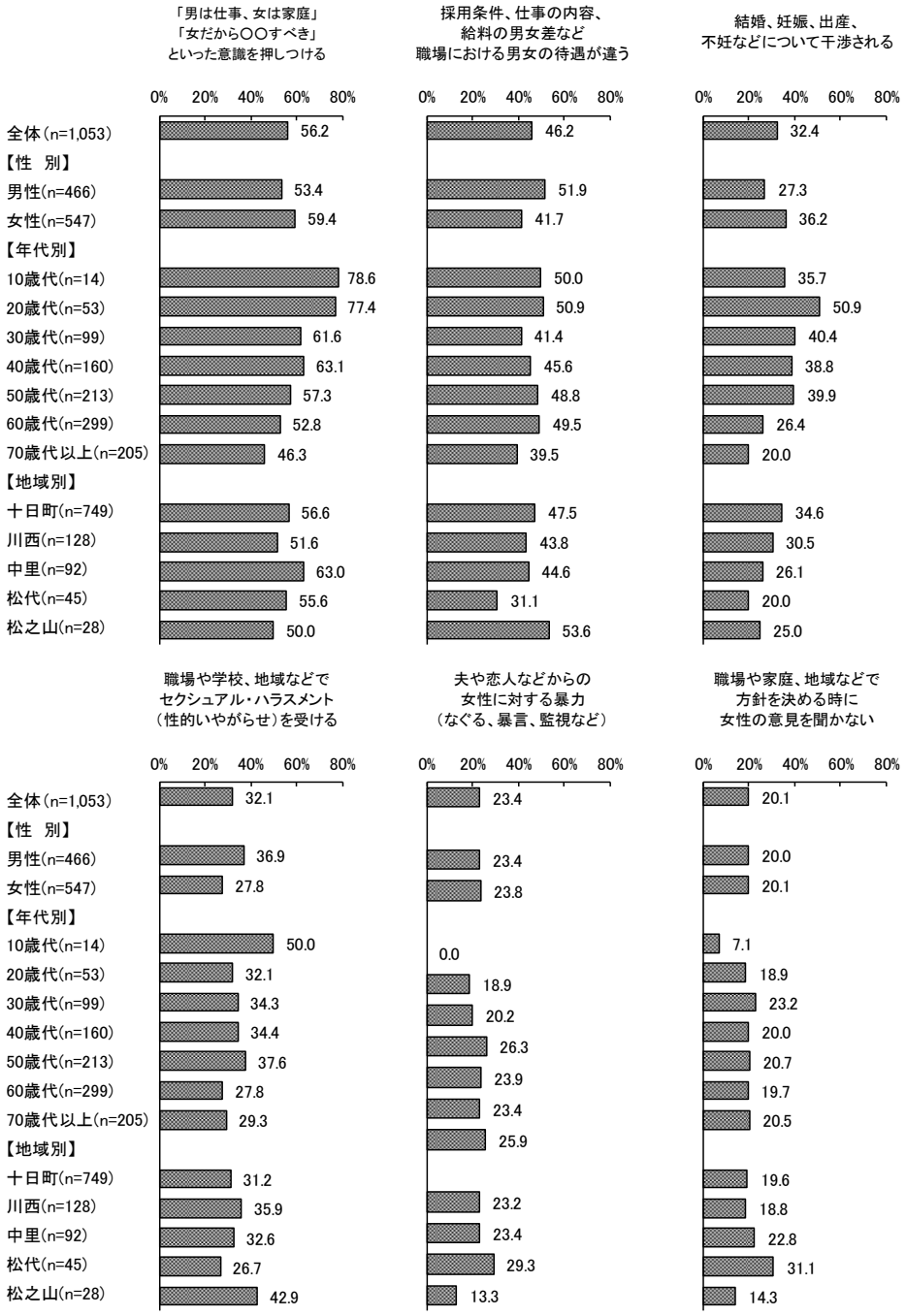
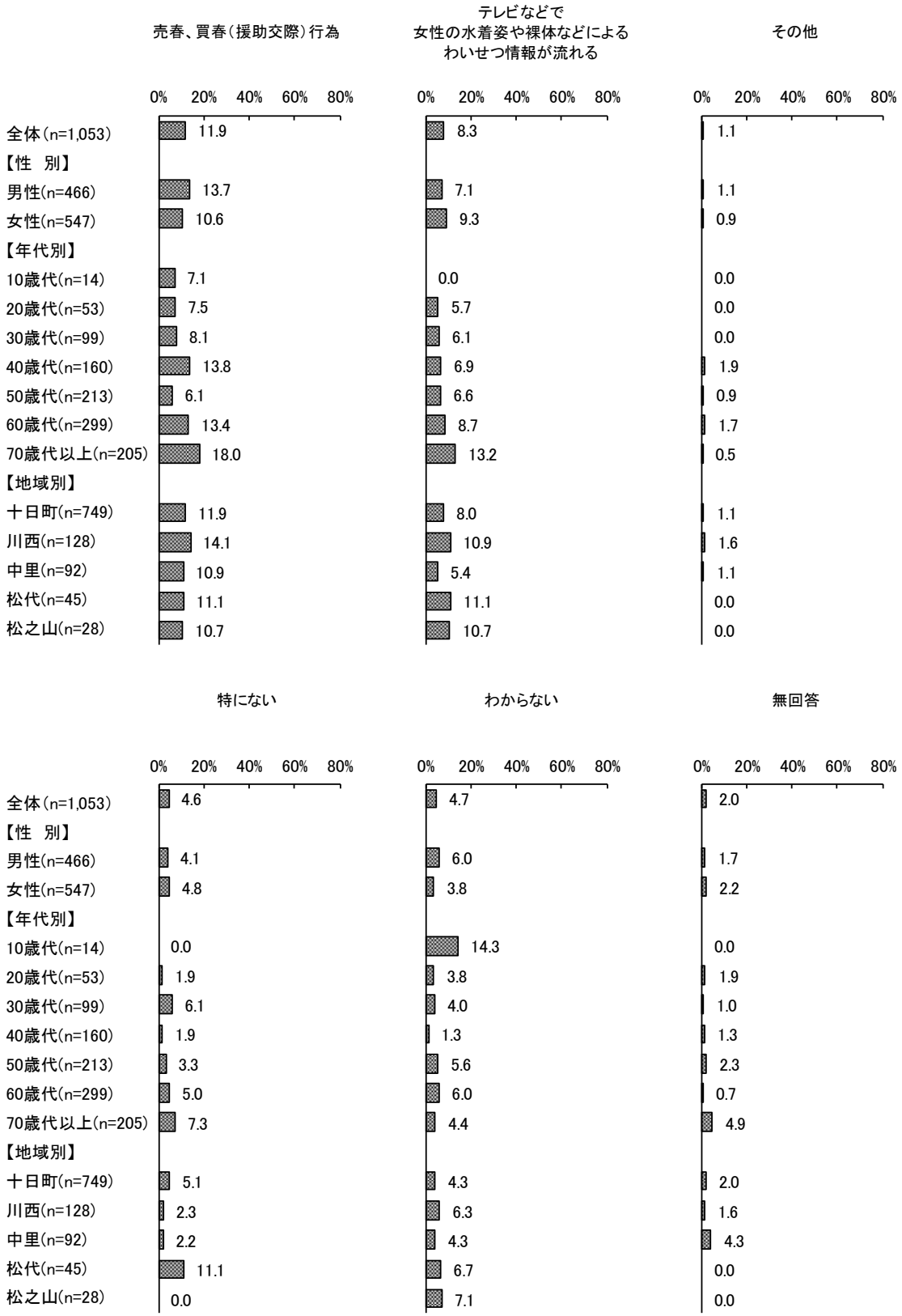
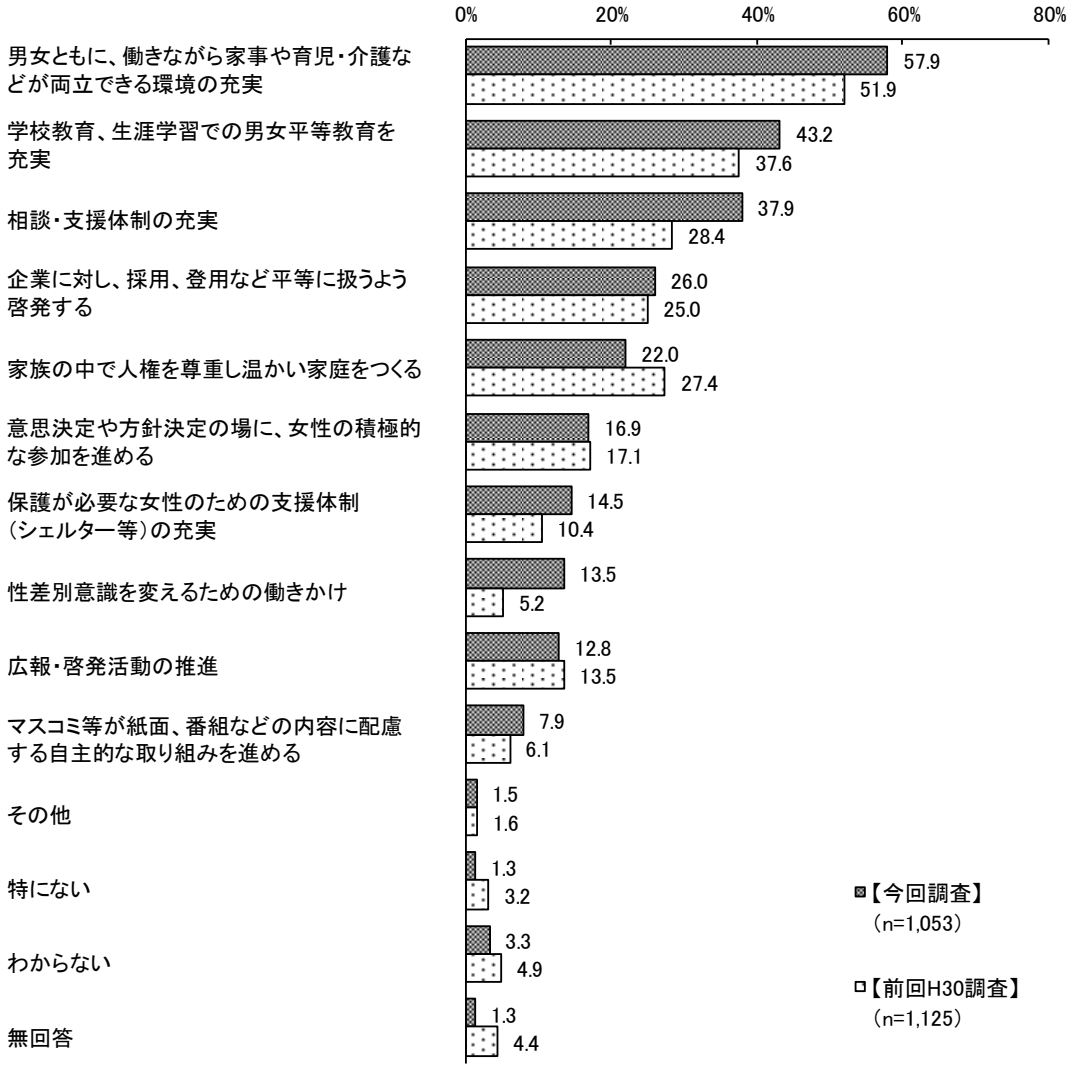


図４－１　女性の人権に関する問題点　（性別／年代別／地区別）　2/2



（２）女性の人権を守るために必要なこと

問８　あなたは女性の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



――― ６割弱は仕事と家事等を両立できる環境の充実を必要とした ―――

【全体結果】

「男女ともに、働きながら家事や育児・介護などが両立できる環境の充実」（57.9%）が６割弱で最も高く、「学校教育、生涯学習での男女平等教育を充実」（43.2%）が４割台、「相談・支援体制の充実」（37.9%）が３割台で続く。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 4-2 参照）

①性別

「男女ともに、働きながら家事や育児・介護などが両立できる環境の充実」の割合は男性（51.9%）よりも女性（63.3%）の方が１割以上高くなっている。

②年齢別

「男女ともに、働きながら家事や育児・介護などが両立できる環境の充実」の割合は 20 歳代（69.8%）が最も高く約７割になっている。

図４－２　女性の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　1/3

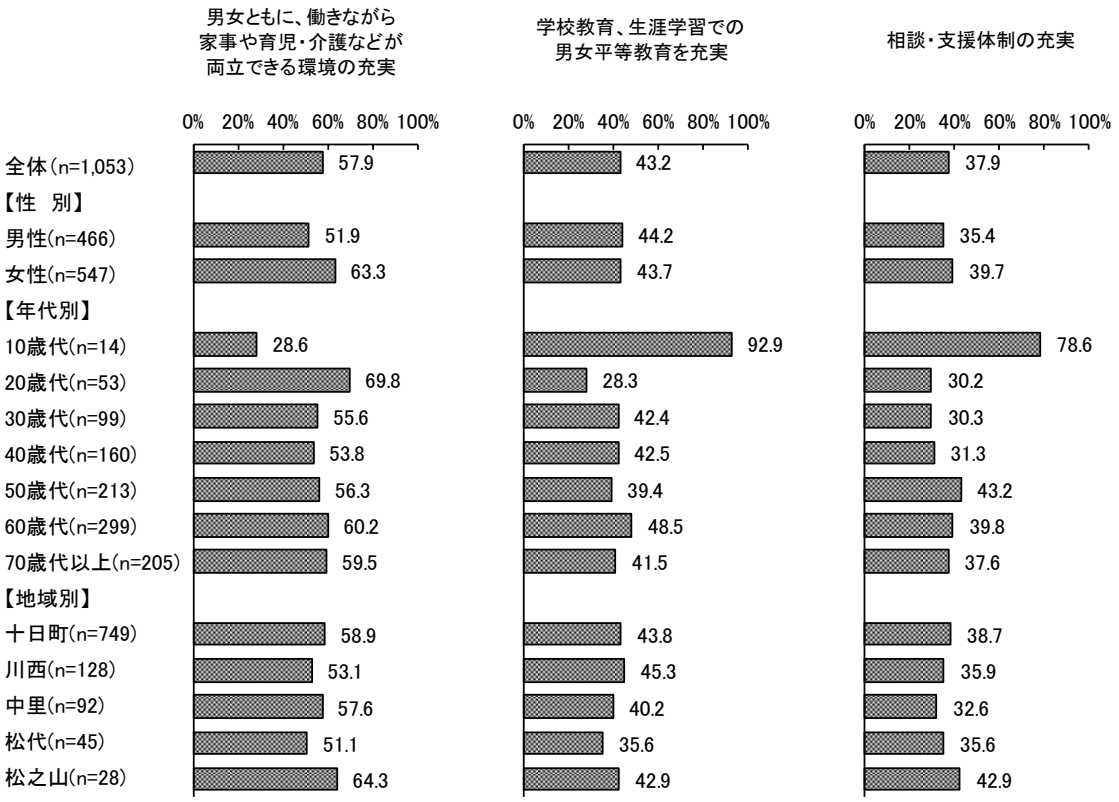


図４－２　女性の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　2/3

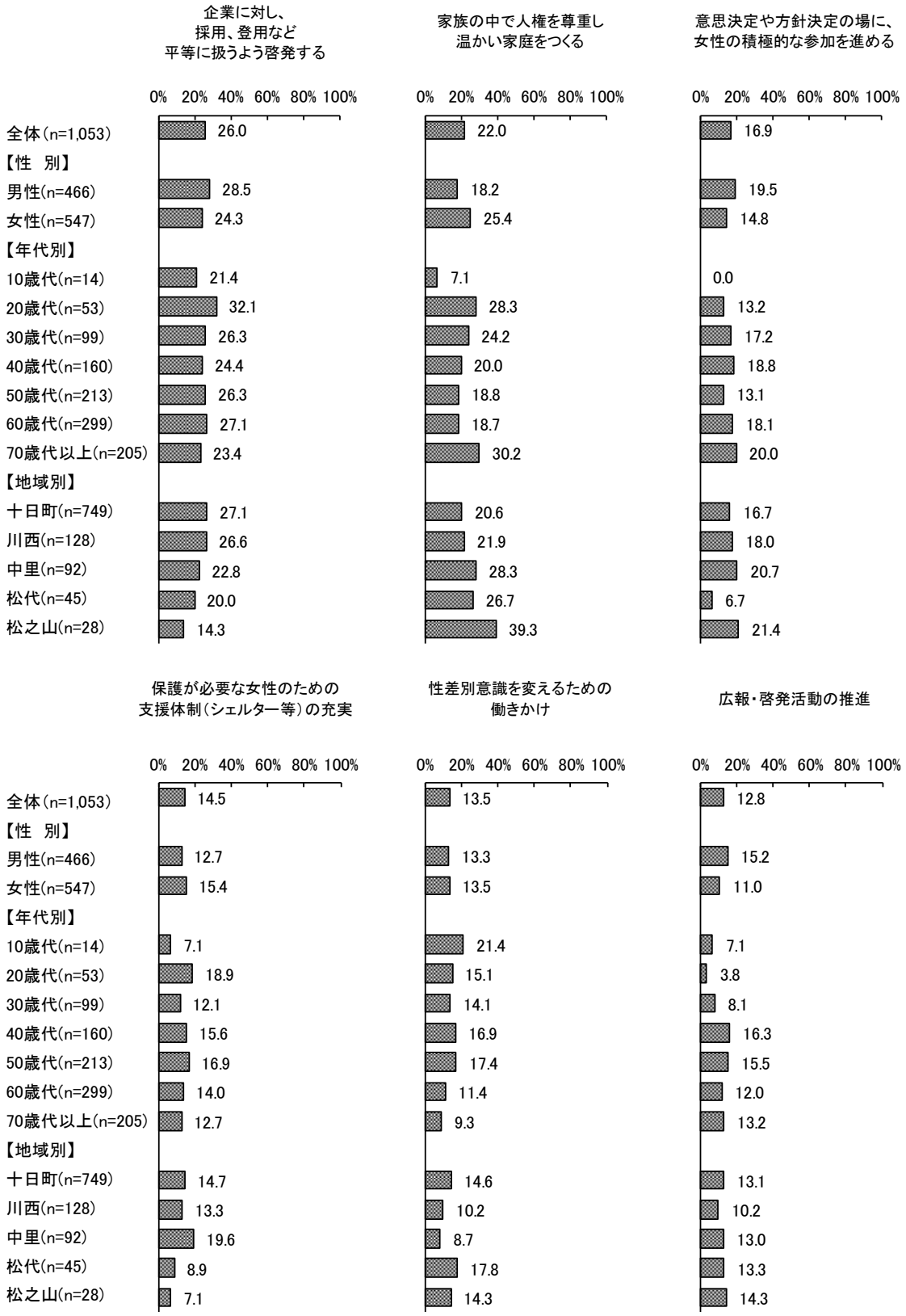
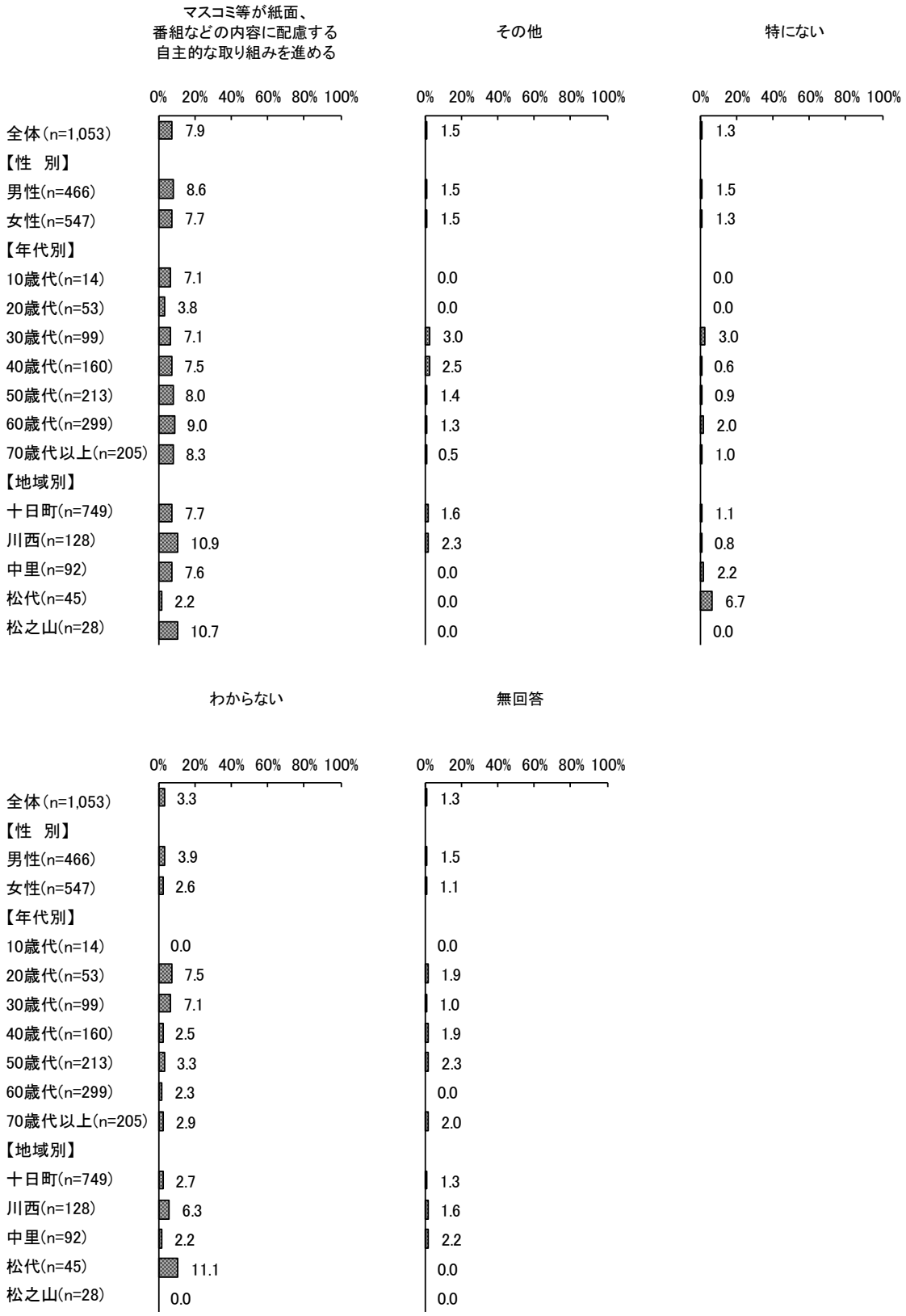


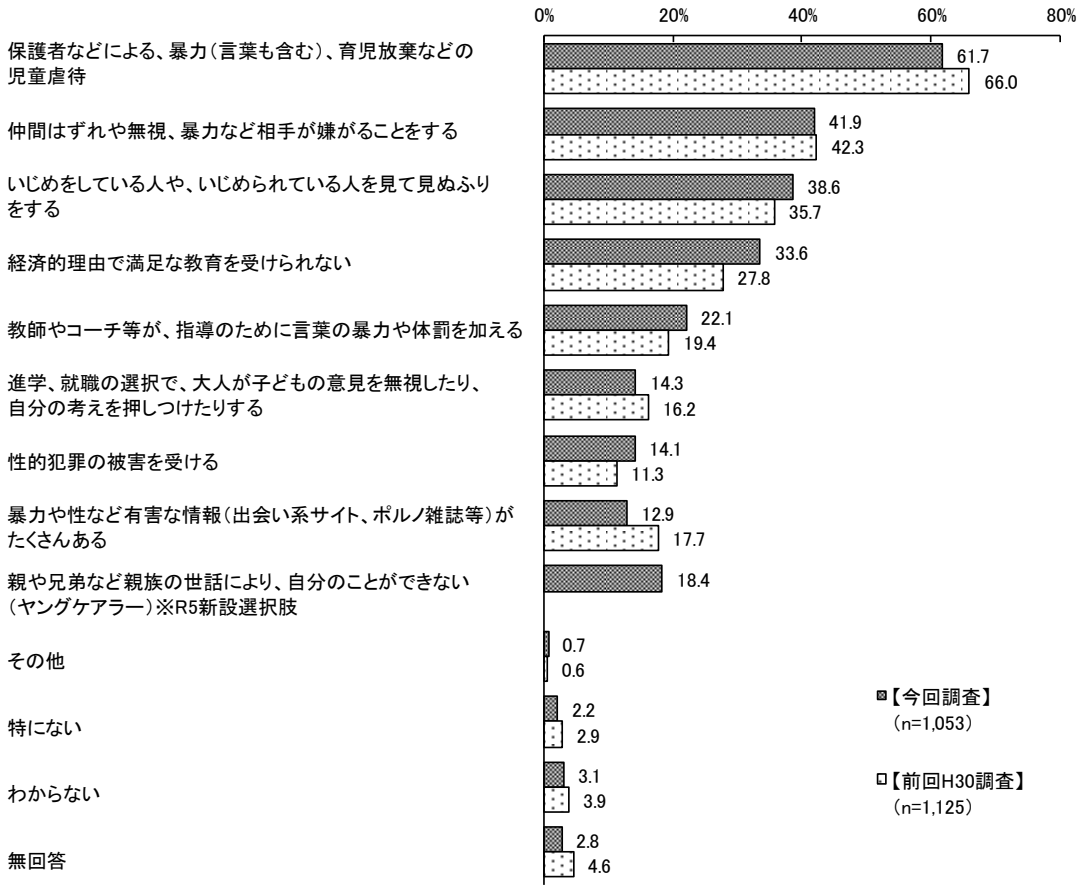
図４－２　女性の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　3/3



５．子どもの人権について

（１）子どもの人権が守られていないと感じる場面

問９　あなたが、「子どもの人権が守られていない」と思われるのは、どのようなことですか。
あてはまる番号に３つ以内で〇をつけてください。



―　半数以上は保護者等の「暴力・ネグレクト・虐待」に侵害を感じている　―

【全体結果】

「保護者などによる、暴力（言葉も含む）、育児放棄などの児童虐待」（61.7%）が約６割で最も高く、「仲間はずれや無視、暴力など相手が嫌がることをする」（41.9%）が４割台、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」（38.6%）、「経済的理由で満足な教育を受けられない」（33.6%）が３割台で続く。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 5-1 参照）

①性別

「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」の割合は、女性（32.9%）よりも男性（45.3%）の方が１割以上高くなっている。

②年齢別

「保護者などによる、暴力（言葉も含む)、育児放棄などの児童虐待」の割合は 20 歳代（73.6%）が最も高く７割を超えている。

図５－１　子どもの人権が守られていないと感じる場面（性別／年代別／地区別）　1/3

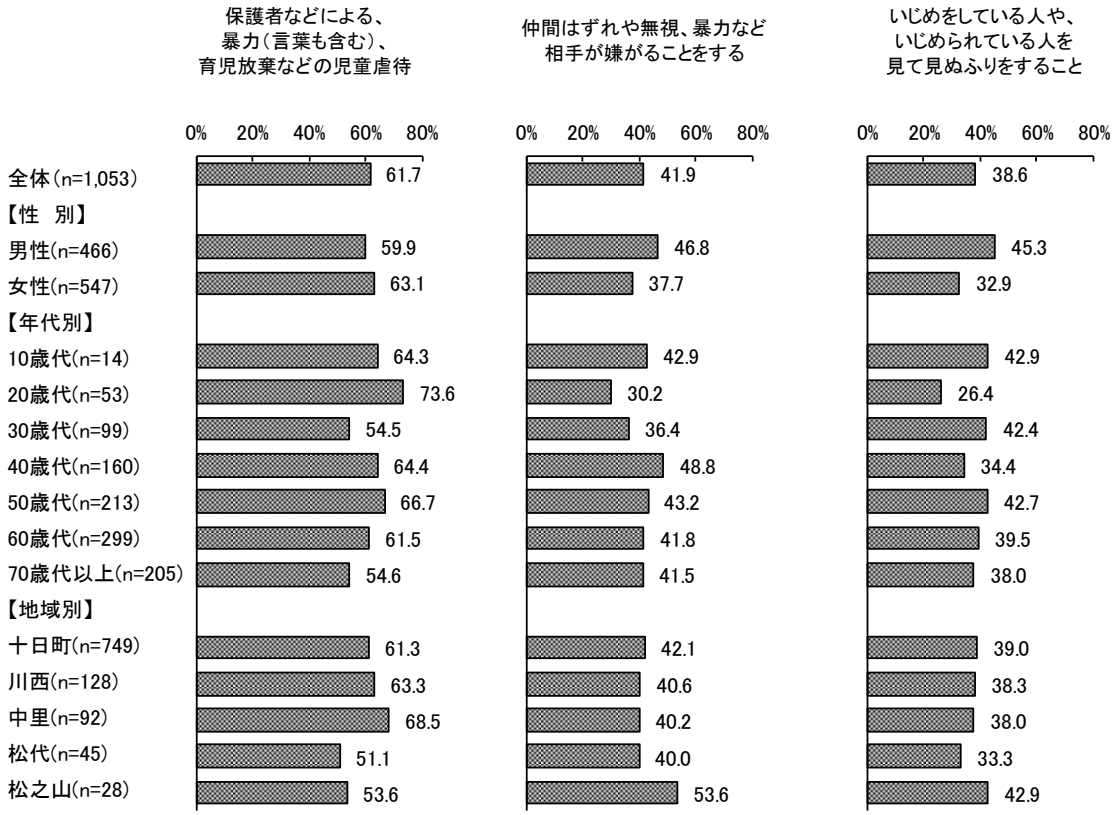


図５－１　子どもの人権が守られていないと感じる場面（性別／年代別／地区別）　2/3

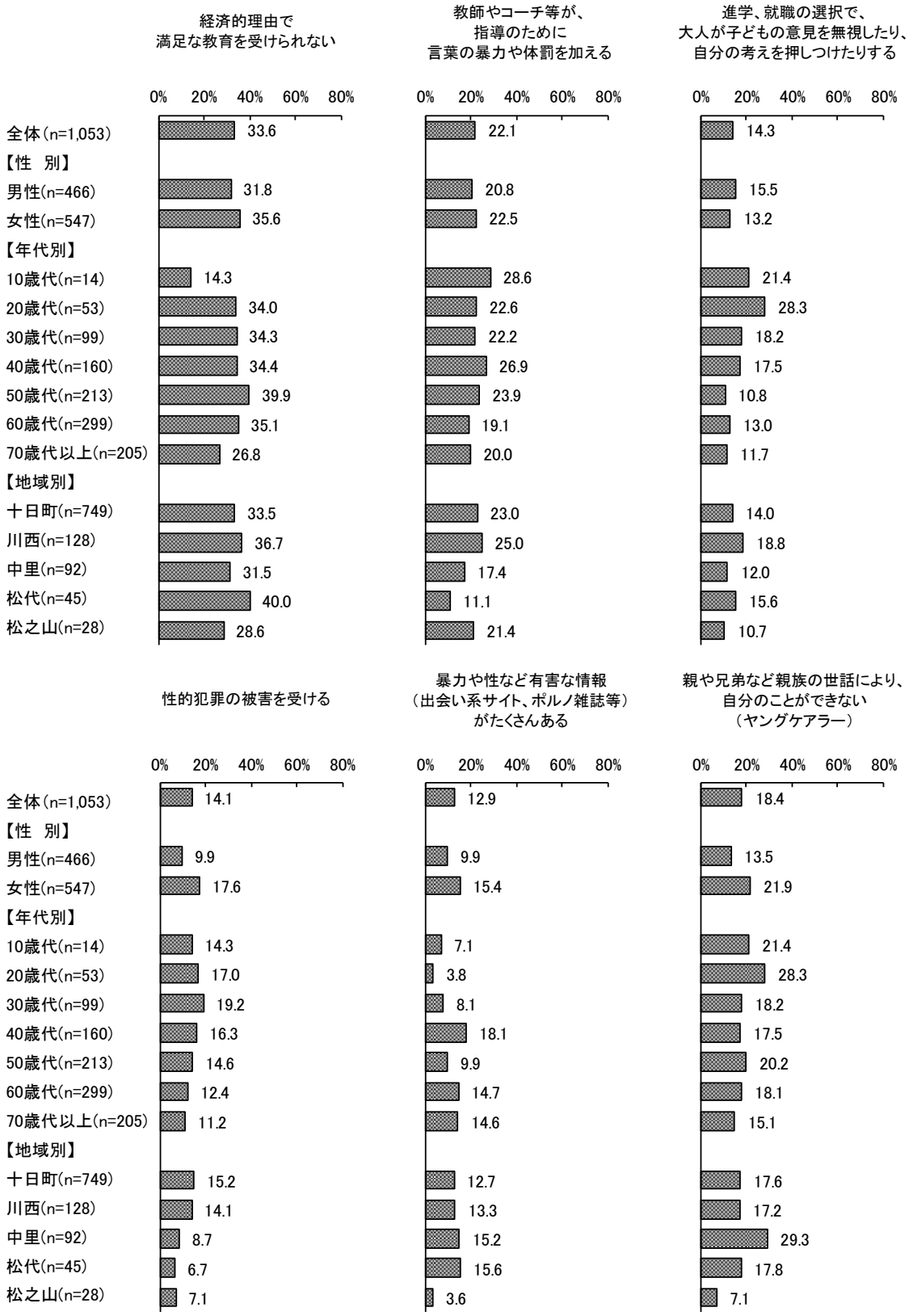
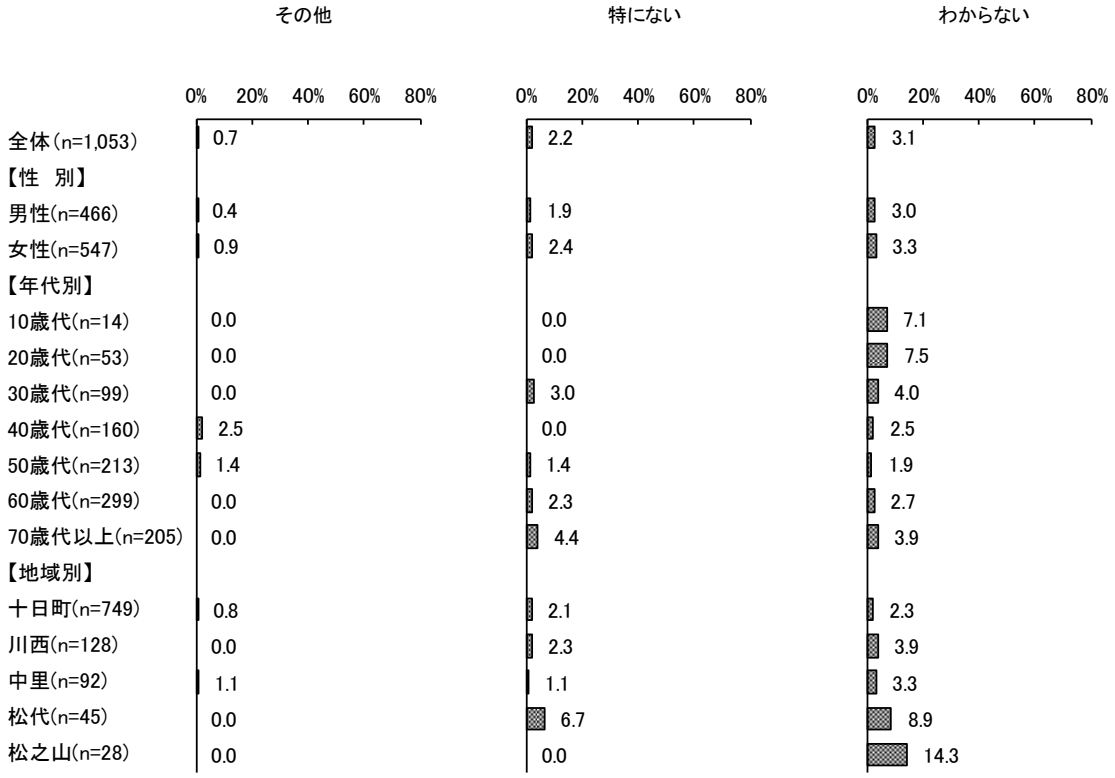
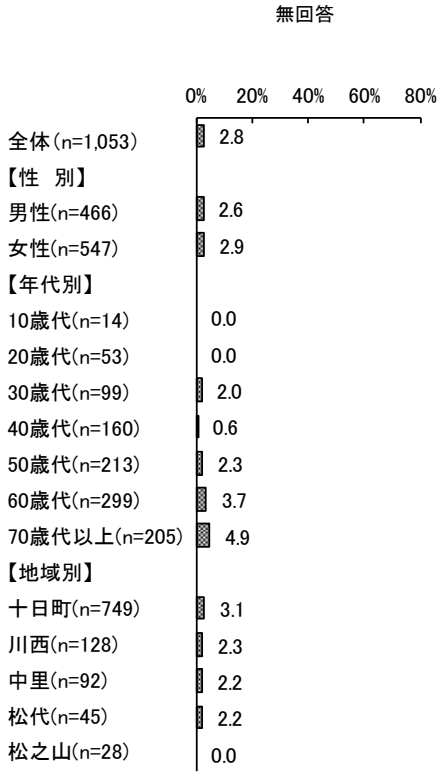


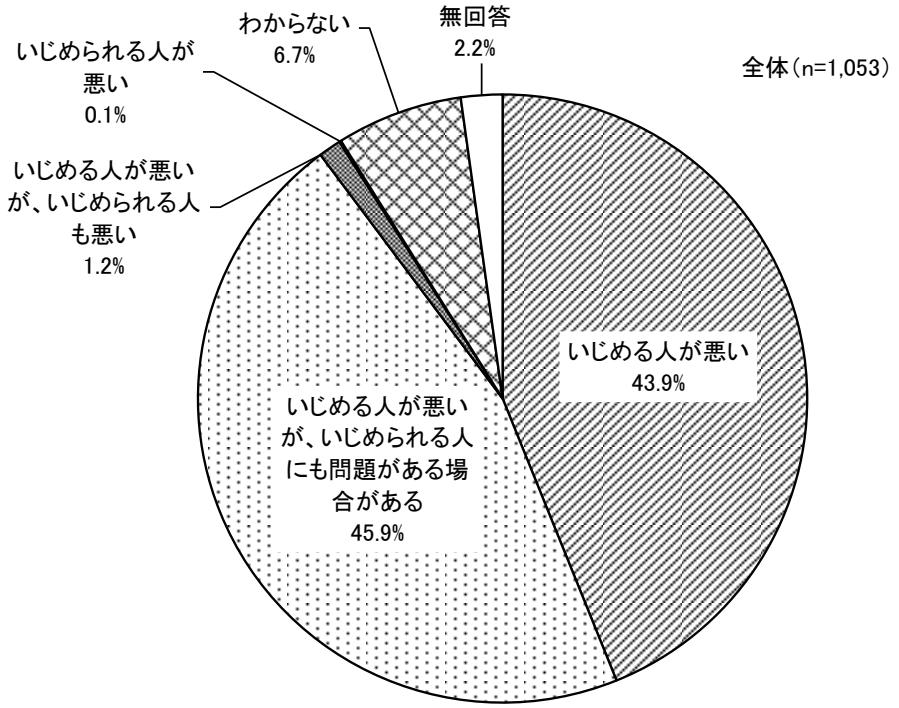
図５－１　子どもの人権が守られていないと感じる場面（性別／年代別／地区別）　3/3

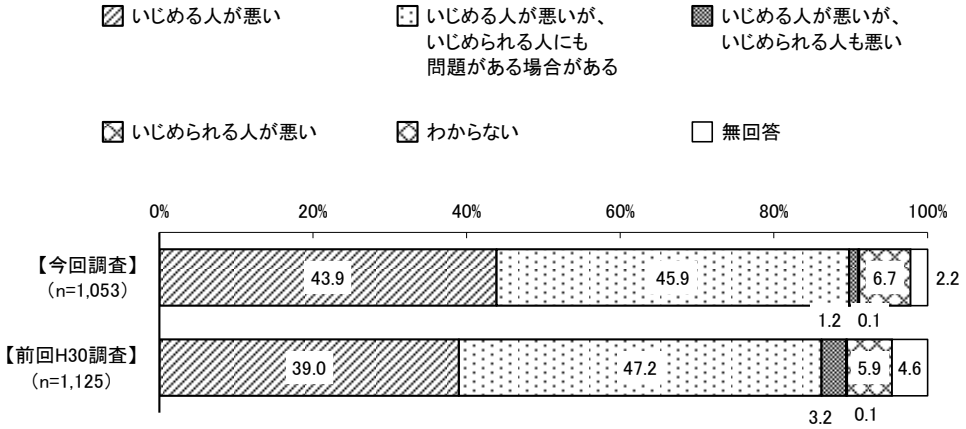




（２）いじめに関する当事者間への是非

問１０　あなたは、子どものいじめ問題についてどのように思いますか。（ 問９の２、３などに関連して）あなたの考えに一番近い番号に１つだけ〇をつけてください。





大多数はいじめる側に何らかの非があるとしている

【全体結果】

「いじめる人が悪い」（43.9%）は４割強、「いじめる人が悪いが、いじめられる人にも問題がある場合がある」（45.9%）が半数弱を占める。

「いじめられる人が悪い」（0.1%）とする人はかなり少ない。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「いじめる人が悪い」の割合が増加している。

【属性別結果】（図 5-2 参照）

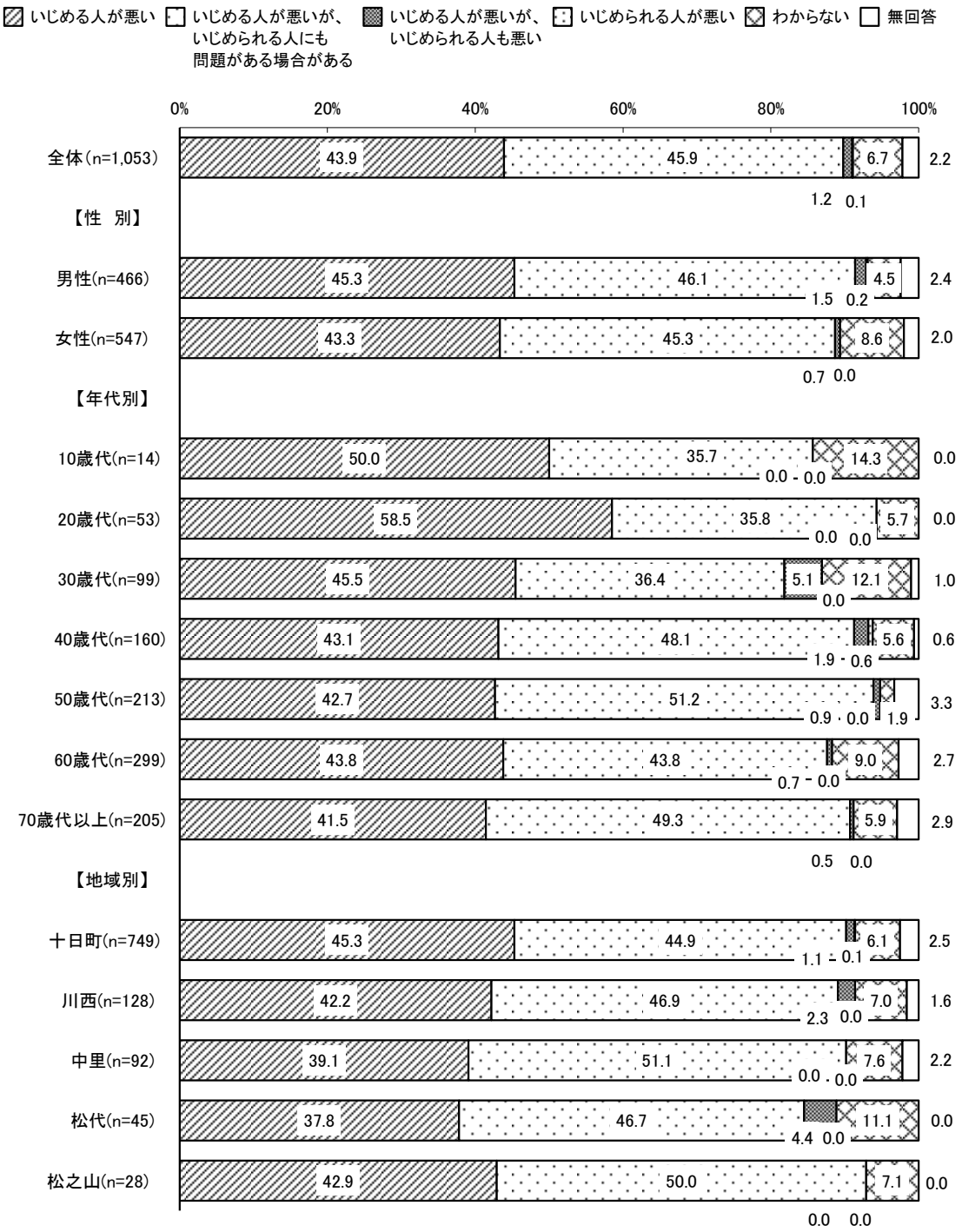
①性別

大きな男女の差はみられない。

②年齢別

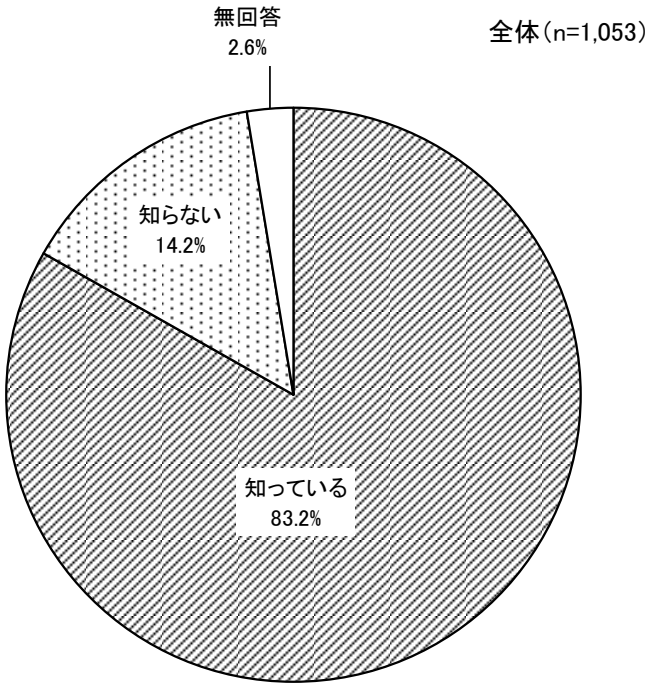
20 歳代（58.5%）では「いじめる人が悪い」と回答する割合が高く、約６割を占めている。

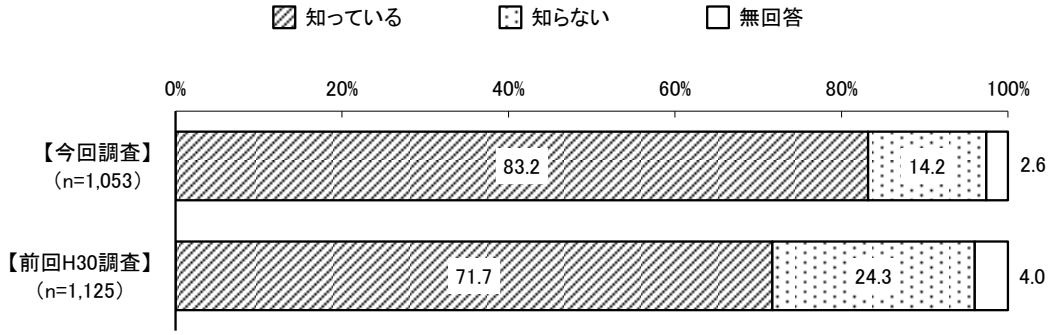
図５－２　いじめに関する当事者間への是非（性別／年代別／地区別）



（３）「ネットいじめ」の認知

問１１　あなたは、子どもたちがインターネットや携帯電話などを使った各種サービス上の書き込みなどで、 中傷されたり、いじめられたりする「ネットいじめ」を知っていますか。
あてはまる番号に１つ〇をつけてください。





８割強が「ネットいじめ」を知っている

【全体結果】

８割強が「ネットいじめ」を知っている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「知っている」の割合が１割以上増加している。

【属性別結果】（図 5-3 参照）

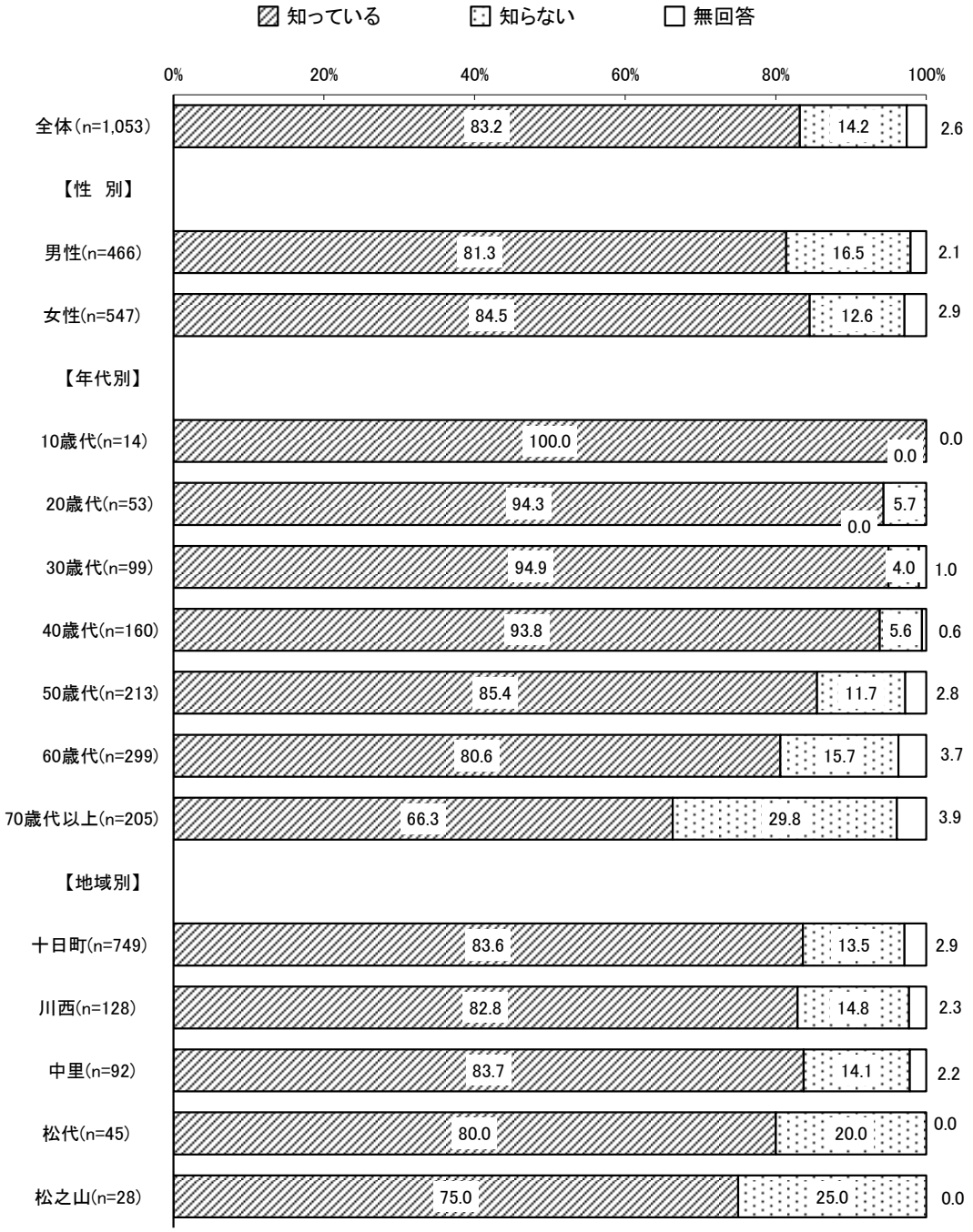
①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

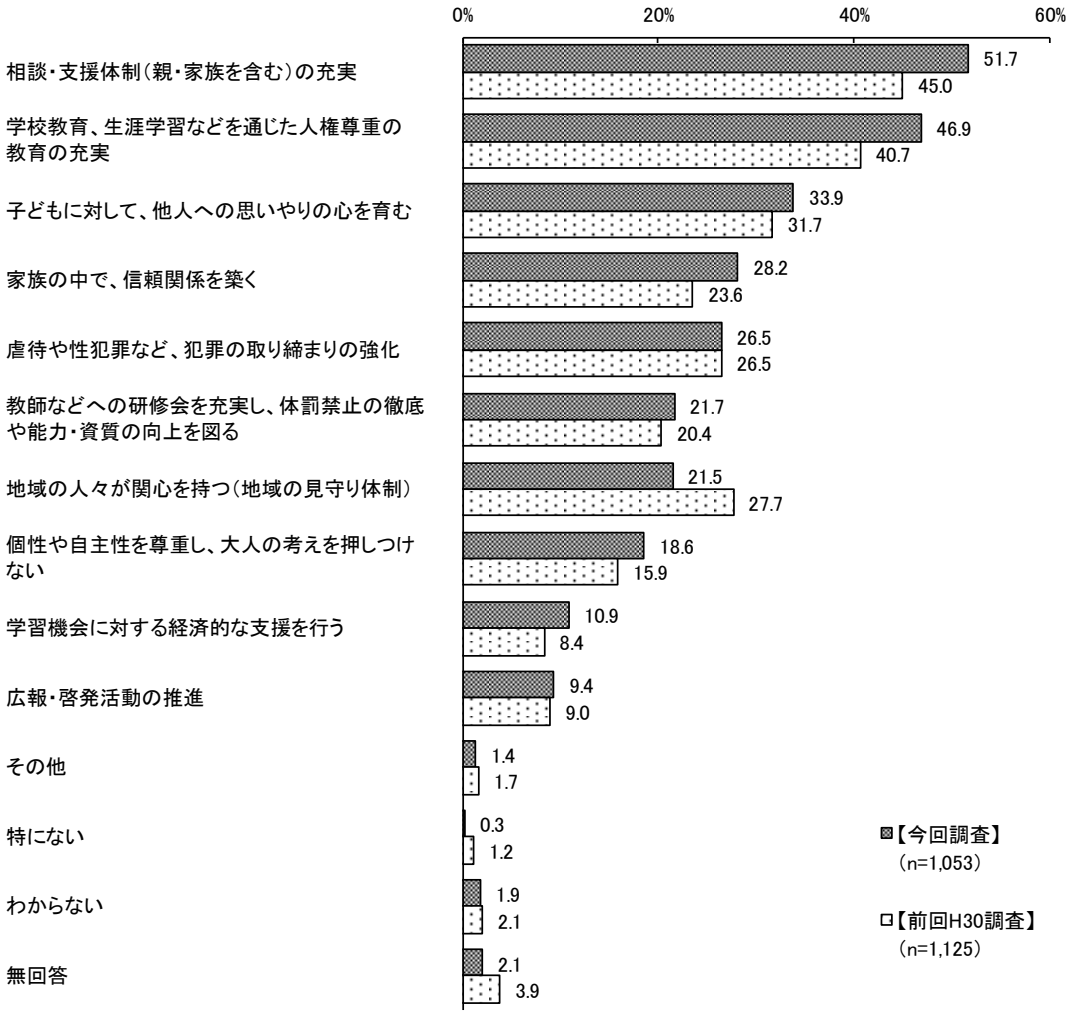
40 歳代以下では９割以上の人が知っている。

図５－３　「ネットいじめ」の認知（性別／年代別／地区別）



（４）子どもの人権を守るために必要なこと

問１２　あなたは子どもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



―　人権教育・相談等体制の充実他、思いやりの心の育み、多岐にわたる　―

【全体結果】

「相談・支援体制（親・家族を含む）の充実」（51.7%）が約５割、「学校教育、生涯学習などを通じた人権尊重の教育の充実」（46.9%）が５割弱で比較的高くなっている。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 5-4 参照）

①性別

「家族の中で、信頼関係を築く」の割合は、男性（22.5%）よりも女性（32.2%）の方が１割程度高くなっている。

②年齢別

30 歳代では「家族の中で、信頼関係を築く」(38.4%)、20 歳代では「虐待や性犯罪など、犯罪の取り締まりの強化」（41.5%）が、他の年齢に比べて高くなっている。

図５－４　子どもの人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　1/3

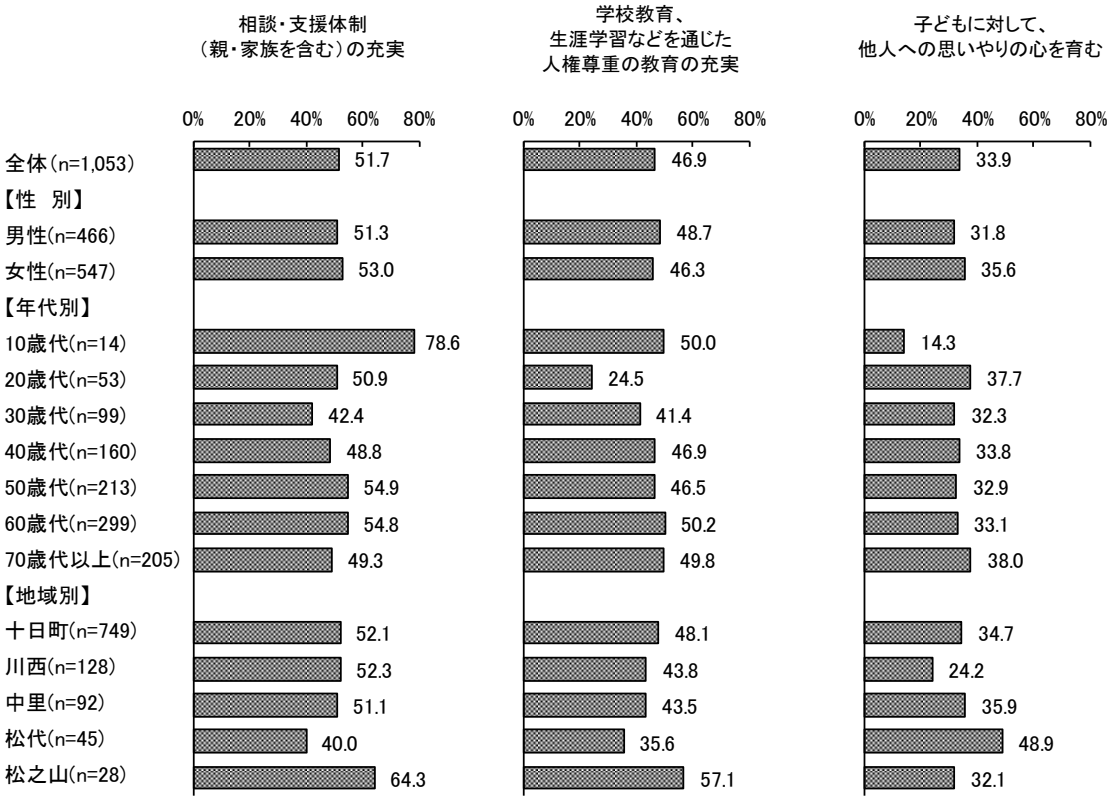


図５－４　子どもの人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　2/3

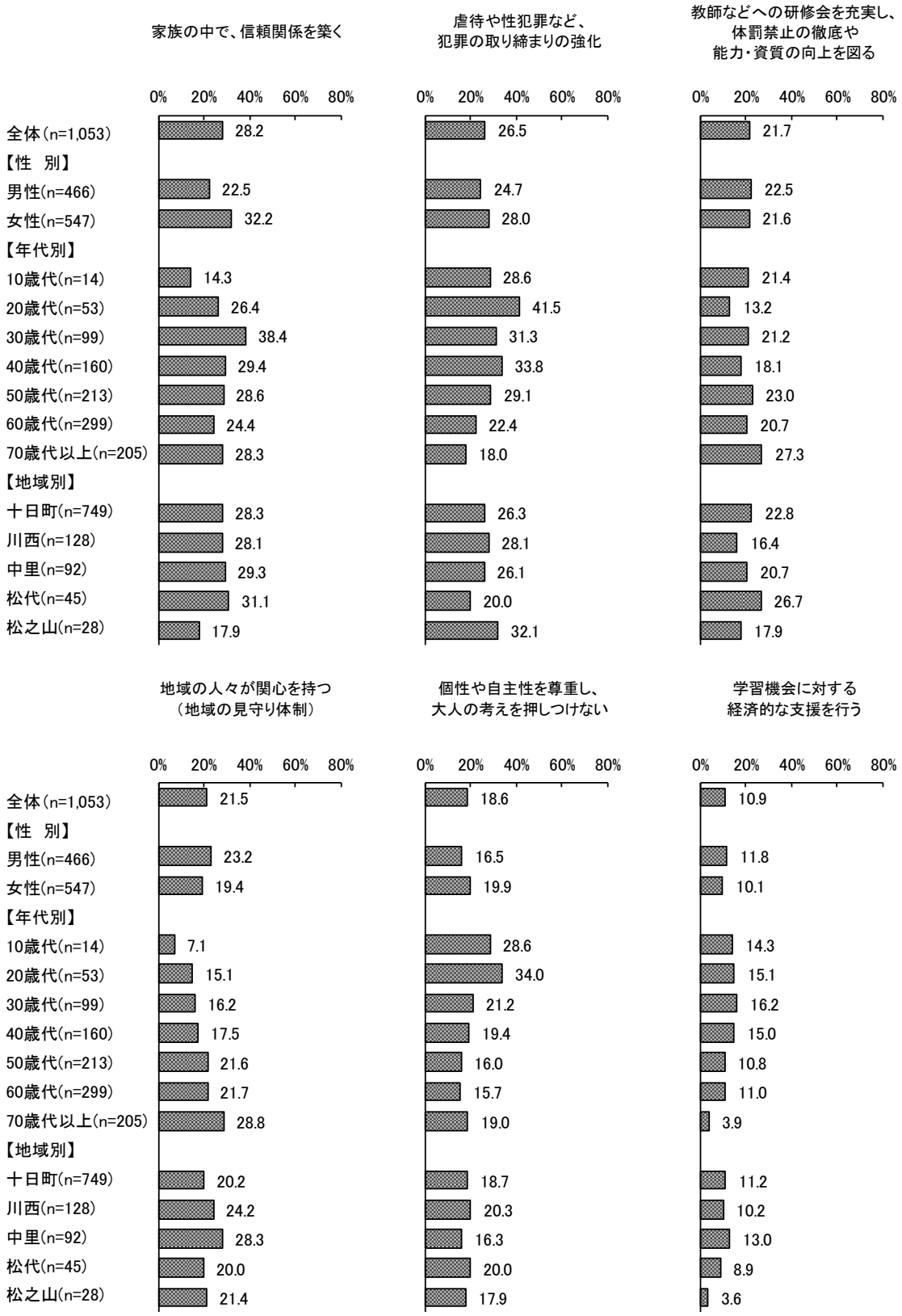
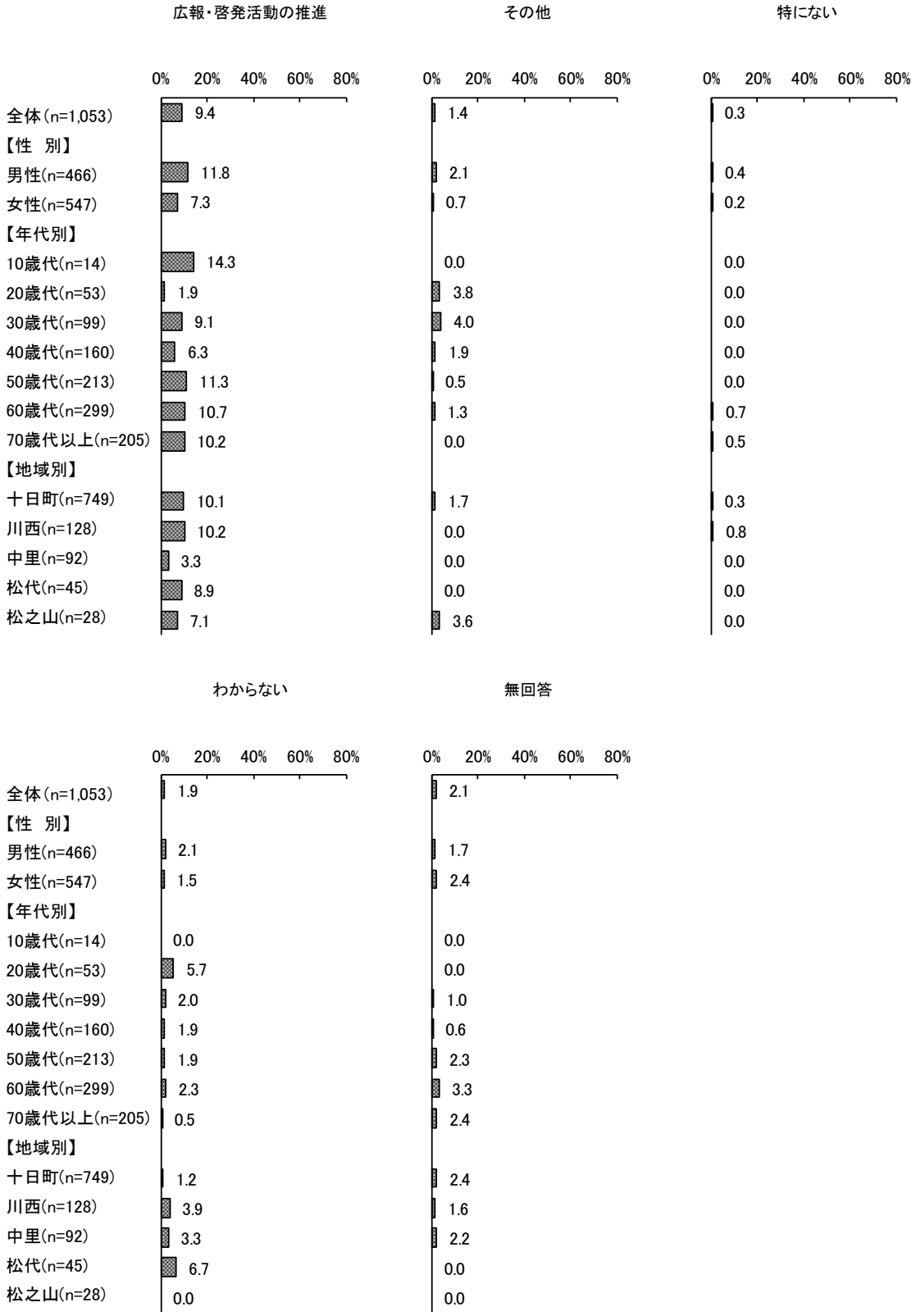


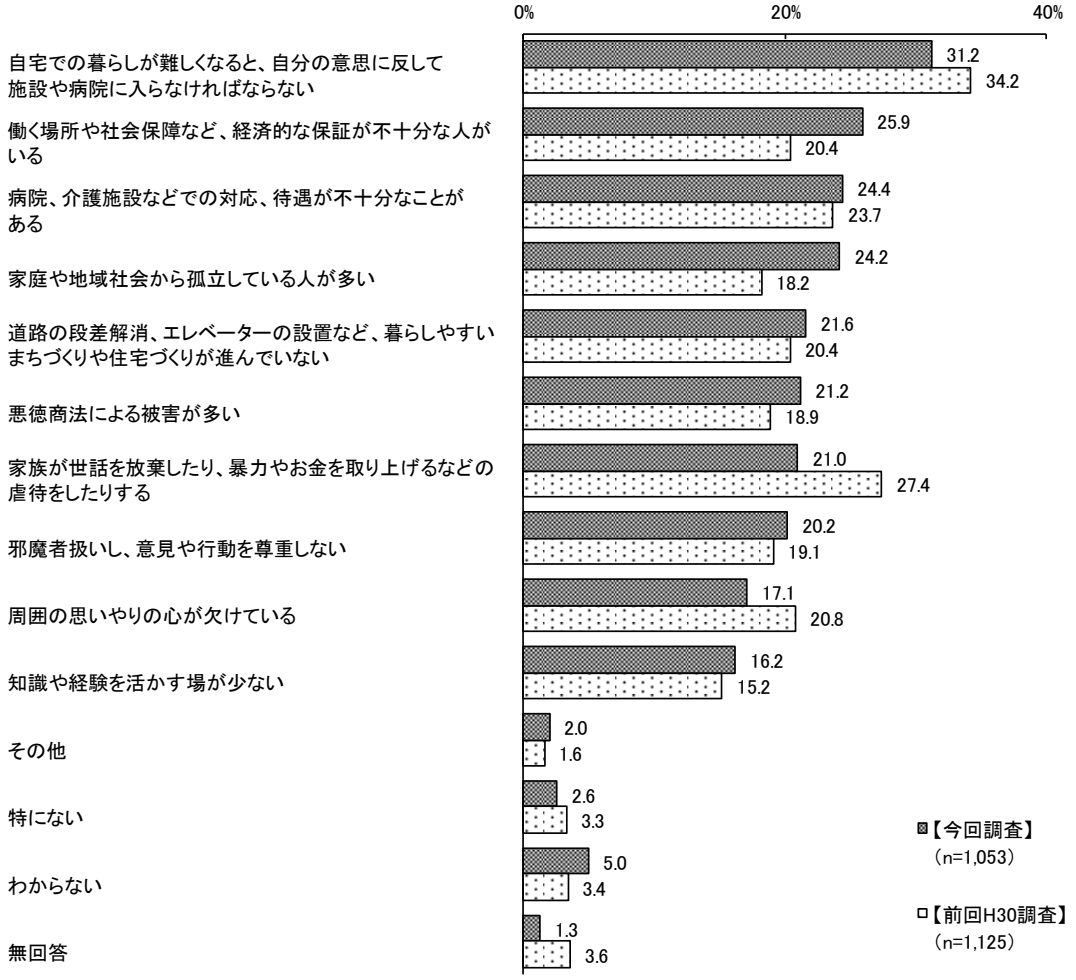
図５－４　子どもの人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　3/3



６．高齢者の人権について

（１）高齢者の人権に対する問題点

問１３　高齢者の人権について、問題があるとあなたが思うことはどのようなことですか。
あてはまる番号に３つ以内で○をつけてください。



―　約３割が意思に反して施設や病院に入らなければならないことを指摘　―

【全体結果】

「自分の家で暮らすことが難しくなると、自分の意思に反して施設や病院に入らなければならない」（31.2%）が最も高くなっている。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 6-1 参照）

①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

「自分の家で暮らすことが難しくなると、自分の意思に反して施設や病院に入らなければならない」は高年齢層で高くなる傾向がみられる。

図６－１　高齢者の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　1/3

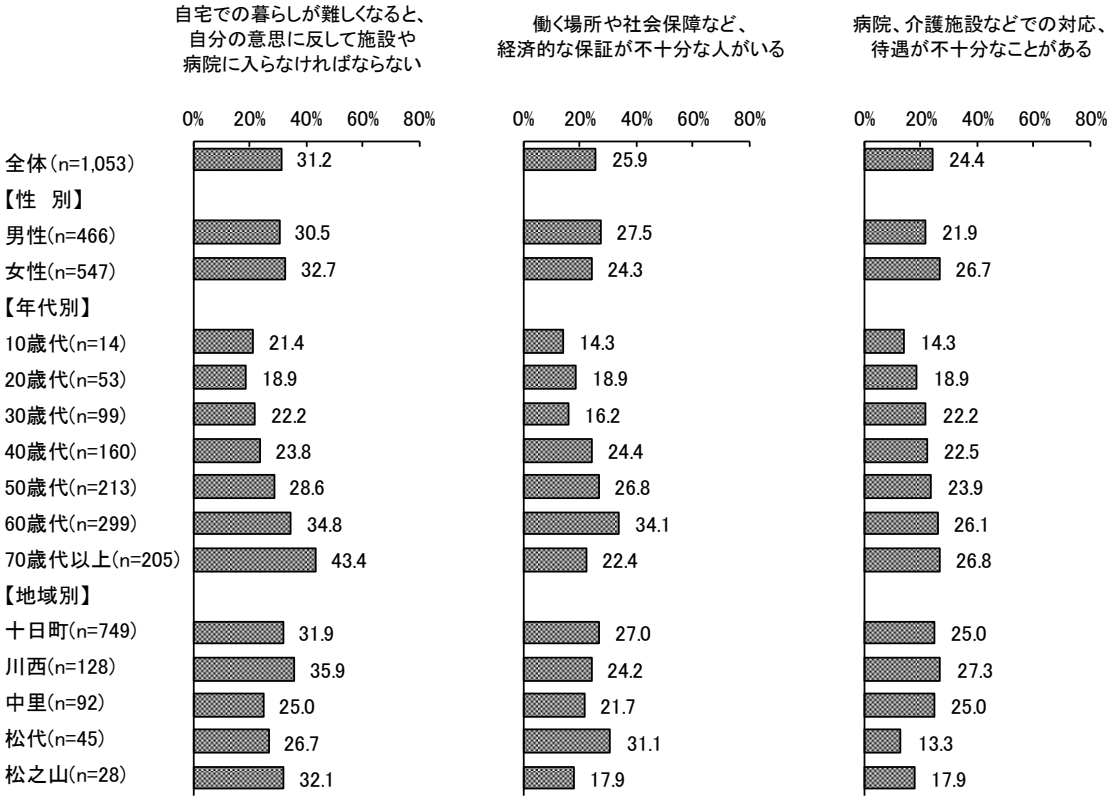
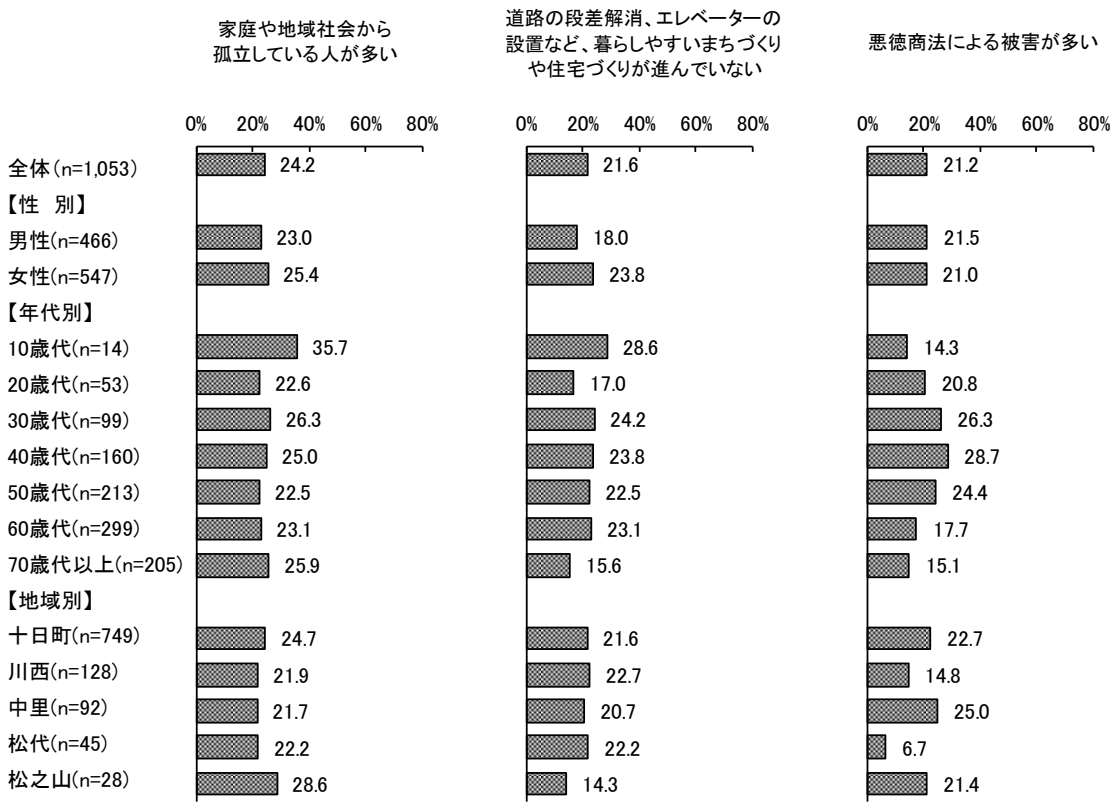


図６－１　高齢者の人権に対する問題点　（性別／年代別／地区別）　2/3



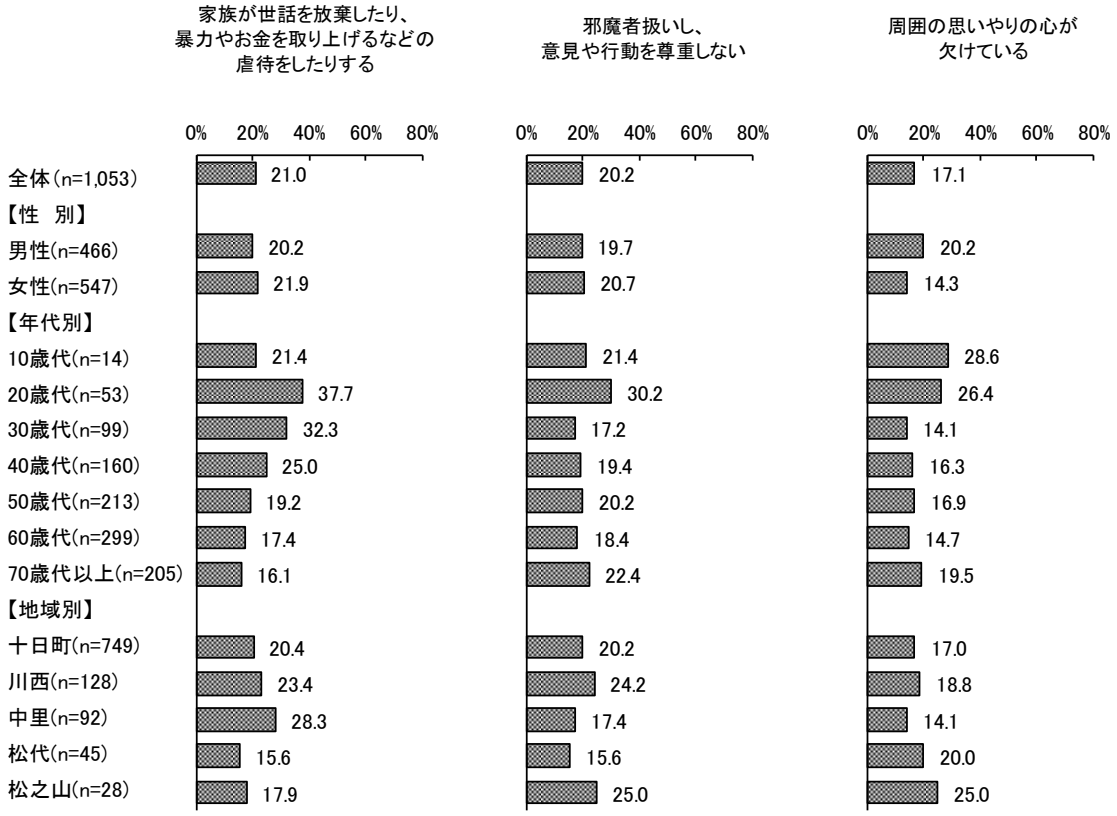
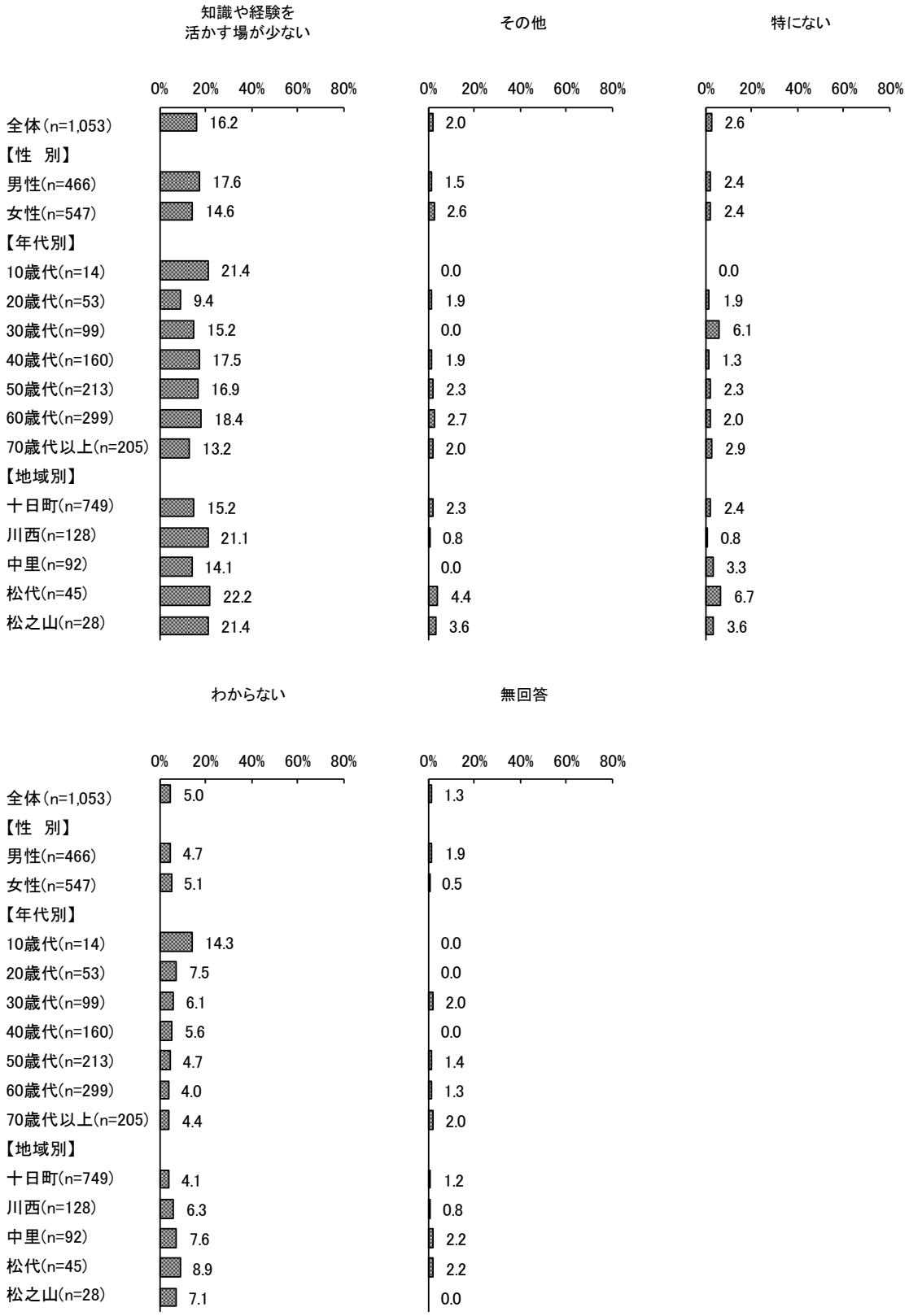
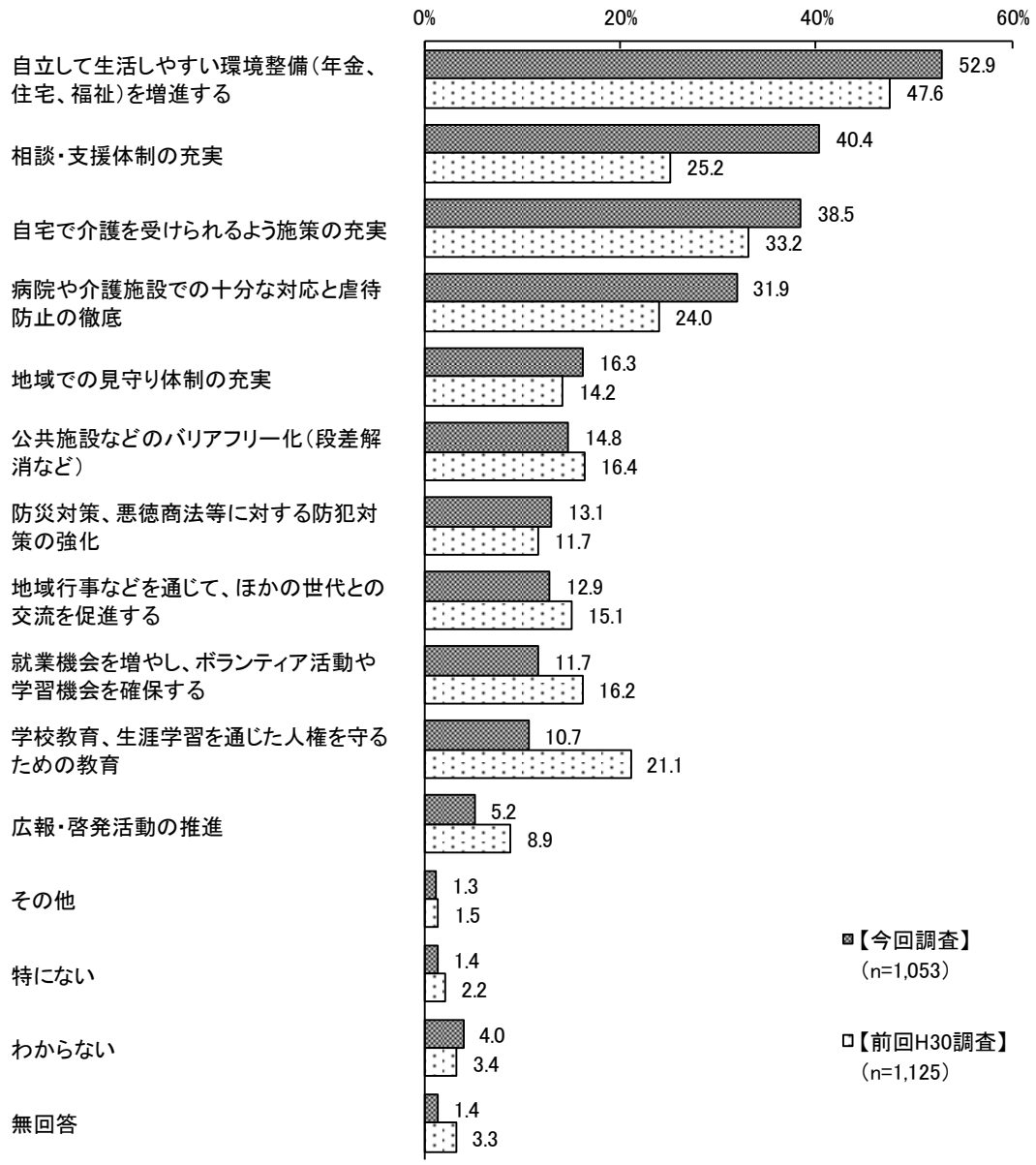


図５－１　高齢者の人権に対する問題点　（性別／年代別／地区別）　3/3



（２）高齢者の人権を守るために必要なこと

問１４　あなたは高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



――― 半数強は「自立して生活しやすい環境整備の増進」を重視 ―――

【全体結果】

半数強が「高齢者が自立して生活しやすい環境整備（年金、住宅、福祉）を増進する」（52.9%）を回答した。次いで「相談・支援体制の充実」（40.4%）が４割台で続く。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

前回調査と比較して、「相談・支援体制の充実」の割合が大きく増加している。「学校教育、生涯学習を通じた人権を守るための教育」の割合が大きく減少している。

【属性別結果】（図 6-2 参照）

①性別

「自立して生活しやすい環境整備（年金、住宅、福祉）を増進する」、「病院や介護施設での十分な対応と虐待防止の徹底」の割合は男性よりも女性の方が高くなっている。一方で、「自宅で介護を受けられるよう施策の充実」の割合は男性の方が高くなっている。

②年齢別

「自立して生活しやすい環境整備(年金、住宅、福祉)を増進する」の割合は 50 歳代(57.1%)と 60 歳代（58.9%）で高く、６割弱となっている。

図６－２　高齢者の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　1/3

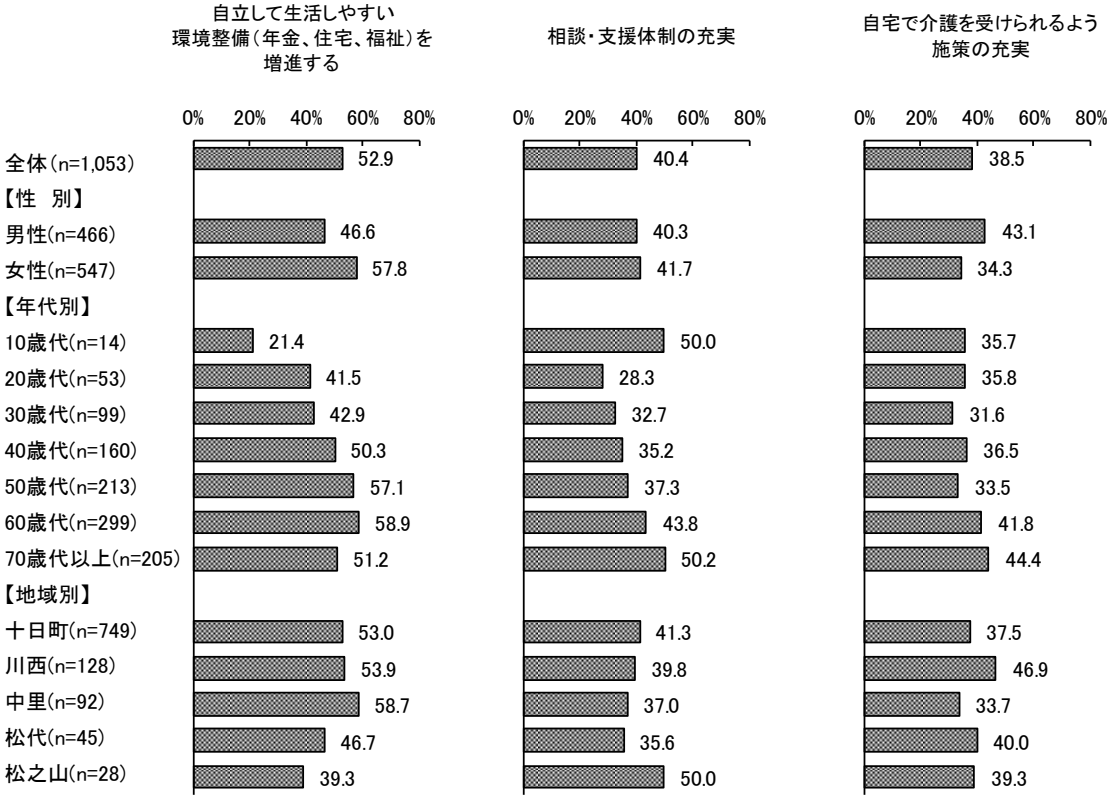


図６－２　高齢者の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　2/3

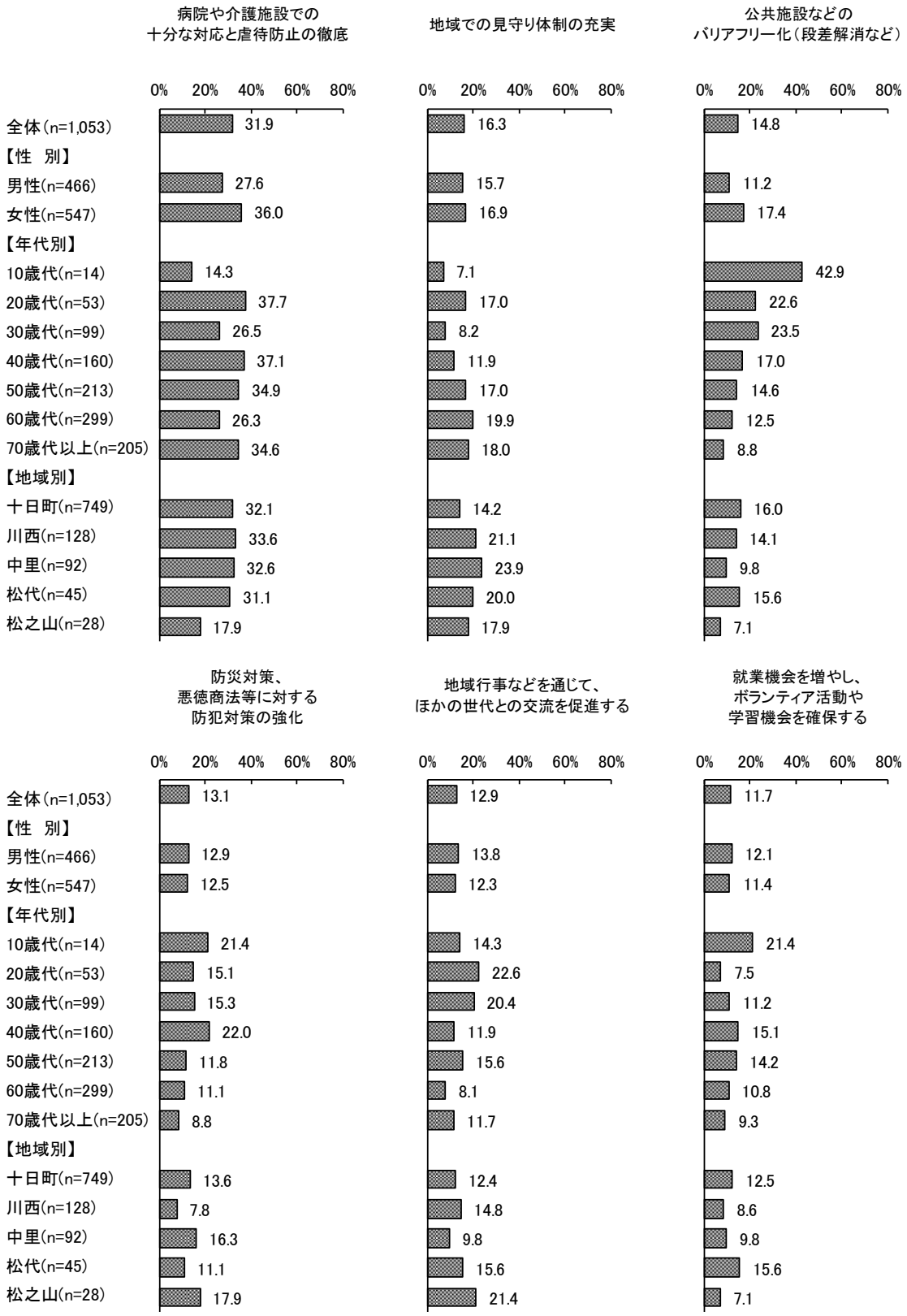
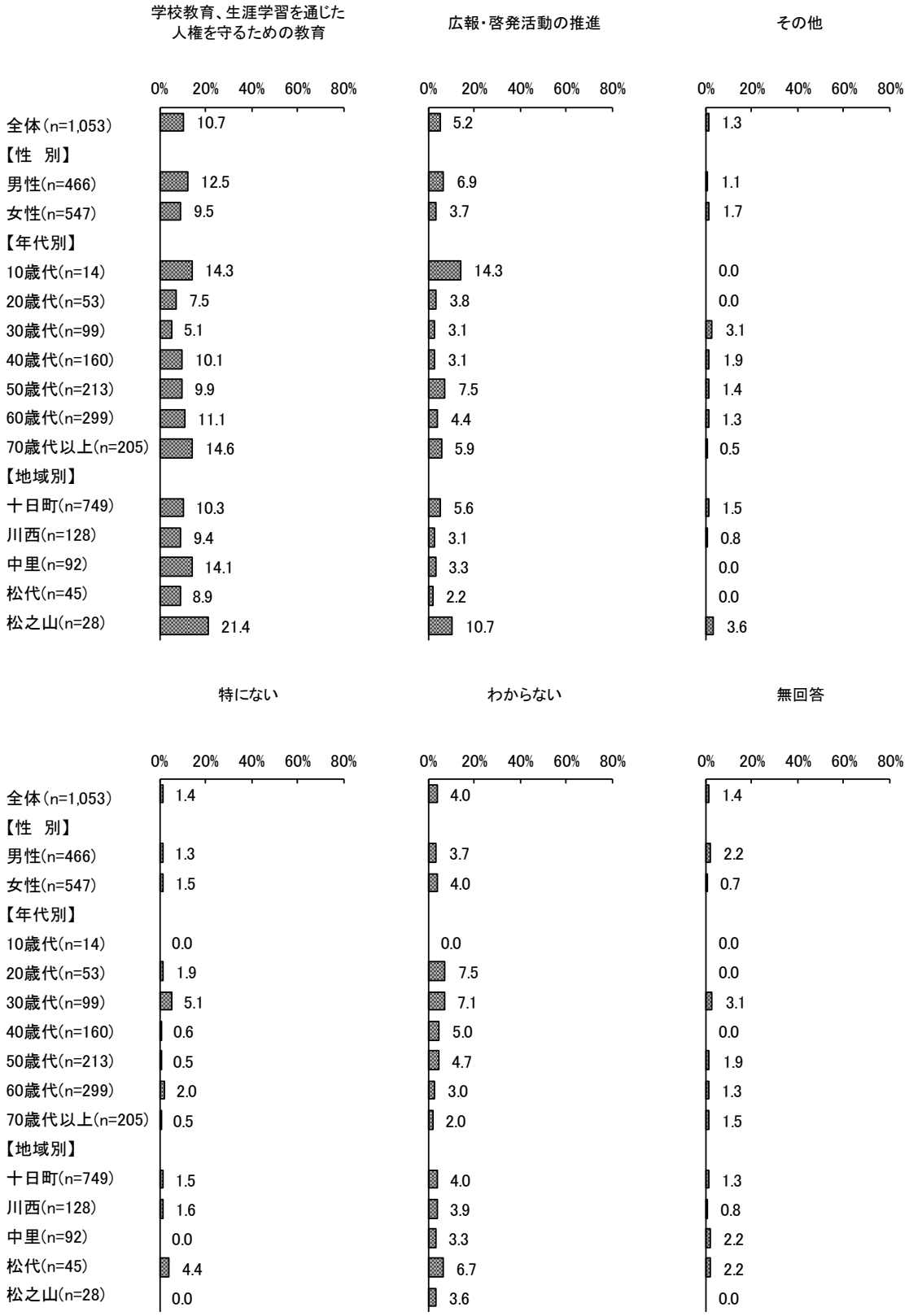


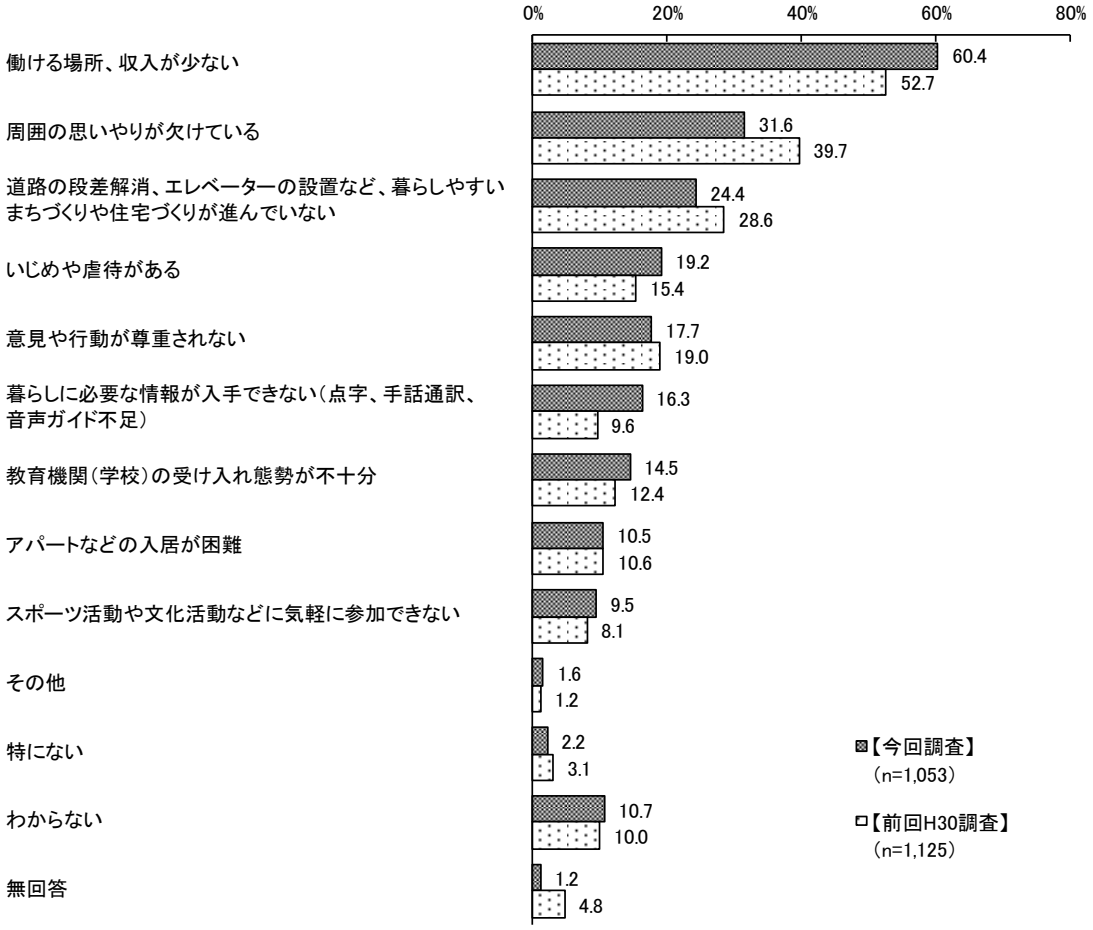
図６－２　高齢者の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　3/3



７．障がいのある人の人権について

（１）障がいのある人の人権に対する問題点

問１５　障がいのある人の人権について、問題があるとあなたが思うことはどのようなことですか。
あてはまる番号に３つ以内で○をつけてください。



――――　約６割が働ける場所、収入が少ないことを問題視　――――

【全体結果】

「働ける場所、収入が少ない」（60.4%）が約６割で最も高くなっている。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 7-1 参照）

①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

すべての年齢層で「働ける場所、収入が少ない」が上位を占めている。また、「いじめや虐待がある」の割合は 20 歳代（39.6%）が約４割で最も高くなっている。

図７－１　障がいのある人の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　1/3

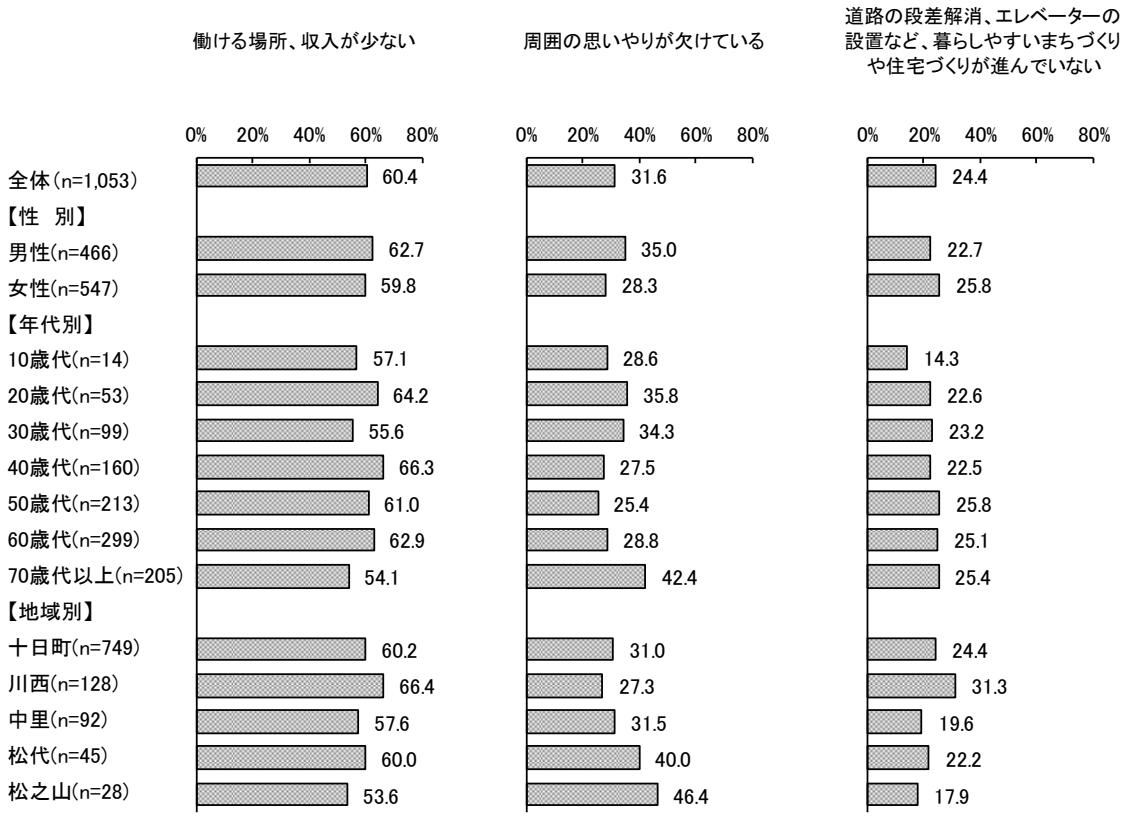


図７－１　障がいのある人の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　2/3

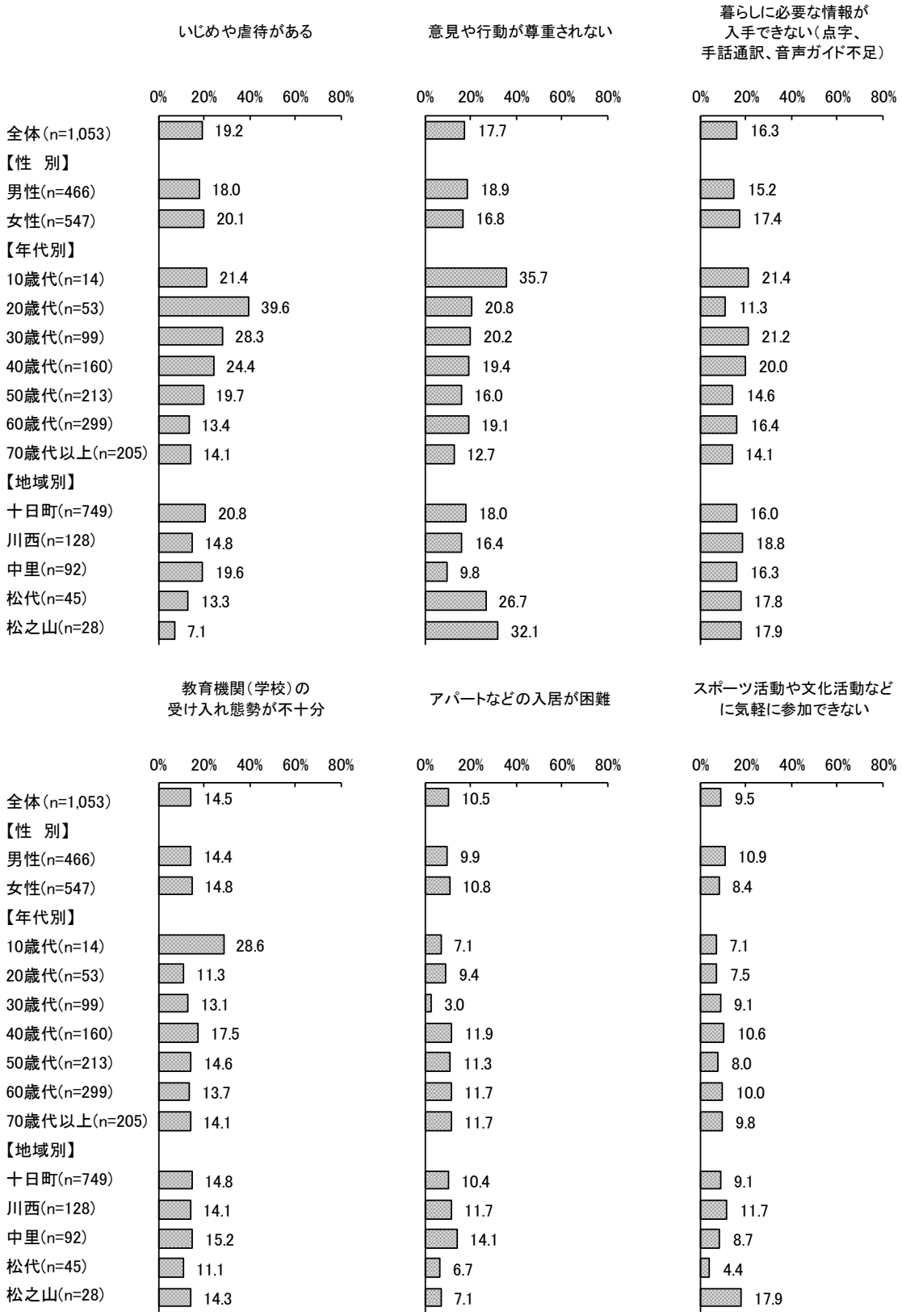
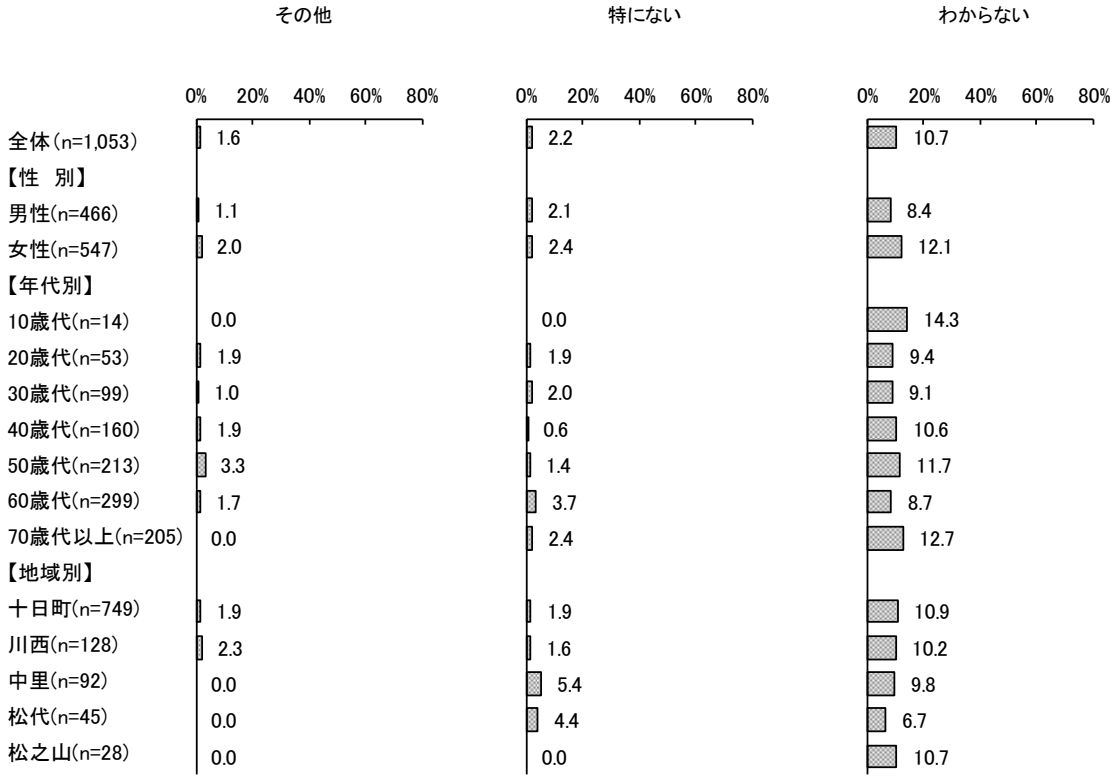
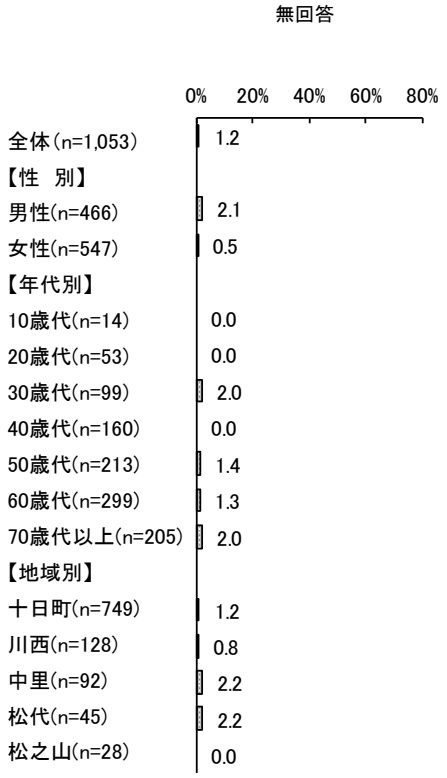


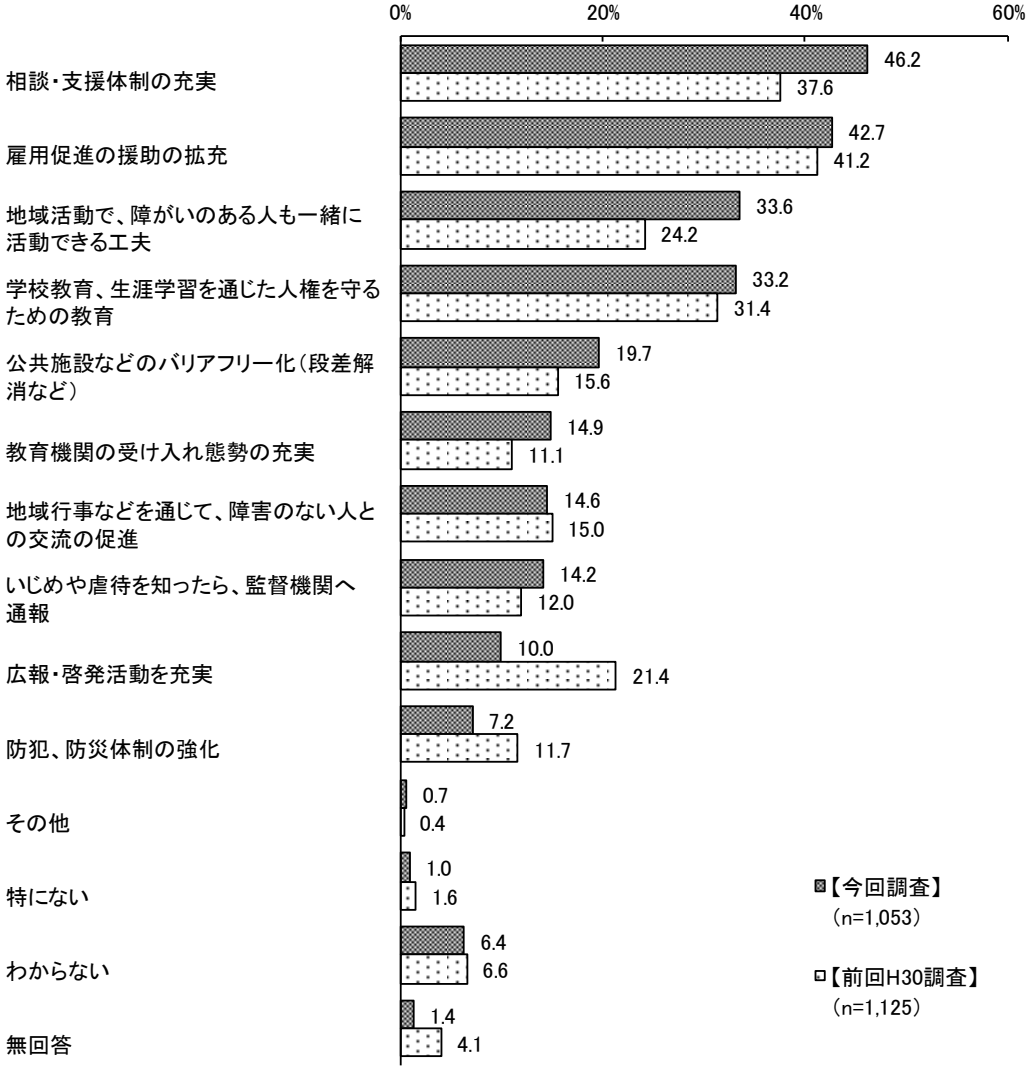
図７－１　障がいのある人の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　3/3





（２）障がいのある人の人権を守るために必要なこと

問１６　あなたは障がいのある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



――　相談・支援体制の充実を筆頭に多方面の事項が重要視されている　――

【全体結果】

「相談・支援体制の充実」（46.2％）が最も高く、次いで「雇用促進の援助の拡充」（42.7％）が４割台、「地域活動で、障がいのある人も一緒に活動できる工夫」（33.6％）、「学校教育、生涯学習を通じた人権を守るための教育」（33.2％）が３割台で続く。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

前回調査と比較して、「地域活動で、障がいのある人も一緒に活動できる工夫」の割合が大きく増加している。「広報・啓発活動を充実」の割合が大きく減少している。

【属性別結果】（図 7-2 参照）

①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

70 歳代以上は「相談・支援体制の充実」（54.1%）が最も高く、５割を超えている。

図７－２　障害のある人の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　1/3

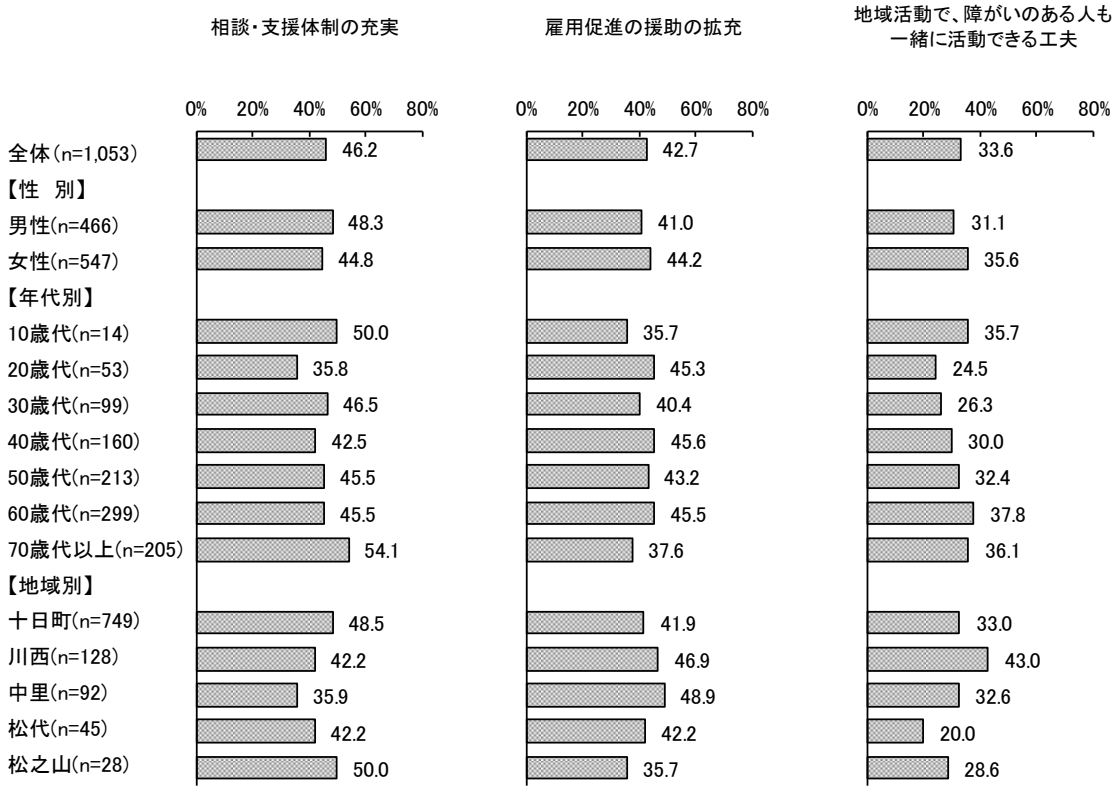


図７－２　障害のある人の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　2/3

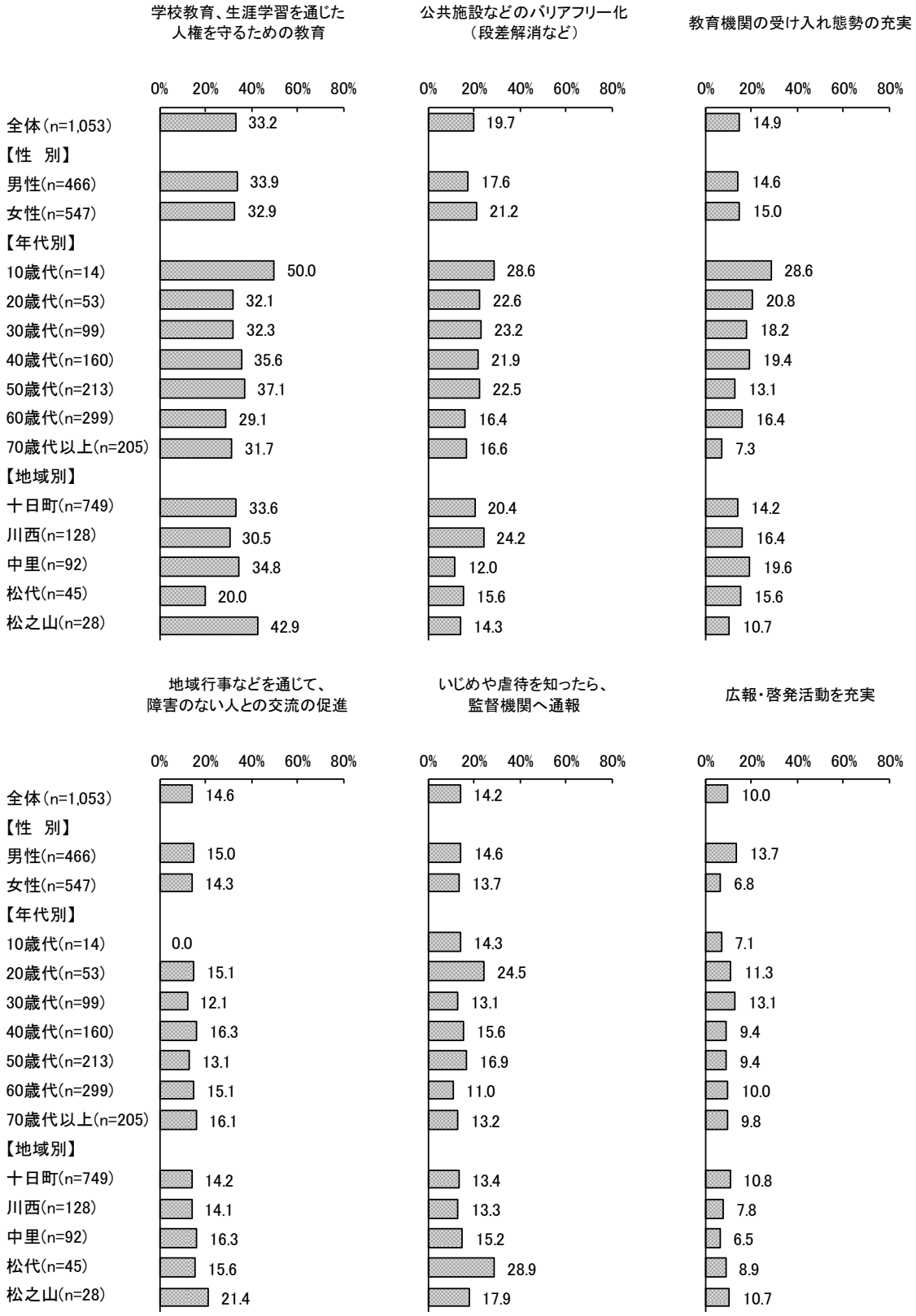
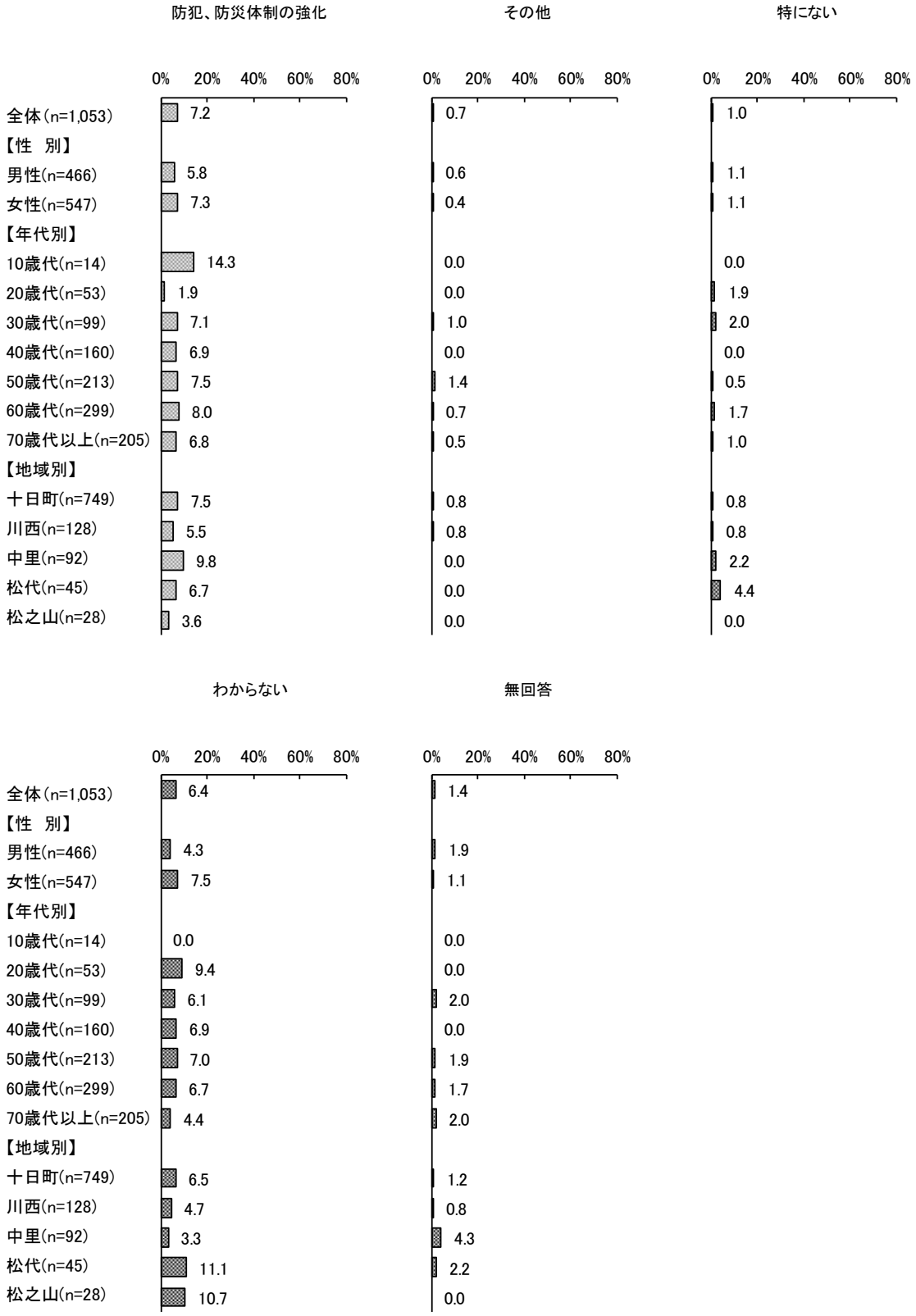


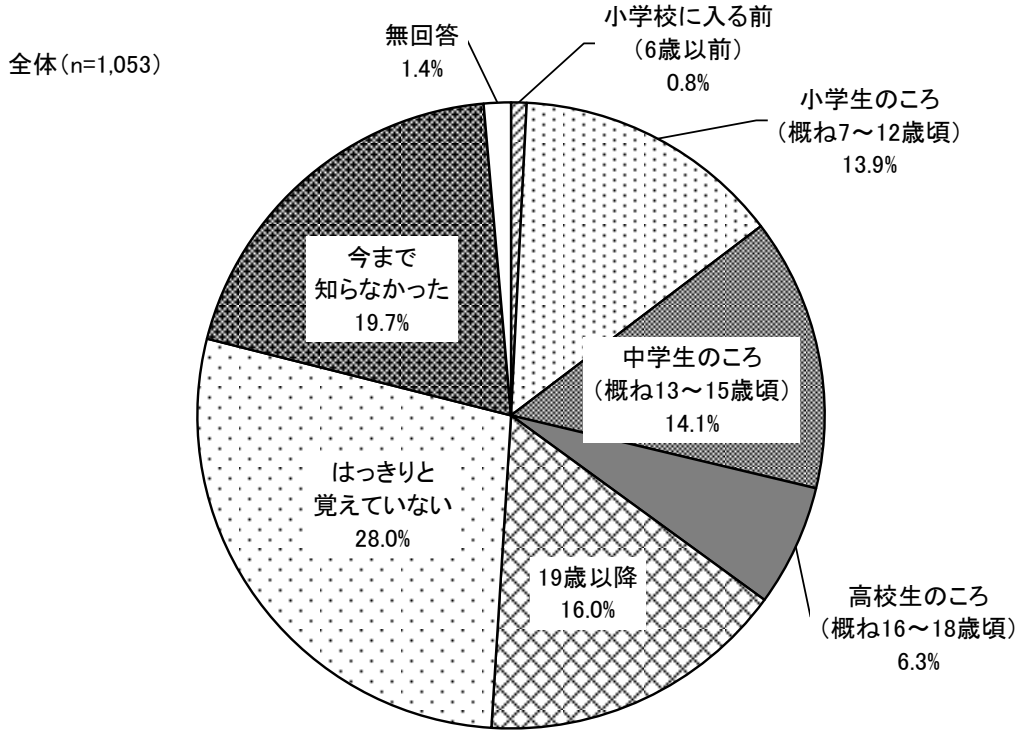
図７－２　障害のある人の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　3/3

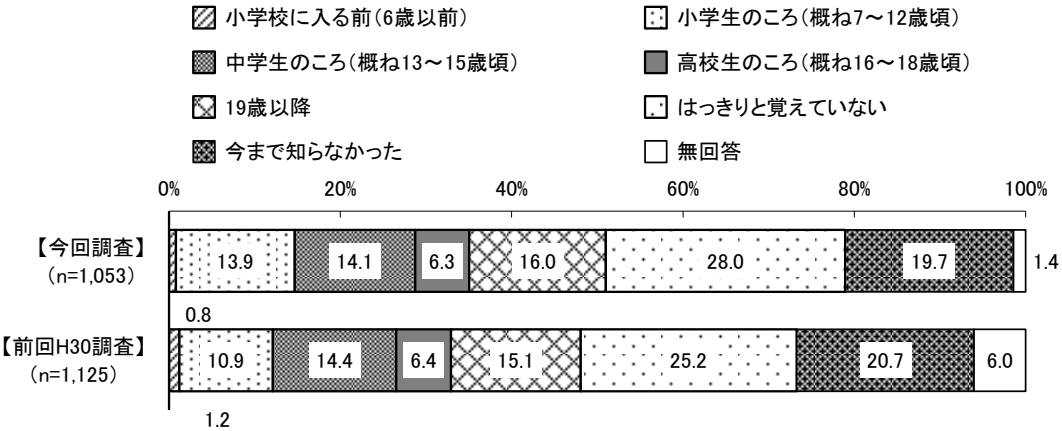


８．同和問題について

（１）同和問題や同和地区を知った時期

問１７　あなたが、同和問題や同和地区について知ったのは、いつ頃ですか。
あてはまる番号に１つ○をつけてください。





―　約５人に１人が今回の調査を通じて同和問題・地区のことを知った　―

【全体結果】

各ライフステージに回答は比較的分散している中で、「はっきりと覚えていない」（28.0%）が３割弱、「今まで知らなかった」（19.7%）が約２割を占めている。

中学生までの回答割合が約３割を占めている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「小学生のころ」の割合がやや増加している。

【属性別結果】（図 8-1 参照）

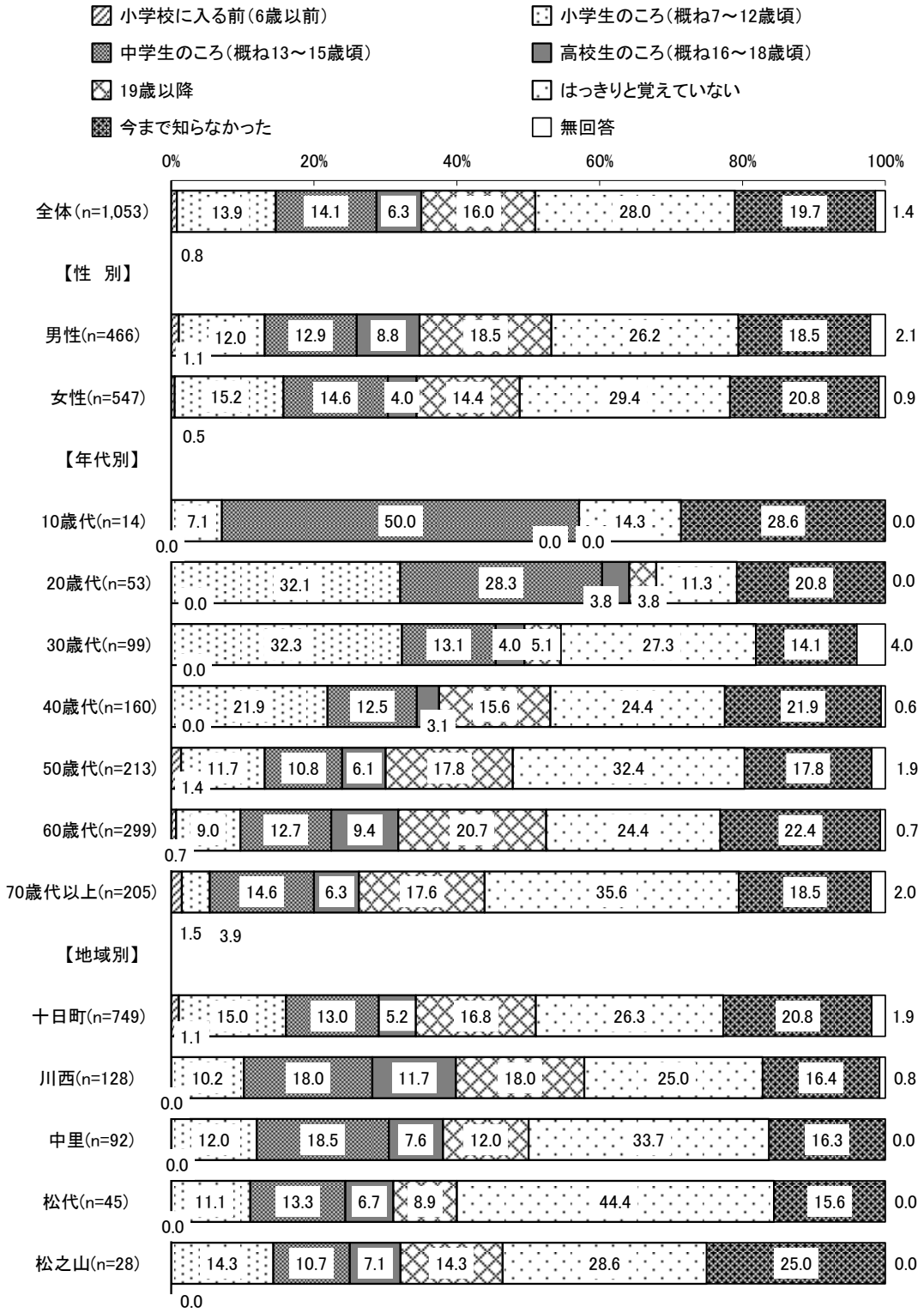
①性別

「はっきりと覚えていない」と「今まで知らなかった」の割合は男性よりも女性の方がやや高くなっている。

②年齢別

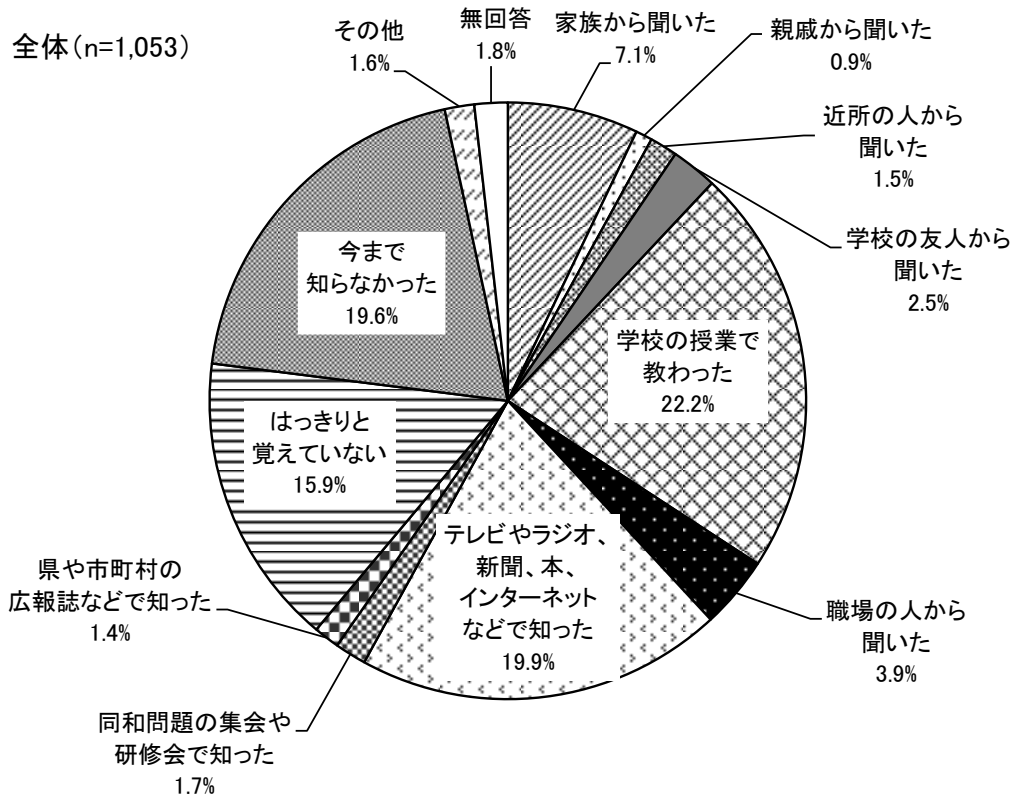
「小学生のころ」や「中学生のころ」の割合は若年齢層で高くなる傾向にある。

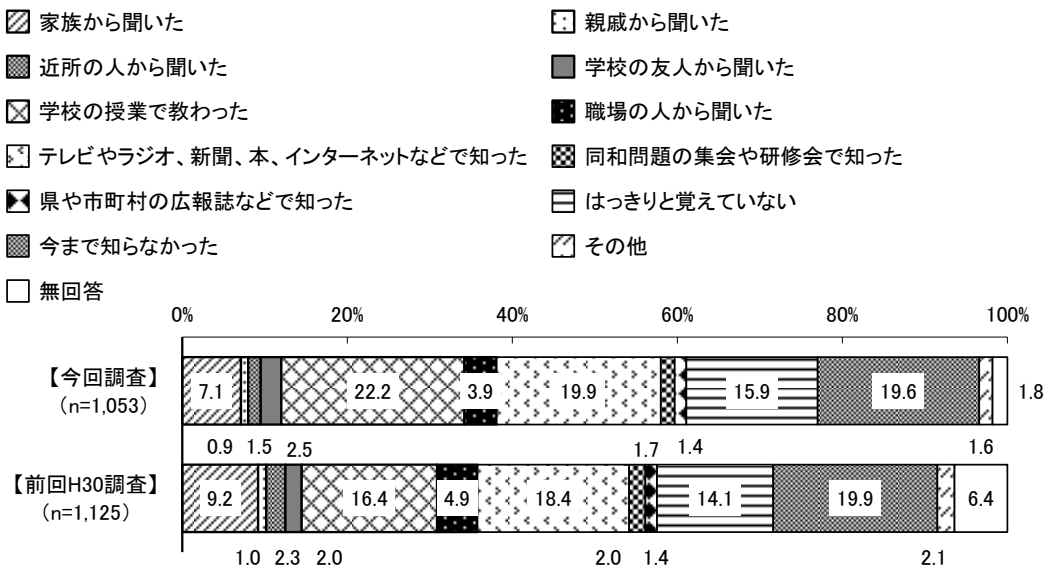
図８－１　同和問題や同和地区を知った時期（性別／年代別／地区別）



（２）同和問題や同和地区のことを知った契機

問１８　あなたが同和問題や同和地区について知ったきっかけは何ですか。
あてはまる番号に１つ〇をつけてください。





認知の契機・経路は多方面に渡る

【全体結果】

前問の認知時期同様に回答は分散している。具体的な契機（経路）としては「学校の授業で教わった」（22.2%）と「テレビやラジオ、新聞、本、インターネットなどで知った」（19.9%）が２割前後で比較的高くなっている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「学校の授業で教わった」の割合が増加している。

【属性別結果】（図 7-2 参照）

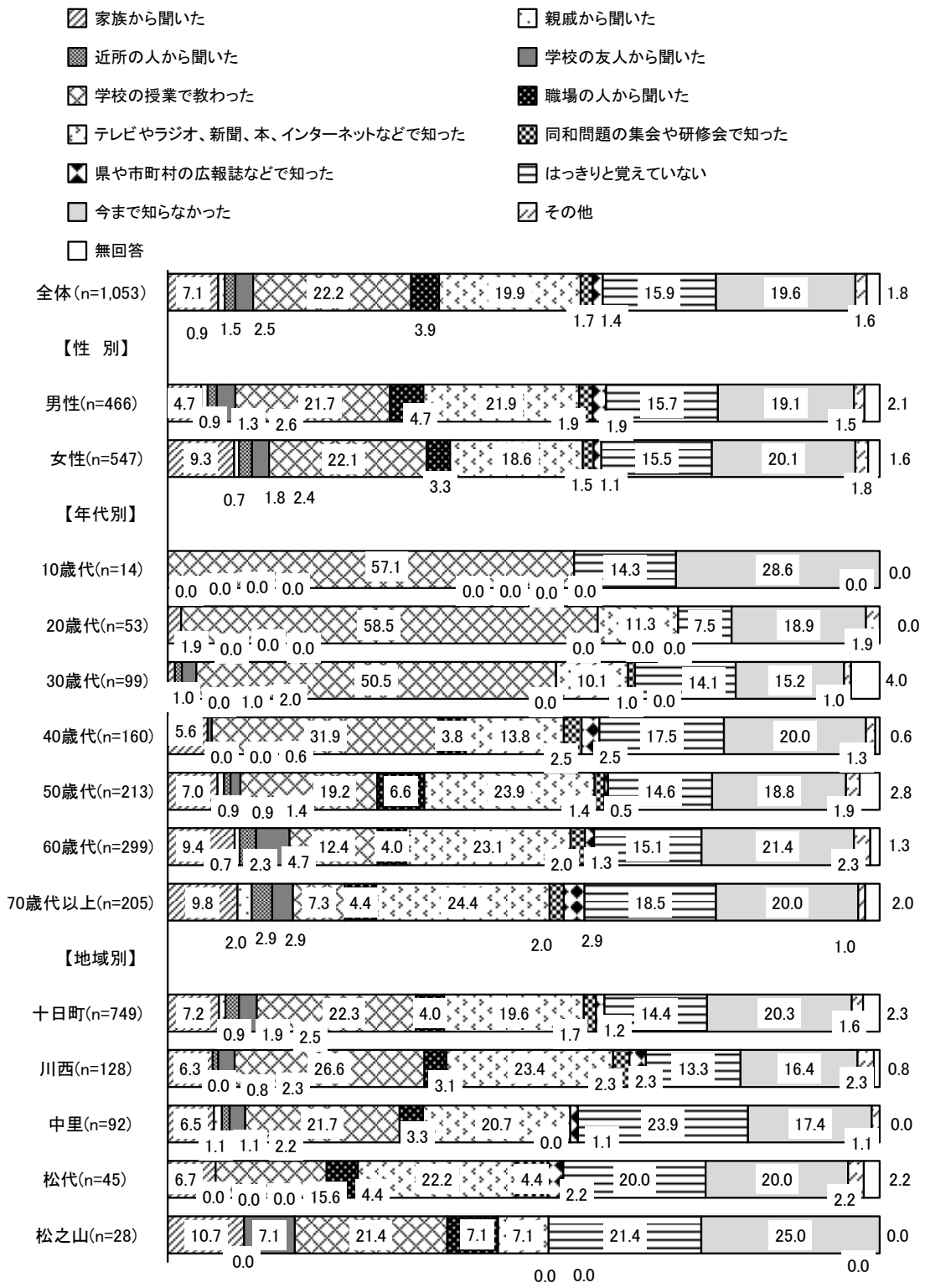
①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

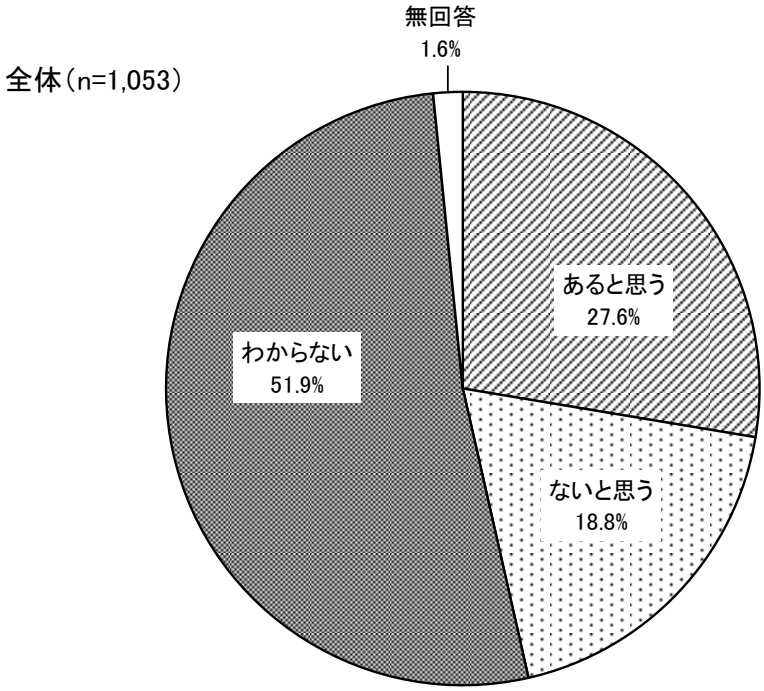
若年齢層では「学校の授業で教わった」の割合が抜き出て高くなっている。

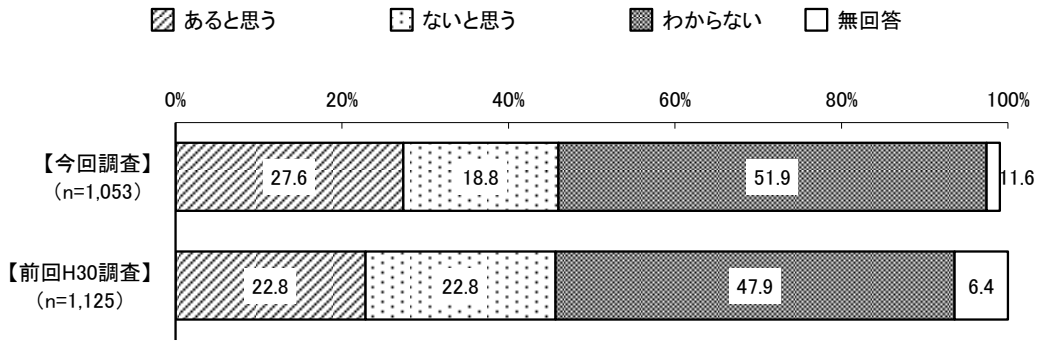
図８－２　同和問題や同和地区のことを知った契機（性別／年代別／地区別）



（３）差別や人権侵害の有無について

問１９　あなたは今でも、同和地区の人や出身であることを理由に差別や人権侵害があると思いますか。あてはまる番号に１つ○をつけてください。





半数強は現状不明としている

【全体結果】

「あると思う」（27.6%）が「ないと思う」（18.8%）を１割程度上回っている。

「わからない」が半数程度を占めている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「あると思う」の割合が増加している。

【属性別結果】（図 8-3 参照）

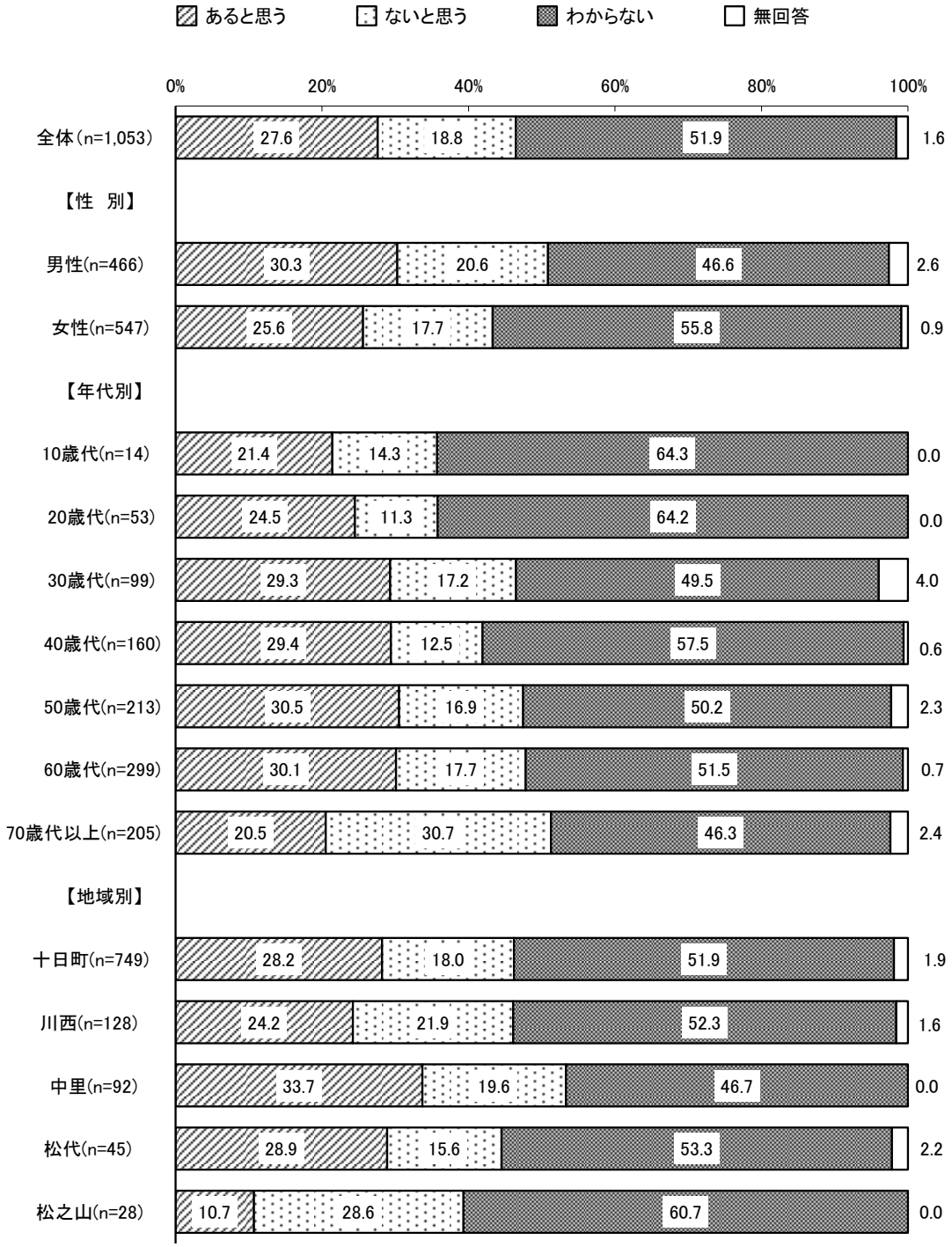
①性別

「あると思う」の割合は男性（30.3%）の方が女性（25.6%）よりもやや高くなっている。

②年齢別

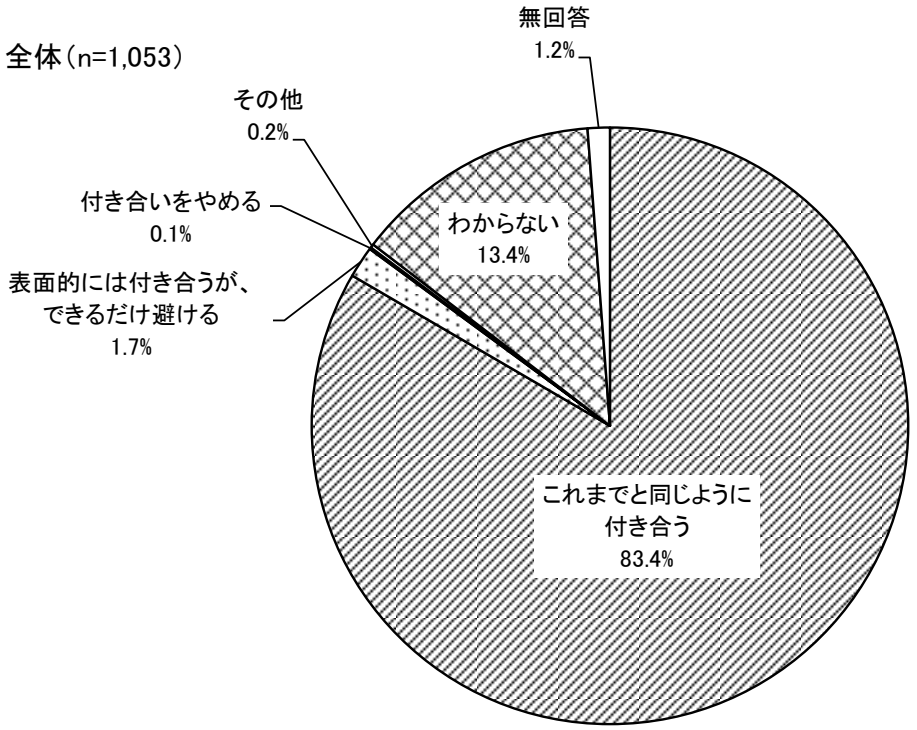
70 歳代以上では「ないと思う」（30.7%）が、「あると思う」（20.5%）を 1 割程度上回っている。

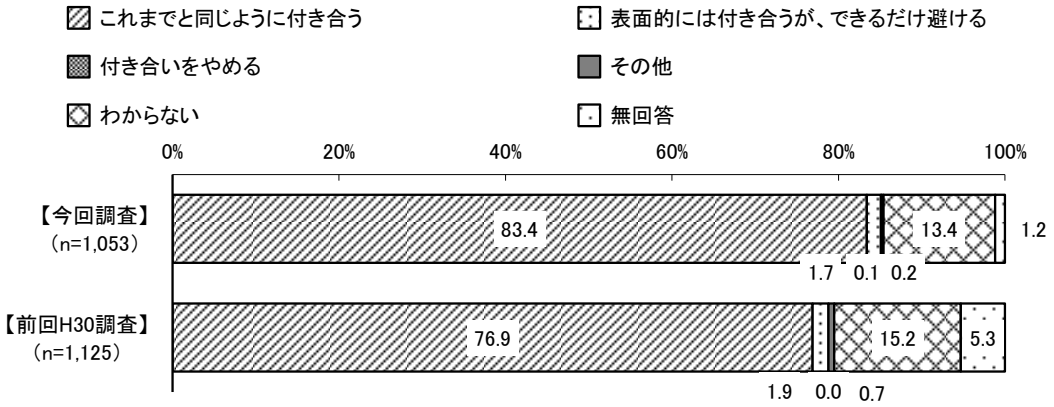
図８－３　差別や人権侵害の有無について（性別／年代別／地区別）



（４）同和地区出身者との付き合い方について

問２０　あなたは、親しく付き合っている友人、近所の人、職場の人が、同和地区出身者と分かった場合どうしますか。あてはまる番号に１つ○をつけてください。





―― ８割以上は同和地区出身者と分かっても付き合い方をかえない ――

【全体結果】

「これまでと同じように付き合う」（83.4%）が多数を占めている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「これまでと同じように付き合う」の割合が増加している。

【属性別結果】（図 8-4 参照）

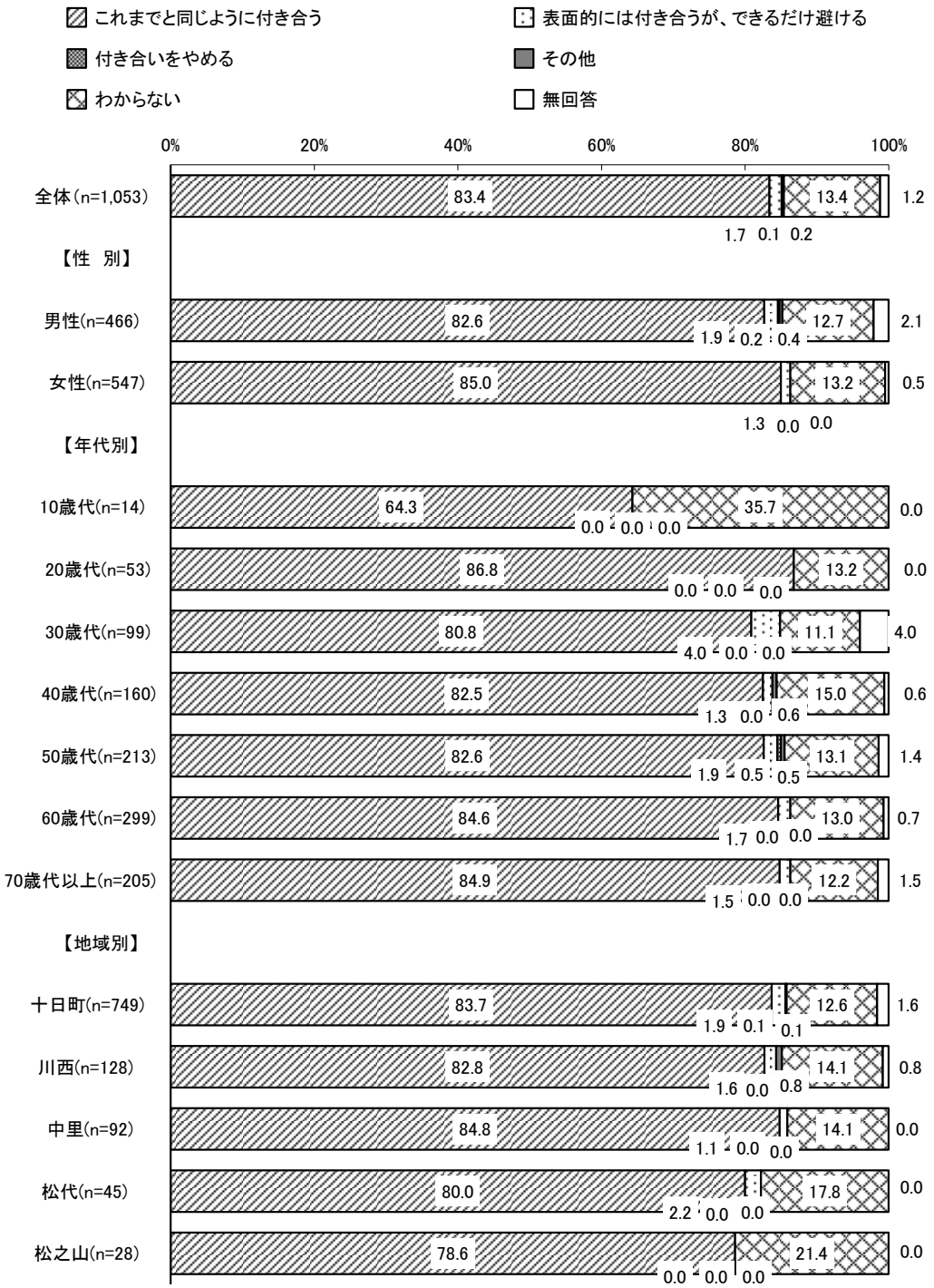
①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

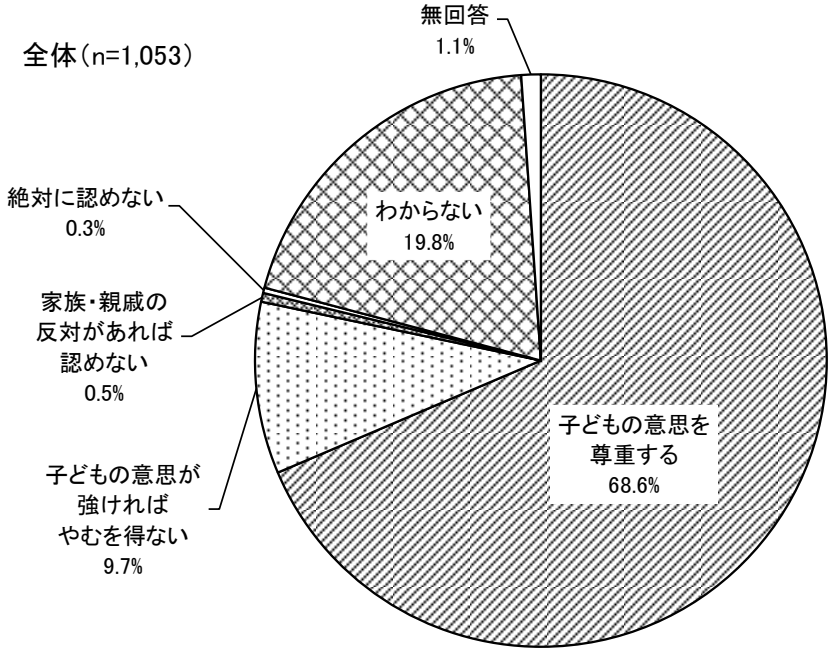
20 歳代では９割弱（86.8%）が「これまでと同じように付き合う」と回答した。

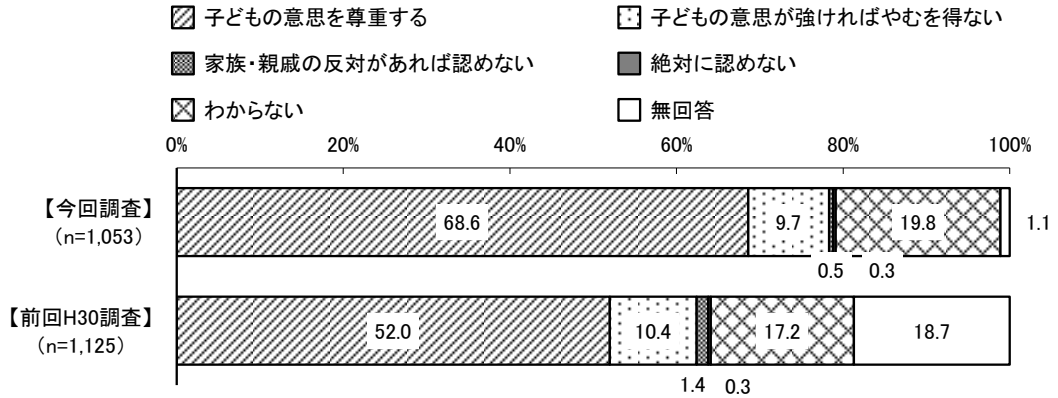
図８－４　同和地区出身者との付き合い方について（性別／年代別／地区別）



（５）同和地区出身者との子どもの結婚について

問２１　仮に、あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、同和地区出身者であると分かった場合、あなたはどうすると思いますか。あてはまる番号に１つ○をつけてください。





※前回 H30 調査は既婚の方のみお答えください

７割弱は子どもの意思を尊重

【全体結果】

７割弱は「子どもの意思を尊重する」（68.6%）としている。一方で、「子どもの意思が強ければやむを得ない」（9.7%）とする消極的な是認者も１割程度いることに留意したい。

「家族・親戚の反対があれば認めない」、「絶対に認めない」は極めて少ない。

【前回調査比較】

グラフの掲載のみにとどめる。

【属性別結果】（図 8-5 参照）

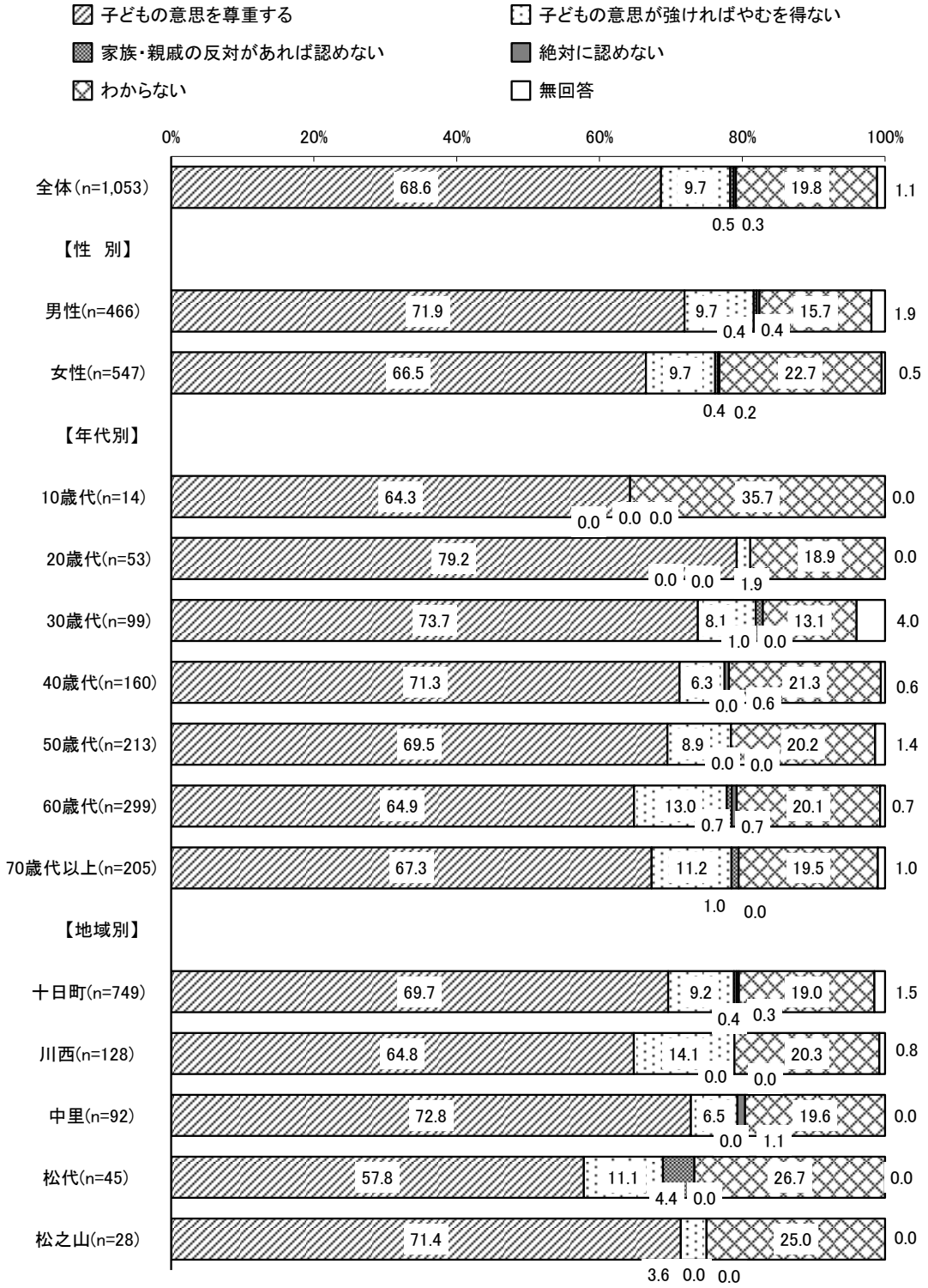
①性別

「子どもの意思を尊重する」の割合は男性（71.9%）の方が女性（66.5%）よりも高くなている。

②年齢別

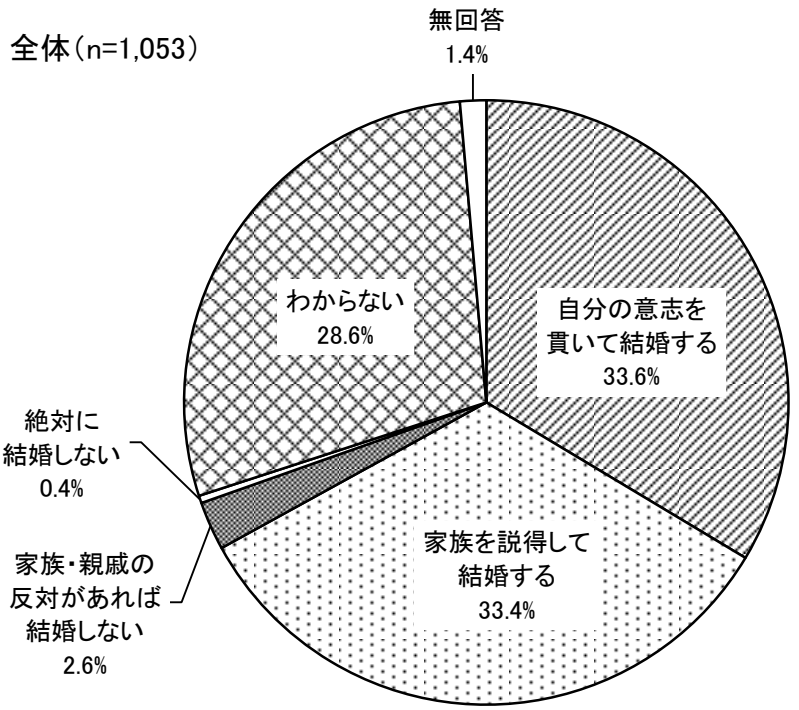
20 歳代では約８割（79.2%）が「子どもの意思を尊重する」と回答した。

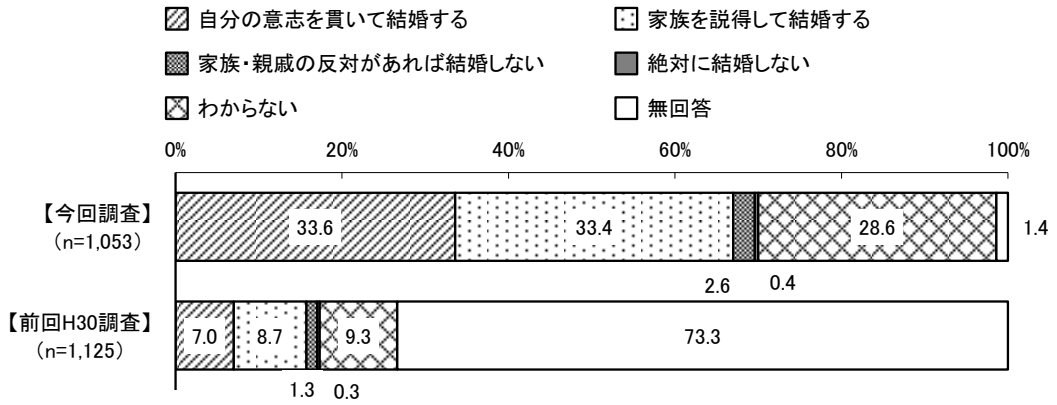
図８－５　同和地区出身者との子どもの結婚について　（性別／年代別／地区別）



（６）同和地区出身者との自身の結婚について

問２２　仮に、あなたが、同和地区出身の人と結婚しようとしたとき、家族や親せきから強い反対を受けた場合、あなたはどうすると思いますか。あてはまる番号に１つ〇をつけてください。





※前回 H30 調査は未婚の方のみお答えください

―――― 自分の意志を貫く、と家族を説得するが拮抗 ――――

【全体結果】

「自分の意志を貫いて結婚する」と「家族を説得して結婚する」合わせた『結婚する』の割合が６割を超えている。

【前回調査比較】

グラフの掲載のみにとどめる。

【属性別結果】（図 8-6 参照）

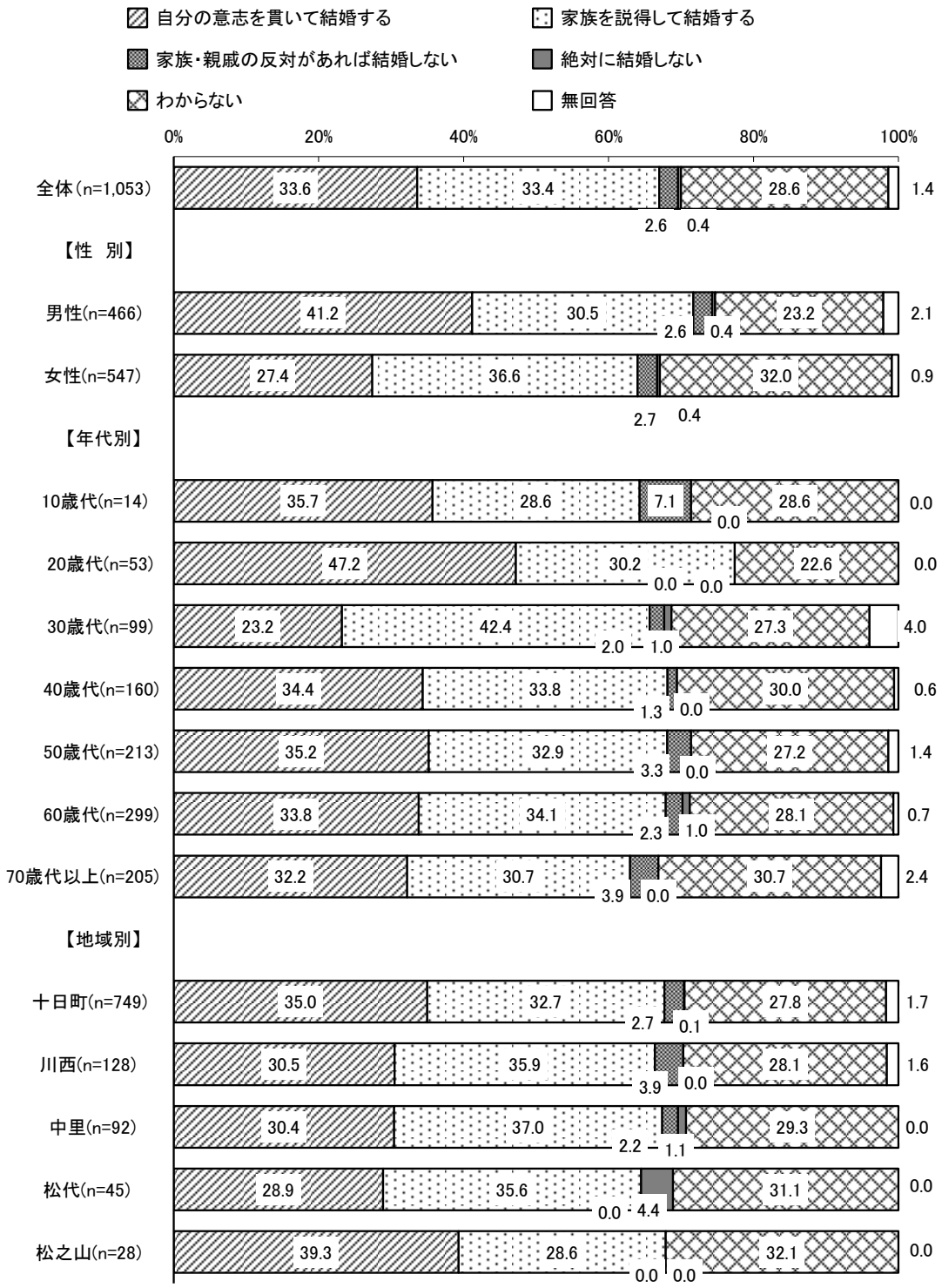
①性別

「自分の意志を貫いて結婚する」の割合は男性（41.2%）の方が女性（27.4%）よりも１割以上高くなっている。

②年齢別

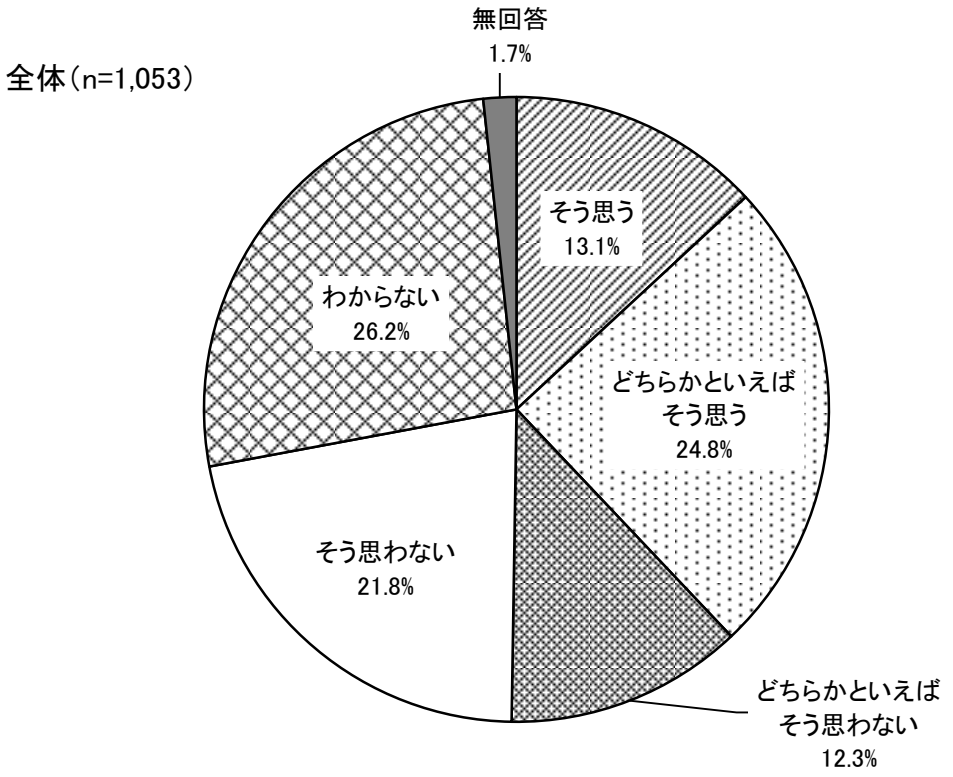
20 歳代では「自分の意志を貫いて結婚する」（47.2%）が、30 歳代では「家族を説得して結婚する」（42.4%）が４割台で高くなっている。

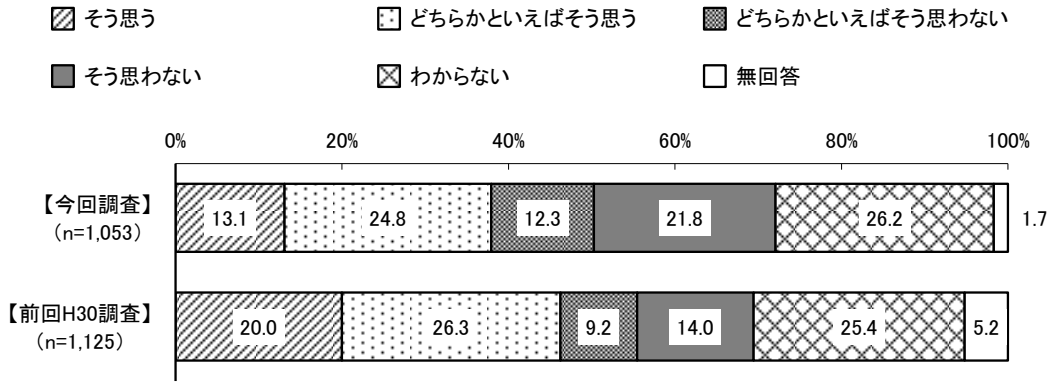
図８－６　同和地区出身者との自身の結婚について（性別／年代別／地区別）



（７）同和問題を解消する意見への是非

問２３　同和問題について、「差別、差別というから、いつまでも差別が残るのだ。そっとしておけば部落差別は自然になくなる」という意見があります。この意見に対しあなたはどう思いますか。あてはまる番号に１つ〇をつけてください。





―　４割弱は「そっとしておけば部落差別は自然になくなる」としている　―

【全体結果】

「そう思う」(13.1%) と「どちらかといえばそう思う」(24.8%) と合わせた４割弱 (37.9%) は『自然に解消される』との意見に肯定的である。

一方で、「そう思わない」（21.8%）と「どちらかといえばそう思わない」（12.3%）を合わせた３割強（34.1%）は否定的な考えをしめした。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と合わせた『そう思う』の割合が減少している。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」と合わせた『そう思わない』の割合が1割程度増加している。

【属性別結果】（図 8-7 参照）

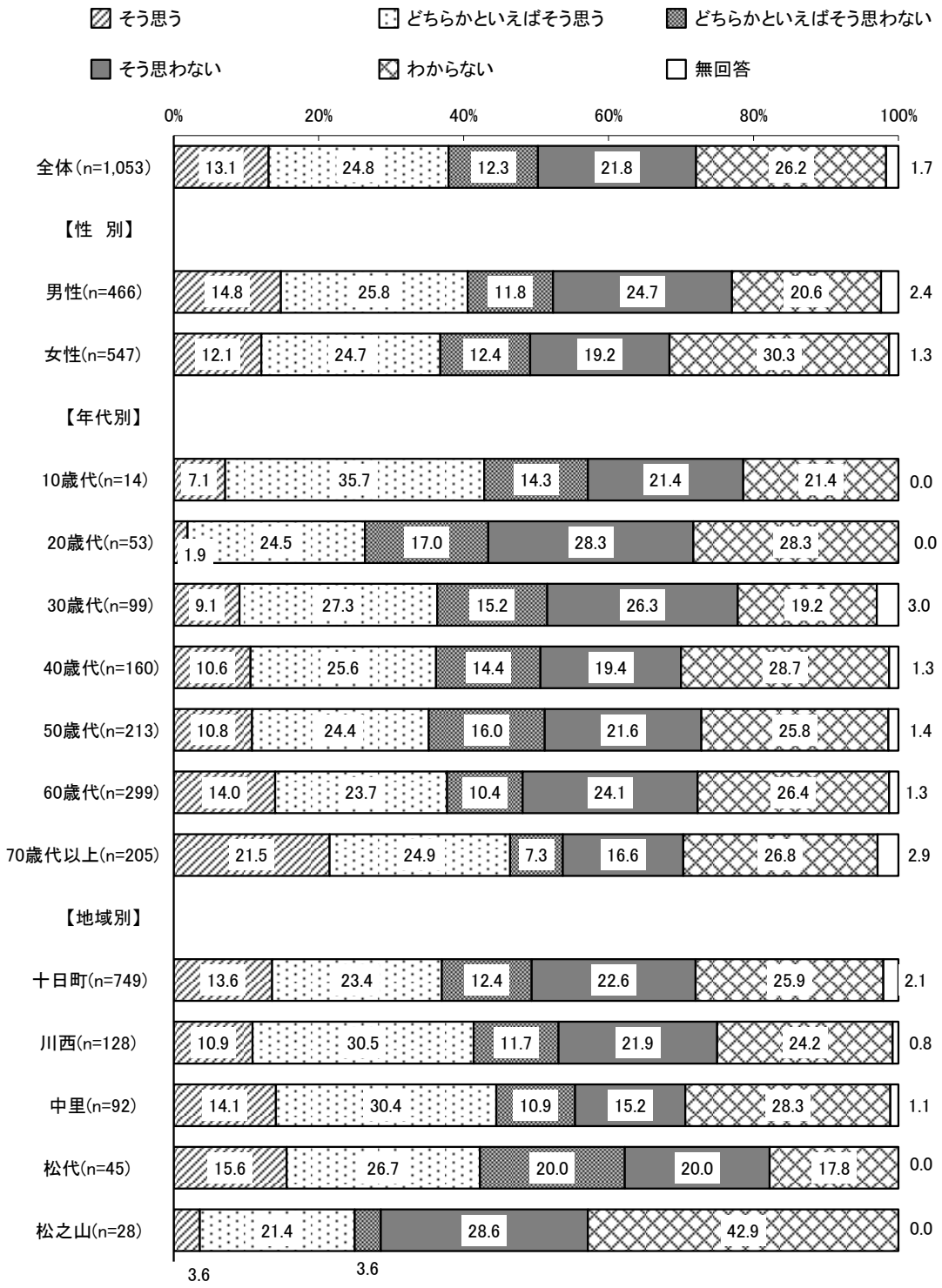
①性別

「そう思わない」の割合は男性（24.7%）の方が女性（19.2%）よりも高くなっている。

②年齢別

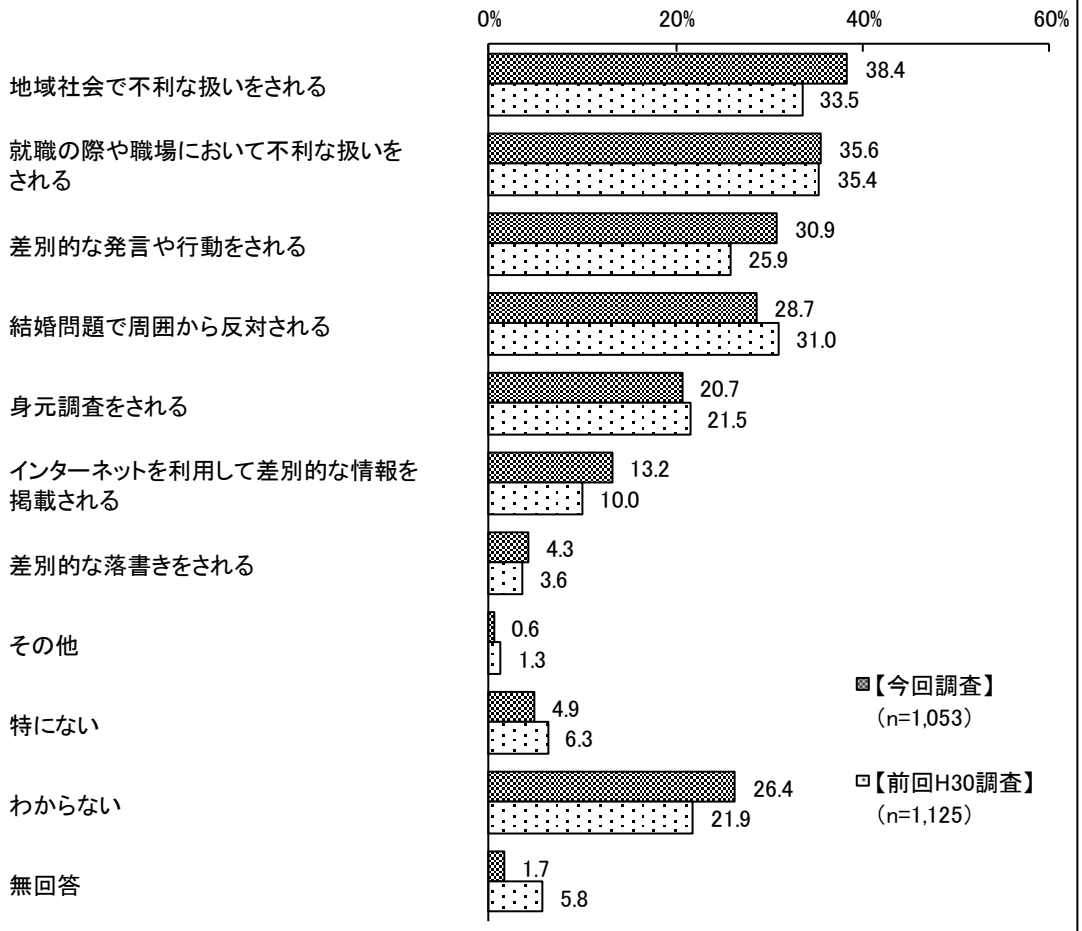
肯定的な考えを持つ人は 70 歳代以上で多く、半数弱を占めている。

図８－７　同和問題を解消する意見への是非（性別／年代別／地区別）



（８）人権上の特段の同和問題

問２４　あなたが、同和問題で、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。
あてはまる番号に３つ以内で〇をつけてください。



――　地域社会や就職・職場での不利な扱いが特に問題視されている　――

【全体結果】

「地域社会で不利な扱いをされる」（38.4%）や「就職の際や職場において不利な扱いをされる」（35.6%）が４割弱である。この２つの問題点に「差別的な言動や行動をされる」（30.9%）が約３割で次ぐ。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 8-8 参照）

①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

全般的に若年齢層ほど問題点を指摘する傾向がみられる。

図８－８　人権上の特段の同和問題（性別／年代別／地区別）　1/2

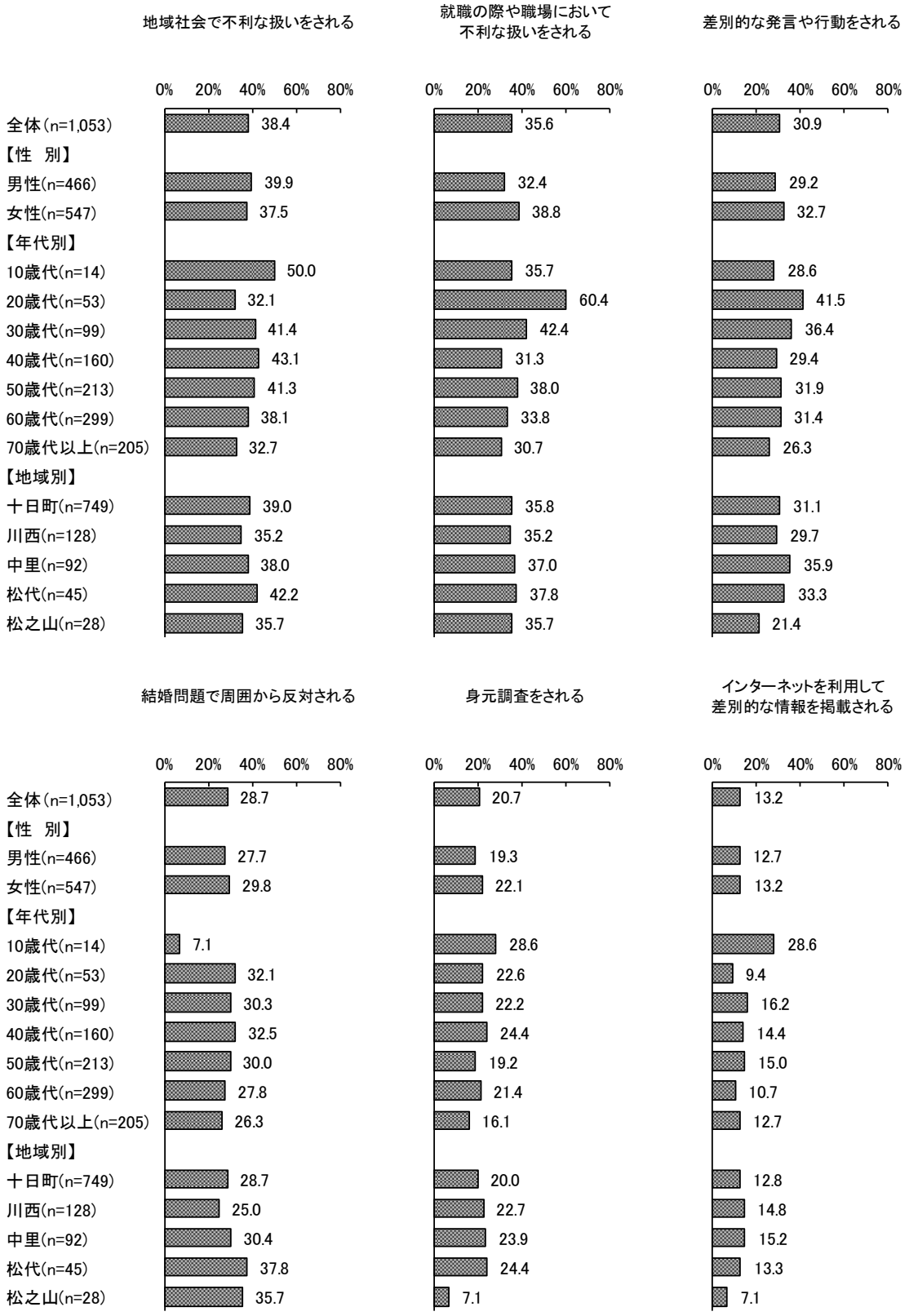
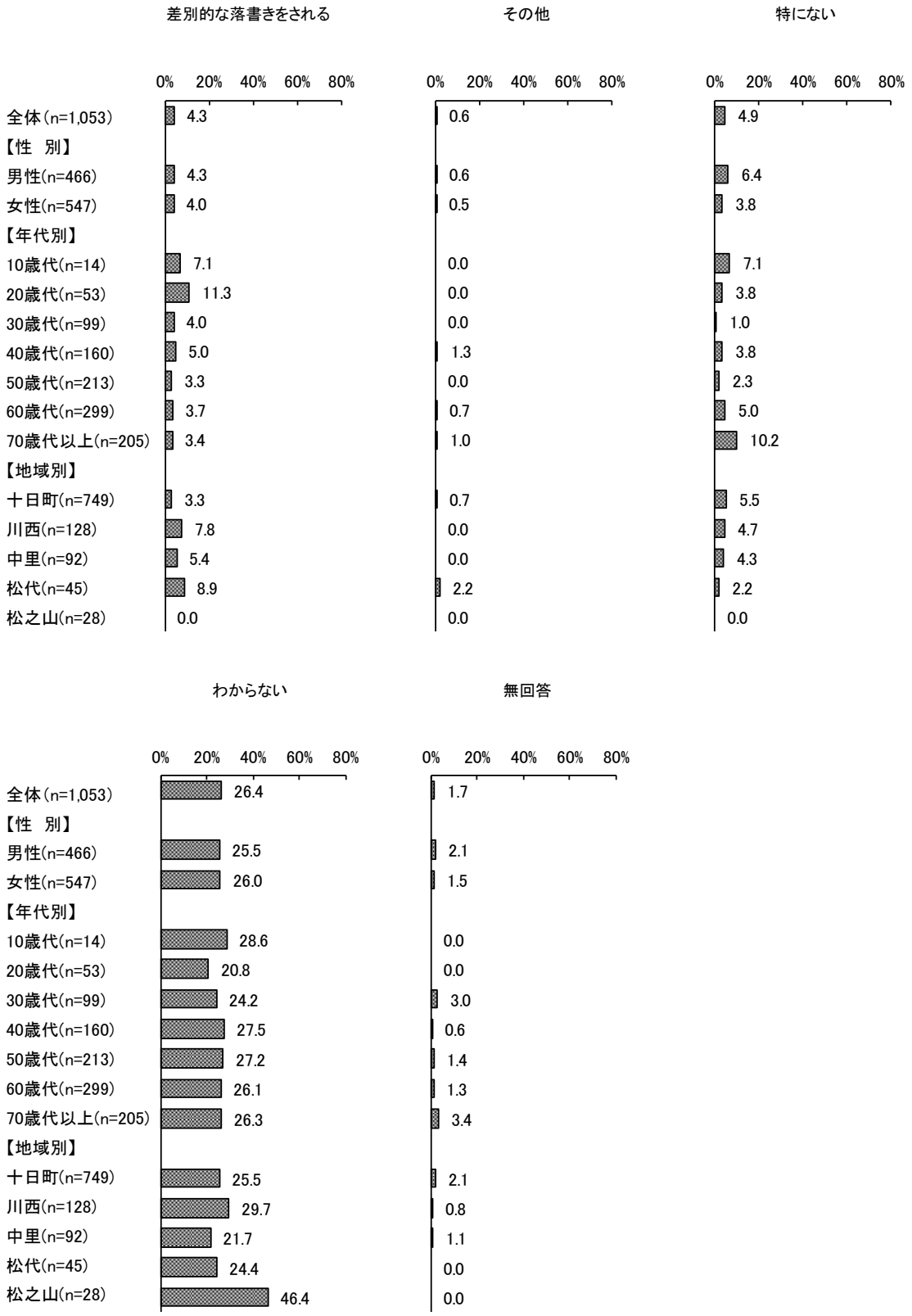
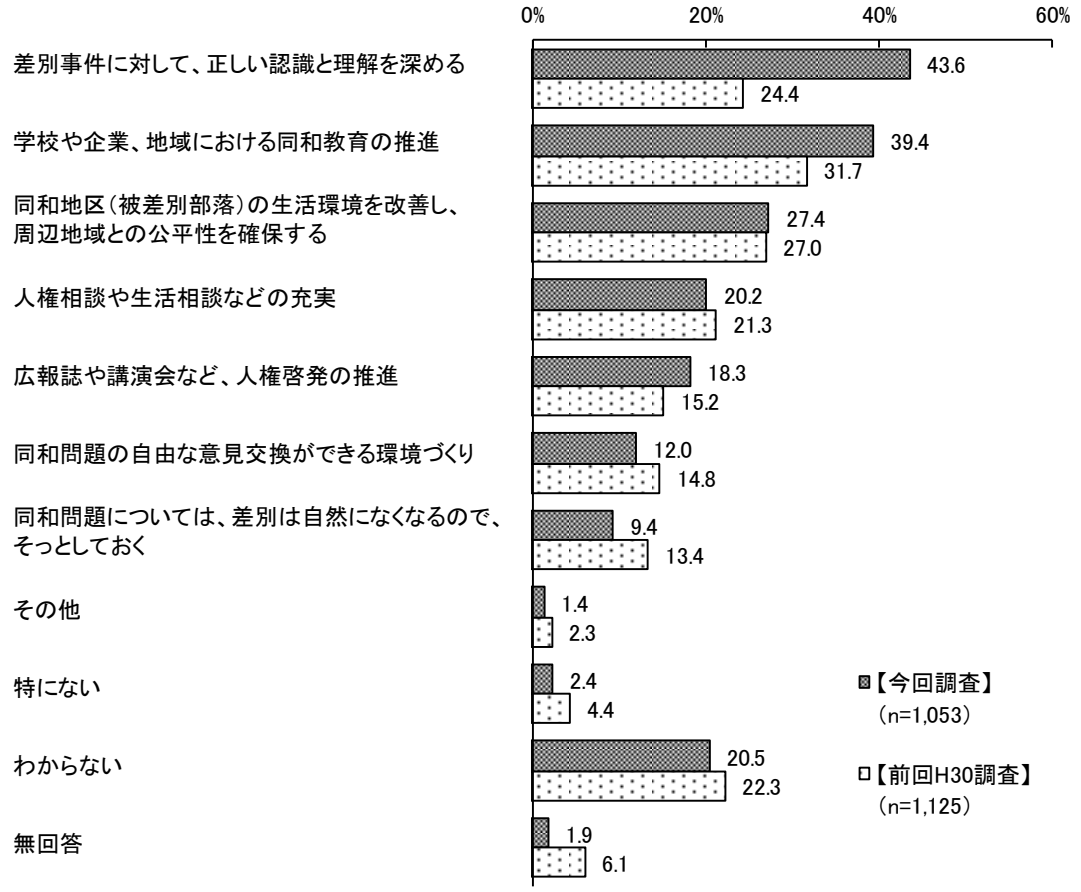


図８－８　人権上の特段の同和問題（性別／年代別／地区別）　2/2



（９）同和問題を解決するために必要なこと

問２５　あなたは、同和問題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまる番号に３つ以内で〇をつけてください。



―――――――― まずは同和教育の推進が求められている ――――――――

【全体結果】

「差別事件に対して、正しい認識と理解を深める」（43.6%）が最も高く、「学校や企業、地域における同和教育の推進」（39.4%）が約４割、「同和地区（被差別部落）の生活環境を改善し、周辺地域との公平性を確保する」（27.4%）が３割弱で続く。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「差別事件に対して、正しい認識と理解を深める」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 8-9 参照）

①性別

「差別事件に対して、正しい認識と理解を深める」の割合は女性（48.3%）の方が男性（38.4%）よりも１割程度高くなっている。

②年齢別

全体結果の上位３項目についてみると、いずれも 20 歳代、30 歳代で割合が高い傾向がみられる。

図８－９　同和問題を解決するために必要なこと（性別／年代別／地区別）　1/3

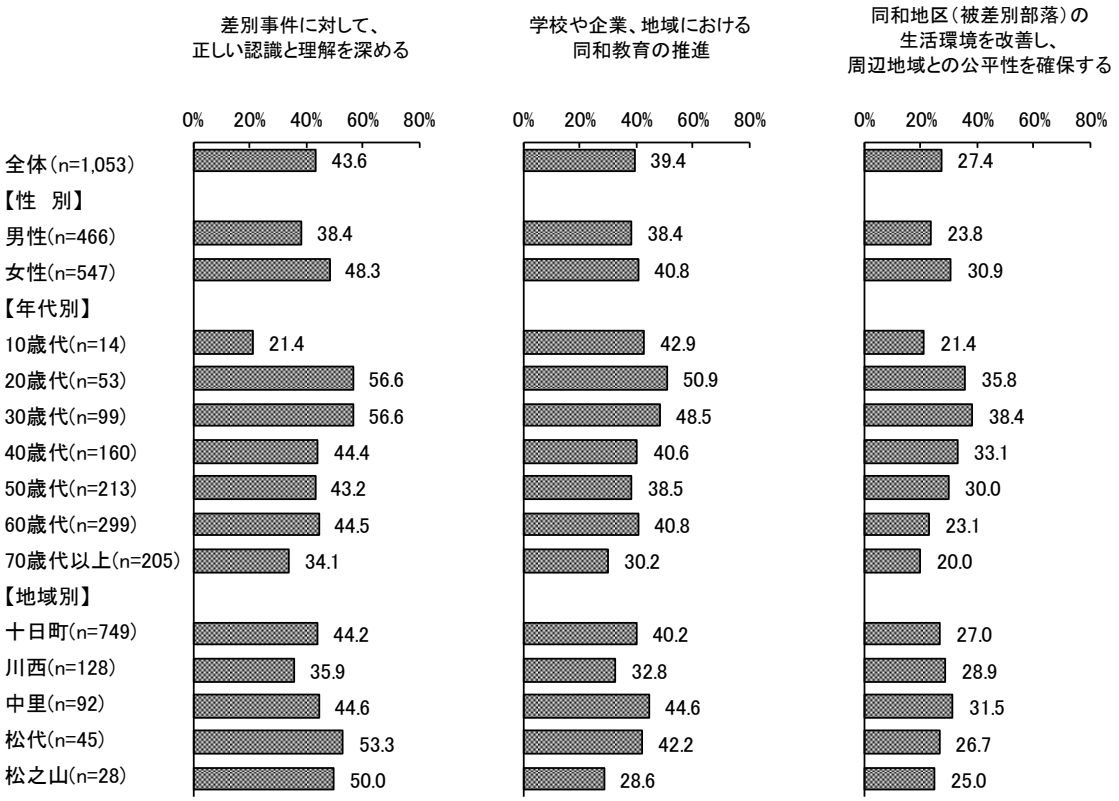


図８－９　同和問題を解決するために必要なこと（性別／年代別／地区別）　2/3

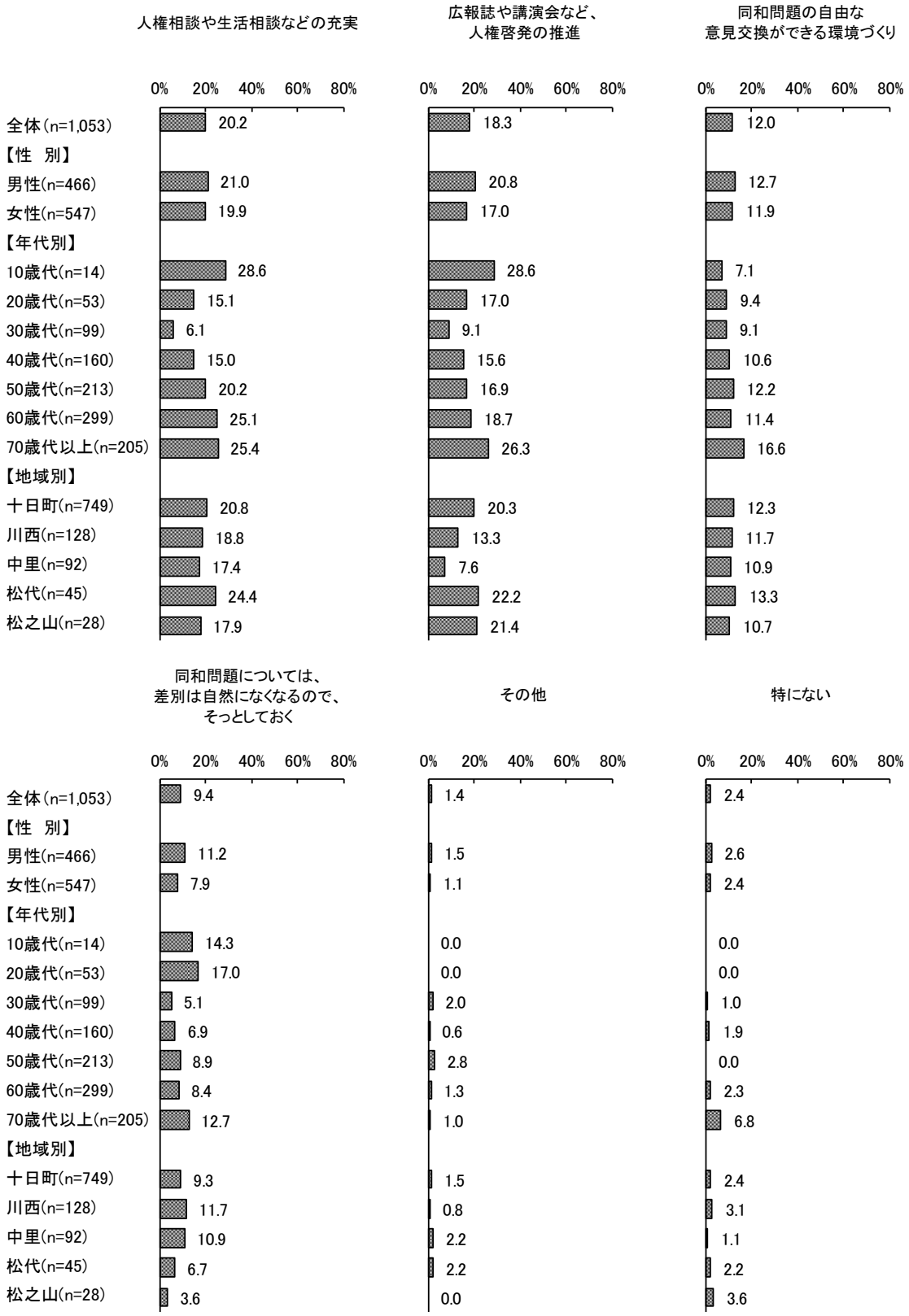
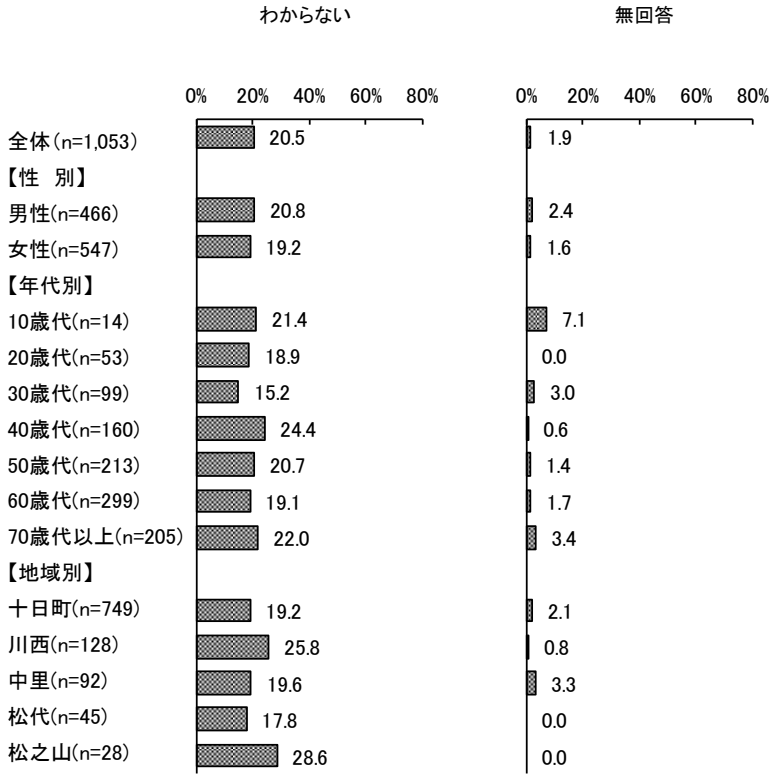


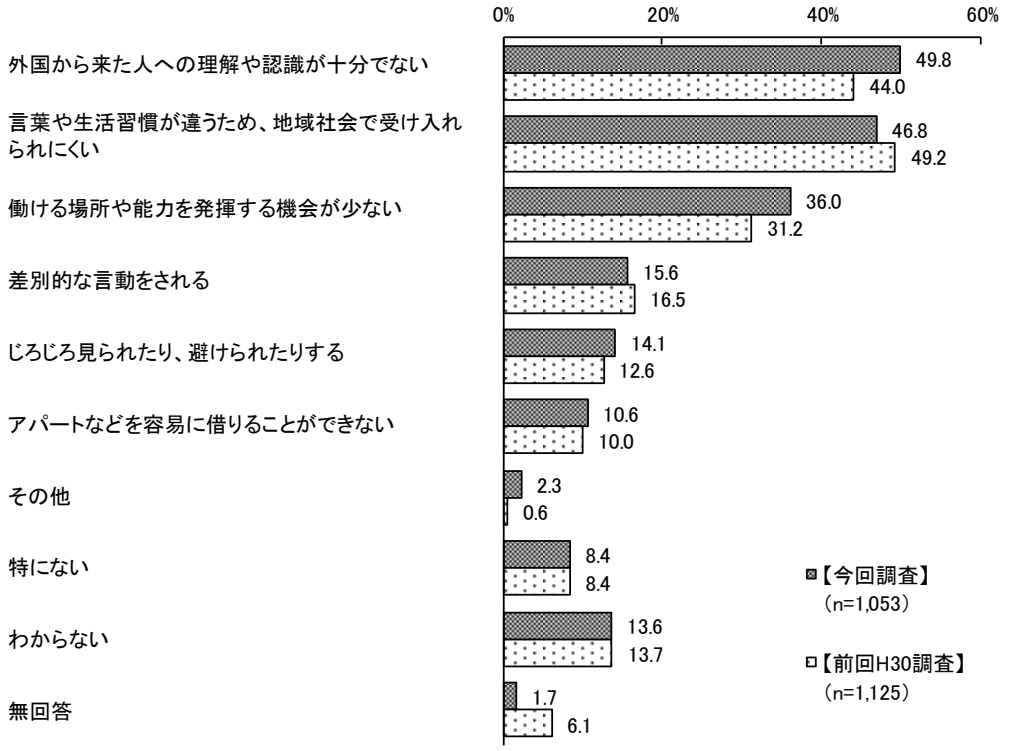
図８－９　同和問題を解決するために必要なこと（性別／年代別／地区別）　3/3



９．外国から来た人の人権について

（１）外国から来た人の人権に対する問題点

問２６　外国から来た人の人権について、問題があるとあなたが思うことはどのようなことですか。
あてはまる番号に３つ以内で○をつけてください。



―　最大の問題点は外国から来た人への理解や認識が十分でないこと　―

【全体結果】

「外国から来た人への理解や認識が十分でない」（49.8%）が最も高く、「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくい」（46.8%）が次ぐ。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 9-1 参照）

①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

20 歳代では「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくい」（60.4%）、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ない」（47.2%）などの割合が高くなっている。

図９－１　外国から来た人の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　1/2

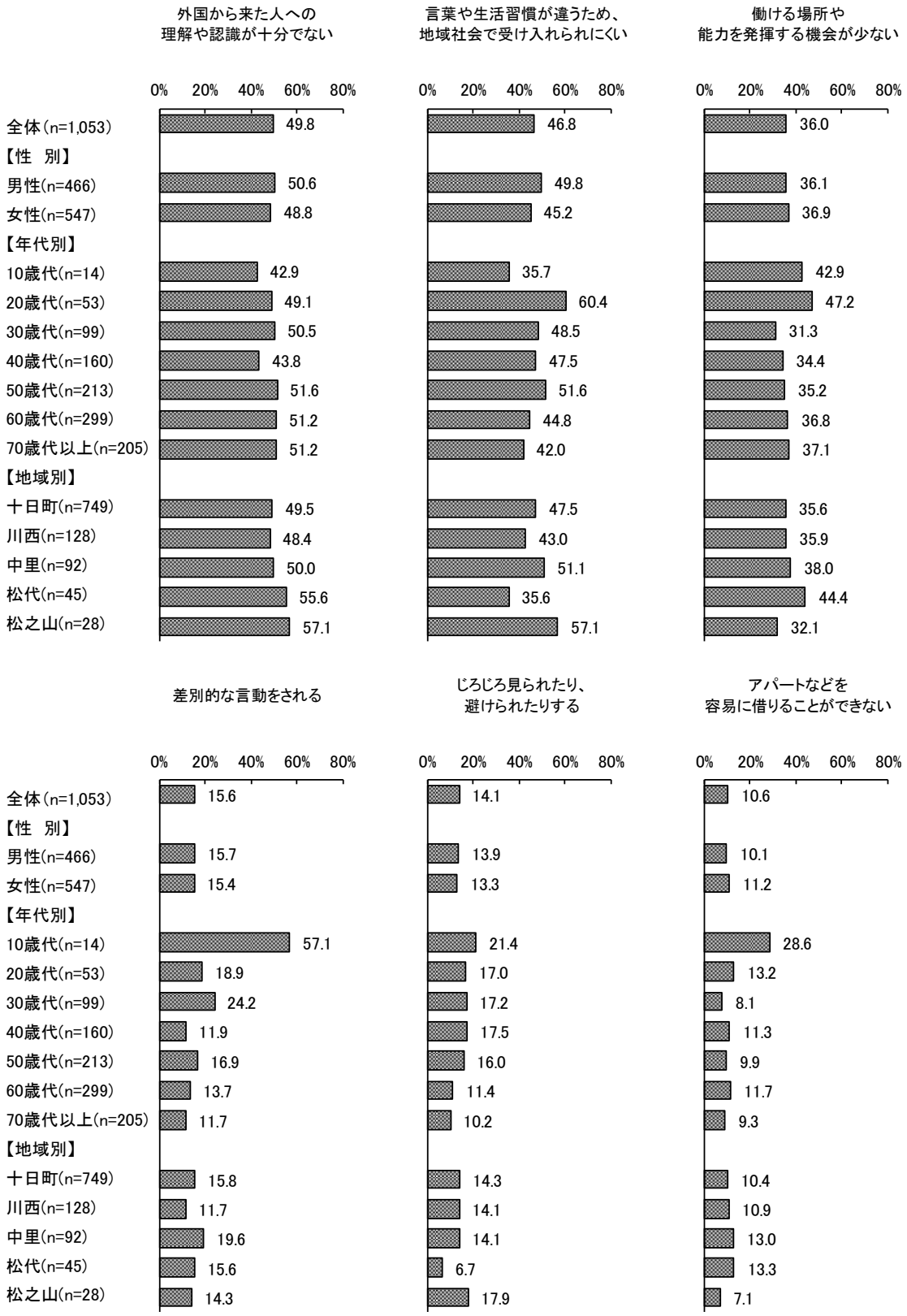
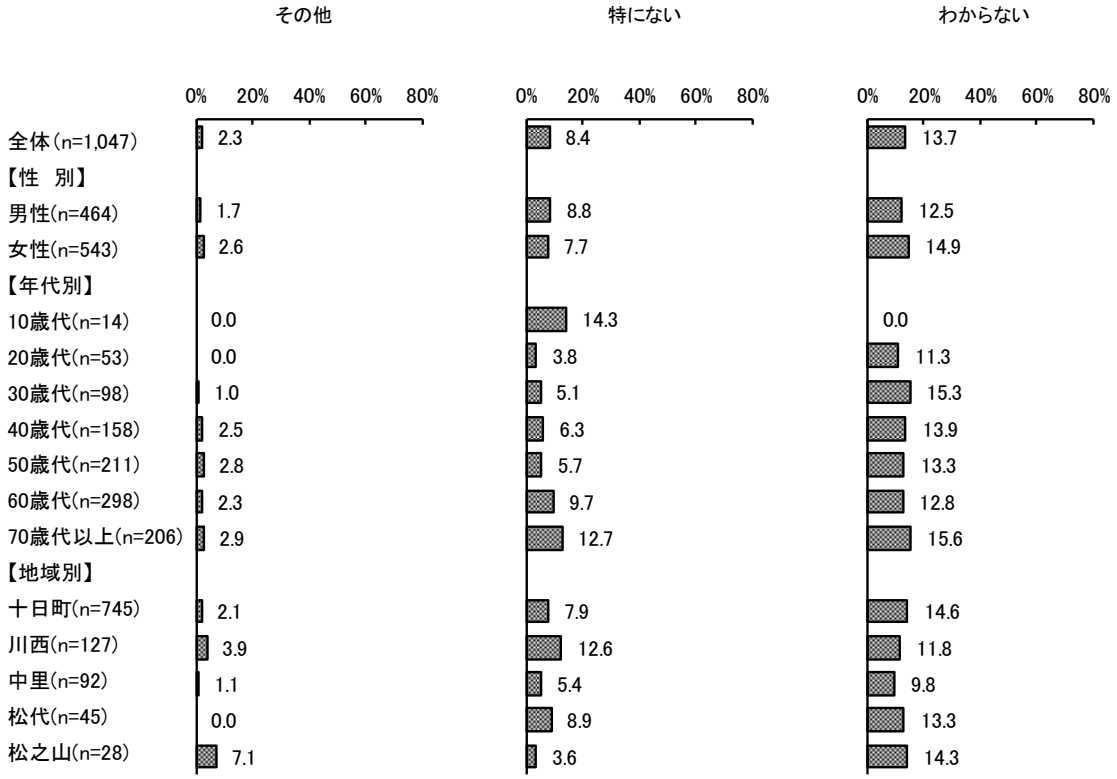
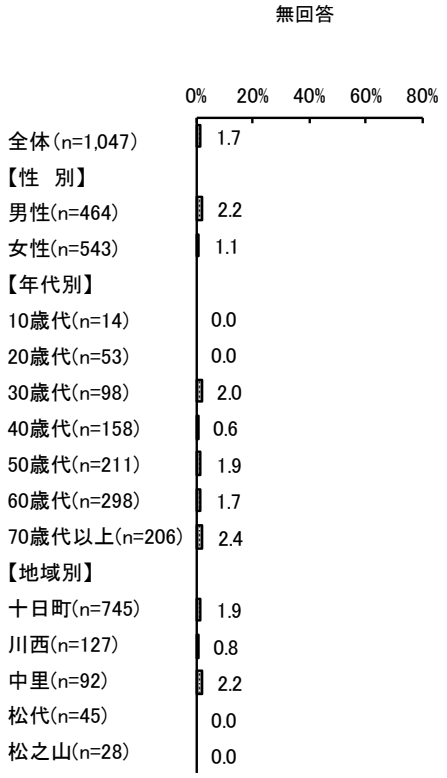


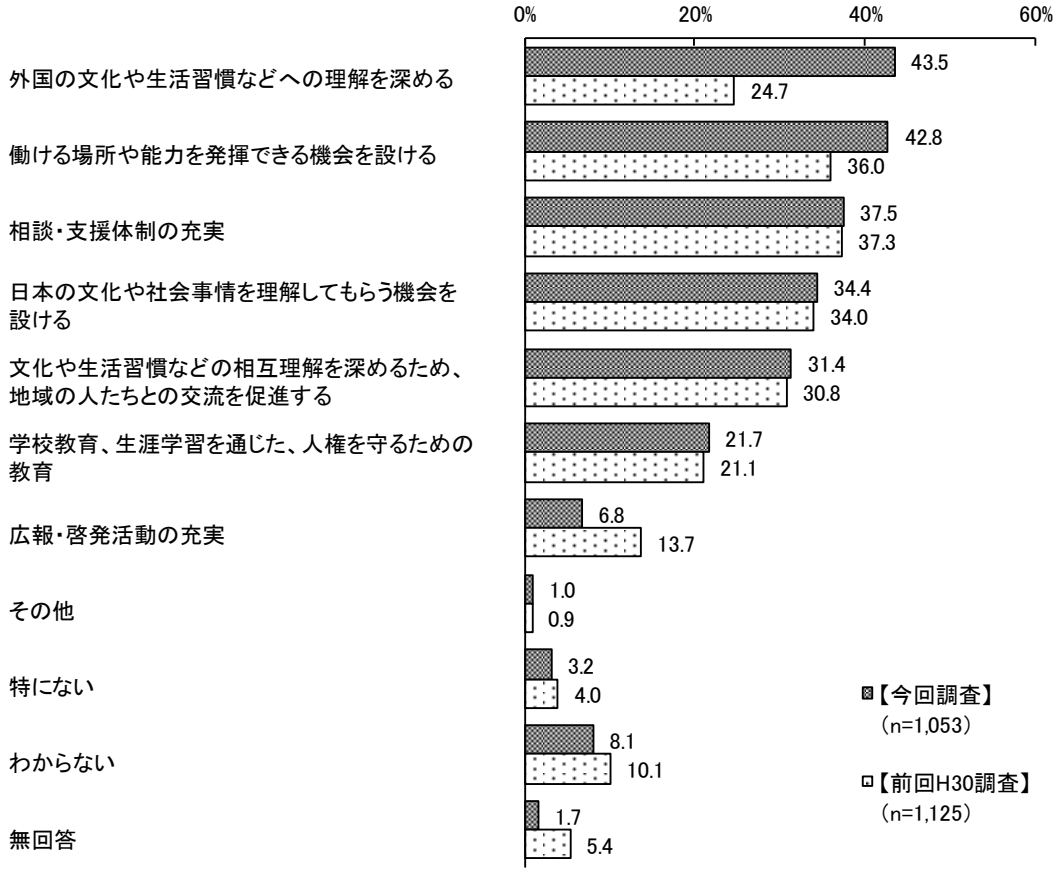
図９－１　外国から来た人の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　2/2





（２）外国から来た人の人権を守るために必要なこと

問２７　外国から来た人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



――― 文化などへの理解を筆頭に多方面の事項が必要とされている ―――

【全体結果】

「外国の文化や生活習慣などへの理解を深める」（43.5%）、「働ける場所や能力を発揮できる機会を設ける」（42.8%）が４割台、「相談・支援体制の充実」（37.5%）、「日本の文化や社会事情を理解してもらう機会を設ける」（34.4%）、「文化や生活習慣などの相互理解を深めるため、地域の人たちとの交流を促進する」（31.4%）が３割台となっている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「外国の文化や生活習慣などへの理解を深める」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 9-2 参照）

①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

「相談・支援体制の充実」は、高年齢層ほど割合が高くなる傾向となっている。

図９－２　外国から来た人の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　1/2

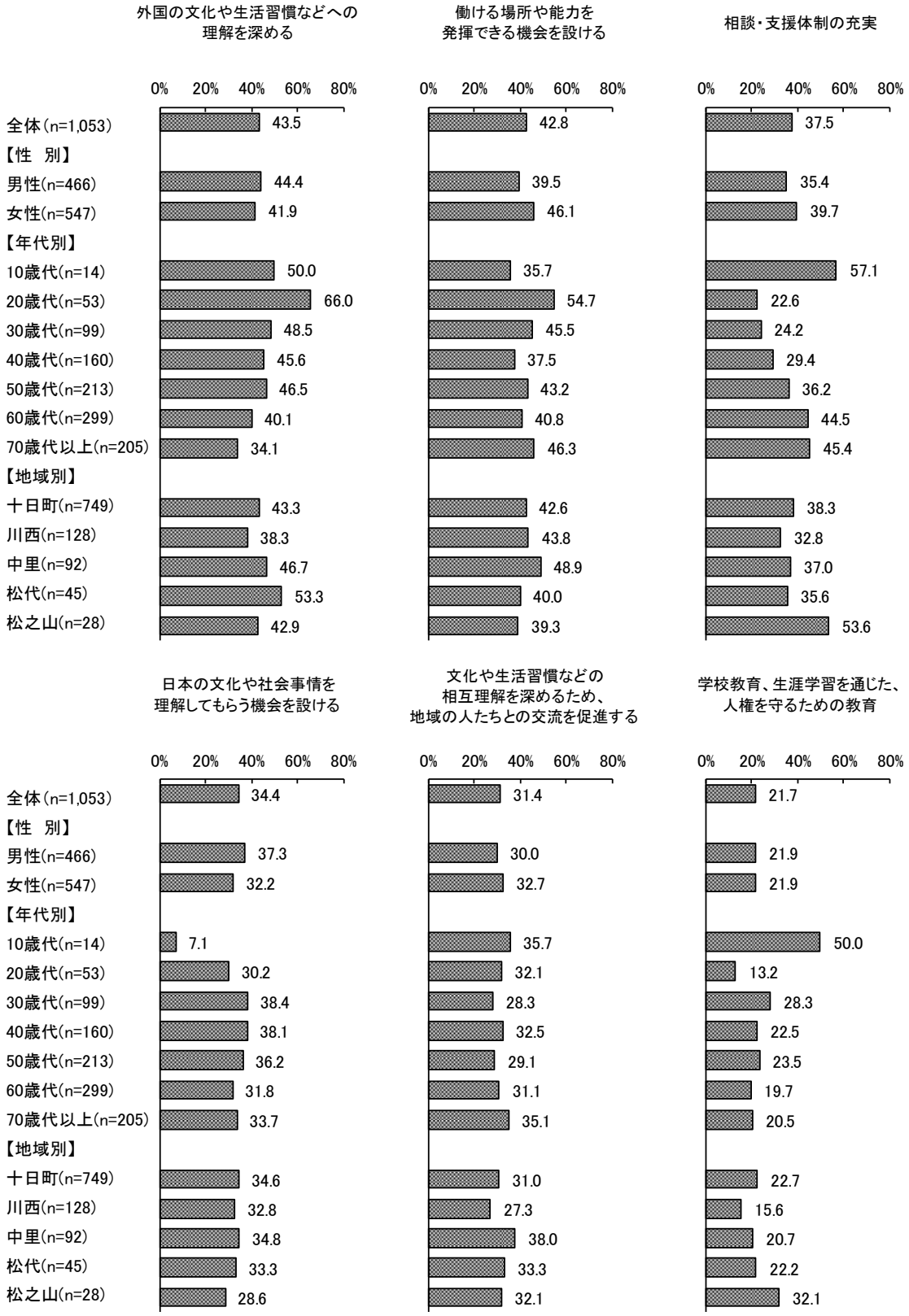
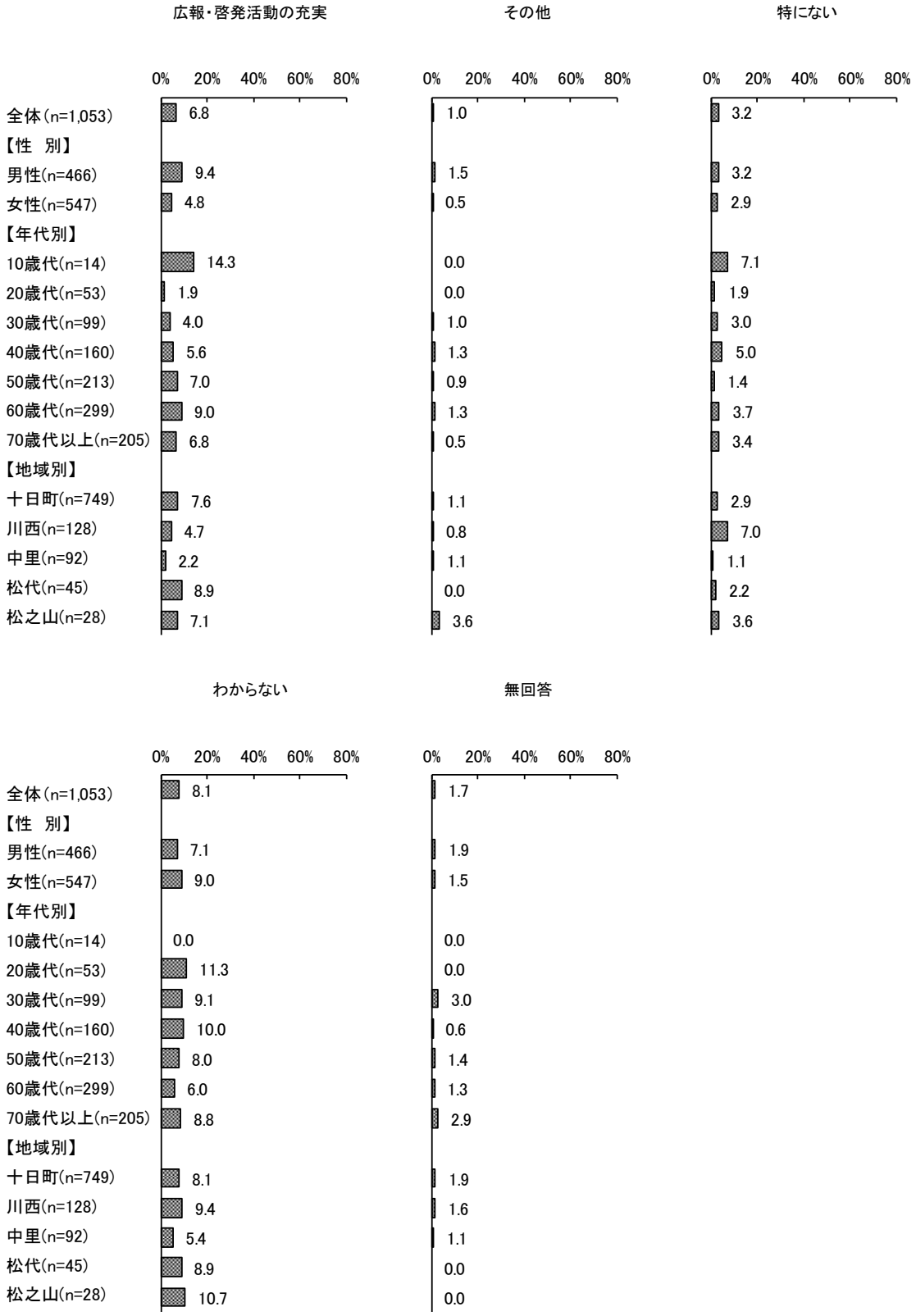


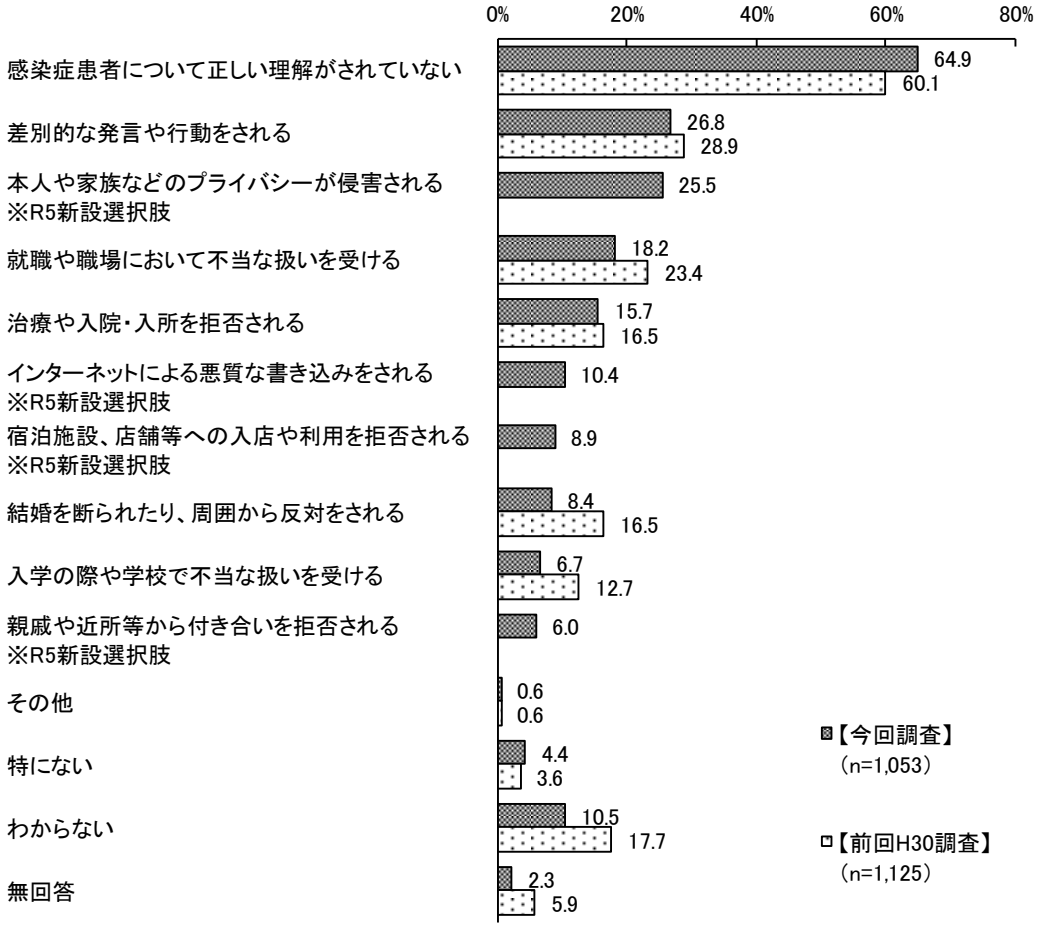
図９－２　外国から来た人の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　2/2



１０．感染症患者等の人権について

（１）感染症患者等の人権に対する問題点

問２８　感染症患者等（エイズ患者、HIV 感染者、ハンセン病患者および元患者、新型コロナウイルス感染者など）の人権について、問題があるとあなたが思うことはどのようなことですか。あてはまる番号に３つ以内で〇をつけてください。



――――――　最大の問題点は感染症患者についての誤った理解　――――――

【全体結果】

「感染症患者について正しい理解がされていない」（64.9%）が６割を超えている。

【前回調査比較】

グラフの掲載のみにとどめる。

【属性別結果】（図 10-1 参照）

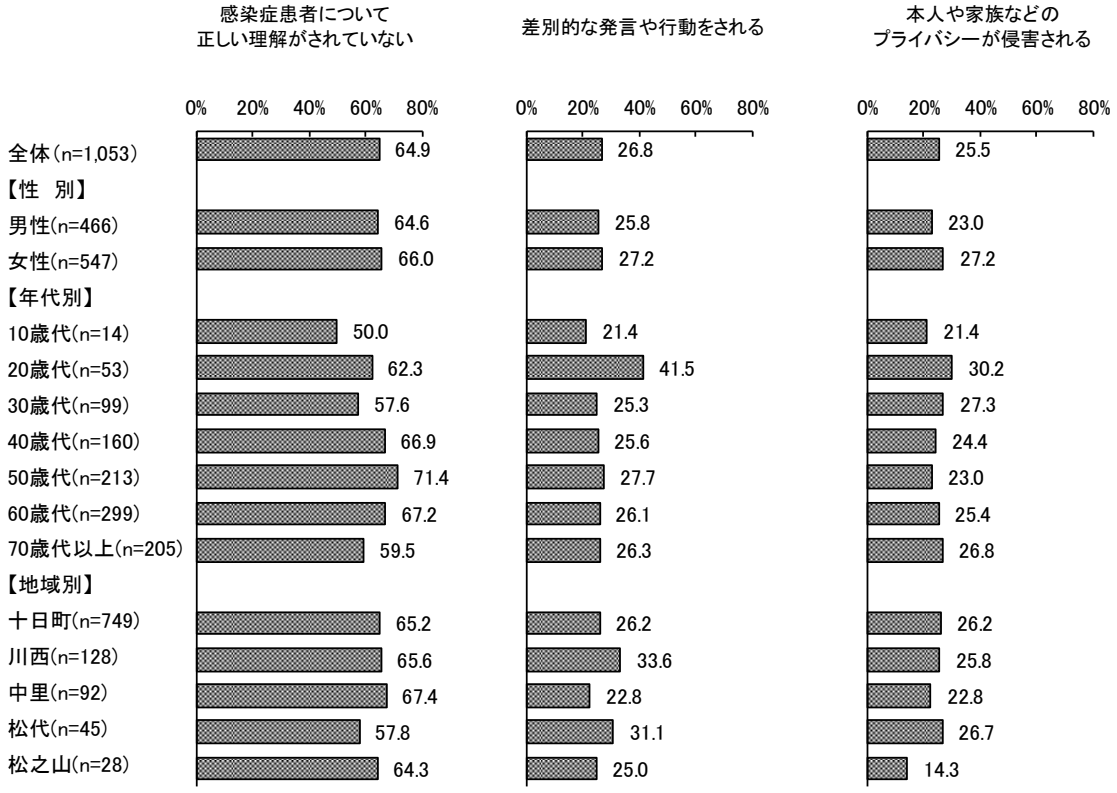
①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

すべての年齢層で「感染症患者について正しい理解がされていない」が第一位である。

図１０－１　感染症患者等の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　1/3



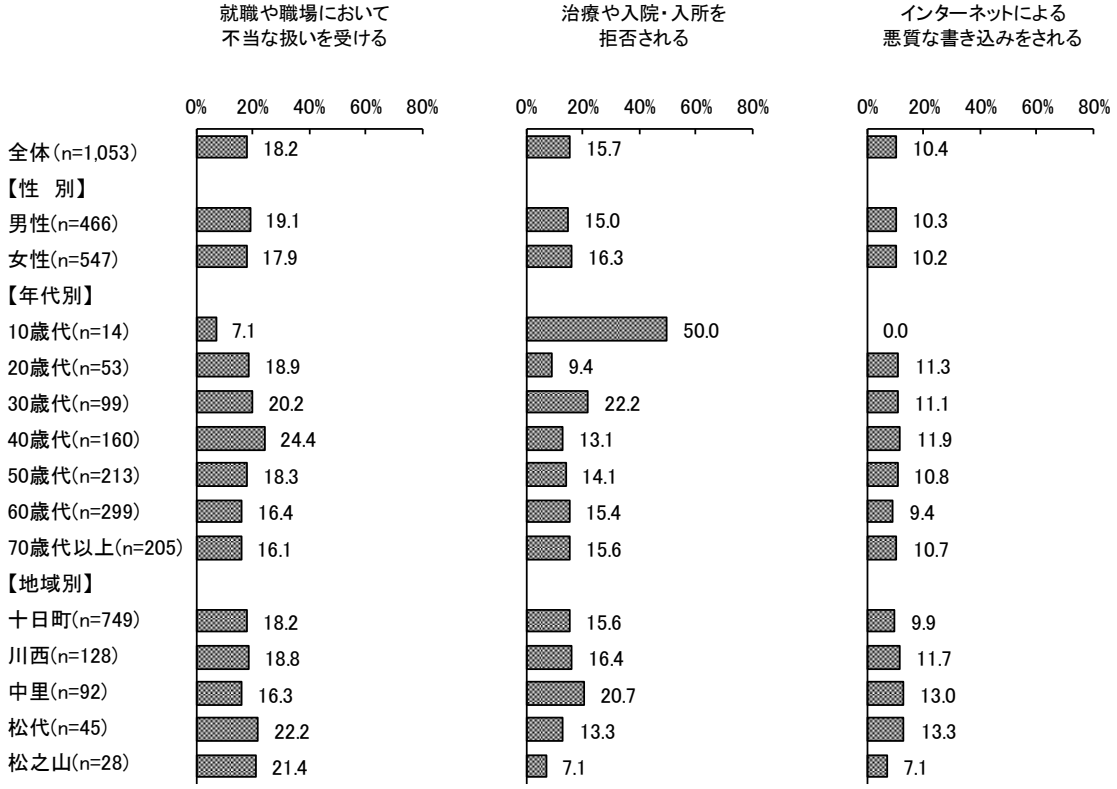


図１０－１　感染症患者等の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　2/3

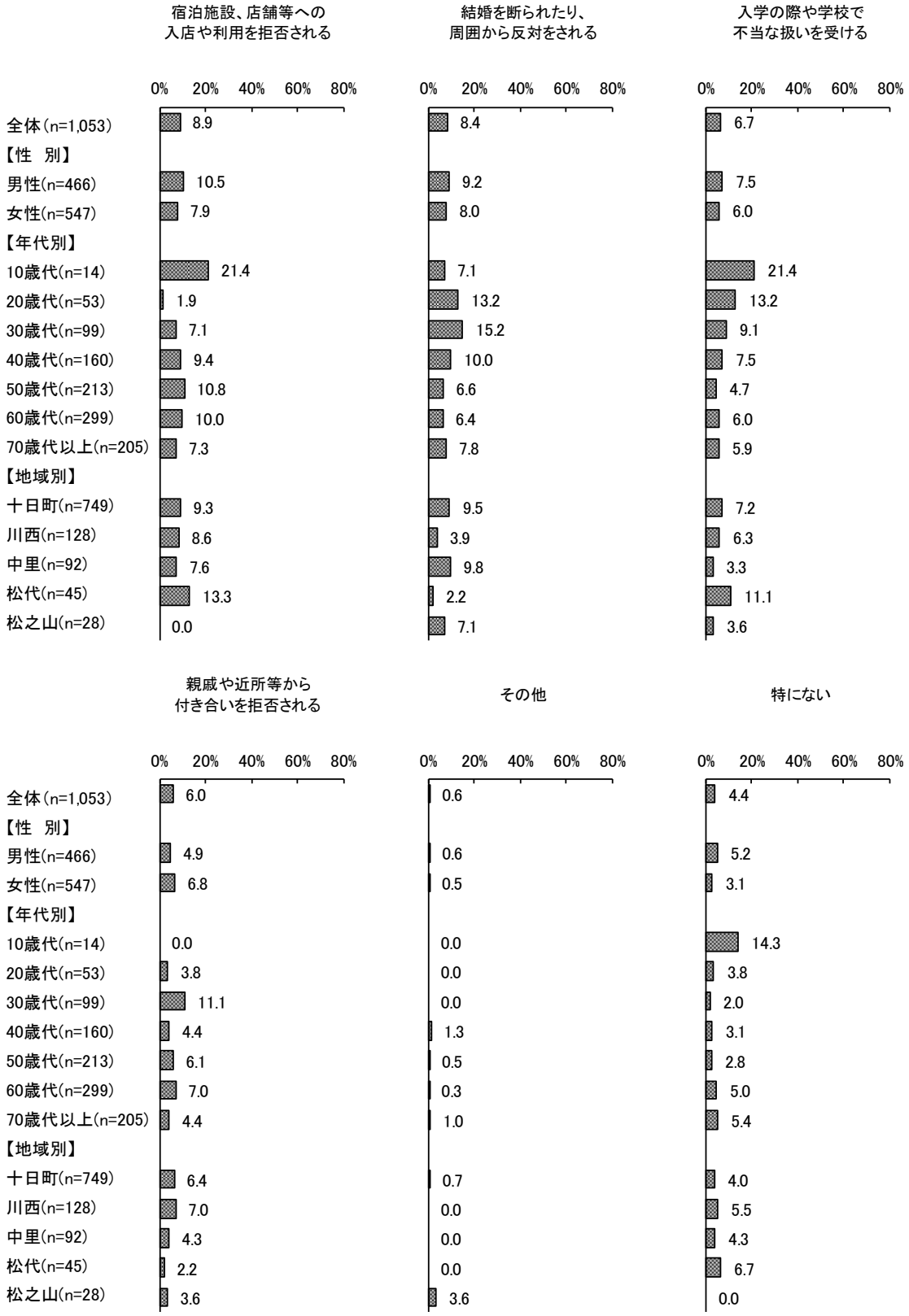
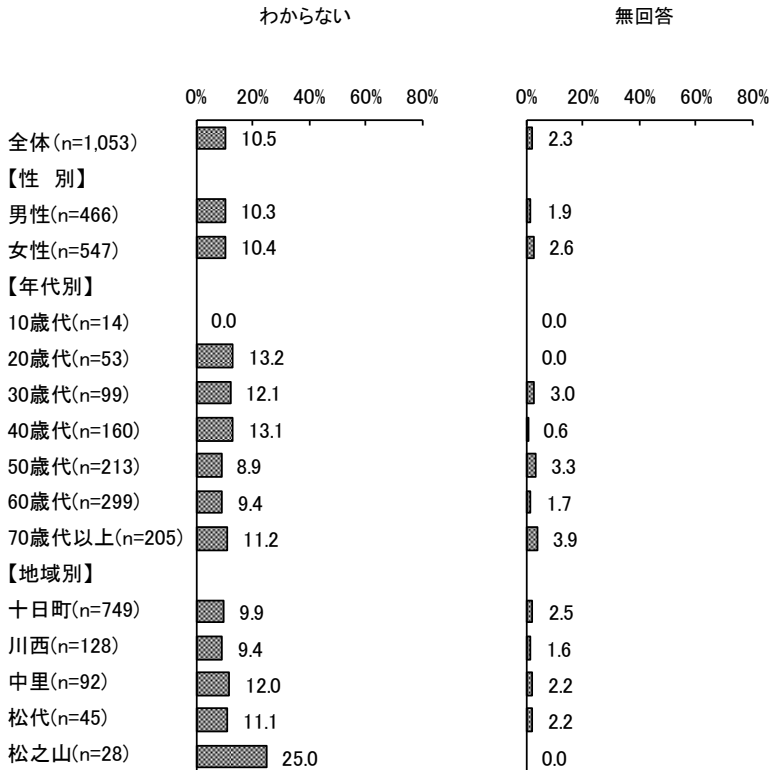
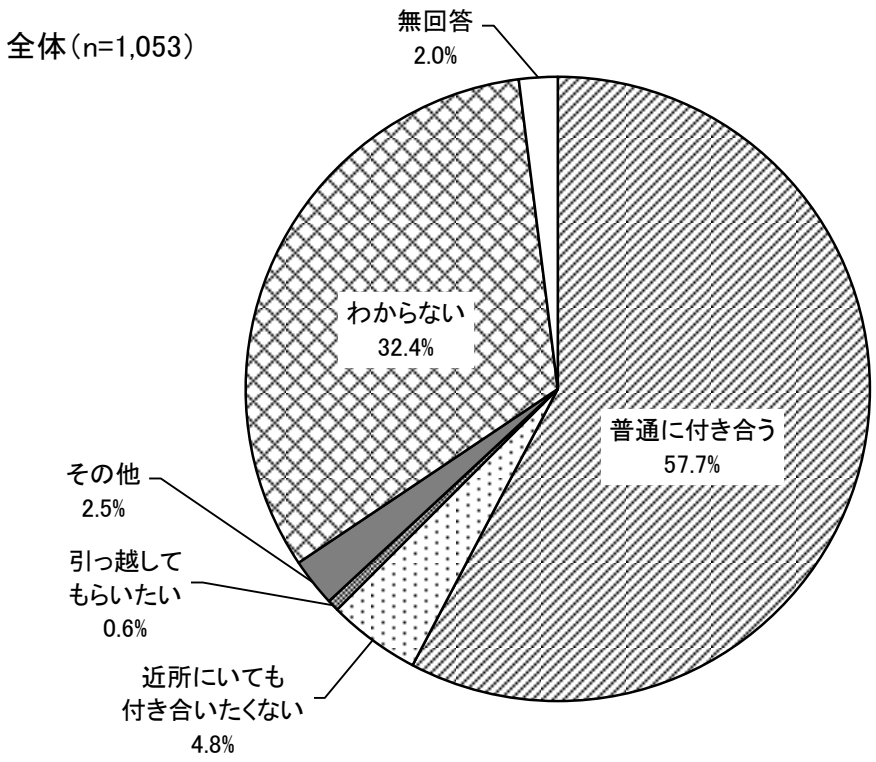


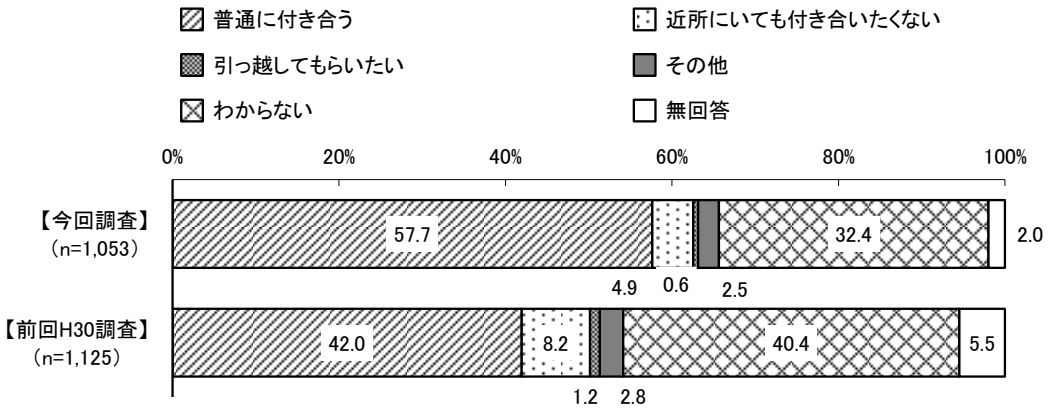
図１０－１　感染症患者等の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　3/3



（２）感染症患者等への対応について

問２９　感染症患者等が近所にいた場合、あなたならどうしますか。
あてはまる番号に１つ○をつけてください。





普通に付き合うという人が最も多い

【全体結果】

「普通に付き合う」（57.7%）が６割弱を占めている。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「普通に付き合う」の割合が１割以上増加している。

【属性別結果】（図 10-2 参照）

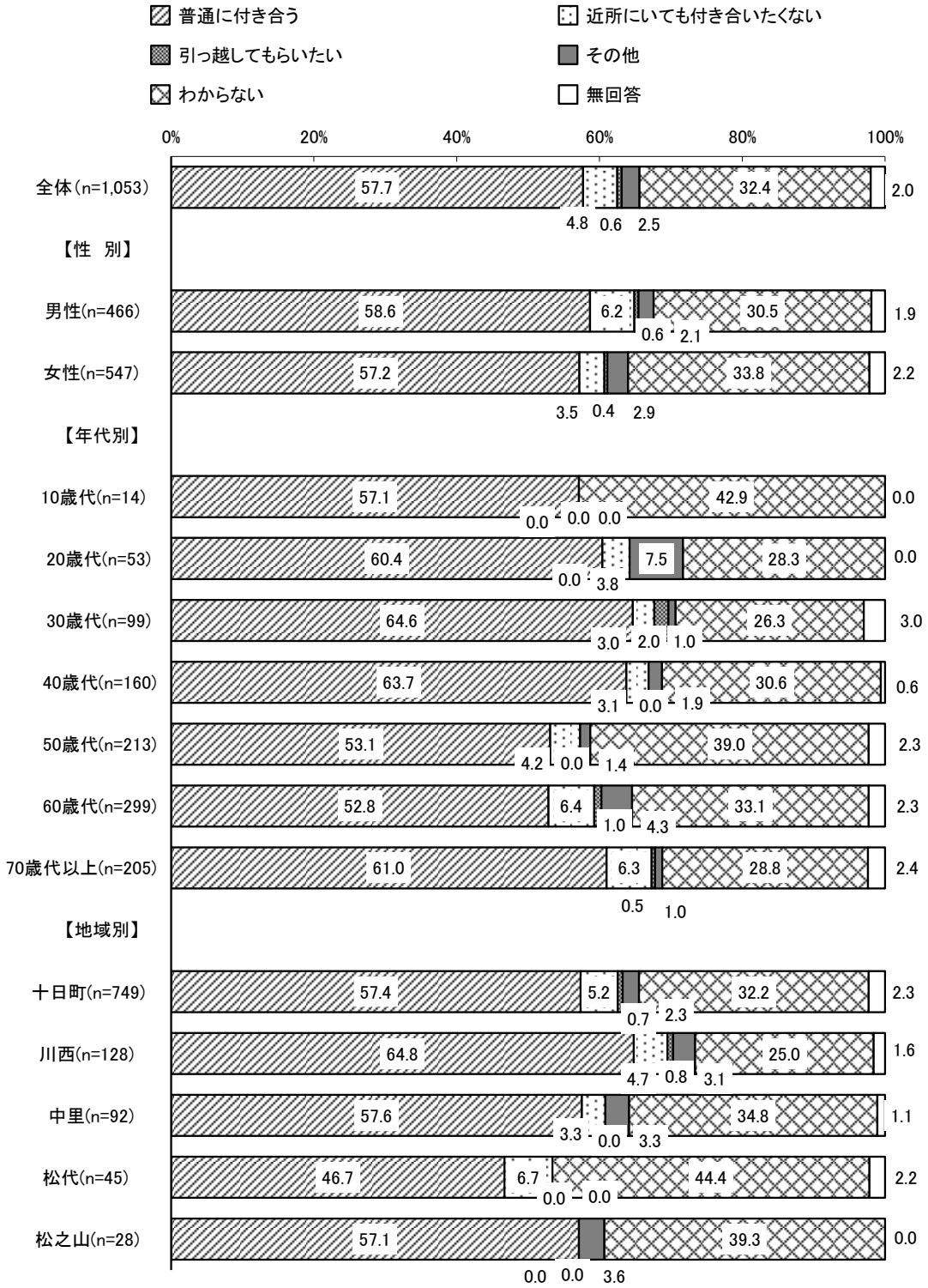
①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

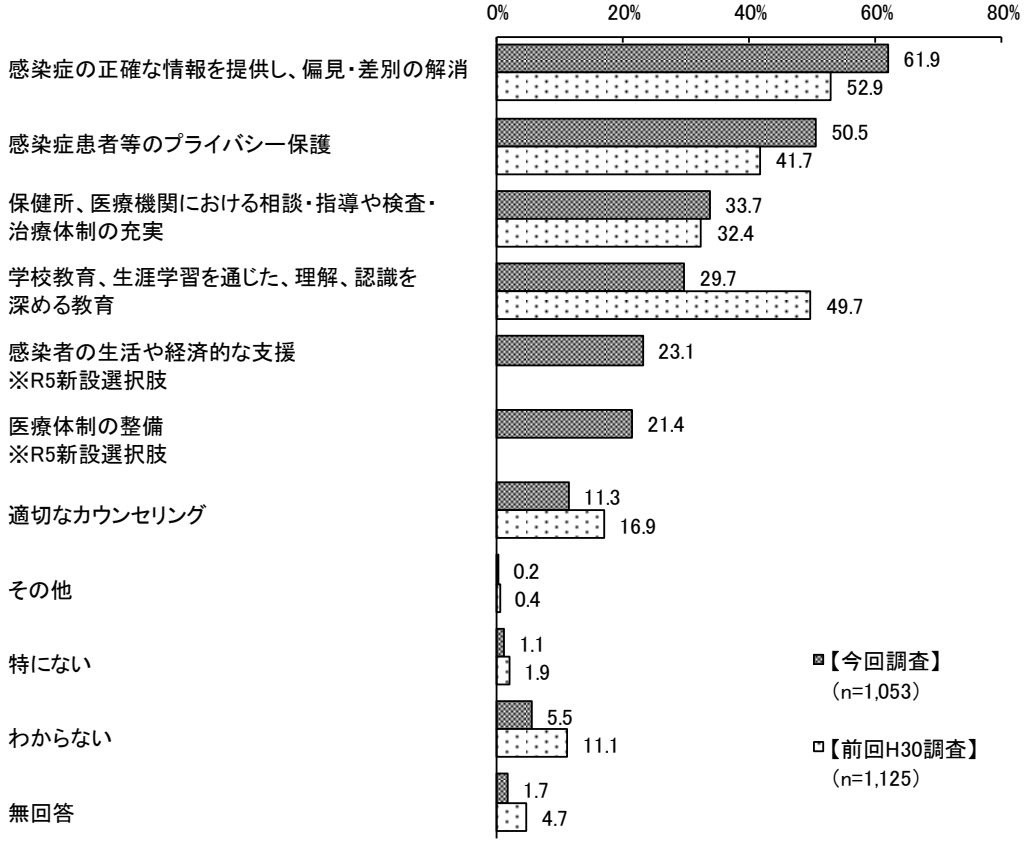
大きな年齢差はみられない。

図１０－２　感染症患者等への対応について（性別／年代別／地区別）



（３）感染症患者等の人権を守るために必要なこと

問３０　あなたは、感染症患者等の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまる番号に３つ以内で〇をつけてください。



―――――― 正確な情報提供や教育が特に求められている ――――――

【全体結果】

「感染症の正確な情報を提供し、偏見・差別の解消」（61.9%）が最も高く、「感染症患者等のプライバシー保護」（50.5%）が５割台で次ぐ。

【前回調査比較】

グラフの掲載のみにとどめる。

【属性別結果】（図 10-3 参照）

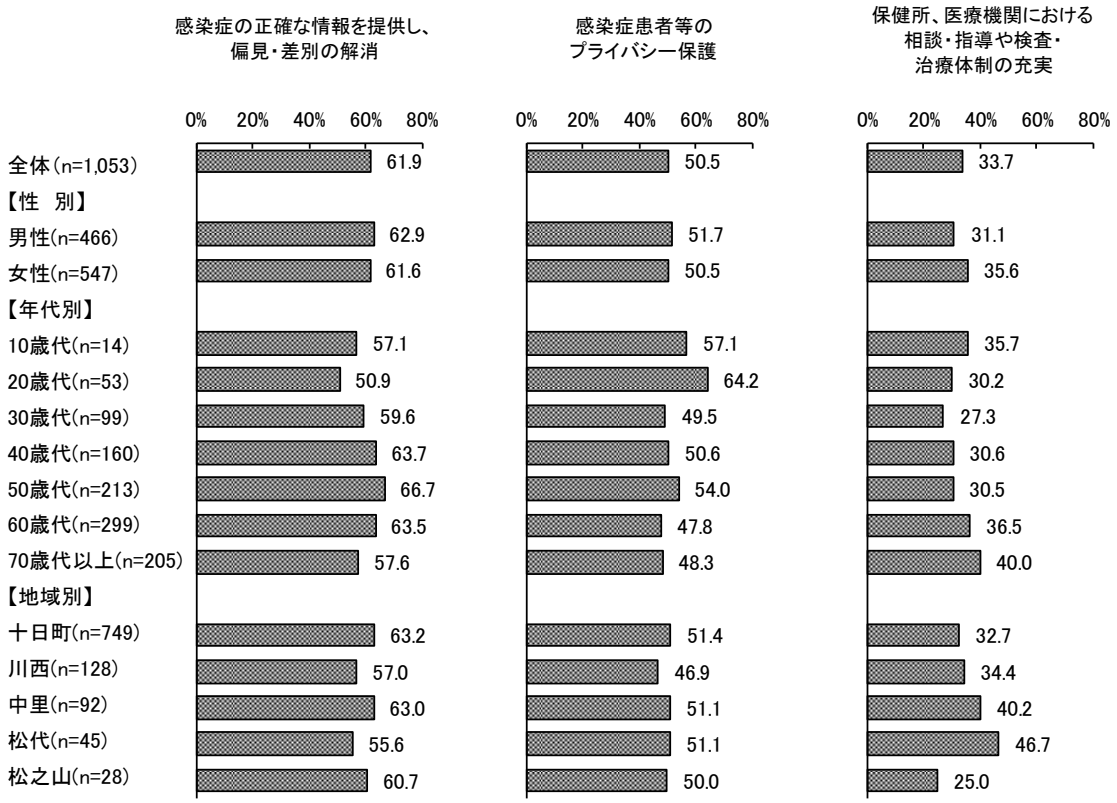
①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

20 歳代（64.2%）では「感染症患者等のプライバシー保護」の割合が高く、６割強となっている。

図１０－３　感染症患者等の人権を守るために必要なこと（性別／年代別／地区別）　1/2



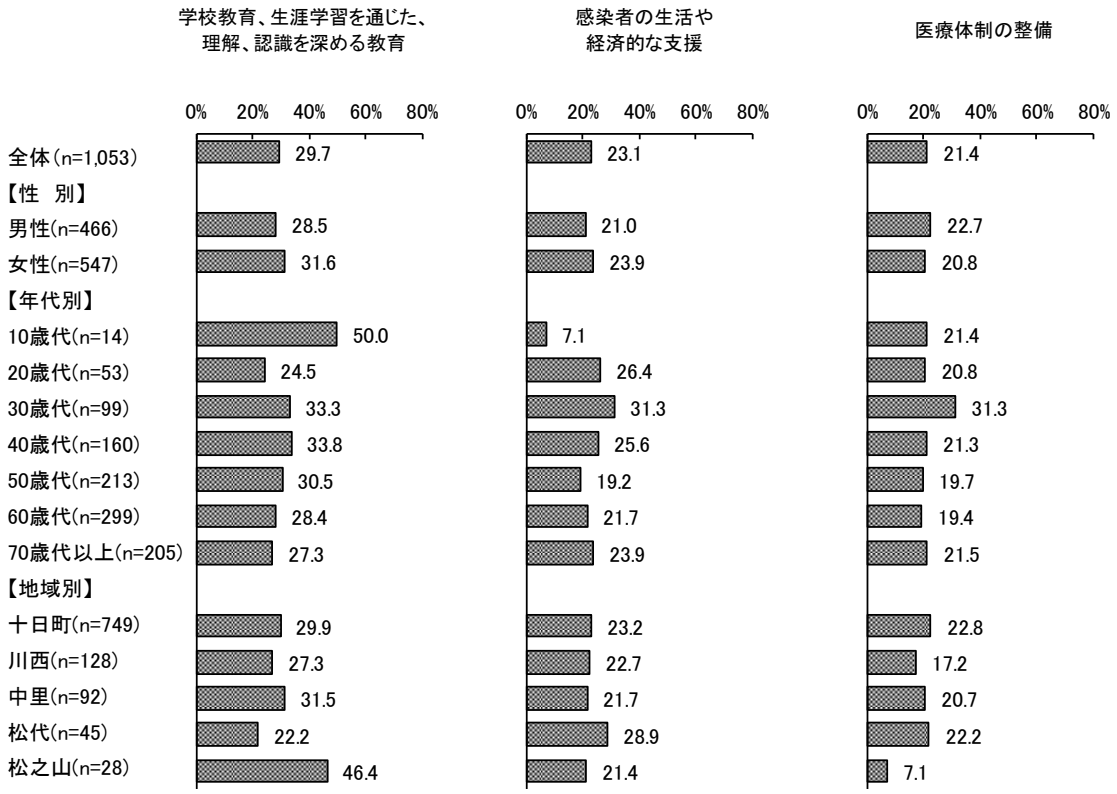
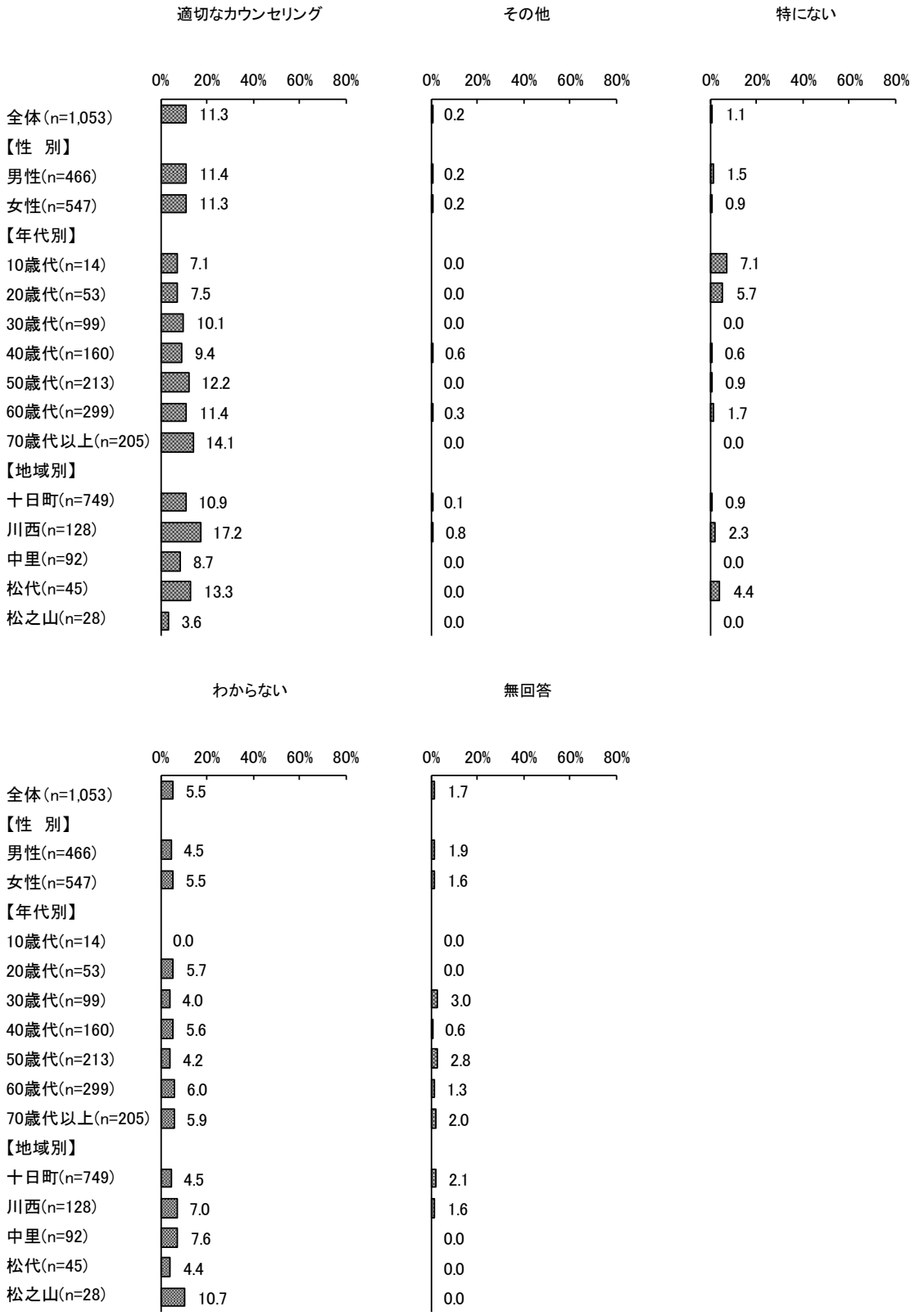


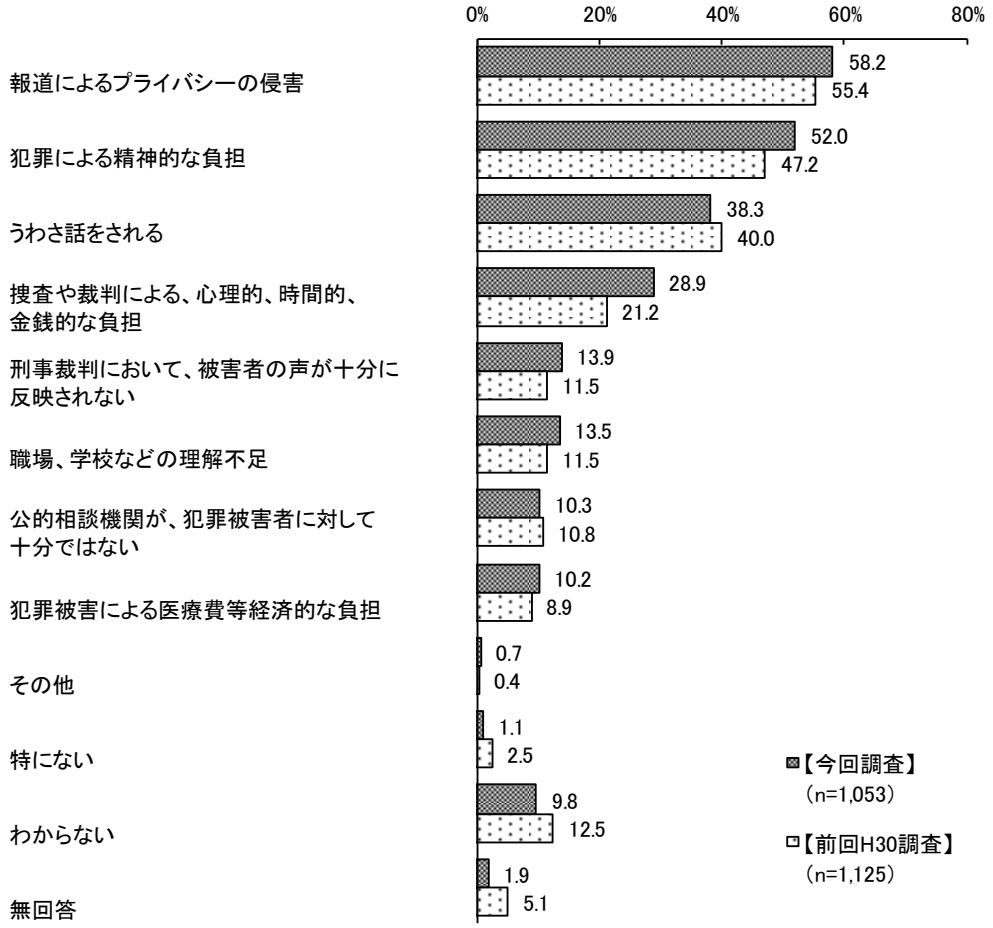
図１０－３　感染症患者等の人権を守るために（性別／年代別／地区別）　2/2



１１．犯罪被害者やその家族の人権について

（１）犯罪被害者やその家族の人権に対する問題点

問３１　犯罪被害者やその家族の人権について、問題があるとあなたが思うことはどのようなことですか。あてはまる番号に３つ以内で〇をつけてください。



最大の問題点はプライバシーの侵害

【全体結果】

「報道によるプライバシーの侵害」（58.2%）、「犯罪による精神的な負担」（52.0%）が高く、次いで「うわさ話をされる」（38.3%）と続く。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 11-1 参照）

①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

20 歳代では「犯罪による精神的な負担」(60.4%)、「うわさ話をされる」(47.2%) の割合が高くなっている。

図１１－１　犯罪被害者やその家族の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　1/2

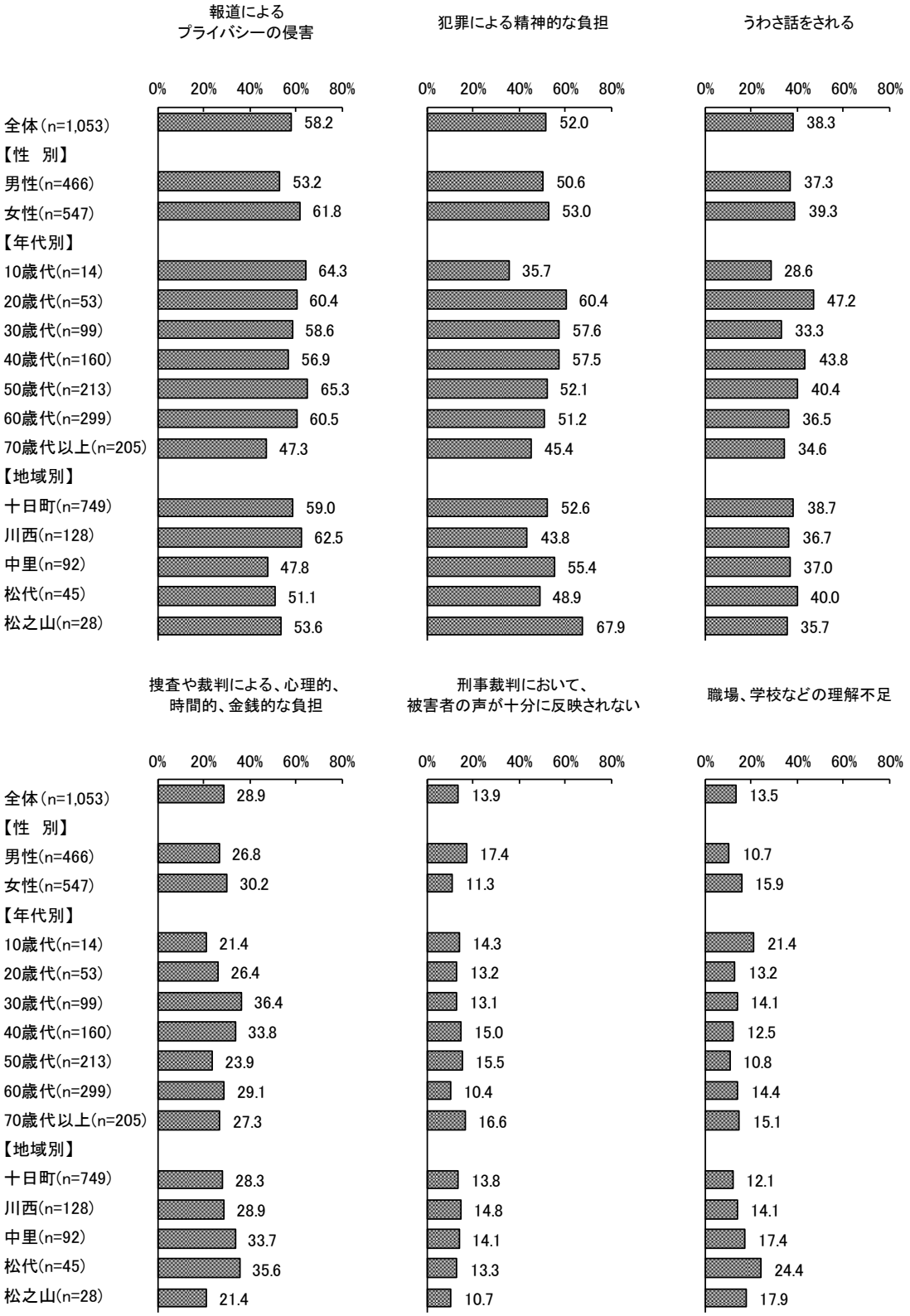
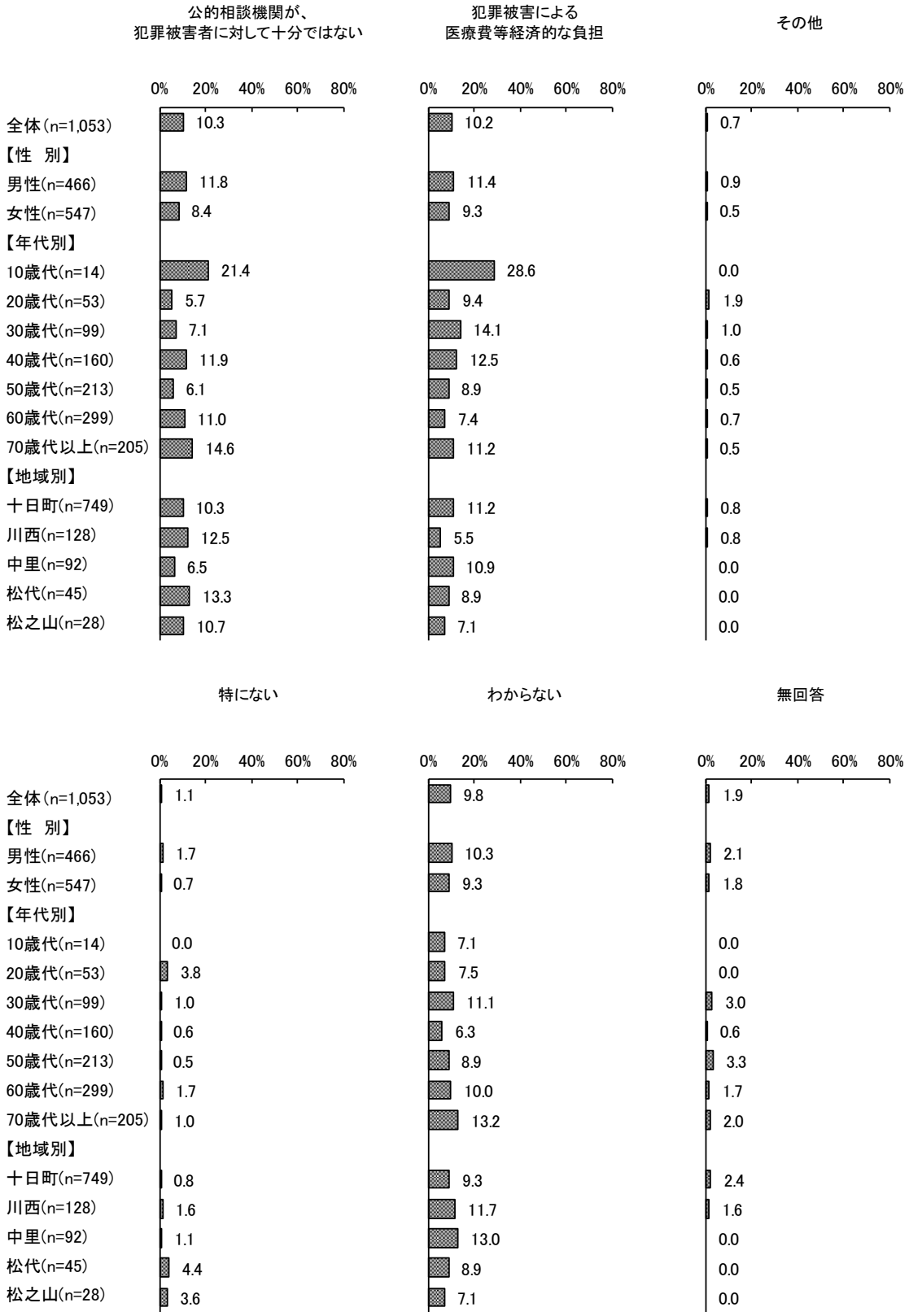
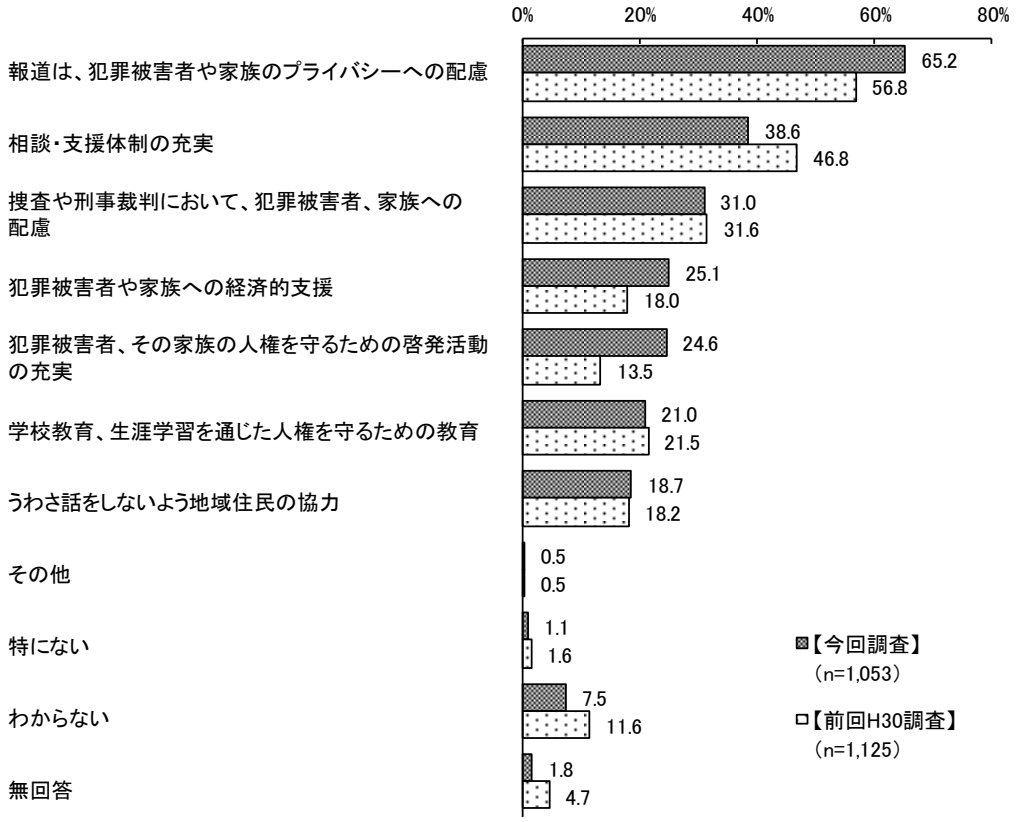


図１１－１　犯罪被害者やその家族の人権に対する問題点（性別／年代別／地区別）　2/2



（２）犯罪被害者やその家族の人権を守るために必要なこと

問３２　犯罪被害者やその家族の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



―――――――― プライバシーへの配慮が求められている ――――――――

【全体結果】

「報道は、犯罪被害者や家族のプライバシーへの配慮」（65.2%）が最も高く、「相談・支援体制の充実」(38.6%)、「捜査や刑事裁判において、犯罪被害者、家族への配慮」(31.0%)が３割台で次ぐ。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 11-2 参照）

①性別

「報道は、犯罪被害者や家族のプライバシーへの配慮」は、女性（68.7%）の方が男性（60.3%）を上回っている。

②年齢別

「報道は、犯罪被害者や家族のプライバシーへの配慮」は 30 歳代（72.7%）で特に高く、７割を超えている。

図１１－２　犯罪被害者やその家族の人権を守るために必要なこと
（性別／年代別／地区別）　1/2

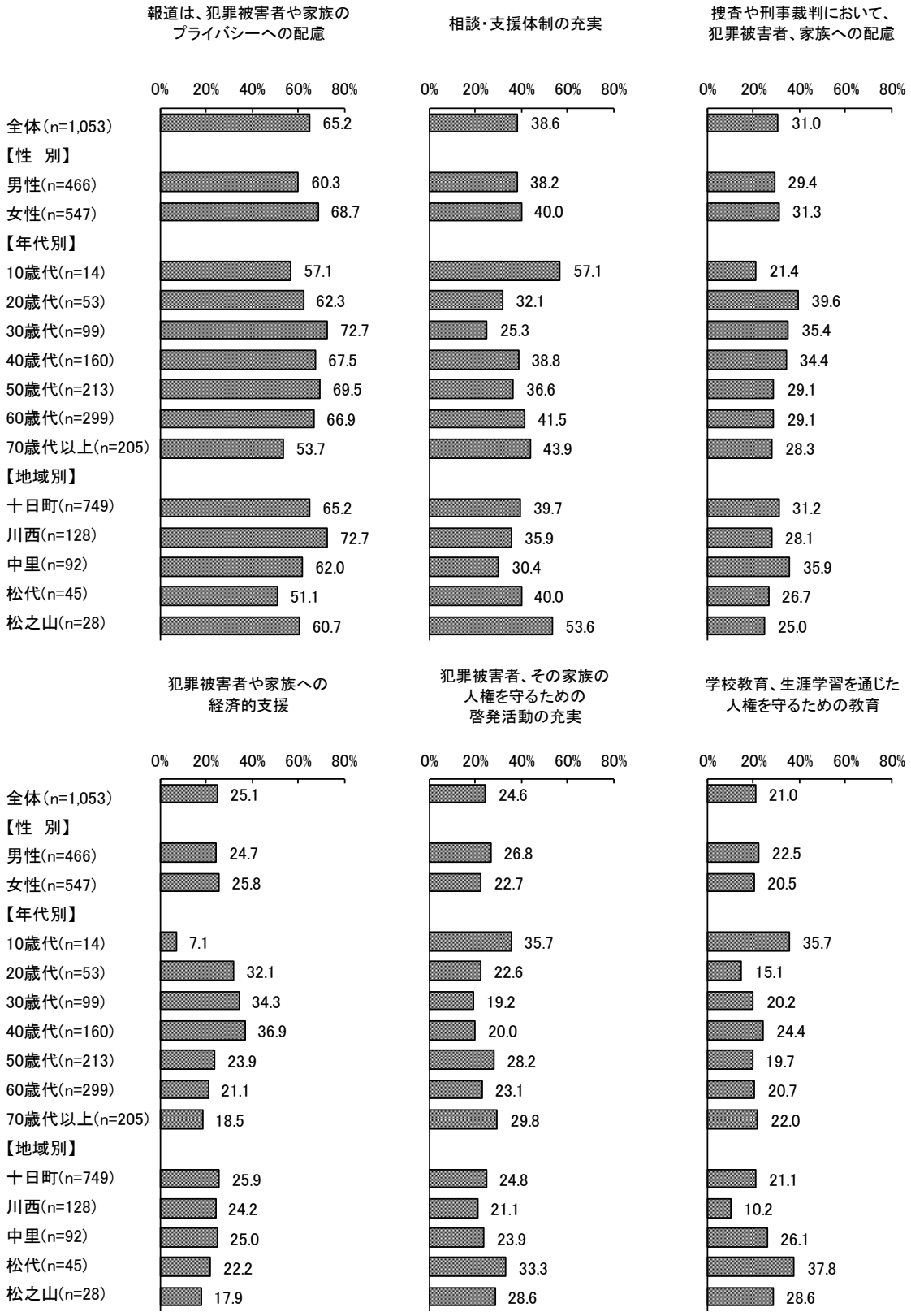
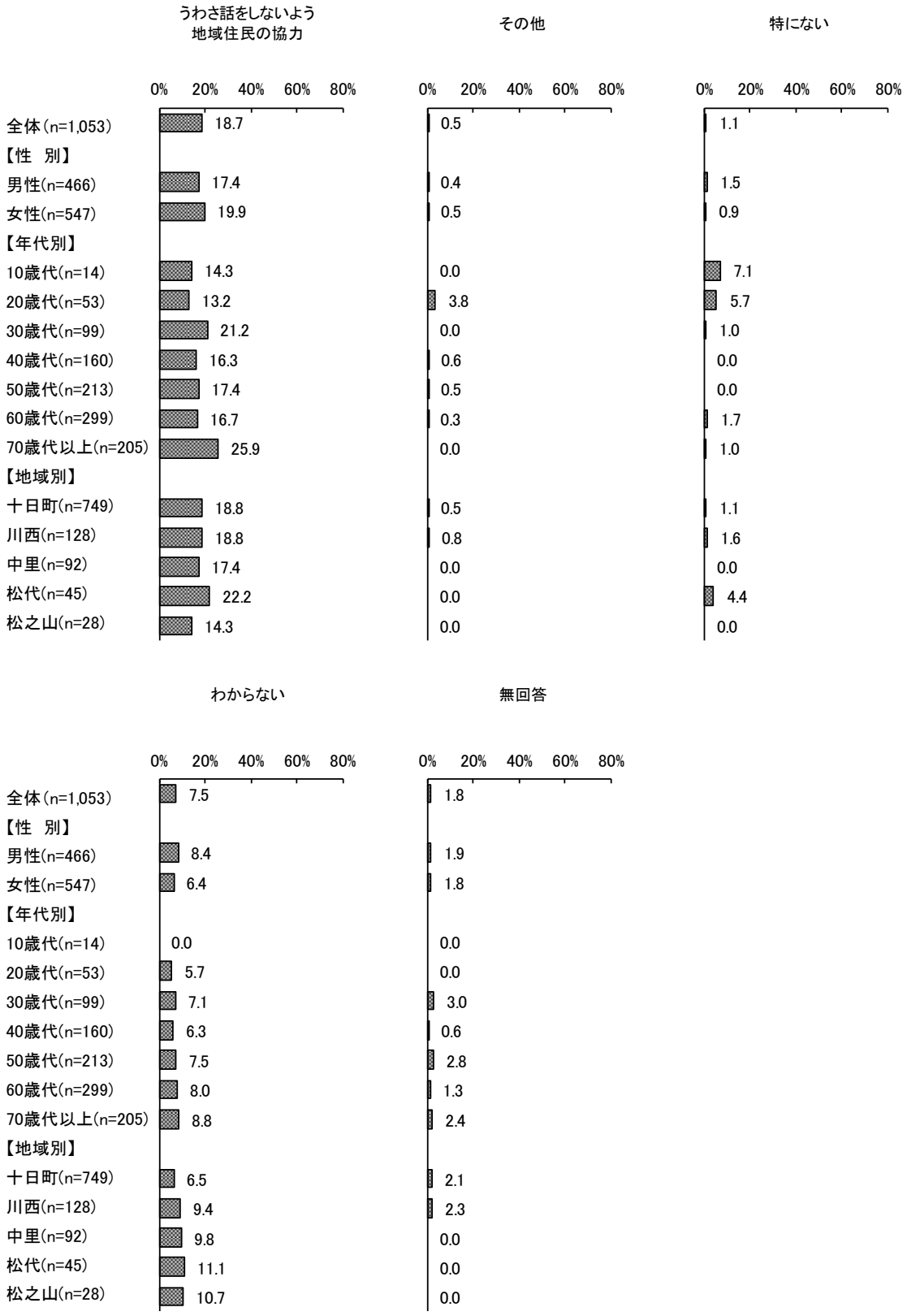


図１１－２　犯罪被害者やその家族の人権を守るために必要なこと

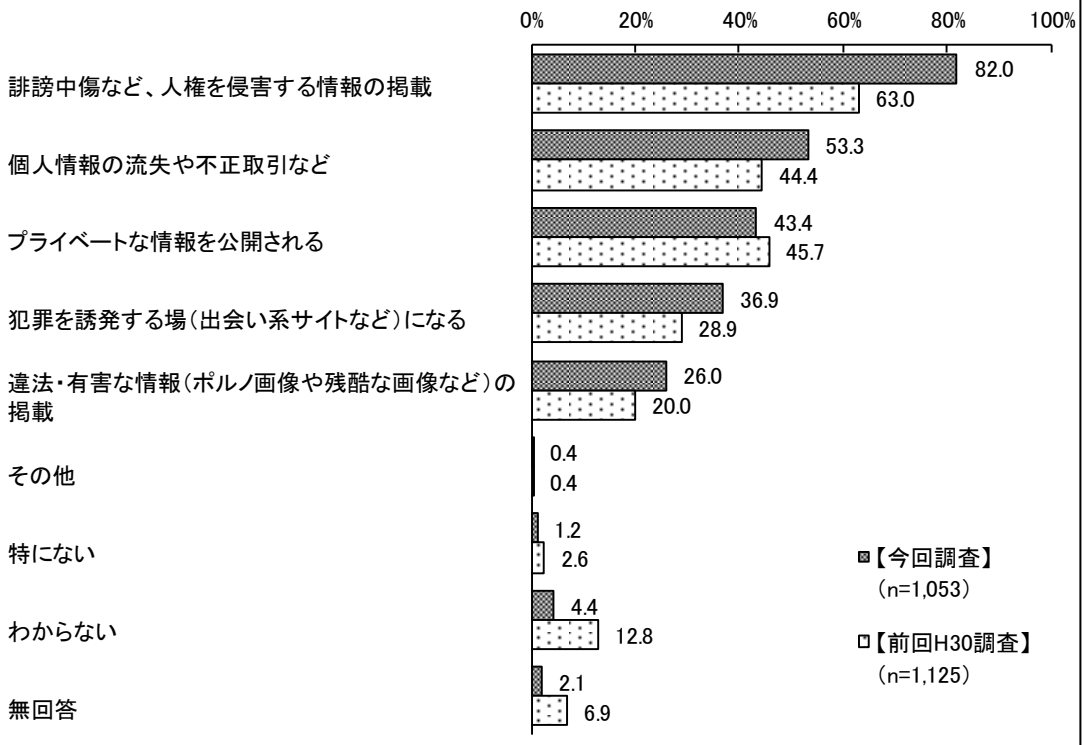
（性別／年代別／地区別）　2/2



１２．インターネット上での人権侵害について

（１）インターネット上の人権に対する問題点

問３３　インターネットによる人権侵害について、問題があるとあなたが思うことはどのようなことですか。　あてはまる番号に３つ以内で〇をつけてください。



―――― 最大の問題点は誹謗中傷等の情報が掲載されていること ――――

【全体結果】

「誹謗中傷など、人権を侵害する情報の掲載」（82.0%）が８割を超えている。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

前回調査と比較して、「誹謗中傷など、人権を侵害する情報の掲載」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 12-1 参照）

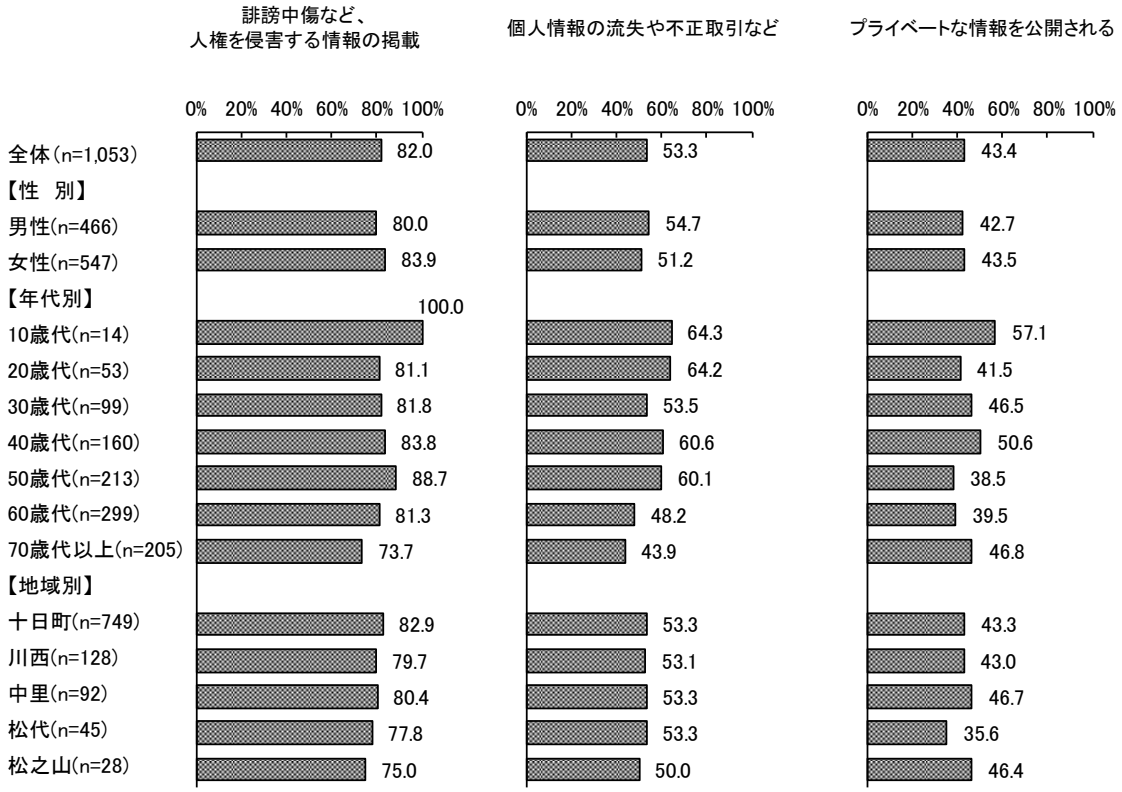
①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

全般的に若年齢層で問題点を多く指摘する傾向がある。

図１２－１　インターネット上の人権に対する問題点　（性別／年代別／地区別）　1/2



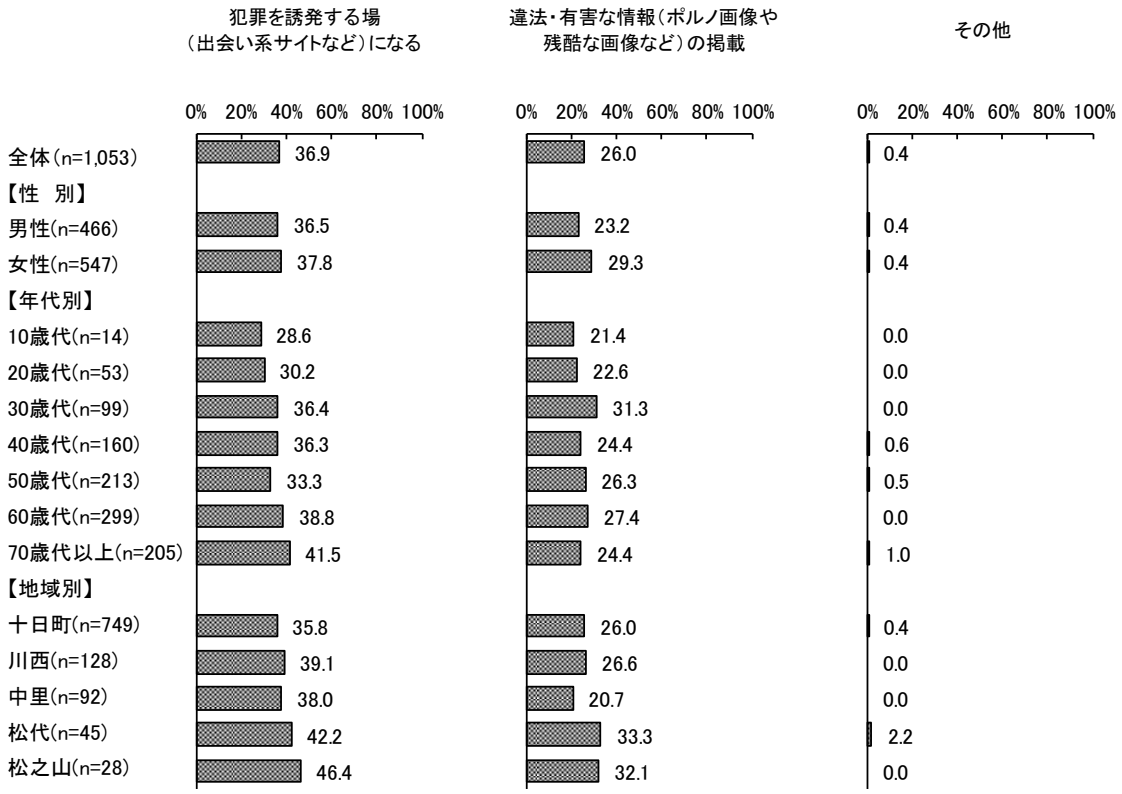
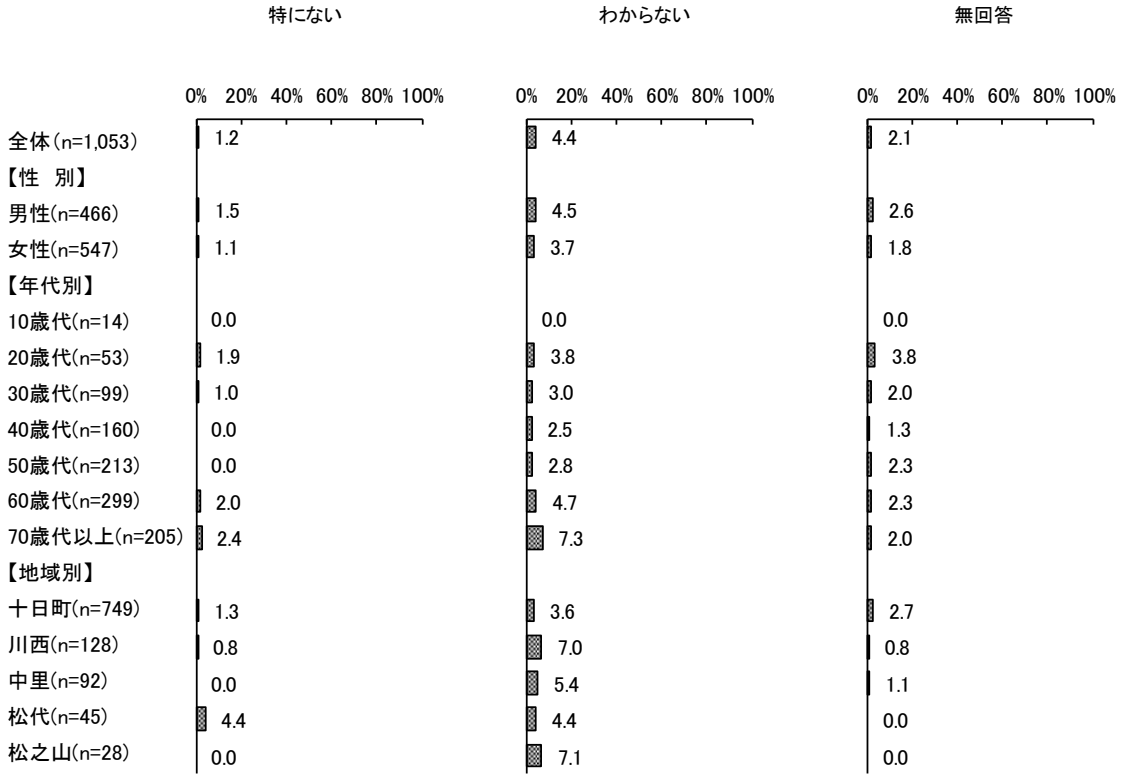
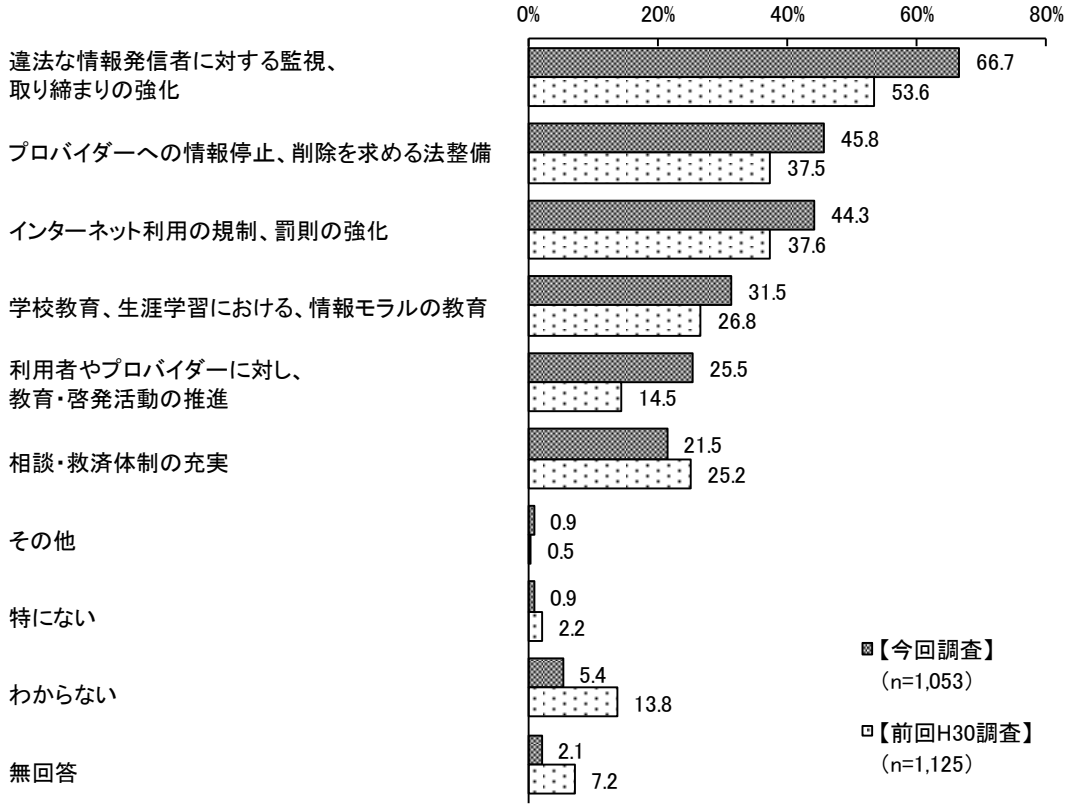


図１２－１　インターネット上の人権に対する問題点　（性別／年代別／地区別）　2/2



（２）インターネット上の人権侵害無くすために必要なこと

問３４　インターネットによる人権侵害を無くすためには、どのようなことが必要だと思いますか。
特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



―――― まずは、監視・取り締まりの強化が求められている ――――

【全体結果】

「違法な情報発信者に対する監視、取り締まりの強化」（66.7%）が最も高く、「プロバイダーへの情報停止、削除を求める法整備」（45.8%）、「インターネット利用の規制、罰則の強化」（44.3%）が４割台で次ぐ。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

前回調査と比較して、「違法な情報発信者に対する監視、取り締まりの強化」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 12-2 参照）

①性別

「インターネット利用の規制、罰則の強化」の割合では、女性（50.3%）の方が男性（37.1%）よりも１割以上高くなっている。

②年齢別

30 歳代以下では「学校教育、生涯学習における、情報モラルの教育」への要望が半数以上となっている。

図１２－２　インターネット上の人権侵害無くすために必要なこと

（性別／年代別／地区別）　1/2

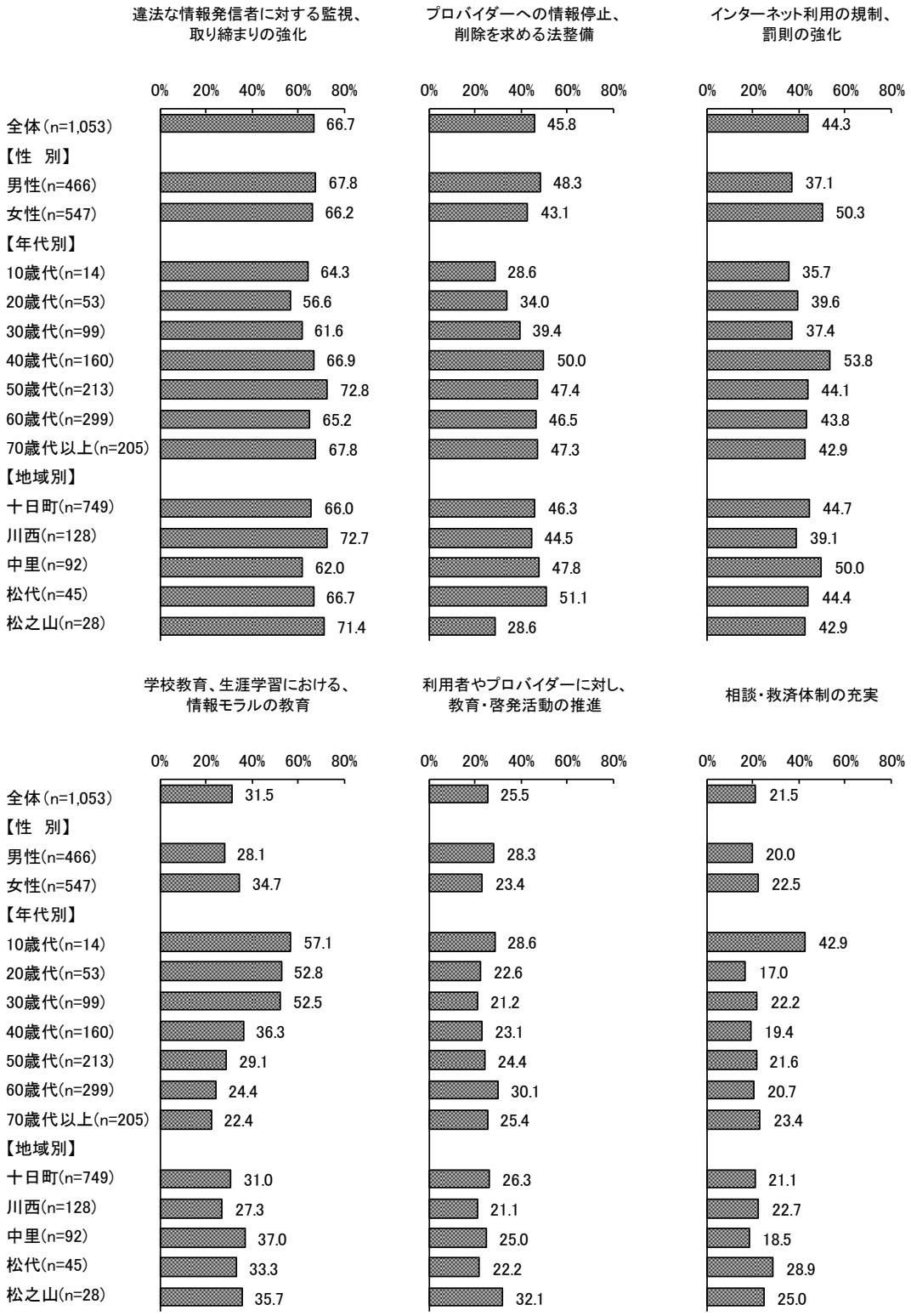
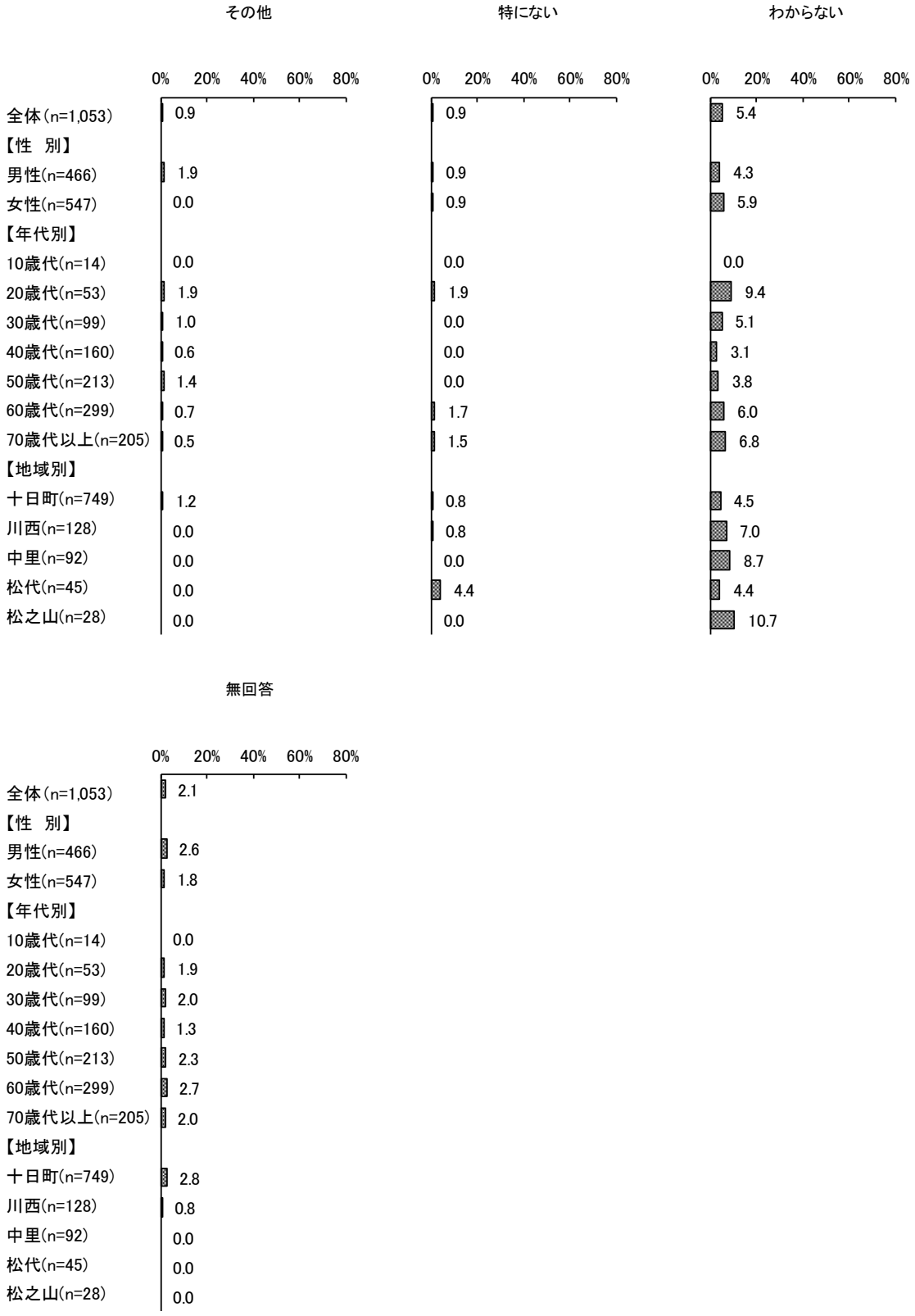


図１２－２　インターネット上の人権侵害無くすために必要なこと

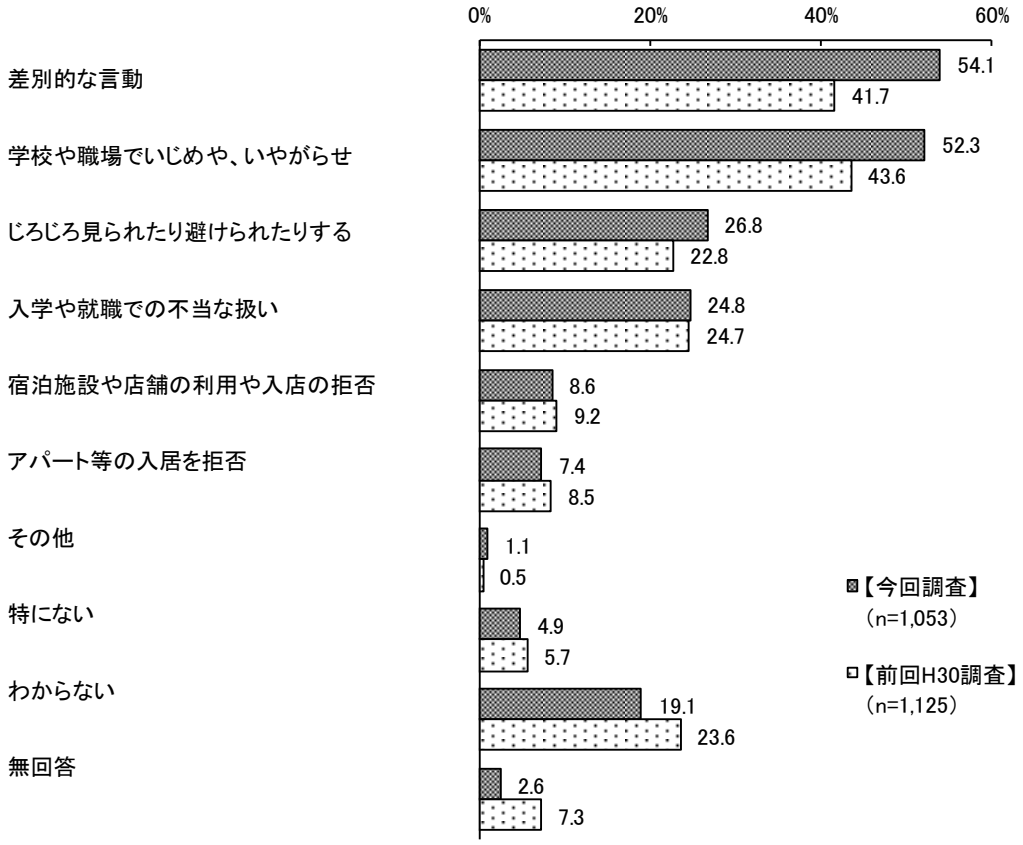
（性別／年代別／地区別）　2/2



１３．性的少数者の人権侵害について

（１）性的少数者の人権に対する問題点

問３５　性的少数者（同性愛者、両性愛者、心と体の性が一致しない人など）の人権侵害について、問題があるとあなたが思うことはどのようなことですか。
あてはまる番号に３つ以内で〇をつけてください。



―――――― 差別的言動や学校・職場でのいじめ等を問題視 ――――――

【全体結果】

「差別的な言動」（54.1%）と「学校や職場でいじめや、いやがらせ」（52.3%）が半数を超えている。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

前回調査と比較して、「差別的な言動」、「学校や職場でいじめや、いやがらせ」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 13-1 参照）

①性別

「学校や職場でいじめや、いやがらせ」の割合は、男性（46.6%）よりも女性（58.5%）の方が１割程度高くなっている。

②年齢別

30 歳代以下では「差別的な言動」、「学校や職場でいじめや、いやがらせ」の割合が高くなっている。

図１３－１　性的少数者の人権に対する問題点　（性別／年代別／地区別）　1/2

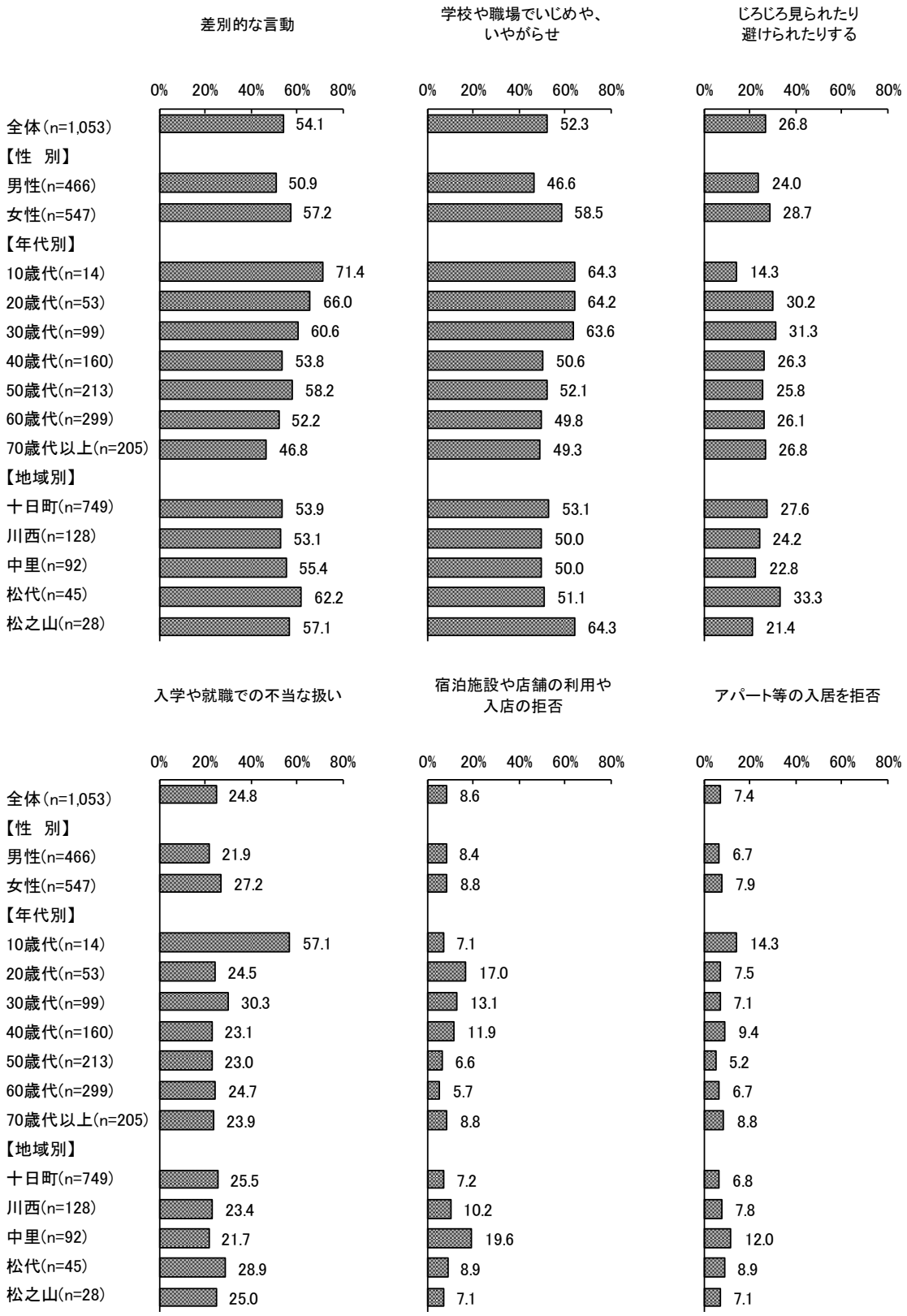
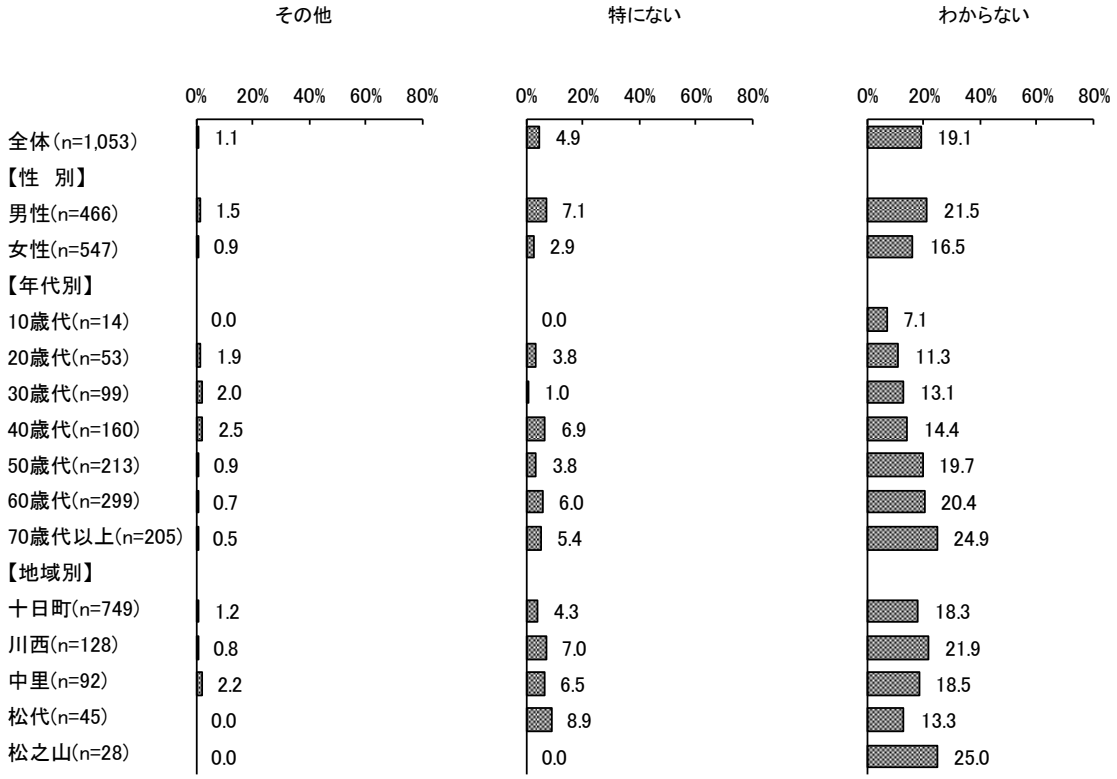
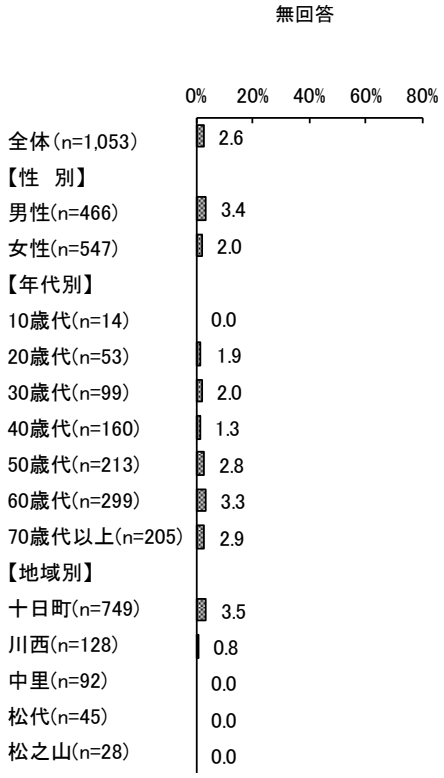


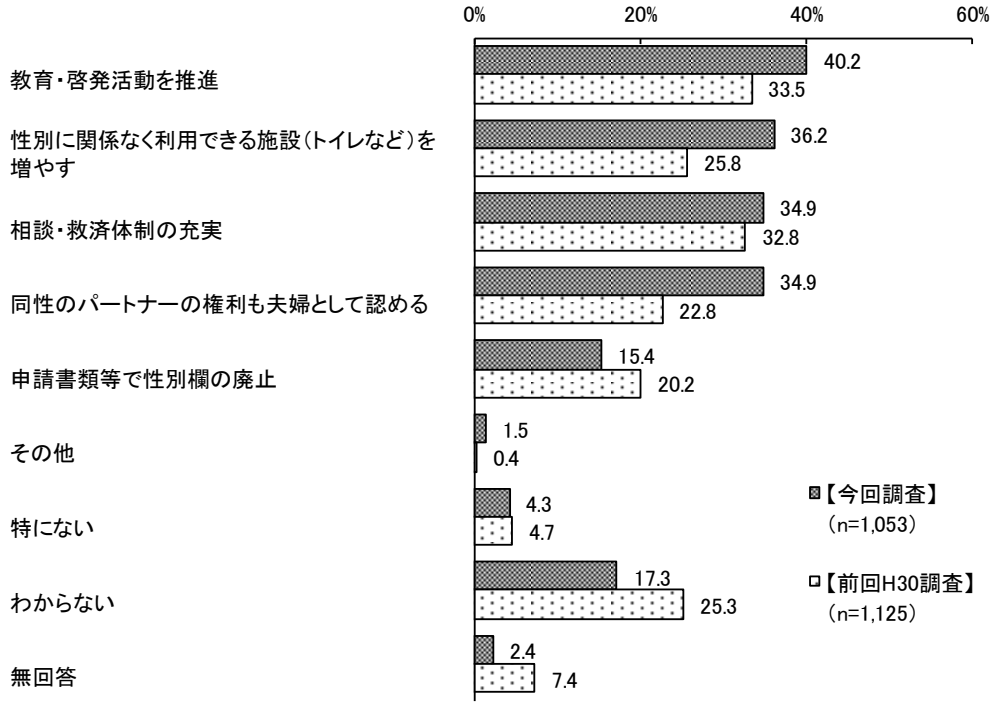
図１３－１　性的少数者の人権に対する問題点　（性別／年代別／地区別）　2/2





（２）性的少数者の人権侵害無くすために必要なこと

問３６　性的少数者の人権侵害を無くすためには、どのようなことが必要だと思いますか。
特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



―――――――― まずは、教育や啓発活動の推進が必要 ――――――――

【全体結果】

「教育・啓発活動を推進」（40.2%）が最も高く、「性別に関係なく利用できる施設（トイレなど）を増やす」（36.2%）、「相談・救済体制の充実」（34.9%）、「同性のパートナーの権利も夫婦として認める」（34.9%）が３割台で続く。

【前回調査比較】

前回調査と比較して、「性別に関係なく利用できる施設（トイレなど）を増やす」、「同性のパートナーの権利も夫婦として認める」の割合が大きく増加している。

【属性別結果】（図 13-2 参照）

①性別

「同性のパートナーの権利も夫婦として認める」の割合は、男性（28.1%）よりも女性（39.9%）の方が１割以上高くなっている。

②年齢別

20 歳代では「同性のパートナーの権利も夫婦として認める」（64.2%）が第一位の回答となっている。

図１３－２　性的少数者の人権侵害無くすために必要なこと

（性別／年代別／地区別）　1/2

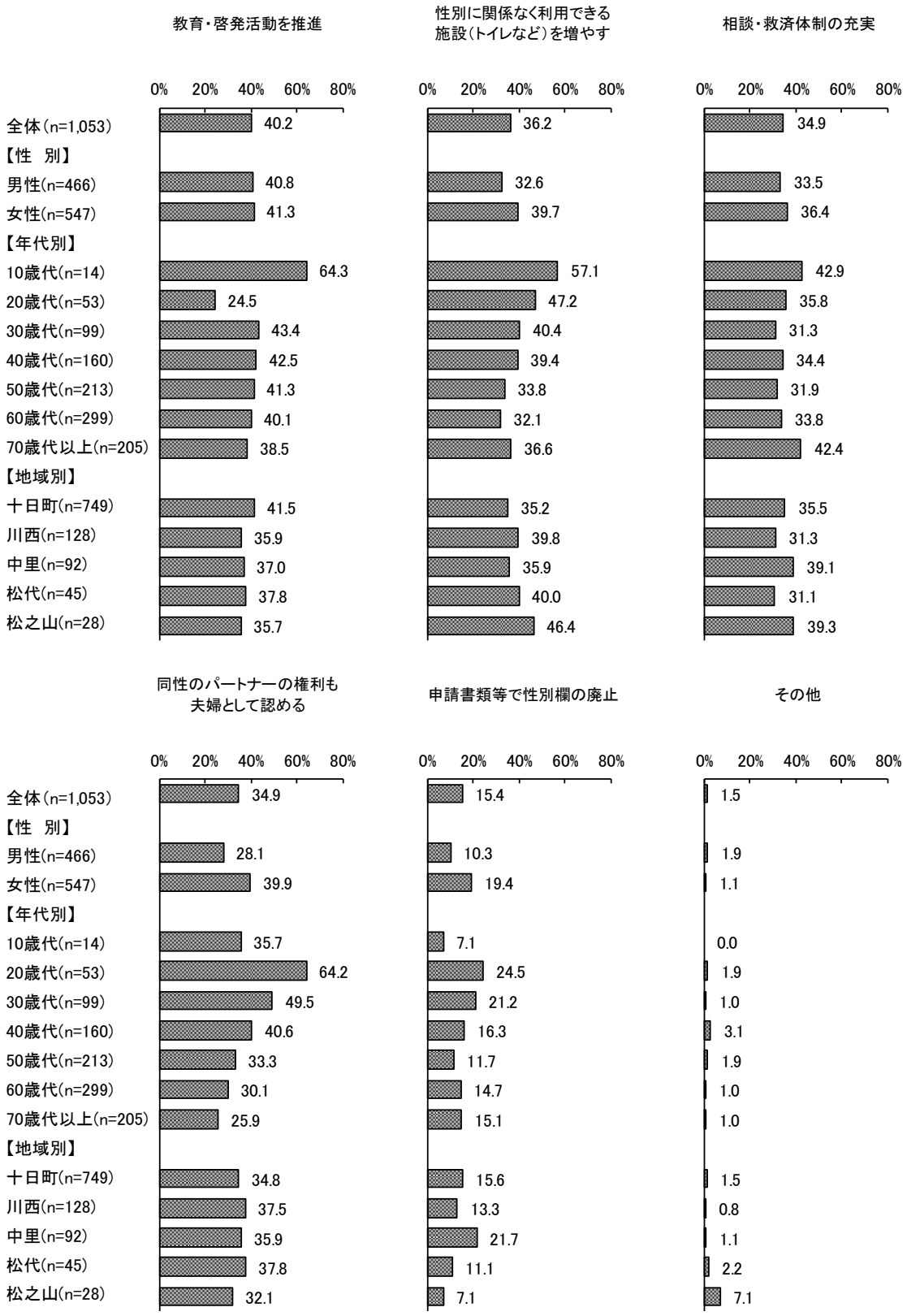
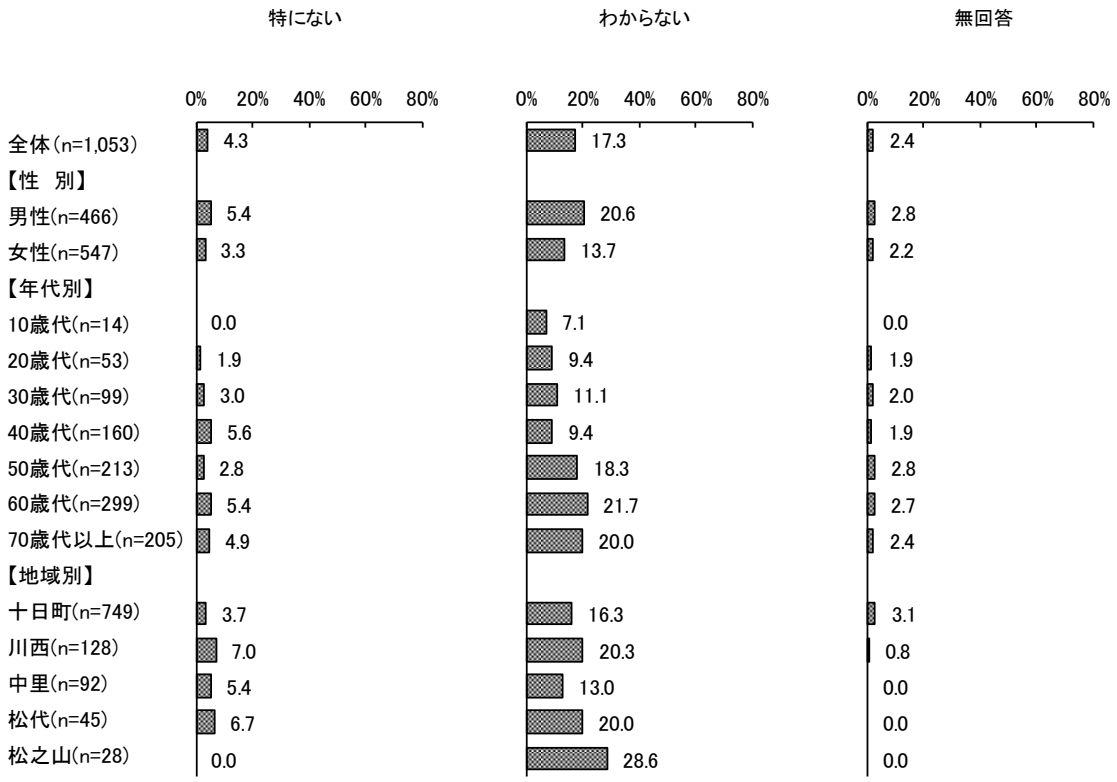


図１３－２　性的少数者の人権侵害無くすために必要なこと

（性別／年代別／地区別）　2/2

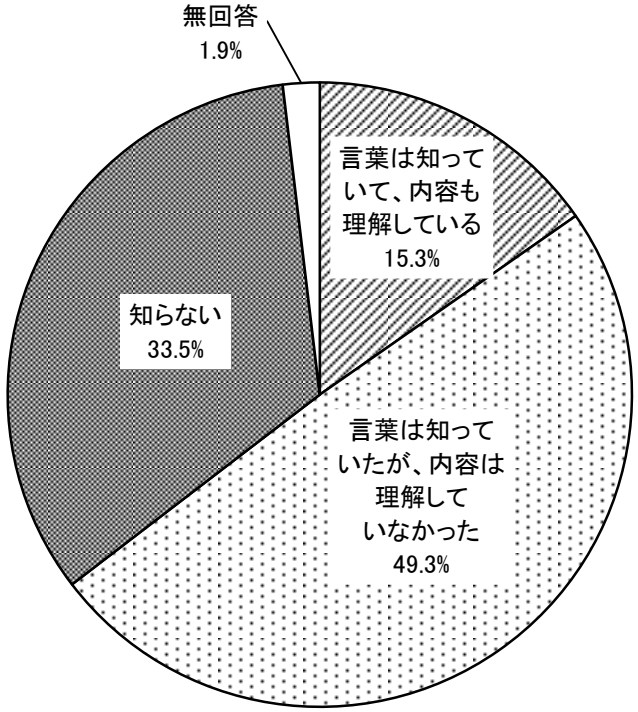


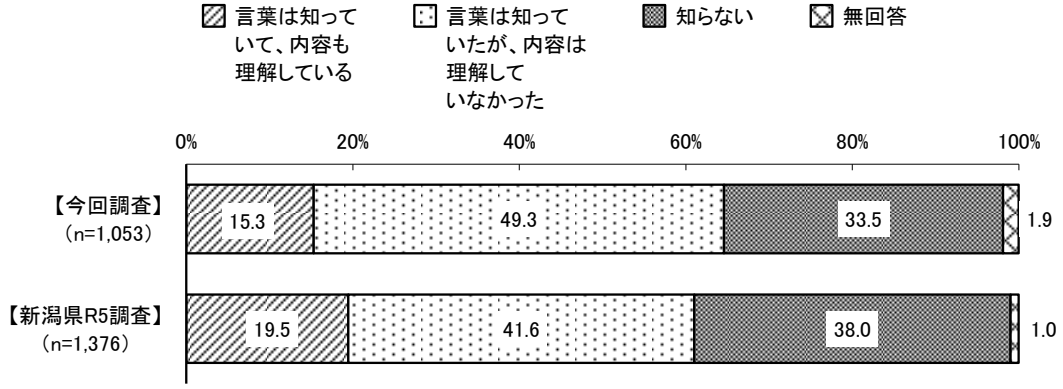
１４．パートナーシップ宣誓制度について

（１）パートナーシップ宣誓制度の認知

問３７　あなたはパートナーシップ宣誓制度を知っていましたか。
あてはまる番号に１つ〇をつけてください。

全体（n=1,053）





言葉のみの認知が半数弱

【全体結果】

「言葉は知っていたが、内容は理解していなかった」（49.3%）が約半数を占めている。

【県の調査比較】

県の「性の多様性等に係る県民意識調査」と比較して、「言葉は知っていて、内容も理解している」と「言葉は知っていたが、内容は理解していなかった」を合わせた『知っている』の割合がやや高くなっている。

【属性別結果】（図 14-1 参照）

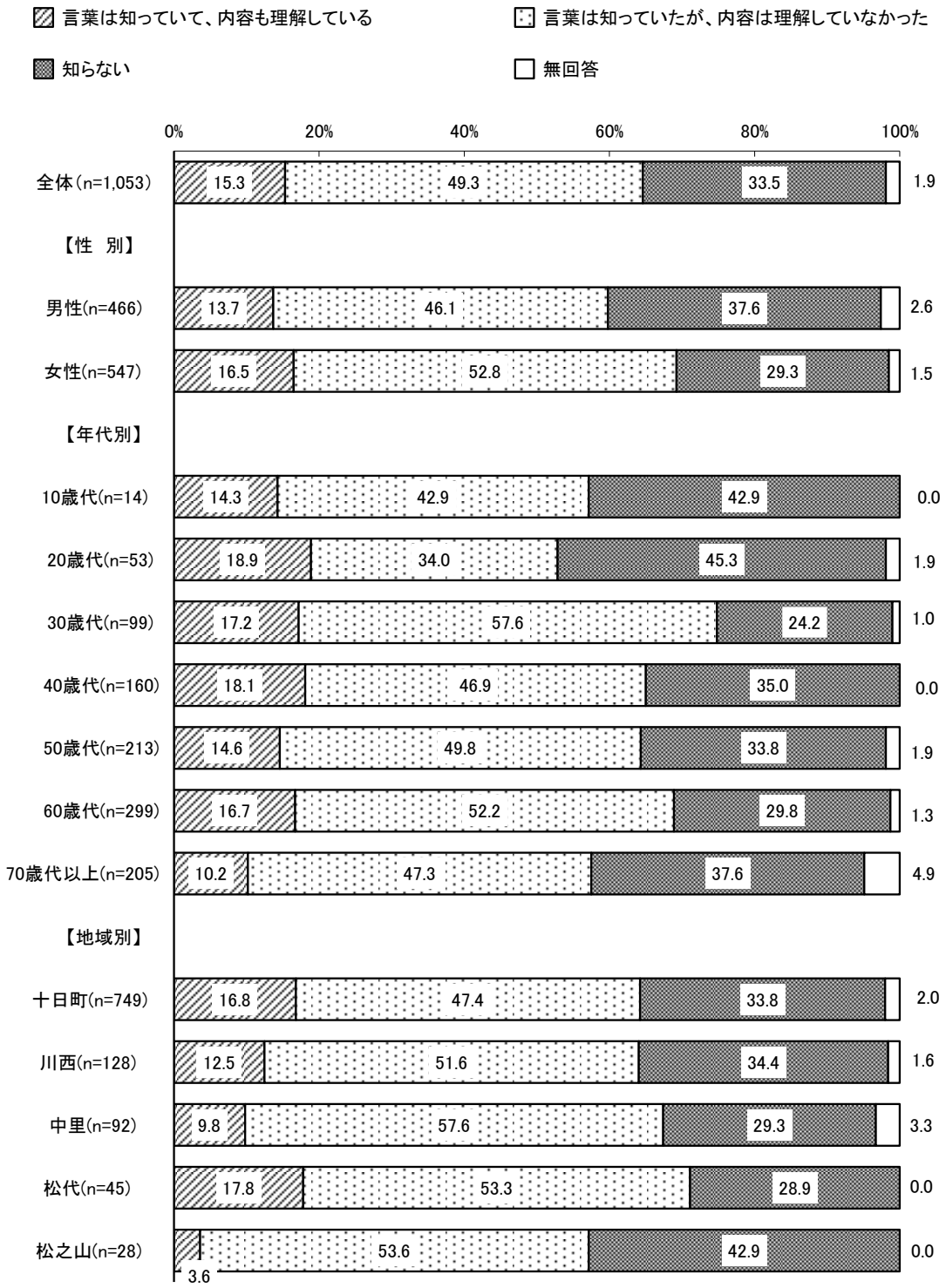
① 性別

「知らない」は、女性（29.3%）よりも男性（37.6%）の方が高くなっている。

② 年齢別

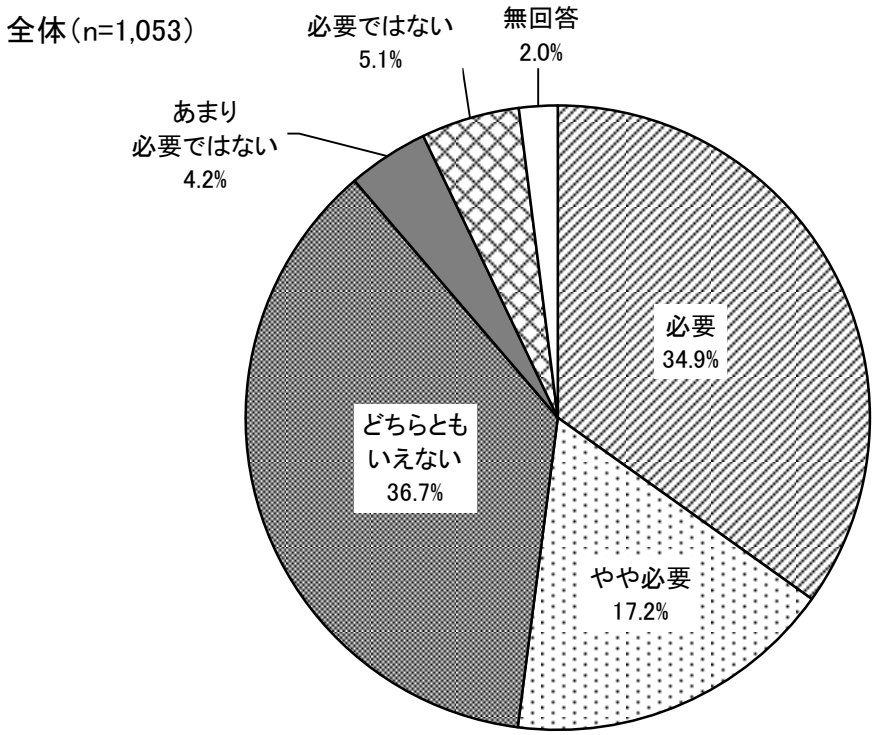
30 歳代では『知っている』（74.8%）が７割強を占めている。

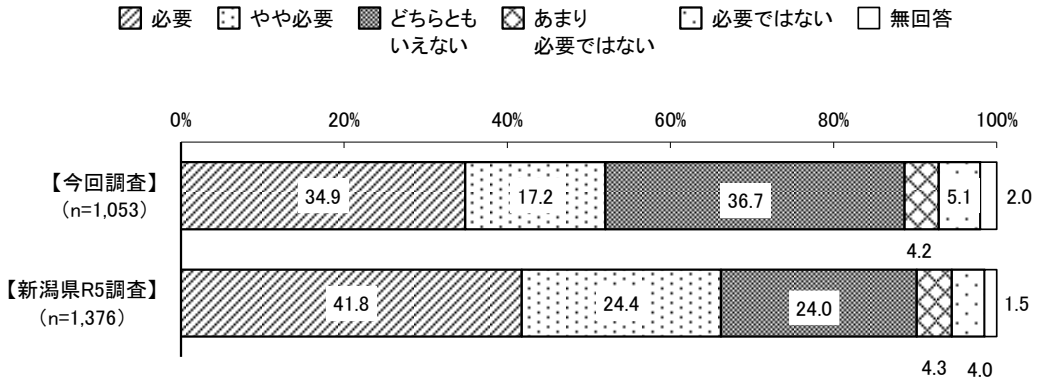
図１４－１　パートナーシップ宣誓制度の認知　（性別／年代別／地区別）



（２）パートナーシップ宣誓制度の必要性

問３８　十日町市もパートナーシップ宣誓制度を導入する必要があるか、あなたの考えを教えてください。あてはまる番号に１つ〇をつけてください。





半数以上が制度を必要と考えている

【全体結果】

「必要」（34.9%）が最も高く、「やや必要」（17.2%）を含めると、半数強を占めている。

【県の調査比較】

県の「性の多様性等に係る県民意識調査」と比較して、必要と考えている割合は、１割以上低くなっている。

【属性別結果】（図 14-2 参照）

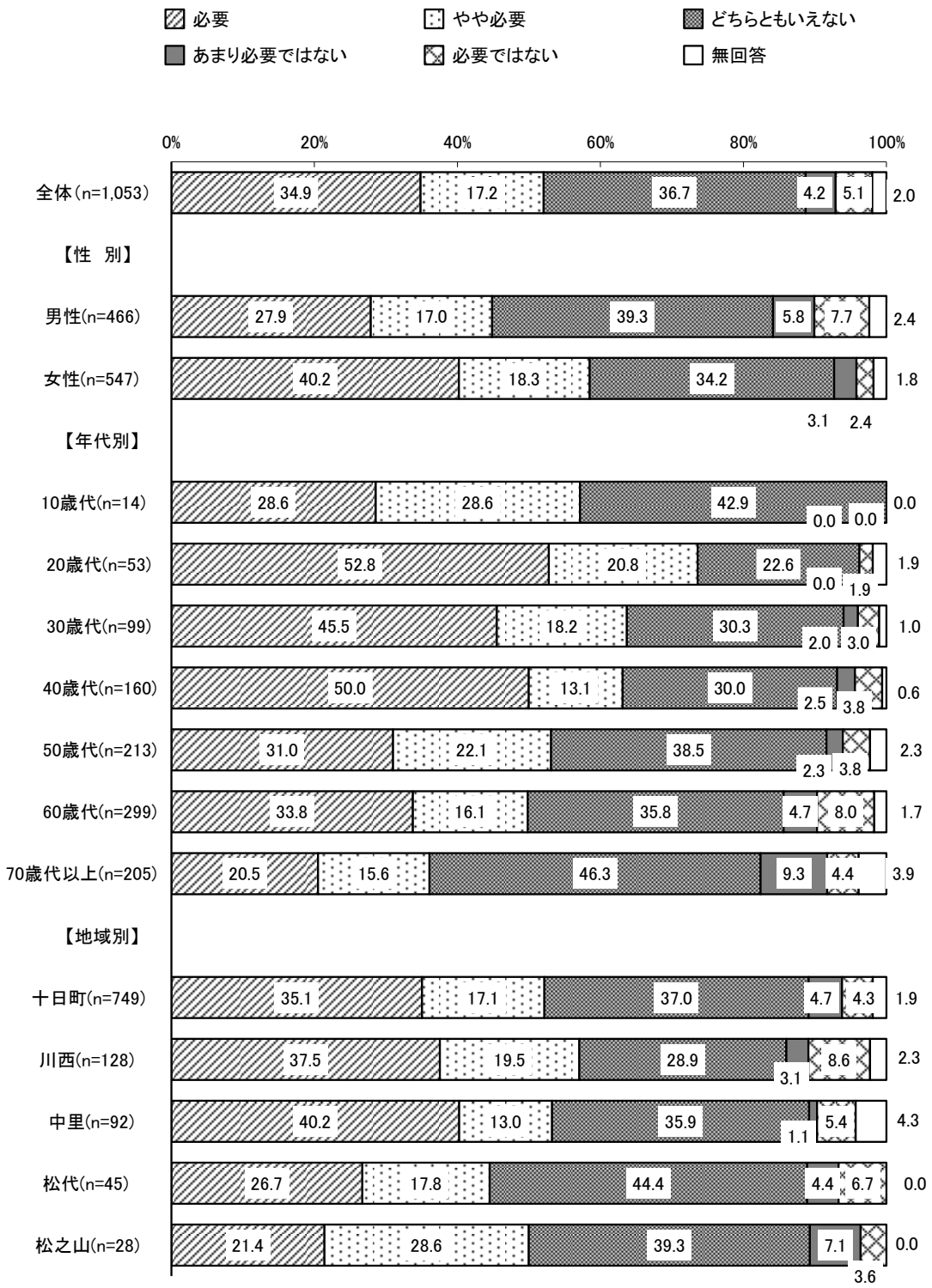
①性別

必要と考えている割合は、男性（44.9%）よりも女性（58.5%）の方が１割以上高くなっている。

②年齢別

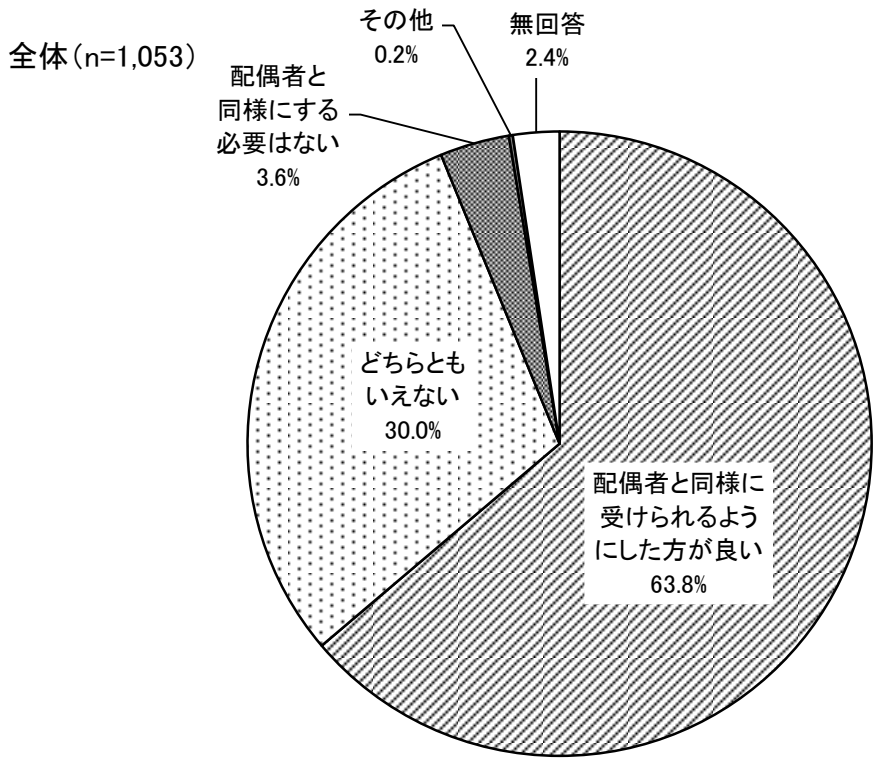
20 歳代では「必要」（52.8%）が最も高く、７割程度が必要と考えている。

図１４－２　パートナーシップ宣誓制度の必要性　（性別／年代別／地区別）



（３）公的サービスの利用について

問３９　公営住宅の入居条件や公立病院での手術同意等、公的サービスの利用にあたり、パートナーシップ宣誓制度の証明を受けた方を「配偶者と同様」にサービスを受けられるようにすることについて、あなたの考えを教えてください。あてはまる番号に１つ○をつけてください。



――――――　６割以上が配偶者と同様のサービス利用を推奨　――――――

【全体結果】

「配偶者と同様に受けられるようにした方が良い」（63.8%）が最も多く、６割強を占めている。

【属性別結果】（図 14-3 参照）

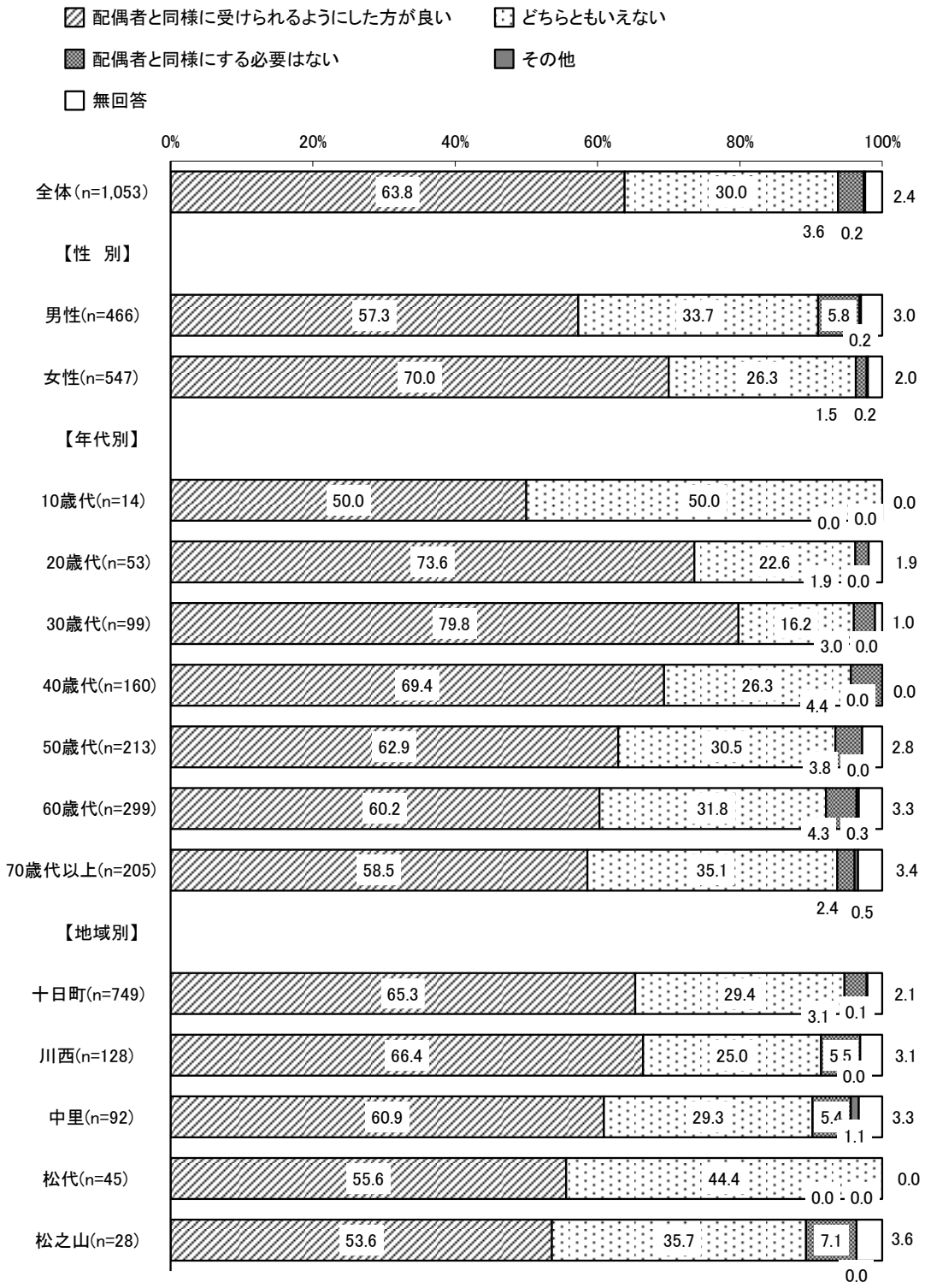
①性別

「配偶者と同様に受けられるようにした方が良い」の割合は、男性（57.3%）よりも女性（70.0%）の方が高くなっている。

②年齢別

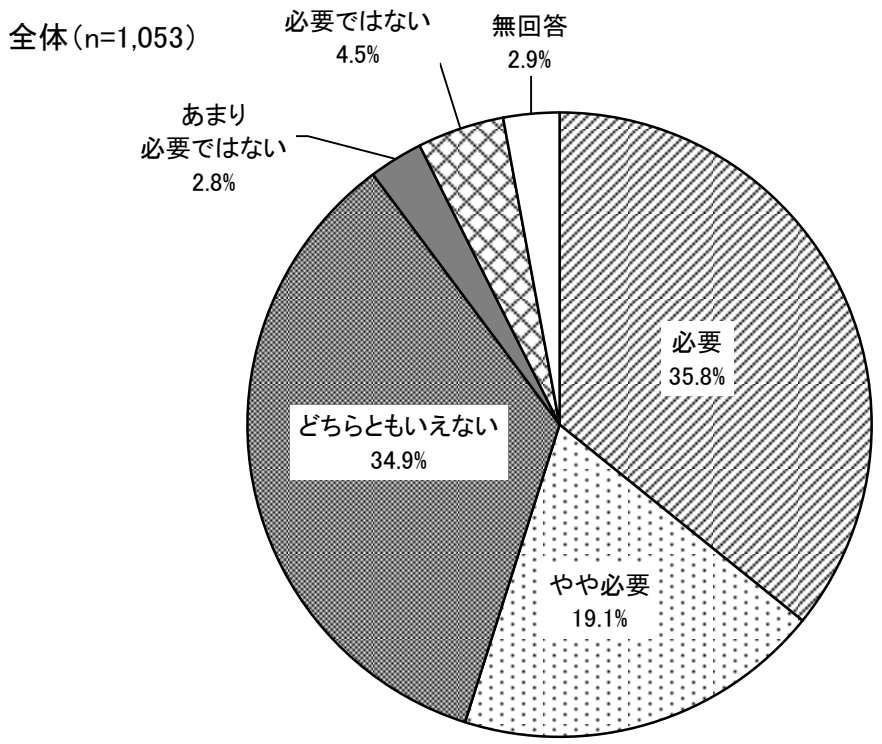
「配偶者と同様に受けられるようにした方が良い」の割合は 30 歳代（79.8%）で最も高く、約８割を占めている。

図１４－３　公的サービスの利用について　（性別／年代別／地区別）



（４）ファミリーシップ制度の必要の有無

問４０　十日町市もパートナーシップ宣誓制度に加えて「ファミリーシップ制度」を導入する必要があるか、あなたの考えを教えてください。あてはまる番号に１つ○をつけてください。



―――――――― 半数以上が制度を必要と考えている ――――――――

【全体結果】

「必要」（35.8%）が最も高く、「やや必要」（19.1%）を含めると、半数強を占めている。

【属性別結果】（図 14-4 参照）

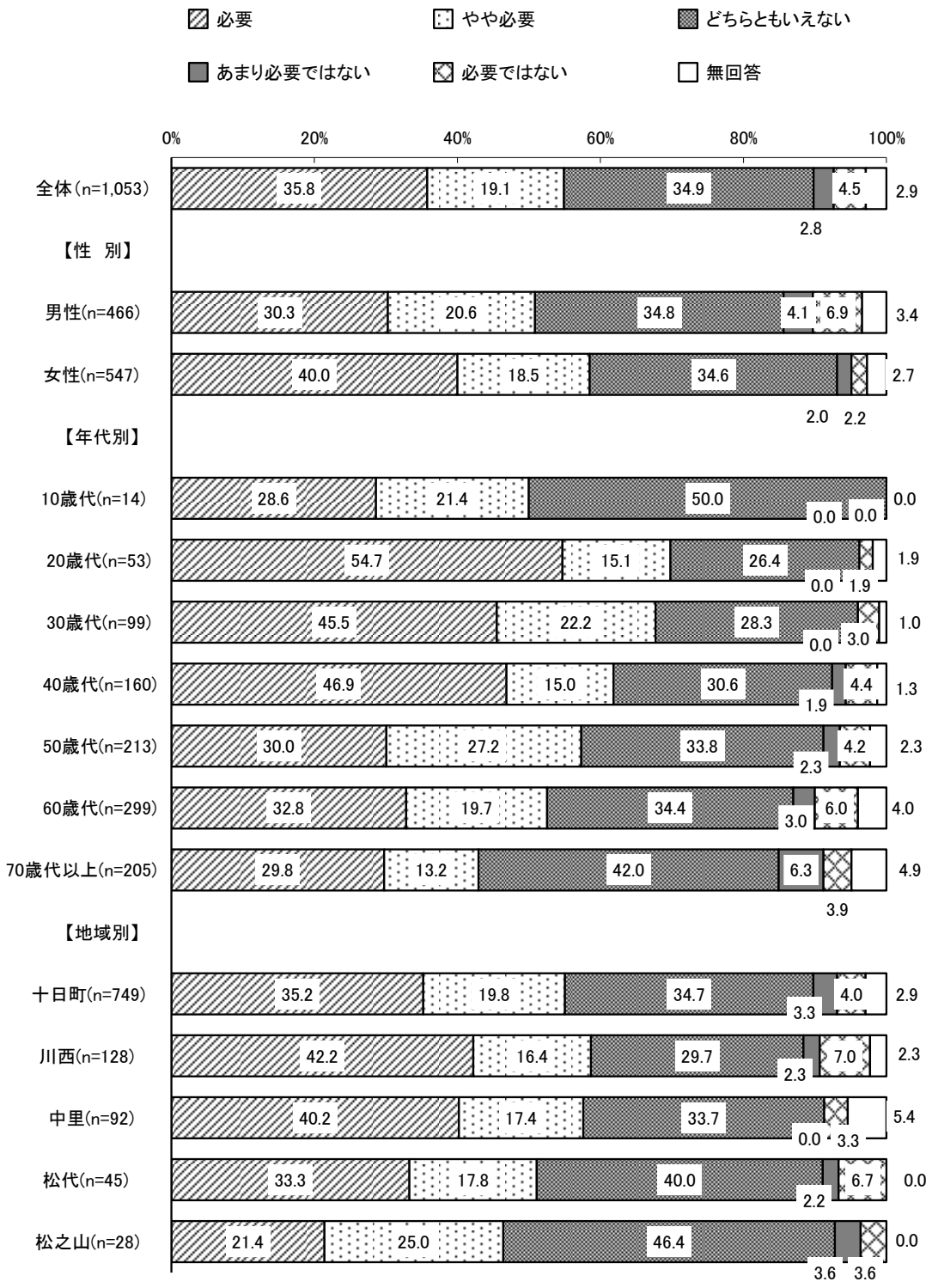
①性別

必要と考えている割合は、男性（50.9%）よりも女性（58.5%）の方が高くなっている。

②年齢別

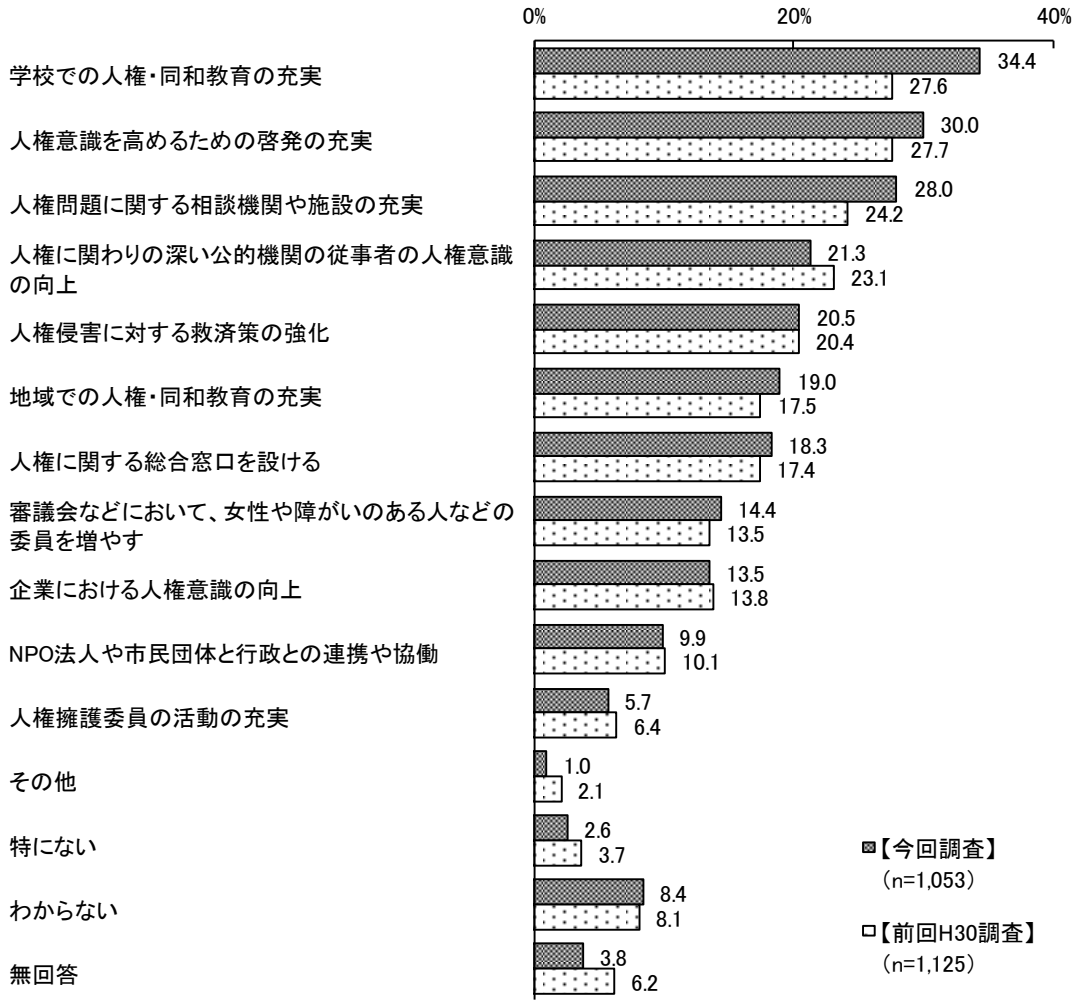
20 歳代では「必要」（54.7%）が最も高く、７割程度が必要と考えている。

図１４－４　性的少数者の人権侵害無くすために必要なこと　（性別／年代別／地区別）



１５．人権を守るための活動について

問４２　十日町市が進めている「人にやさしいまちづくり」を実現するためには、今後どのような取り組みが必要と思いますか。特に大切だと思うものの番号に３つ以内で〇をつけてください。



――――――　多岐・多方面への取り組みが求められている　――――――

【全体結果】

「学校での人権・同和教育の充実」（34.4%）を筆頭に様々な取り組みが求められている。

【前回調査比較】

上位項目は前回調査とほぼ同じ傾向がみられる。

【属性別結果】（図 15-1 参照）

①性別

大きな男女差はみられない。

②年齢別

60 歳代以上では「人権意識を高めるための啓発の充実」が第一位の回答となっている。

図１５－１　人権を守るための活動について　（性別／年代別／地区別）　1/3

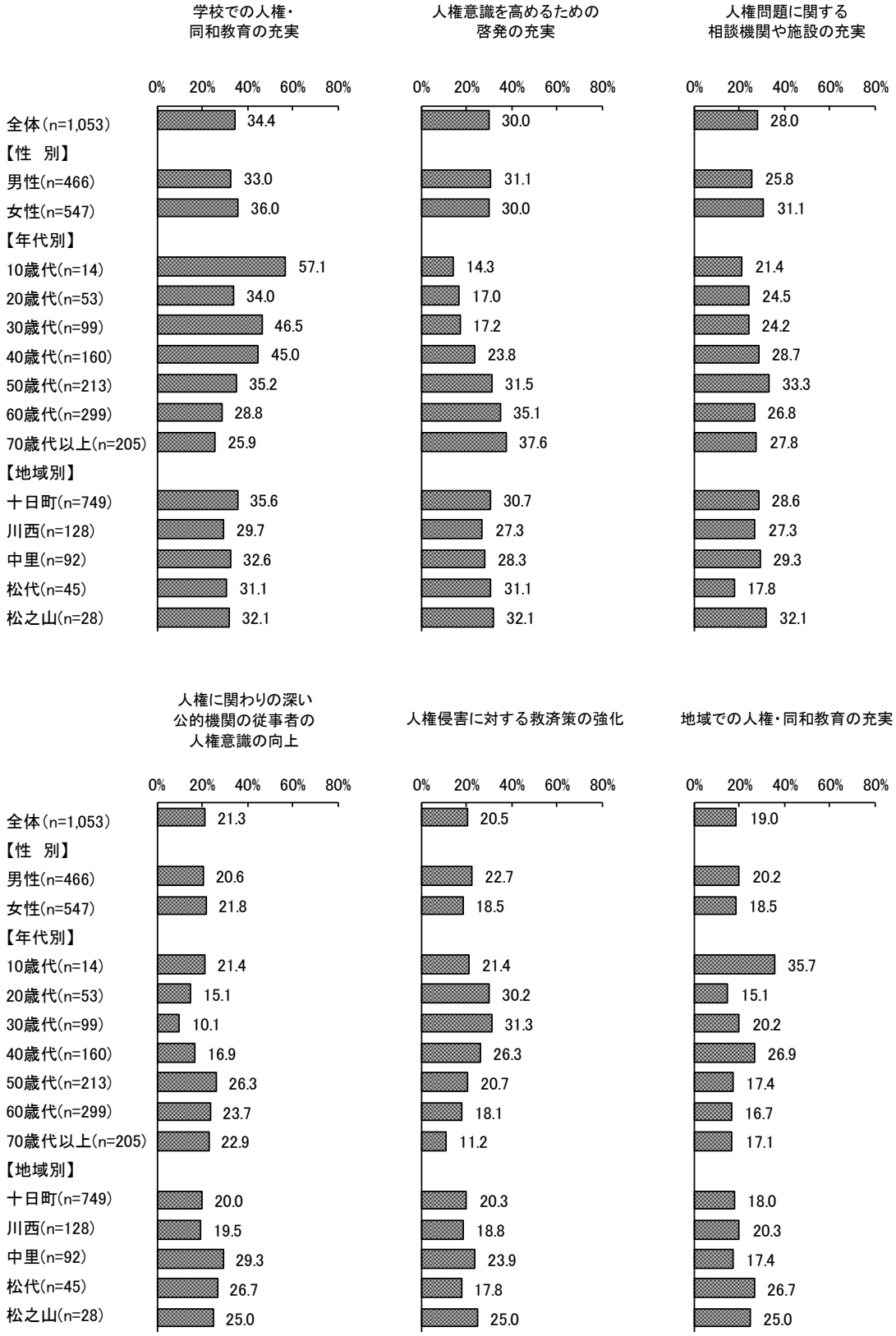


図１５－１　人権を守るための活動について　（性別／年代別／地区別）　2/3

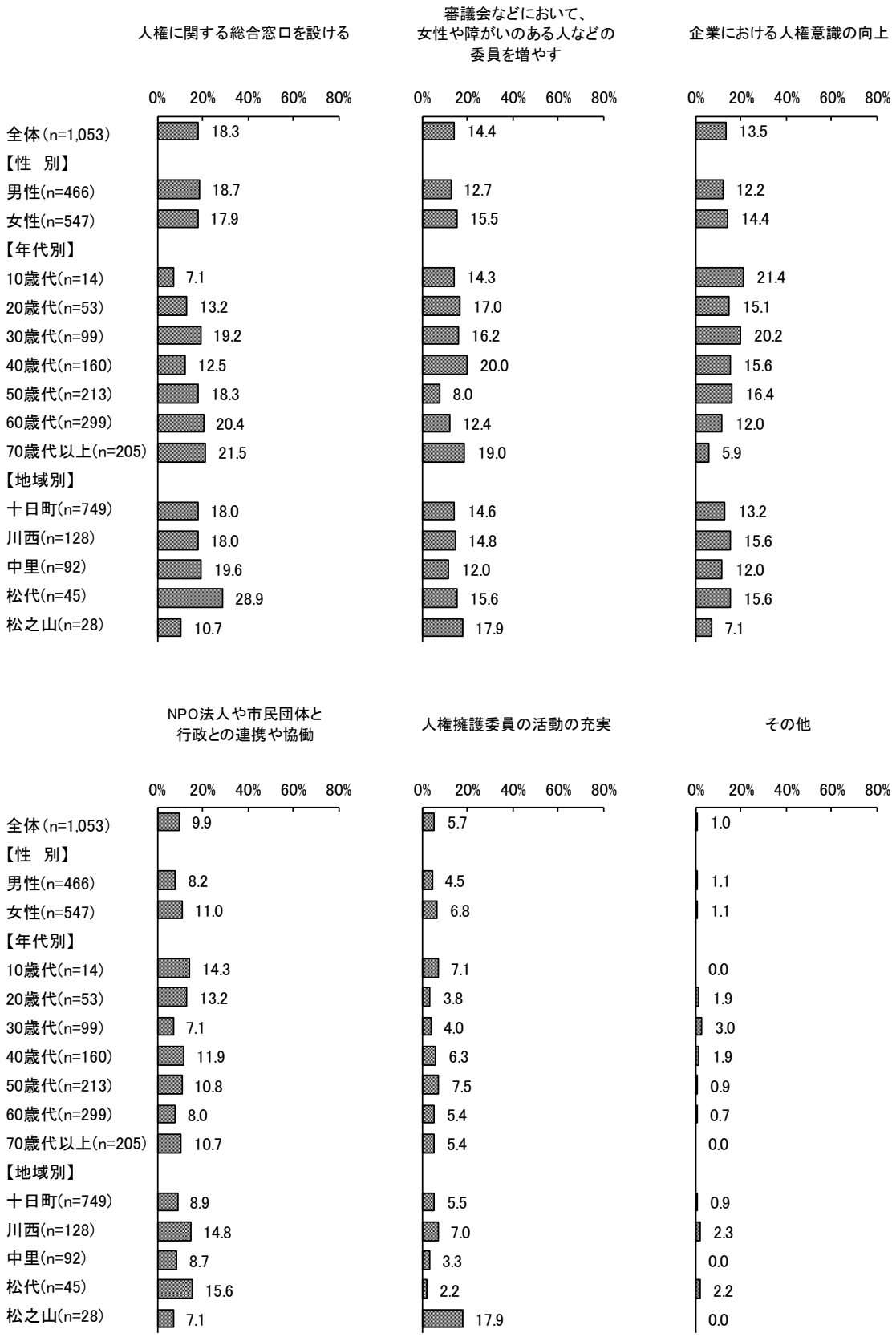
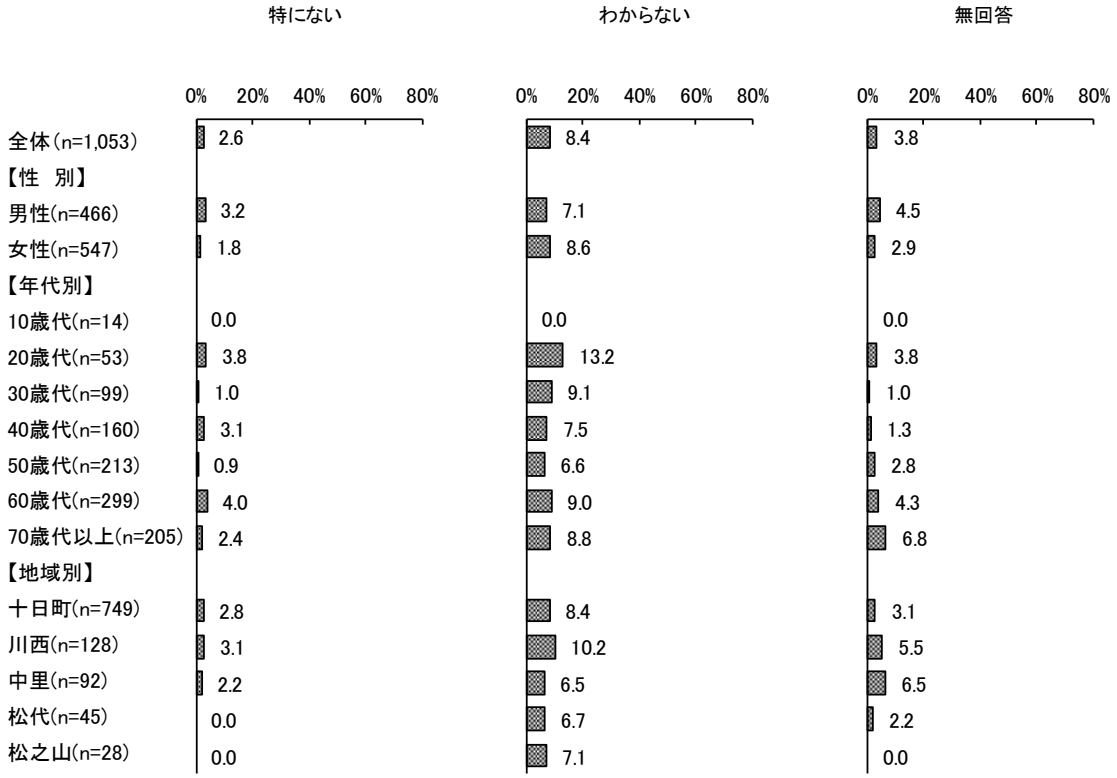


図１５－１　人権を守るための活動について（性別／年代別／地区別）　3/3



１６．人権教育・啓発推進等への意見・要望・提案について

◎　今後、十日町市の人権教育・啓発を推進していくためには、どのように取り組んでいけばよいかご意見・ご要望・ご提案などありましたら、自由にご記入ください。
　また、設問数の都合により本調査に各論として設定していない、新潟水俣病被害者、拉致被害者、ホームレスの人、性同一障がい者、刑を終えて出所した人、アイヌの人々等の人権についてもご意見がございましたら、こちらに記入ください。

――――――　貴重な意見や要望、提案等が多数寄せられた　――――――

様々な意見や要望、提案等が寄せられている。いくつかを抜粋し、できるだけ原文に忠実なまま以下に掲載する。

◆基本的には家庭の中で家族に対する思いやりの心を育て、他人に対しても平等に接することを子供の頃から教えていかないと簡単に意識改革はできないと思います。メディアやネットでも過激な情報が流れ、簡単に目にすることもできるが、正しい情報を伝えることは教育の場で必要だと思います。せまい視野にならず色々な人がいて色々な人がいて、色々な考えや意見があるということを受け入れるために、地域やコミュニティとのつながりが必要になると思います。　＜女性/50 歳代/十日町＞

◆差別はどこにいても存在します。一定の人間の都合がいいように被差別部落を作り差別をさせ、まだ続いていること。ハンセン病などは間違った知識等で差別を助長するよう教えられてきたように思う。汚染問題やコロナ等不安になる事が起きると距離を置こうと思う。人間の本能だと思うので、正しい情報を提供し、それぞれが認識することが必要だ。問題意識を持ち、偏見を持たずに自分で考え行動する人を育てる教育が必要である。学校、家庭、地域全体で取り組み、1 人でも多くの人が育ち、次の世代に伝えていくことが大切だと思う。※このアンケートに答えている時「差別の仕組み」木村草太という本を知りました。情報館にリクエストしてみようと思いました。＜女性/70 歳代以上/十日町＞

◆人権問題の原因は、そもそも人間一人一人の尊厳が図られているか、にあると思う。そのためには、まず、自分自身を大切にすることが重要だと思う。自分を愛せない者は他人を愛することができない、という言葉もあるように、その人がどのように育ち、暮らしてきたかが最も重要な観点だと思う。
その点から、学校教育、そして家庭教育の役割は大きい。どんな立場にある人間も平等に接することのできる人間の育成がとても重要なことだ。そういう人たちの集まりの中にはいじめや差別など生まれるはずがない。
誰にでも優しく接することができる人間の育成がなによりも大切なのだと考える。
自分を愛し、他人を尊ぶ。そんな人が育つ地域でありたい。　＜男性/40 歳代/十日町＞

（付）調査白票